

平成 24 年度診療報酬改定結果検証に係る特別調査（平成 25 年度調査）
維持期リハビリテーション及び廃用症候群に対する脳血管疾患等
リハビリテーションなど疾患別リハビリテーションに関する実施状況調査
報告書（案）について

（右下頁）

・ 報告書（案）	2 頁
・ 病院票	163 頁
・ 診療所票	172 頁
・ 回復期リハ病棟票	180 頁
・ 入院患者票	184 頁
・ 外来患者票	186 頁

平成 24 年度診療報酬改定結果検証に係る調査（平成 25 年度調査）

維持期リハビリテーション及び廃用症候群に対する脳血管疾患等
リハビリテーションなど疾患別リハビリテーションに関する実施状況調査
報告書（案）

目 次

1. 目的	1
2. 調査対象	1
3. 調査方法	2
4. 調査項目	2
5. 調査結果	5
(1) 回収の状況	5
(2) 病院調査、診療所調査の概要	6
① 施設の概要（平成25年7月末現在）	7
② 入院患者のリハビリテーション（各年7月1か月間）	23
③ 外来患者のリハビリテーション（各年7月1か月間）	41
④ 訪問リハビリテーション	62
⑤ 通所リハビリテーション	68
⑥ 本調査に関連した自由意見	76
(3) 回復期リハビリテーション病棟調査の概要	77
① 病棟の概要	77
② 職員配置等	86
③ 新入棟患者について	98
④ 退棟患者について	107
(4) 入院患者調査・外来患者調査の概要	112
① 患者の基本的事項	113
② 患者の状況とリハビリテーションの実施状況等	123
③ 維持期リハビリテーションについて	154

1. 目的

平成 24 年度診療報酬改定においては、回復期リハビリテーションにおける「質の評価」の一層の充実に加え、発症早期から、また急性期から連続したリハビリテーションの実施について評価が行われた。また、要介護被保険者等に対する維持期の脳血管疾患等リハビリテーション、運動器リハビリテーションの評価の見直しが行われた。さらに、在宅患者に対して実施する訪問リハビリテーションや外来リハビリテーションを実施することについての評価が行われた。

本調査では、これらの各種リハビリテーションの実施に対する評価の充実により、保険医療機関におけるリハビリテーション提供体制や生活期（維持期）リハビリテーションの提供状況、患者の状態の改善状況等がどのように変化したかを把握することを目的としている。

2. 調査対象

本調査では、「病院調査」、「診療所調査」、「回復期リハビリテーション病棟調査」、「入院患者調査」、「外来患者調査」の 5 つの調査を実施した。各調査の対象は、次のとおりである。

①病院調査

- ・全国の病院から以下の条件で抽出した合計 1,500 施設。
 - 1) 「回復期リハビリテーション病棟入院料」を算定している病院500施設（抽出）。
 - 2) 上記1) 以外で、「脳血管疾患等リハビリテーション料」を算定している病院500施設（抽出）、「運動器リハビリテーション料」を算定している病院500施設（抽出）。

②診療所調査

- ・全国の診療所のうち、「脳血管疾患等リハビリテーション料」を算定している診療所 500 施設（抽出）、「運動器リハビリテーション料」を算定している診療所 500 施設（抽出）の合計 1,000 施設。

③回復期リハビリテーション病棟調査

- ・上記①の調査対象施設において「回復期リハビリテーション病棟」を有している場合、回復期リハビリテーション病棟 1、2、3 の別にそれぞれ 1 病棟（抽出）。

④入院患者調査

- ・上記①の調査対象病院の「一般病床」または「療養病床」（回復期リハビリテーション病棟を除く）に入院中の患者のうち、調査日に「脳血管疾患等リハビリテーション料」または「運動器リハビリテーション料」を算定した患者のうち 10 人（抽出）。なお、無作為抽出となるよう、当日のリハビリテーション実施順に選定するものとした。

⑤外来患者調査

- ・上記①・②の調査対象施設（病院・診療所）の外来患者のうち、調査日に「脳血管疾患等リハビリテーション料」または「運動器リハビリテーション料」を算定した患者のうち 5 人（抽出）。なお、無作為抽出となるよう、当日の受付順に選定するものとした。

3. 調査方法

- ・対象施設の職員による記入式の調査票とし、病院・診療所宛に郵送で配布し、回答票を郵送により回収した。
- ・「病院調査」、「診療所調査」については、施設属性、入院・外来患者に対するリハビリテーションの実施状況、要介護被保険者等における介護保険のリハビリテーションに移行できない理由、訪問リハビリテーション・通所リハビリテーションの実施状況等を把握するための「病院票」、「診療所票」をそれぞれ配布した。
- ・「回復期リハビリテーション病棟調査」については、回復期リハビリテーション病棟入院料の種類、当該病棟の入院患者数、職員体制、当該病棟に入院している患者の状態やリハビリテーションの提供状況等を把握するための「回復期リハ病棟票」を、上記「病院票」を配布する際に同封した。
- ・「入院患者調査」、「外来患者調査」については、患者の基本属性、要介護度、状態、リハビリテーションの実施状況、介護保険でのリハビリテーションの実施予定及び実施しない場合の理由等を把握するための「入院患者票」、「外来患者票」を、上記「病院票」を配布する際に同封した。また、「外来患者票」は上記「診療所票」を配布する際にも同封した。
- ・上記、「病院票」、「診療所票」、「回復期リハ病棟票」、「入院患者票」、「外来患者票」は対象施設においてそれぞれとりまとめの上、調査事務局宛の返信用封筒で回収した。
- ・回答者は、「病院票」と「診療所票」については対象施設の管理者・開設者及びその代理者、「回復期リハ病棟票」については当該病棟を担当する病棟責任者、「入院患者票」と「外来患者票」については対象患者を担当するリハビリ職員や看護職員とした。
- ・調査実施時期は平成 25 年 8 月 30 日～平成 25 年 10 月 11 日であった。

4. 調査項目

区分	主な調査項目
(1) 病院調査・ 診療所調査	<ul style="list-style-type: none"> ○施設概要 <ul style="list-style-type: none"> ・ 開設者、併設施設・事業所 ・ 医師、看護師、理学療法士等の職員数 ・ 病床数、在院患者延べ数 ・ 平均在院日数（病院調査のみ） ・ 理学療法士等の配置病棟の状況（病院調査のみ） ・ 届出リハビリテーション料 ○入院患者に対する各種リハビリテーションの提供状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各種リハビリテーションの算定状況、加算算定状況 ・ 廃用症候群の理由 ・ 維持期リハビリテーションの要介護被保険者等のうち、介護保険への移行困難者数及びその理由 ・ 初期リハビリテーション加算の効果

	<ul style="list-style-type: none"> ○外来患者に対するリハビリテーションの提供状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 外来患者数 ・ 外来リハビリテーション診療料の届出の有無、算定状況、届出をしていない理由 ・ 各種リハビリテーションの算定状況 ・ 廃用症候群の理由 ・ 維持期リハビリテーションの要介護被保険者等のうち、介護保険への移行困難者数及びその理由 ○訪問リハビリテーションの提供状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 在宅患者訪問リハビリテーション指導管理料の算定状況 ・ 一時的、集中的な訪問リハビリテーションの実施状況、利用者の ADL の改善状況、実施数の変化 ○通所リハビリテーション（介護保険）の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 通所リハビリテーションの実施の有無、実施日数、実施延べ数 ・ 指定の状況 ・ 今後の実施意向、実施しない理由
<p>(2) 回復期リハビリテーション病棟調査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○病棟概要 <ul style="list-style-type: none"> ・ 算定診療報酬 ・ 病床数、入院患者数 ・ 回復期リハビリテーション病棟入院料の非適応患者数 ・ 新入棟患者数、退棟患者数、在棟患者延べ数 ○職員配置 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医師、看護師、理学療法士等の職員数 ・ 理学療法士、作業療法士の夜間・早朝の配置状況 ・ 配置の必要性、その理由、配置していない理由 ○新入棟患者の状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 新入棟患者数 ・ リハビリテーション料別人数 ・ 日常生活機能評価、看護必要度 A 項目、FIM 指数、バーセル指数 ・ 入棟前の居場所 ○退棟患者 <ul style="list-style-type: none"> ・ 退棟患者数 ・ 日常生活機能評価の改善点数、FIM 指数、バーセル指数 ・ 退棟後の居場所
<p>(3) 入院患者調査・外来患者調査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○患者の基本的事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 年齢、性別、入院前の居場所、要介護度 ○患者の状況とリハビリテーションの実施状況等

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 傷病名、手術名 ・ 算定起算日、入院日・外来でのリハビリテーション開始日 ・ 通院回数、リハビリテーション実施回数、通院前の入院医療の有無、外来リハビリテーション診療料の算定状況（外来患者調査のみ） ・ バーセル指数（入院時・外来リハビリテーション開始時点、平成 25 年 7 月 31 日時点） ・ FIM 指数（入院時・外来リハビリテーション開始時点、平成 25 年 7 月 31 日時点） ・ 疾患別リハビリテーション料の内容、提供単位数 ・ リハビリテーションの標準算定日数との関係 <p>○維持期リハビリテーションについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 維持期リハビリテーションかどうか ・ 介護保険でのリハビリテーションの利用予定、利用しない理由
--	---

5. 調査結果

(1) 回収の状況

病院調査の有効回答数（病院数）は 540 件、有効回答率は 36.0%であった。また、診療所調査の有効回答数（診療所数）は 412 件、有効回答率は 41.2%であった。

回復期リハビリテーション病棟調査の有効回答数（病棟数）は 202 件、入院患者調査の有効回答数は 4,207 件、外来患者調査の有効回答数は 3,352 件であった。

図表 1 回収の状況

調査区分	発送数	有効回答数	有効回答率
①病院調査（病院数）	1,500	540	36.0%
②診療所調査（診療所数）	1,000	412	41.2%
③回復期リハビリテーション病棟調査（病棟数）	—	202	—
④入院患者調査	—	4,207	—
⑤外来患者調査	—	3,352	—

(2) 病院調査、診療所調査の概要

【調査対象等】

<病院調査>

調査対象：全国の病院のうち、「回復期リハビリテーション病棟入院料」を算定している病院から無作為抽出した 500 施設、「脳血管疾患等リハビリテーション料」を算定している病院から無作為抽出した 500 施設、「運動器リハビリテーション料」を算定している病院から無作為抽出した 500 施設の合計 1,500 施設

回答数：540 施設

回答者：医療機関の開設者・管理者

<診療所調査>

調査対象：全国の診療所のうち、「脳血管疾患等リハビリテーション料」を算定している診療所から無作為抽出した 500 施設、「運動器リハビリテーション料」を算定している診療所から無作為抽出した 500 施設の合計 1,000 施設

回答数：412 施設

回答者：医療機関の開設者・管理者

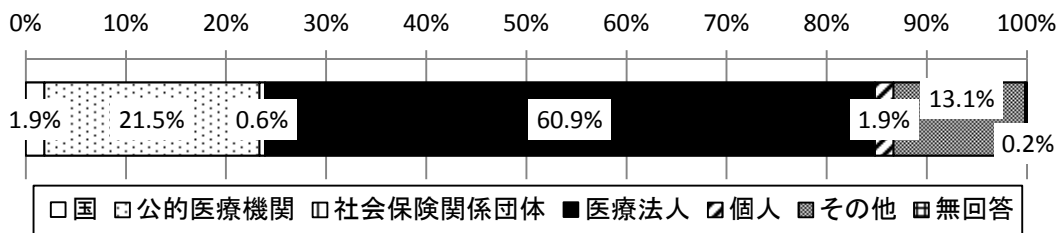
① 施設の概要（平成 25 年 7 月末現在）

1) 開設者

【病院】

「病院調査」において有効回答が得られた 540 施設の開設者をみると、「医療法人」（60.9%）が最も多く、次いで「公的医療機関」（21.5%）であった。

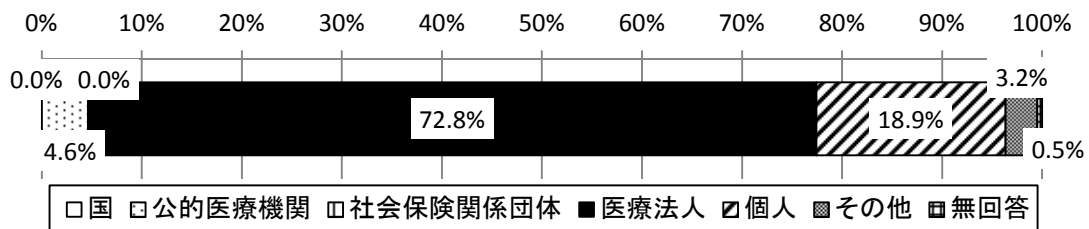
図表 2 開設者【病院】（n=540）



【診療所】

「診療所調査」において有効回答が得られた 412 施設の開設者をみると、「医療法人」（72.8%）が最も多く、次いで「個人」（18.9%）、「公的医療機関」（4.6%）であった。

図表 3 開設者【診療所】（n=412）

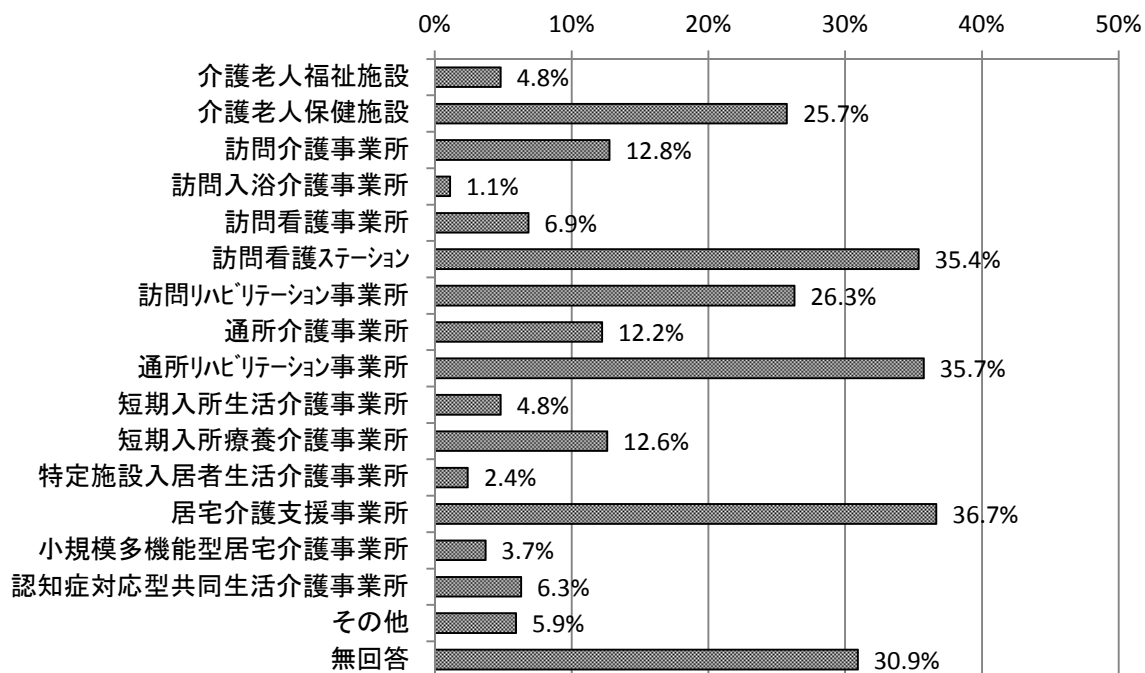


2) 同一敷地内の併設施設・事業所の有無

【病院】

「病院」では、同一法人による同一・隣接敷地内の施設・事業所として、「居宅介護支援事業所」が 36.7%で最も多く、次いで「通所リハビリテーション事業所」(35.7%)、「訪問看護ステーション」(35.4%)であった。

図表 4 同一法人による同一・隣接敷地内の施設・事業所【病院】(複数回答)(n=540)

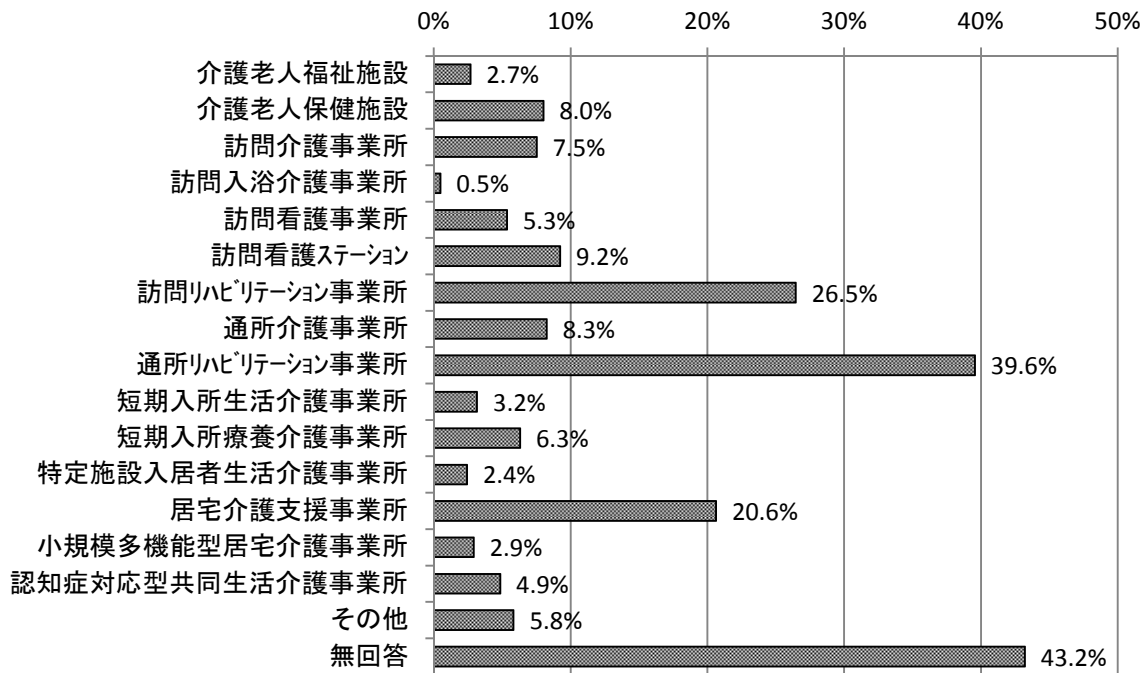


(注)「その他」の内容として、「地域包括支援センター」、「通所療養介護事業所」、「健診センター」、「診療所」、「福祉用具事業所」等が挙げられた。

【診療所】

「診療所」では、同一法人による同一・隣接敷地内の施設・事業所として、「通所リハビリテーション事業所」が 39.6%で最も多く、次いで「訪問リハビリテーション事業所」(26.5%)、「居宅介護支援事業所」(20.6%)であった。

図表 5 同一法人による同一・隣接敷地内の施設・事業所【診療所】(複数回答)(n=412)



(注)「その他」の内容として、「児童発達支援センター」、「児童発達支援・放課後等デイサービス」、「障害児通所支援事業所」、「有料老人ホーム」等が挙げられた。

3) 職員数（平成 25 年 7 月末現在）

【病院】

「病院」の職員数について「常勤」と「非常勤（常勤換算）」のそれぞれについてみると、「医師」はそれぞれ平均 22.0 人（標準偏差 41.5、中央値 8.0）と平均 5.9 人（標準偏差 15.2、中央値 2.9）であった。「看護師」はそれぞれ平均 103.0 人（標準偏差 142.2、中央値 50.0）と平均 11.2 人（標準偏差 42.6、中央値 4.5）であった。

図表 6 職員数【病院】

（単位：人）

	【常勤】				【非常勤(常勤換算)】			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
医師	501	22.0	41.5	8.0	457	5.9	15.2	2.9
（再掲）リハビリテーション科医師	414	1.8	2.4	1.0	262	0.2	0.7	0.0
（再掲）日本リハビリテーション医学会認定臨床医	414	0.4	0.7	0.0	262	0.0	0.1	0.0
（再掲）リハビリテーション科専門医	414	0.4	0.9	0.0	262	0.1	0.2	0.0
看護師	510	103.0	142.2	50.0	445	11.2	42.6	4.5
准看護師	505	13.9	14.3	10.0	409	2.9	4.2	1.8
看護補助者	535	24.7	24.4	19.0	503	6.1	12.7	1.7
理学療法士	535	14.2	14.0	9.0	503	0.3	1.9	0.0
作業療法士	535	8.2	10.2	5.0	503	0.2	0.8	0.0
言語聴覚士	535	3.3	4.4	2.0	503	0.1	0.4	0.0
ソーシャルワーカー	535	2.7	2.5	2.0	503	0.1	0.5	0.0
（再掲）社会福祉士の資格保有者	535	2.1	2.2	2.0	503	0.1	0.4	0.0

【診療所】

「診療所」の職員数について「常勤」と「非常勤（常勤換算）」のそれぞれについてみると、「医師」はそれぞれ平均 1.4 人（標準偏差 0.8、中央値 1.0）と平均 0.7 人（標準偏差 1.2、中央値 0.3）であった。「看護師」はそれぞれ平均 3.1 人（標準偏差 3.3、中央値 2.0）と平均 1.0 人（標準偏差 1.1、中央値 0.8）であった。

図表 7 職員数【診療所】

（単位：人）

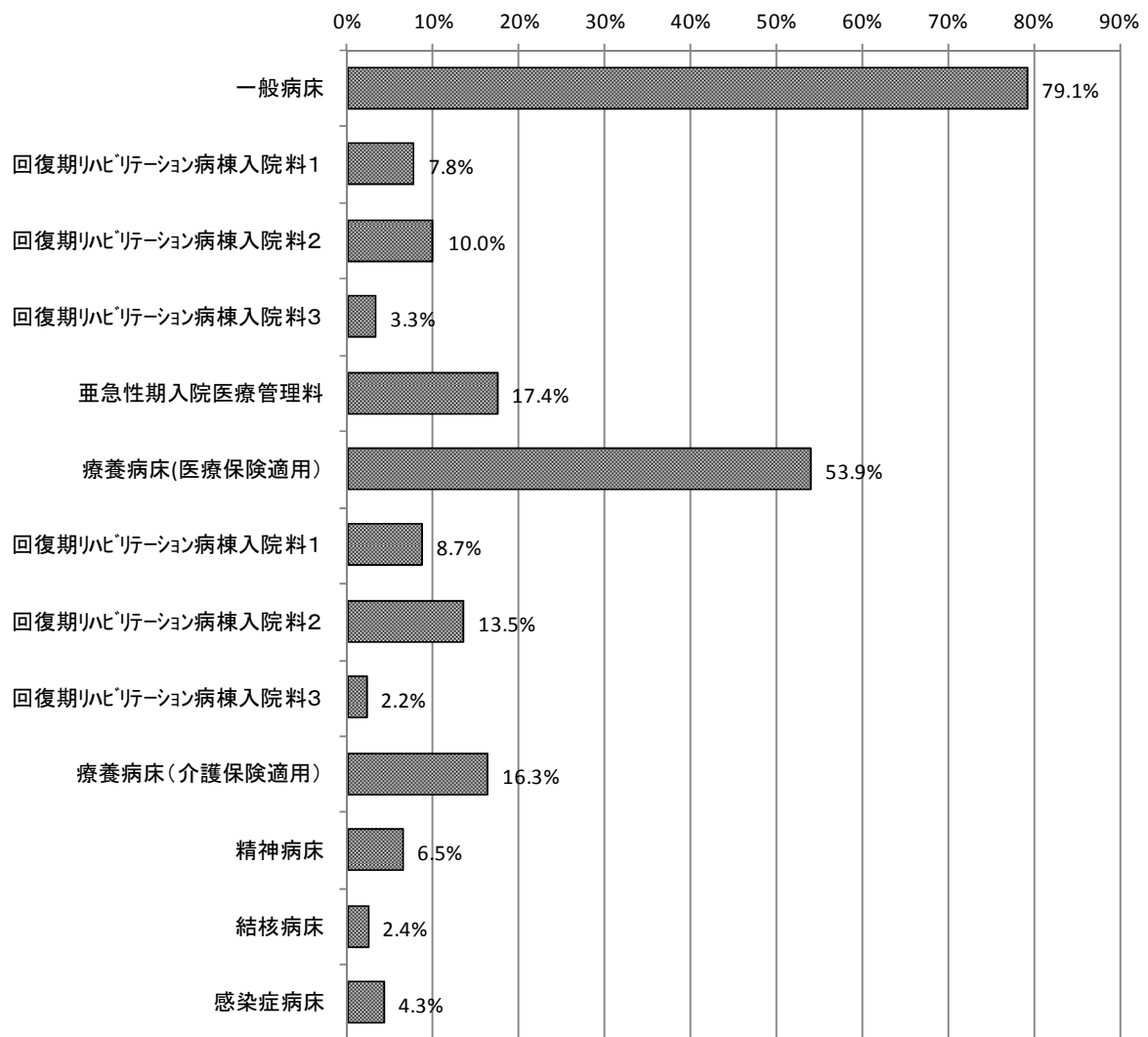
	【常勤】				【非常勤(常勤換算)】			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
医師	361	1.4	0.8	1.0	190	0.7	1.2	0.3
(再掲)リハビリテーション科医師	240	0.7	0.6	1.0	100	0.2	0.6	0.0
(再掲)日本リハビリテーション医学会認定臨床医	240	0.3	0.5	0.0	100	0.1	0.2	0.0
(再掲)リハビリテーション科専門医	240	0.2	0.4	0.0	100	0.0	0.1	0.0
看護師	327	3.1	3.3	2.0	194	1.0	1.1	0.8
准看護師	312	3.1	3.0	2.0	180	0.8	0.9	0.6
看護補助者	221	1.9	2.5	1.0	121	0.8	1.5	0.5
理学療法士	358	3.3	3.1	3.0	155	0.6	0.9	0.3
作業療法士	224	1.1	1.4	1.0	104	0.2	0.4	0.0
言語聴覚士	175	0.5	1.1	0.0	100	0.1	0.4	0.0
ソーシャルワーカー	155	0.2	0.6	0.0	81	0.0	0.1	0.0
(再掲)社会福祉士の資格保有者	148	0.1	0.3	0.0	82	0.0	0.1	0.0

4) 病床種別、病床数、病棟数、在院患者延べ数、平均在院日数【病院のみ】

a 届出病床種別

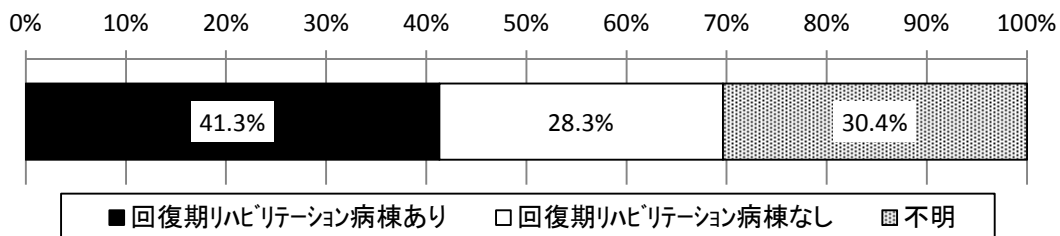
「病院」について届出病床種別をみると、「一般病床」が 79.1%であった。「療養病床（医療保険適用）」は 53.9%、「療養病床（介護保険適用）」は 16.3%であった。

図表 8 届出病床種別【病院】(n=540)



また、「回復期リハビリテーション病棟あり」は41.3%（223施設）であった。

図表 9 回復期リハビリテーション病棟の有無【病院】(n=540)



b 病床数

「病院」における1施設あたりの「一般病床」数は平均171.8床（標準偏差181.8、中央値100.0）であった。「療養病床（医療）」は平均83.6床（標準偏差60.7、中央値60.0）、「療養病床（介護）」は平均64.9床（標準偏差71.4、中央値44.0）であった。

図表 10 病床数【病院】

（単位：床）

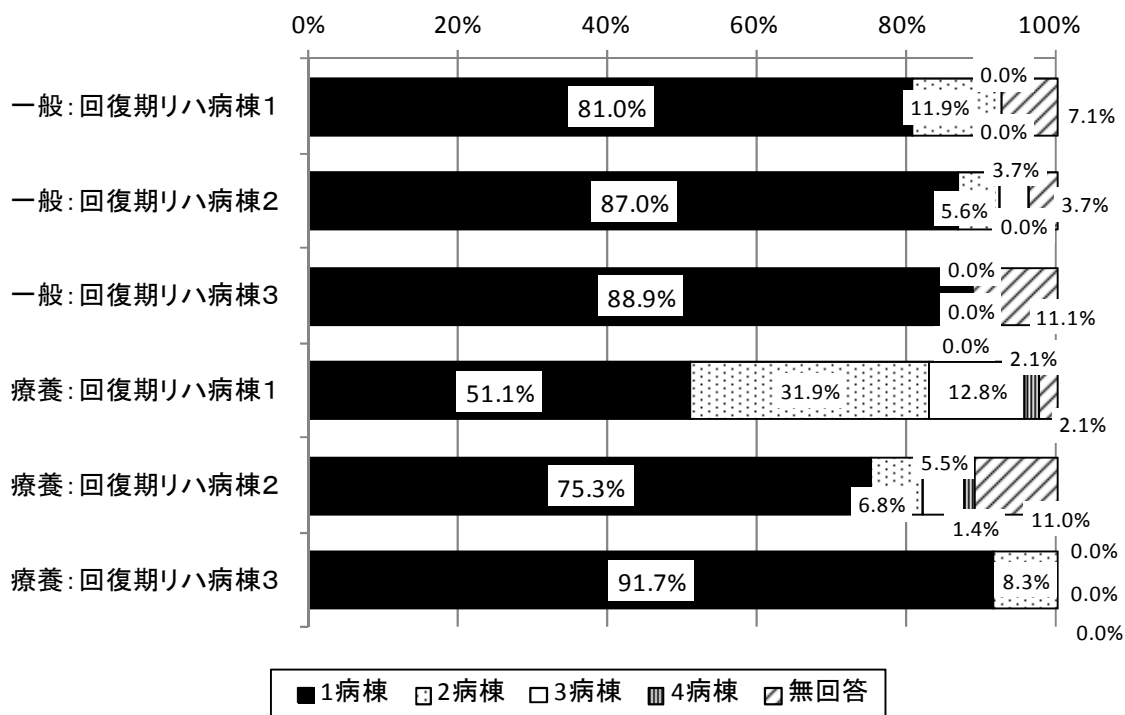
	件数	平均値	標準偏差	中央値
一般病床	408	171.8	181.8	100.0
（再掲）回復期リハビリテーション病棟入院料1	41	55.1	23.7	50.0
（再掲）回復期リハビリテーション病棟入院料2	53	45.5	18.9	43.0
（再掲）回復期リハビリテーション病棟入院料3	18	39.6	11.1	42.5
（再掲）亜急性期入院医療管理料	92	12.1	8.5	10.0
療養病床(医療)	274	83.6	60.7	60.0
（再掲）回復期リハビリテーション病棟入院料1	47	81.2	42.1	60.0
（再掲）回復期リハビリテーション病棟入院料2	70	53.8	31.4	47.0
（再掲）回復期リハビリテーション病棟入院料3	12	43.4	20.2	35.5
療養病床(介護)	87	64.9	71.4	44.0
精神病床	34	118.6	131.7	62.5
結核病床	13	17.3	18.2	10.0
感染症病床	23	4.1	1.5	4.0
合計	492	205.3	176.2	150.0

（注）該当の病床の届出有の場合を集計対象とした。

c 回復期リハビリテーション病棟の病棟数

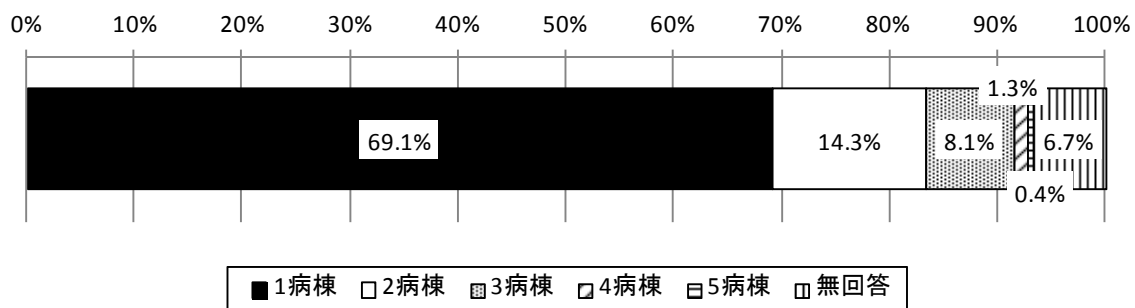
回復期リハビリテーション病棟の病棟数についてみると、いずれの場合も「1 病棟」が最も多く、ほとんどが 8 割近くを占めた。「療養：回復期リハ病棟 1」では「1 病棟」が 51.1%と比較的少なく、「2 病棟」が 31.9%と比較的多かった。

図表 11 回復期リハビリテーション病棟の病棟数（カテゴリーデータ）【病院】



回復期リハビリテーション病棟の合計病棟数についてみると、「1 病棟」が 69.1%で最も多く、次いで「2 病棟」(14.3%)であった。

図表 12 回復期リハビリテーション病棟の合計病棟数（カテゴリーデータ）【病院】



d 在院患者数（平成 25 年 7 月 1 か月間）

「病院」の平成 25 年 7 月 1 か月間の在院患者延べ数は、「一般病床」で平均 4,235.8 人（標準偏差 4,675.0、中央値 2,455.0）、「療養病床（医療）」で平均 2,309.6 人（標準偏差 1,720.0、中央値 1,758.0）、「療養病床（介護）」で平均 1,864.7 人（標準偏差 2,107.5、中央値 1,183.0）であった。

図表 13 在院患者延べ数（平成 25 年 7 月 1 か月間）【病院】

（単位：人）

	件数	平均値	標準偏差	中央値
一般病床	391	4,235.8	4,675.0	2,455.0
（再掲）回復期リハビリテーション病棟入院料 1	41	1,497.1	540.8	1,357.0
（再掲）回復期リハビリテーション病棟入院料 2	52	1,165.3	575.4	1,102.0
（再掲）回復期リハビリテーション病棟入院料 3	18	861.8	371.5	901.5
（再掲）亜急性期入院医療管理料	86	313.7	265.6	213.0
療養病床（医療）	246	2,309.6	1,720.0	1,758.0
（再掲）回復期リハビリテーション病棟入院料 1	47	2,304.9	1,198.5	1,813.0
（再掲）回復期リハビリテーション病棟入院料 2	69	1,482.3	953.6	1,163.0
（再掲）回復期リハビリテーション病棟入院料 3	11	1,011.3	691.1	817.0
療養病床（介護）	85	1,864.7	2,107.5	1,183.0

e 平均在院日数

「病院」での平均在院日数は、「一般病床」で平均 24.3 日（標準偏差 18.4、中央値 17.2）、「療養病床（医療）」で平均 206.4 日（標準偏差 176.9、中央値 140.7）、「療養病床（介護）」で平均 405.7 日（標準偏差 310.3、中央値 313.0）であった。

図表 14 平均在院日数【病院】

（単位：日）

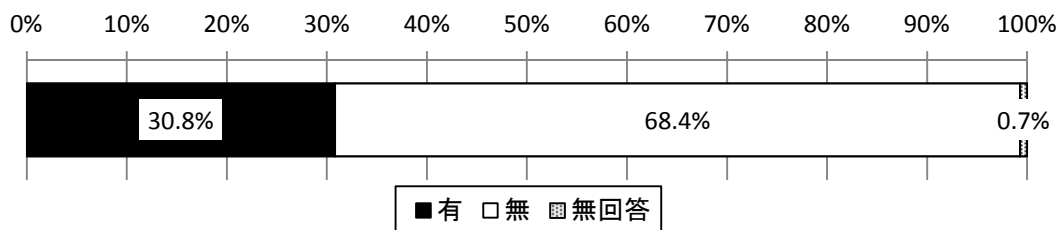
	件数	平均値	標準偏差	中央値
一般病床	372	24.3	18.4	17.2
（再掲）回復期リハビリテーション病棟入院料 1	40	87.2	44.5	79.7
（再掲）回復期リハビリテーション病棟入院料 2	53	68.4	29.0	66.0
（再掲）回復期リハビリテーション病棟入院料 3	17	69.1	24.9	63.0
（再掲）亜急性期入院医療管理料	80	31.0	12.8	27.4
療養病床（医療）	229	206.4	176.9	140.7
（再掲）回復期リハビリテーション病棟入院料 1	46	78.8	16.6	76.2
（再掲）回復期リハビリテーション病棟入院料 2	68	88.0	51.3	80.2
（再掲）回復期リハビリテーション病棟入院料 3	11	60.7	21.4	56.8
療養病床（介護）	67	405.7	310.3	313.0

5) 病床の有無、病床種別、在院患者延べ数【診療所のみ】

a 病床の有無

「診療所」における病床の有無をみると、「有」が30.8%、「無」が68.4%であり、「無」のほうが多かった。

図表 15 病床の有無【診療所】(n=412)



b 許可病床数

「診療所」における許可病床数をみると、「一般病床」で平均 14.6 床（標準偏差 5.9、中央値 19.0）、「療養病床（医療保険適用）」で平均 2.0 床（標準偏差 4.3、中央値 0.0）、「療養病床（介護保険適用）」で平均 1.4 床（標準偏差 3.5、中央値 0.0）であった。

図表 16 許可病床数【診療所】

(単位：床)

	件数	平均値	標準偏差	中央値
一般病床	127	14.6	5.9	19.0
療養病床(医療保険適用)	127	2.0	4.3	0.0
療養病床(介護保険適用)	127	1.4	3.5	0.0
合計	127	18.0	3.2	19.0

c 在院患者延べ数（平成 25 年 7 月 1 か月間）

「診療所」における平成 25 年 7 月 1 か月間の在院患者延べ数をみると、「一般病床」で平均 320.3 人（標準偏差 220.2、中央値 331.0）、「療養病床（医療保険適用）」で平均 46.4 人（標準偏差 114.7、中央値 0.0）、「療養病床（介護保険適用）」で平均 32.8 人（標準偏差 89.8、中央値 0.0）であった。

図表 17 在院患者延べ数（平成 25 年 7 月 1 か月間）【診療所】

(単位：人)

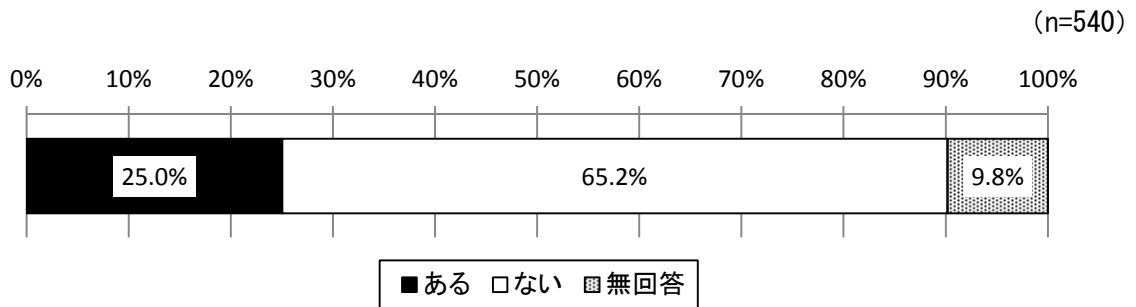
	件数	平均値	標準偏差	中央値
一般病床	119	320.3	220.2	331.0
療養病床(医療保険適用)	119	46.4	114.7	0.0
療養病床(介護保険適用)	119	32.8	89.8	0.0
合計	119	399.5	216.5	497.0

6) 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士を専従または専任で配置している病棟【病院のみ】

a 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士を専従または専任で配置している病棟の有無

「病院」における理学療法士、作業療法士、言語聴覚士を専従または専任で配置している病棟の有無をみると、「ある」が25.0%、「ない」が65.2%であり、「ない」のほうが多かった。

図表 18 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士を専従または専任で配置している病棟の有無【病院】

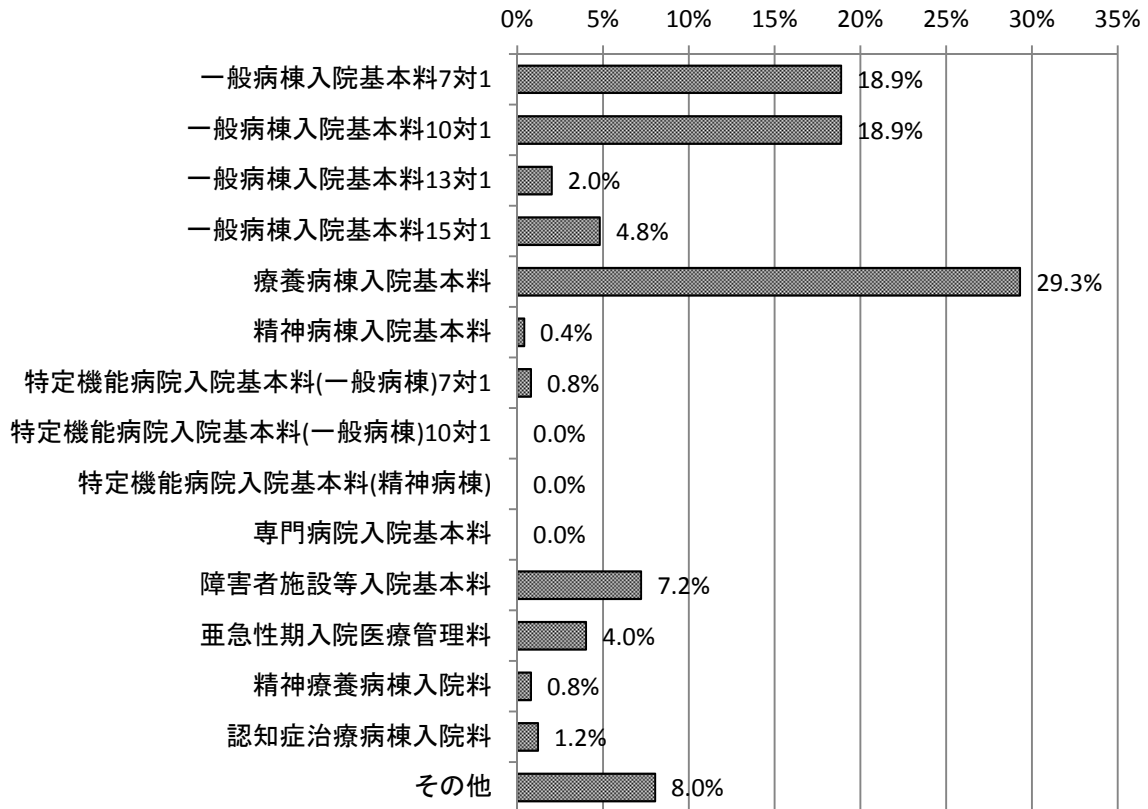


(ある場合：合計 249 病棟)

b 入院料

「病院」で、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士を専従または専任で配置している 249 病棟における、当該病棟の入院料をみると、「療養病棟入院基本料」が 29.3%で最も多く、次いで「一般病棟入院基本料 7 対 1」、「一般病棟入院基本料 10 対 1」(いずれも 18.9%)であった。

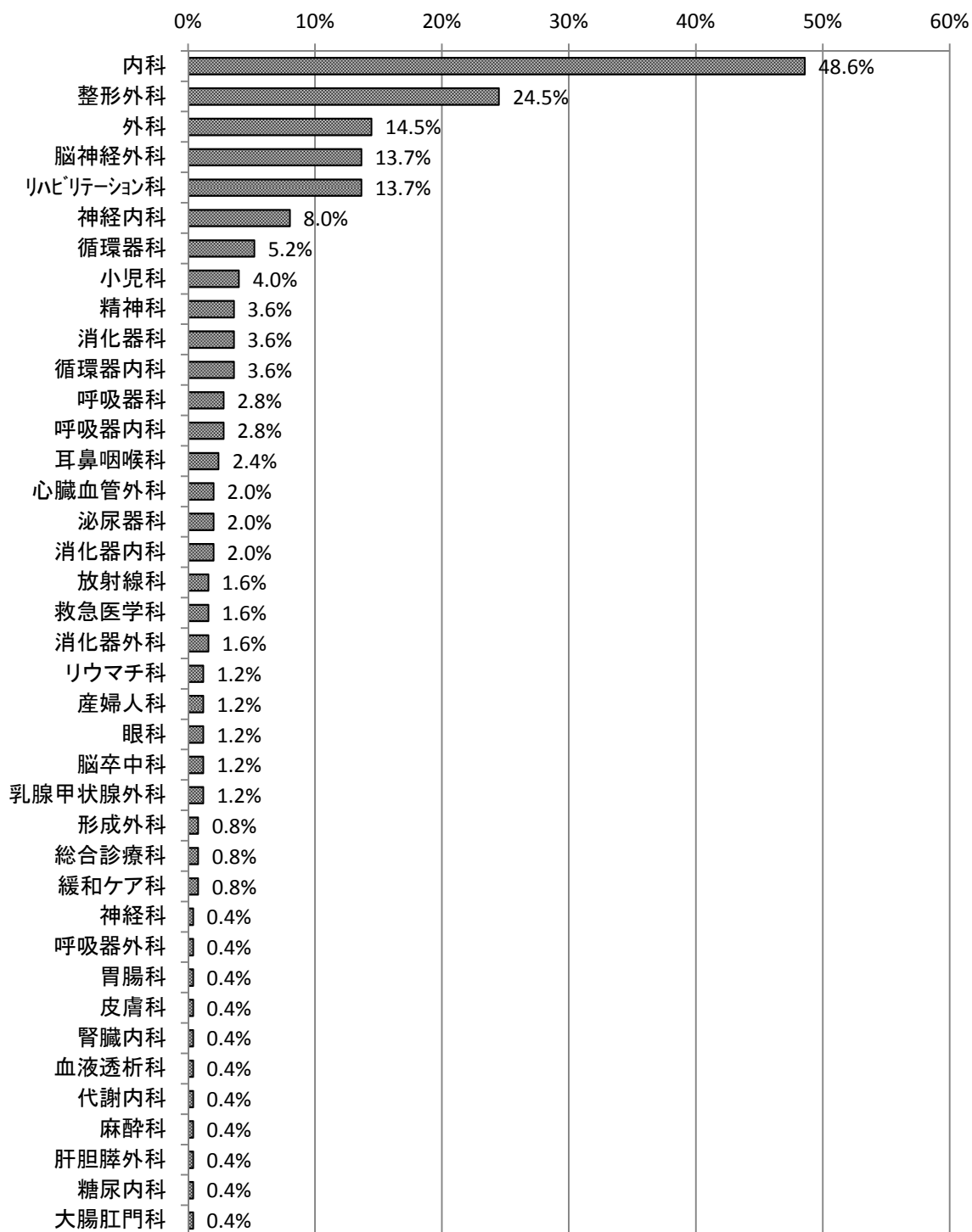
図表 19 入院料【病院】(n=249)



c 診療科

「病院」で、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士を専従または専任で配置していた 249 病棟における、当該病棟の診療科をみると、「内科」が 48.6%で最も多く、次いで「整形外科」(24.5%)、「外科」(14.5%)、「脳神経外科」、「リハビリテーション科」(いずれも 13.7%)であった。

図表 20 診療科【病院】(複数回答)(n=249)



d 職員数

「病院」で、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士を専従または専任で配置している病棟における、当該病棟に配置している職員数をみると、理学療法士は専従が平均 1.6 人（標準偏差 3.0、中央値 0.0）で、専任が平均 4.5 人（標準偏差 7.4、中央値 2.0）であった。また、作業療法士は専従が平均 0.9 人（標準偏差 2.0、中央値 0.0）で、専任が平均 2.3 人（標準偏差 4.0、中央値 0.3）であり、言語聴覚士は専従が平均 0.3 人（標準偏差 1.0、中央値 0.0）で、専任が平均 1.4 人（標準偏差 2.6、中央値 0.0）であった。

図表 21 職員数【病院】(n=242)

(単位：人)

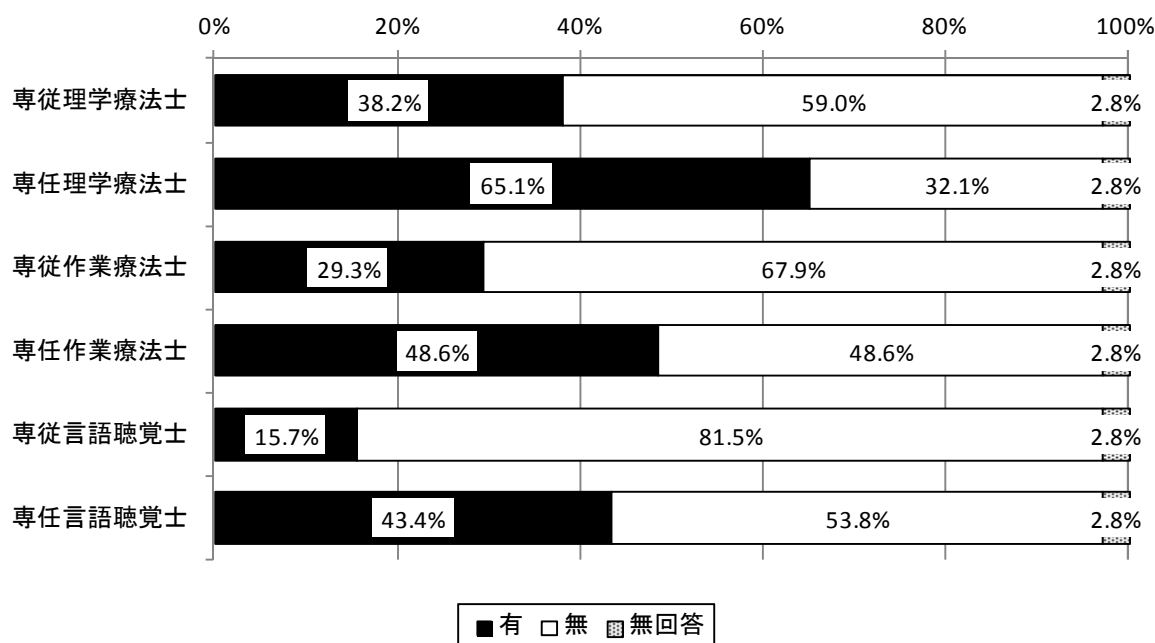
	専従			専任		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
理学療法士	1.6	3.0	0.0	4.5	7.4	2.0
作業療法士	0.9	2.0	0.0	2.3	4.0	0.3
言語聴覚士	0.3	1.0	0.0	1.4	2.6	0.0

「病院」で、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士を専従または専任で配置している 249 病棟における、理学療法士等の配置職員の有無をみると、「専従理学療法士」では「有」が 38.2%、「専任理学療法士」では「有」が 65.1%であった。

「専従作業療法士」では「有」が 29.3%、「専任作業療法士」では「有」が 48.6%であった。

「専従言語聴覚士」では「有」が 15.7%、「専任言語聴覚士」では「有」が 43.4%であった。

図表 22 理学療法士等の職員の配置の有無【病院】(n=249)

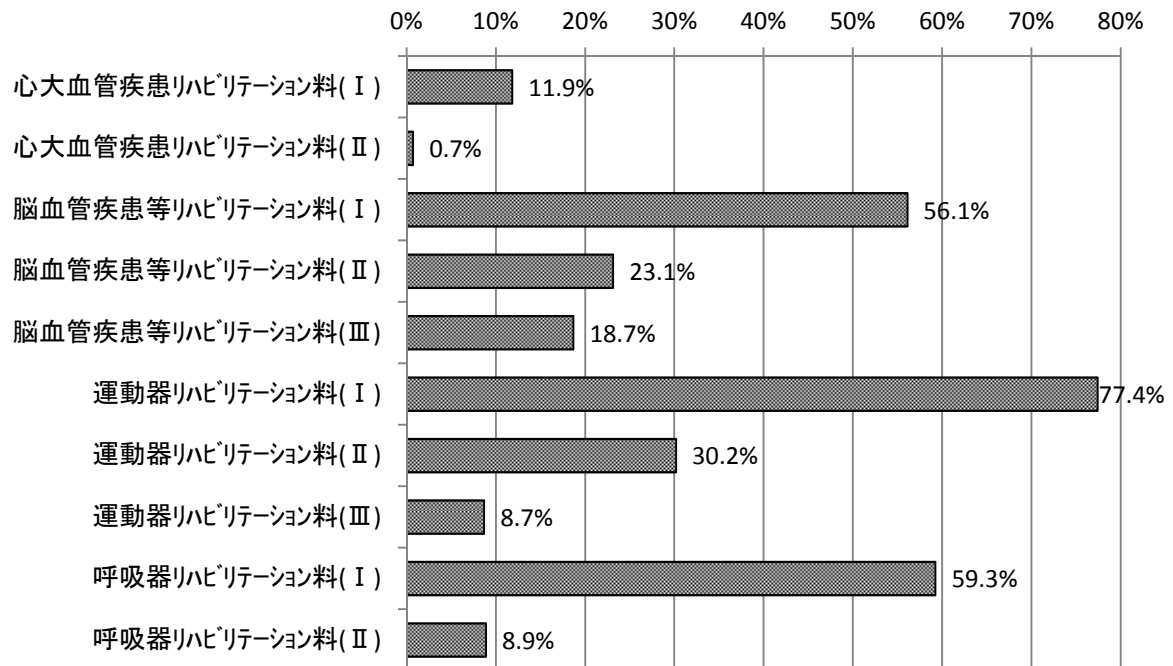


7) 届出リハビリテーション料

【病院】

「病院」における届出リハビリテーション料についてみると、「運動器リハビリテーション料（Ⅰ）」が77.4%で最も多く、次いで「呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）」（59.3%）、「脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）」（56.1%）であった。

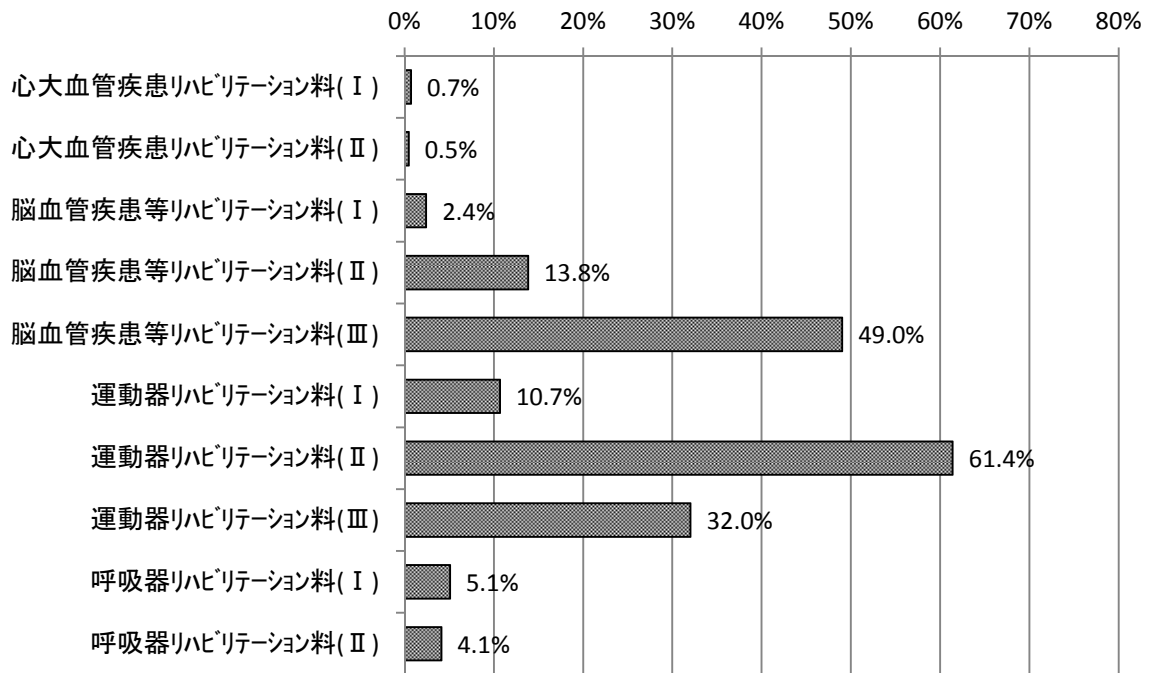
図表 23 届出リハビリテーション料【病院】（複数回答）（n=540）



【診療所】

「診療所」における届出リハビリテーション料についてみると、「運動器リハビリテーション料(Ⅱ)」が61.4%で最も多く、次いで「脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅲ)」(49.0%)、「運動器リハビリテーション料(Ⅲ)」(32.0%)であった。

図表 24 届出リハビリテーション料【診療所】(複数回答)(n=412)



② 入院患者のリハビリテーション（各年7月1か月間）

1) 心大血管疾患リハビリテーション料

【病院】

「病院」における平成23年と平成25年の「心大血管疾患リハビリテーション料」の実人数についてみると、それぞれ平均25.0人（標準偏差20.6、中央値20.0）と平均25.5人（標準偏差21.8、中央値19.0）であった。このうち、早期加算算定者はそれぞれ平均22.1人（標準偏差20.1、中央値15.0）と平均20.3人（標準偏差19.9、中央値16.0）であった。平成25年の初期加算算定者は平均16.6人（標準偏差16.2、中央値10.0）であった。

図表 25 心大血管疾患リハビリテーション料（実人数）【病院】

（単位：人）

	平成23年				平成25年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
心大血管疾患リハビリテーション料	35	25.0	20.6	20.0	43	25.5	21.8	19.0
早期加算算定者	31	22.1	20.1	15.0	41	20.3	19.9	16.0
(うち)初期加算算定者					39	16.6	16.2	10.0

（注）人数、単位数の集計においては、該当リハビリテーション料が1人以上または1単位以上あった施設を集計対象とした。以下同様。

平成23年と平成25年の単位数についてみると、それぞれ平均372.2単位（標準偏差285.8、中央値303.0）と平均364.9単位（標準偏差308.3、中央値278.0）であった。

図表 26 心大血管疾患リハビリテーション料（単位数）【病院】

（単位：単位）

	平成23年				平成25年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
心大血管疾患リハビリテーション料	36	372.2	285.8	303.0	45	364.9	308.3	278.0

【診療所】

「診療所」で回答があったのは、平成23年はなく、平成25年は1件のみであった。

図表 27 心大血管疾患リハビリテーション料（実人数）【診療所】

（単位：人）

	平成23年				平成25年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
心大血管疾患リハビリテーション料	-	-	-	-	1	3.0	-	3.0
早期加算算定者	-	-	-	-	1	0.0	-	0.0
(うち)初期加算算定者					1	0.0	-	0.0

図表 28 心大血管疾患リハビリテーション料（単位数）【診療所】

（単位：単位）

	平成23年				平成25年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
心大血管疾患リハビリテーション料	0	-	-	-	1	147.0	-	147.0

2) 脳血管疾患等リハビリテーション料（全体）

【病院】

「病院」における平成23年と平成25年の「脳血管疾患等リハビリテーション料」の実人数についてみると、それぞれ平均77.1人（標準偏差60.6、中央値68.0）と平均82.9人（標準偏差68.0、中央値71.0）であった。

図表 29 脳血管疾患等リハビリテーション料（全体）（実人数）【病院】

（単位：人）

	平成23年				平成25年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
脳血管疾患等リハビリテーション料	412	77.1	60.6	68.0	439	82.9	68.0	71.0

平成 23 年と平成 25 年の単位数についてみると、それぞれ平均 4,720.0 単位（標準偏差 6,655.7、中央値 2,457.0）と平均 5,239.1 単位（標準偏差 7,000.9、中央値 2,892.0）であった。

図表 30 脳血管疾患等リハビリテーション料（全体）（単位数）【病院】

（単位：単位）

	平成 23 年				平成 25 年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
脳血管疾患等リハビリテーション料	419	4,720.0	6,655.7	2,457.0	453	5,239.1	7,000.9	2,892.0

【診療所】

「診療所」における平成 23 年と平成 25 年の「脳血管疾患等リハビリテーション料」の実人数についてみると、それぞれ平均 10.2 人（標準偏差 9.6、中央値 8.0）と平均 9.6 人（標準偏差 10.1、中央値 6.0）であった。

図表 31 脳血管疾患等リハビリテーション料（全体）（実人数）【診療所】

（単位：人）

	平成 23 年				平成 25 年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
脳血管疾患等リハビリテーション料	53	10.2	9.6	8.0	58	9.6	10.1	6.0

平成 23 年と平成 25 年の単位数についてみると、それぞれ平均 272.4 単位（標準偏差 345.5、中央値 148.0）と平均 303.4 単位（標準偏差 474.4、中央値 136.0）であった。

図表 32 脳血管疾患等リハビリテーション料（全体）（単位数）【診療所】

（単位：単位）

	平成 23 年				平成 25 年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
脳血管疾患等リハビリテーション料	51	272.4	345.5	148.0	57	303.4	474.4	136.0

3) 脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）

【病院】

「病院」における平成 23 年と平成 25 年の「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）」の実人数についてみると、それぞれ平均 53.6 人（標準偏差 46.9、中央値 43.0）と平均 55.7 人（標準偏差 50.7、中央値 44.0）であった。このうち標準的算定日数を超えた患者が平均 12.8 人（標準偏差 22.0、中央値 3.0）と平均 14.2 人（標準偏差 23.9、中央値 4.0）、早期加算算定者が平均 16.8 人（標準偏差 23.6、中央値 7.5）と平均 18.3 人（標準偏差 27.4、中央値 7.0）であった。標準的算定日数を超えた患者のうち維持期リハの要介護被保険者等は、それぞれ平均 2.4 人（標準偏差 7.4、中央値 0.0）と平均 4.4 人（標準偏差 10.7、中央値 0.0）であった。

図表 33 脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）（実人数）【病院】

（単位：人）

	平成 23 年				平成 25 年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
廃用症候群以外の場合	392	53.6	46.9	43.0	429	55.7	50.7	44.0
標準的算定日数を超えた患者	333	12.8	22.0	3.0	385	14.2	23.9	4.0
(うち)維持期リハの患者	318	7.4	17.2	0.0	364	8.3	18.2	1.0
(うち)要介護被保険者等	277	2.4	7.4	0.0	344	4.4	10.7	0.0
早期加算算定者	354	16.8	23.6	7.5	374	18.3	27.4	7.0
(うち)初期加算算定者					355	10.8	21.6	2.0

平成 23 年と平成 25 年の単位数についてみると、それぞれ平均 3,919.6 単位（標準偏差 6,023.4、中央値 1,587.0）と平均 4,320.6 単位（標準偏差 6,374.5、中央値 1,896.0）であった。このうち標準的算定日数を超えた患者は平均 373.8 単位（標準偏差 663.1、中央値 62.0）と平均 470.3 単位（標準偏差 976.7、中央値 57.0）であった。このうち、維持期リハの要介護被保険者等はそれぞれ平均 37.2 単位（標準偏差 124.5、中央値 0.0）と平均 60.0 単位（標準偏差 156.2、中央値 0.0）であった。

図表 34 脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）（単位数）【病院】

（単位：単位）

	平成 23 年				平成 25 年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
廃用症候群以外の場合	407	3,919.6	6,023.4	1,587.0	443	4,320.6	6,374.5	1,896.0
標準的算定日数を超えた患者	321	373.8	663.1	62.0	377	470.3	976.7	57.0
(うち)維持期リハの患者	302	105.3	293.0	0.0	349	121.3	306.6	10.0
(うち)要介護被保険者等	258	37.2	124.5	0.0	326	60.0	156.2	0.0

【診療所】

「診療所」における平成 23 年と平成 25 年の「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）」の実人数についてみると、それぞれ平均 8.8 人（標準偏差 9.4、中央値 5.0）と平均 8.5 人（標準偏差 10.1、中央値 4.0）であった。このうち標準的算定日数を超えた患者が平均 1.5 人（標準偏差 3.4、中央値 0.0）と平均 1.4 人（標準偏差 3.4、中央値 0.0）、早期加算算定者が平均 4.4 人（標準偏差 7.6、中央値 1.0）と平均 5.6 人（標準偏差 8.9、中央値 1.0）であった。標準的算定日数を超えた患者のうち維持期リハの要介護被保険者等は、それぞれ平均 0.4 人（標準偏差 1.0、中央値 0.0）と平均 0.6 人（標準偏差 1.6、中央値 0.0）であった。

図表 35 脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）（実人数）【診療所】

（単位：人）

	平成 23 年				平成 25 年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
廃用症候群以外の場合	49	8.8	9.4	5.0	51	8.5	10.1	4.0
標準的算定日数を超えた患者	47	1.5	3.4	0.0	47	1.4	3.4	0.0
(うち)維持期リハの患者	47	1.4	3.4	0.0	46	1.2	3.2	0.0
(うち)要介護被保険者等	46	0.4	1.0	0.0	45	0.6	1.6	0.0
早期加算算定者	45	4.4	7.6	1.0	45	5.6	8.9	1.0
(うち)初期加算算定者					41	3.8	8.4	0.0

平成 23 年と平成 25 年の単位数についてみると、それぞれ平均 233.5 単位（標準偏差 335.9、中央値 104.0）と平均 288.4 単位（標準偏差 471.6、中央値 127.5）であった。このうち標準的算定日数を超えた患者はそれぞれ平均 33.0 単位（標準偏差 69.5、中央値 0.0）と平均 34.1 単位（標準偏差 74.9、中央値 0.0）であった。このうち、維持期リハの要介護被保険者等はそれぞれ平均 15.7 単位（標準偏差 50.3、中央値 0.0）と平均 13.9 単位（標準偏差 48.7、中央値 0.0）であった。

図表 36 脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）（単位数）【診療所】

（単位：単位）

	平成 23 年				平成 25 年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
廃用症候群以外の場合	47	233.5	335.9	104.0	50	288.4	471.6	127.5
標準的算定日数を超えた患者	41	33.0	69.5	0.0	44	34.1	74.9	0.0
(うち)維持期リハの患者	41	28.4	62.7	0.0	43	26.6	67.6	0.0
(うち)要介護被保険者等	40	15.7	50.3	0.0	42	13.9	48.7	0.0

4) 脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）

【病院】

「病院」における平成23年と平成25年の「脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群)」の実人数についてみると、それぞれ平均27.9人（標準偏差29.1、中央値18.0）と平均31.8人（標準偏差34.2、中央値20.0）であった。このうち標準的算定日数を超えた患者が平均2.2人（標準偏差5.0、中央値0.0）と平均2.6人（標準偏差5.4、中央値0.0）、早期加算算定者が平均15.6人（標準偏差20.7、中央値7.5）と平均18.9人（標準偏差27.7、中央値8.0）であった。標準的算定日数を超えた患者のうち維持期リハの要介護被保険者等は、それぞれ平均0.5人（標準偏差1.7、中央値0.0）と平均0.9人（標準偏差2.5、中央値0.0）であった。

図表 37 脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）（実人数）【病院】

（単位：人）

	平成23年				平成25年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
廃用症候群の場合	346	27.9	29.1	18.0	385	31.8	34.2	20.0
標準的算定日数を超えた患者	291	2.2	5.0	0.0	341	2.6	5.4	0.0
(うち)維持期リハの患者	279	1.2	3.4	0.0	327	1.5	3.7	0.0
(うち)要介護被保険者等	256	0.5	1.7	0.0	315	0.9	2.5	0.0
早期加算算定者	302	15.6	20.7	7.5	328	18.9	27.7	8.0
(うち)初期加算算定者					314	12.4	21.7	3.0

平成23年と平成25年の単位数についてみると、それぞれ平均962.8単位（標準偏差1,145.1、中央値543.0）と平均1,097.8単位（標準偏差1,335.6、中央値633.0）であった。このうち標準的算定日数を超えた患者が平均51.8単位（標準偏差130.6、中央値0.0）と平均63.7単位（標準偏差177.5、中央値0.0）であった。このうち、維持期リハの要介護被保険者等はそれぞれ平均8.6単位（標準偏差28.0、中央値0.0）と平均10.7単位（標準偏差27.9、中央値0.0）であった。

図表 38 脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）（単位数）【病院】

（単位：単位）

	平成23年				平成25年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
廃用症候群の場合	355	962.8	1,145.1	543.0	398	1,097.8	1,335.6	633.0
標準的算定日数を超えた患者	274	51.8	130.6	0.0	326	63.7	177.5	0.0
(うち)維持期リハの患者	261	18.5	54.9	0.0	314	19.7	46.5	0.0
(うち)要介護被保険者等	242	8.6	28.0	0.0	299	10.7	27.9	0.0

【診療所】

「診療所」における平成 23 年と平成 25 年の「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）」の実人数についてみると、それぞれ平均 4.5 人（標準偏差 3.1、中央値 4.0）と平均 3.9 人（標準偏差 2.9、中央値 3.0）であった。このうち標準的算定日数を超えた患者が平均 0.4 人（標準偏差 1.2、中央値 0.0）と平均 0.5 人（標準偏差 1.5、中央値 0.0）、早期加算算定者が平均 3.0 人（標準偏差 3.3、標準偏差 1.0）と平均 2.1 人（標準偏差 2.8、中央値 1.0）であった。標準的算定日数を超えた患者のうち維持期リハの要介護被保険者等は、それぞれ平均 0.2 人（標準偏差 1.1、中央値 0.0）と平均 0.4 人（標準偏差 1.4、中央値 0.0）であった。

図表 39 脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）（実人数）【診療所】

（単位：人）

	平成 23 年				平成 25 年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
廃用症候群の場合	24	4.5	3.1	4.0	31	3.9	2.9	3.0
標準的算定日数を超えた患者	21	0.4	1.2	0.0	25	0.5	1.5	0.0
(うち)維持期リハの患者	21	0.4	1.2	0.0	25	0.5	1.5	0.0
(うち)要介護被保険者等	21	0.2	1.1	0.0	25	0.4	1.4	0.0
早期加算算定者	21	3.0	3.3	1.0	28	2.1	2.8	1.0
(うち)初期加算算定者					25	1.1	2.4	0.0

平成 23 年と平成 25 年の単位数についてみると、それぞれ平均 126.8 単位（標準偏差 147.3、中央値 77.0）と平均 92.5 単位（標準偏差 104.7、中央値 60.0）であった。このうち標準的算定日数を超えた患者が平均 12.6 単位（標準偏差 35.4、中央値 0.0）と平均 16.5 単位（標準偏差 53.8、中央値 0.0）であった。このうち、維持期リハの要介護被保険者等はそれぞれ平均 7.1 単位（標準偏差 30.7、中央値 0.0）と平均 11.3 単位（標準偏差 51.7、中央値 0.0）であった。

図表 40 脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）（単位数）【診療所】

（単位：単位）

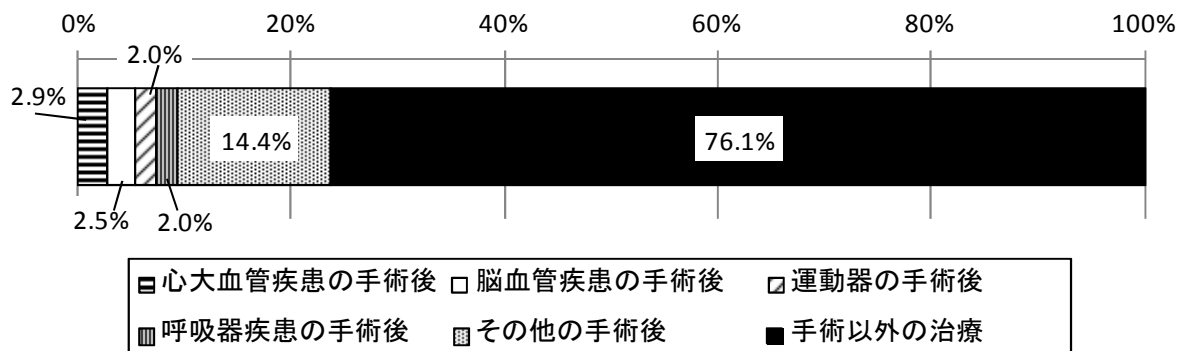
	平成 23 年				平成 25 年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
廃用症候群の場合	23	126.8	147.3	77.0	31	92.5	104.7	60.0
標準的算定日数を超えた患者	19	12.6	35.4	0.0	24	16.5	53.8	0.0
(うち)維持期リハの患者	19	12.6	35.4	0.0	23	15.8	54.9	0.0
(うち)要介護被保険者等	19	7.1	30.7	0.0	23	11.3	51.7	0.0

a 廃用症候群の理由別患者構成比

【病院】

「病院」における廃用症候群の理由別患者構成比をみると、「手術以外の治療」が76.1%で最も多く、次いで「その他の手術後」(14.4%)であった。

図表 41 廃用症候群の理由別患者構成比【病院】(n=10,286)

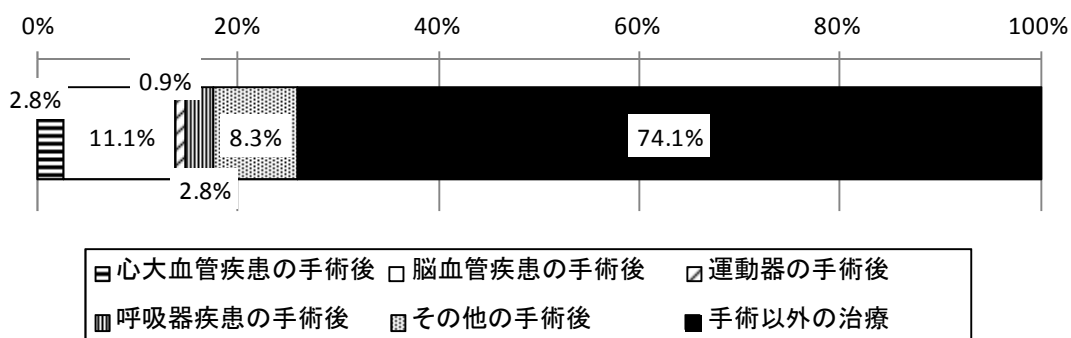


(注) 集計は患者数ベース。

【診療所】

「診療所」における廃用症候群の理由別患者構成比をみると、「手術以外の治療」が74.1%で最も多く、次いで「脳血管疾患の手術後」(11.1%)、「その他の手術後」(8.3%)であった。

図表 42 廃用症候群の理由別患者構成比【診療所】(n=108)



(注) ・集計は患者数ベース。

・凡例の詳細は以下のとおり。

心大血管疾患の手術後：急性心筋梗塞、大動脈解離等、心大血管疾患に関する手術後の安静によるため

脳血管疾患の手術後：脳梗塞、脳出血等、脳血管疾患に関する手術後の安静によるため

運動器の手術後：上・下肢、脊椎等の運動器に関する手術後の安静によるため

呼吸器疾患の手術後：肺腫瘍、胸部外傷等、呼吸器疾患に関する手術後の安静によるため

その他の手術後：上記以外の手術後の安静によるため

手術以外の治療：肺炎等の手術以外の治療による安静によるため

5) 運動器リハビリテーション料

【病院】

「病院」における平成 23 年と平成 25 年の「運動器リハビリテーション料」の実人数についてみると、それぞれ平均 47.1 人（標準偏差 43.1、中央値 35.0）と平均 50.0 人（標準偏差 45.8、中央値 37.0）であった。このうち標準的算定日数を超えた患者が平均 3.5 人（標準偏差 6.9、中央値 1.0）と平均 4.6 人（標準偏差 11.5、中央値 1.0）、早期加算算定者が平均 24.7 人（標準偏差 29.4、中央値 13.0）と平均 28.2 人（標準偏差 34.1、中央値 15.0）であった。標準的算定日数を超えた患者のうち維持期リハの要介護被保険者等は、それぞれ平均 1.0 人（標準偏差 3.8、中央値 0.0）と平均 2.2 人（標準偏差 8.9、中央値 0.0）であった。

図表 43 運動器リハビリテーション料（実人数）【病院】

（単位：人）

	平成 23 年				平成 25 年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
運動器リハビリテーション料	411	47.1	43.1	35.0	439	50.0	45.8	37.0
標準的算定日数を超えた患者	345	3.5	6.9	1.0	394	4.6	11.5	1.0
(うち)維持期リハの患者	327	2.3	6.1	0.0	380	3.3	10.6	0.0
(うち)要介護被保険者等	298	1.0	3.8	0.0	368	2.2	8.9	0.0
早期加算算定者	379	24.7	29.4	13.0	403	28.2	34.1	15.0
(うち)初期加算算定者					376	18.7	28.3	4.0

平成 23 年と平成 25 年の単位数についてみると、それぞれ平均 1,831.2 単位（標準偏差 1,999.0、中央値 1,209.0）と平均 2,188.7 単位（標準偏差 2,446.4、中央値 1,387.0）であった。このうち標準的算定日数を超えた患者が平均 66.5 単位（標準偏差 138.7、中央値 8.0）と平均 67.3 単位（標準偏差 120.9、中央値 13.0）であった。このうち、維持期リハの要介護被保険者等はそれぞれ平均 17.8 単位（標準偏差 81.0、中央値 0.0）と平均 20.7 単位（標準偏差 51.5、中央値 0.0）であった。

図表 44 運動器リハビリテーション料（単位数）【病院】

（単位：単位）

	平成 23 年				平成 25 年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
運動器リハビリテーション料	426	1,831.2	1,999.0	1,209.0	453	2,188.7	2,446.4	1,387.0
標準的算定日数を超えた患者	327	66.5	138.7	8.0	375	67.3	120.9	13.0
(うち)維持期リハの患者	305	33.0	93.5	0.0	356	33.3	74.5	0.0
(うち)要介護被保険者等	275	17.8	81.0	0.0	340	20.7	51.5	0.0

【診療所】

「診療所」における平成 23 年と平成 25 年の「運動器リハビリテーション料」の実人数についてみると、それぞれ平均 10.5 人（標準偏差 8.2、中央値 9.0）と平均 10.8 人（標準偏差 8.6、中央値 9.0）であった。このうち標準的算定日数を超えた患者が平均 0.7 人（標準偏差 1.4、中央値 0.0）と平均 1.0 人（標準偏差 2.4、中央値 0.0）、早期加算算定者が平均 5.2 人（標準偏差 7.2、中央値 2.0）と平均 5.1 人（標準偏差 7.2、中央値 2.0）であった。標準的算定日数を超えた患者のうち維持期リハの要介護被保険者等は、それぞれ平均 0.3 人（標準偏差 0.9、中央値 0.0）と平均 0.5 人（標準偏差 1.9、中央値 0.0）であった。

図表 45 運動器リハビリテーション料（実人数）【診療所】

（単位：人）

	平成 23 年				平成 25 年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
運動器リハビリテーション料	66	10.5	8.2	9.0	79	10.8	8.6	9.0
標準的算定日数を超えた患者	59	0.7	1.4	0.0	67	1.0	2.4	0.0
(うち)維持期リハの患者	59	0.5	1.3	0.0	65	0.7	2.3	0.0
(うち)要介護被保険者等	56	0.3	0.9	0.0	65	0.5	1.9	0.0
早期加算算定者	59	5.2	7.2	2.0	66	5.1	7.2	2.0
(うち)初期加算算定者					62	3.5	6.5	0.0

平成 23 年と平成 25 年の単位数についてみると、それぞれ平均 239.6 単位（標準偏差 196.8、中央値 204.0）と平均 277.5 単位（標準偏差 290.8、中央値 159.0）であった。このうち標準的算定日数を超えた患者が平均 14.1 単位（標準偏差 43.5、中央値 0.0）と平均 15.2 単位（標準偏差 33.1、中央値 0.0）であった。このうち、維持期リハの要介護被保険者等はそれぞれ平均 5.1 単位（標準偏差 21.8、中央値 0.0）と平均 2.8 単位（標準偏差 8.1、中央値 0.0）であった。

図表 46 運動器リハビリテーション料（単位数）【診療所】

（単位：単位）

	平成 23 年				平成 25 年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
運動器リハビリテーション料	65	239.6	196.8	204.0	78	277.5	290.8	159.0
標準的算定日数を超えた患者	56	14.1	43.5	0.0	64	15.2	33.1	0.0
(うち)維持期リハの患者	56	8.9	26.5	0.0	61	6.1	18.8	0.0
(うち)要介護被保険者等	53	5.1	21.8	0.0	61	2.8	8.1	0.0

6) 呼吸器リハビリテーション料

【病院】

「病院」における平成 23 年と平成 25 年の「呼吸器リハビリテーション料」の実人数についてみると、それぞれ平均 10.5 人（標準偏差 13.6、中央値 6.0）と平均 10.8 人（標準偏差 14.1、中央値 6.0）であった。このうち早期加算算定者が平均 7.5 人（標準 12.0、中央値 4.0）と平均 8.2 人（標準偏差 12.9、中央値 3.0）であった。

図表 47 呼吸器リハビリテーション料（実人数）【病院】

（単位：人）

	平成 23 年				平成 25 年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
呼吸器リハビリテーション料	164	10.5	13.6	6.0	193	10.8	14.1	6.0
早期加算算定者	154	7.5	12.0	4.0	186	8.2	12.9	3.0
(うち)初期加算算定者					177	6.3	11.2	2.0

平成 23 年と平成 25 年の単位数についてみると、それぞれ平均 181.7 単位（標準偏差 258.5、中央値 92.5）と平均 178.5 単位（標準偏差 229.3、中央値 90.0）であった。

図表 48 呼吸器リハビリテーション料（単位数）【病院】

（単位：単位）

	平成 23 年				平成 25 年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
呼吸器リハビリテーション料	170	181.7	258.5	92.5	198	178.5	229.3	90.0

【診療所】

「診療所」における平成 23 年と平成 25 年の「呼吸器リハビリテーション料」の実人数についてみると、それぞれ平均 2.6 人（標準偏差 1.5、中央値 2.0）と平均 4.1 人（標準偏差 4.7、中央値 1.5）であった。このうち早期加算算定者が平均 1.6 人（標準偏差 1.1、中央値 1.0）と平均 3.3 人（標準偏差 4.6、中央値 1.0）であった。

図表 49 呼吸器リハビリテーション料（実人数）【診療所】

（単位：人）

	平成 23 年				平成 25 年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
呼吸器リハビリテーション料	7	2.6	1.5	2.0	8	4.1	4.7	1.5
早期加算算定者	7	1.6	1.1	1.0	6	3.3	4.6	1.0
(うち)初期加算算定者					5	2.6	3.2	1.0

平成 23 年と平成 25 年の単位数についてみると、それぞれ平均 46.2 単位（標準偏差 50.7、中央値 28.5）と平均 85.0 単位（標準偏差 98.5、中央値 57.0）であった。

図表 50 呼吸器リハビリテーション料（単位数）【診療所】

（単位：単位）

	平成 23 年				平成 25 年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
呼吸器リハビリテーション料	6	46.2	50.7	28.5	8	85.0	98.5	57.0

7) 維持期リハビリテーションの要介護被保険者のうち、介護保険に移行することが困難と見込まれる患者

a 介護保険に移行することが困難と見込まれる患者数

【病院】

「病院」において、維持期リハビリテーションの要介護被保険者のうち、介護保険に移行することが困難と見込まれる患者数は、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）の患者数」で平均 4.3 人（標準偏差 11.4、中央値 0.0）であった。

「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）の患者数」で平均 1.6 人（標準偏差 3.0、中央値 0.0）であった。

「運動器リハビリテーション料の患者数」で平均 1.4 人（標準偏差 3.1、中央値 0.0）であった。

図表 51 介護保険に移行することが困難と見込まれる患者数【病院】

(単位：人)

	件数	平均値	標準偏差	中央値
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群以外)の患者数	122	4.3	11.4	0.0
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群)の患者数	82	1.6	3.0	0.0
運動器リハビリテーション料の患者数	95	1.4	3.1	0.0

図表 52 介護保険に移行することが困難と見込まれる患者数の分布【病院】

(単位：施設)

病院ごとの人数	脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群以外)の患者		脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群)の患者		運動器リハビリテーション料の患者	
	病院数	構成比	病院数	構成比	病院数	構成比
0 人	78	56.5%	42	45.2%	60	55.0%
1 人	11	8.0%	12	12.9%	11	10.1%
2 人	1	0.7%	13	14.0%	5	4.6%
3 人	6	4.3%	6	6.5%	8	7.3%
4 人	7	5.1%	1	1.1%	1	0.9%
5 人	0	0.0%	2	2.2%	2	1.8%
6 人	1	0.7%	2	2.2%	4	3.7%
7 人	0	0.0%	0	0.0%	1	0.9%
8 人	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
9 人	3	2.2%	1	1.1%	1	0.9%
10 人～19 人	7	5.1%	3	3.2%	1	0.9%
20 人以上	8	5.8%	0	0.0%	1	0.9%
無回答	16	11.6%	11	11.8%	14	12.8%
全体	138	100.0%	93	100.0%	109	100.0%

【診療所】

「診療所」において、維持期リハビリテーションの要介護被保険者のうち、介護保険に移行することが困難と見込まれる患者数は、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）の患者数」で平均 1.0 人（標準偏差 1.8、中央値 0.0）であった。

「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）の患者数」で平均 0.5 人（標準偏差 0.6、中央値 0.5）であった。

「運動器リハビリテーション料の患者数」で平均 1.3 人（標準偏差 1.9、中央値 0.5）であった。

図表 53 介護保険に移行することが困難と見込まれる患者数【診療所】

（単位：人）

	件数	平均値	標準偏差	中央値
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群以外)の患者数	8	1.0	1.8	0.0
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群)の患者数	4	0.5	0.6	0.5
運動器リハビリテーション料の患者数	12	1.3	1.9	0.5

図表 54 介護保険に移行することが困難と見込まれる患者数の分布【診療所】

（単位：施設）

診療所ごとの人数	脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群以外)の患者		脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群)の患者		運動器リハビリテーション料の患者	
	診療所数	構成比	診療所数	構成比	診療所数	構成比
0人	5	55.6%	2	28.6%	6	37.5%
1人	1	11.1%	2	28.6%	3	18.8%
2人	1	11.1%	0	0.0%	1	6.3%
3人	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
4人	0	0.0%	0	0.0%	1	6.3%
5人	1	11.1%	0	0.0%	0	0.0%
6人	0	0.0%	0	0.0%	1	6.3%
無回答	1	11.1%	3	42.9%	4	25.0%
全体	9	100.0%	7	100.0%	16	100.0%

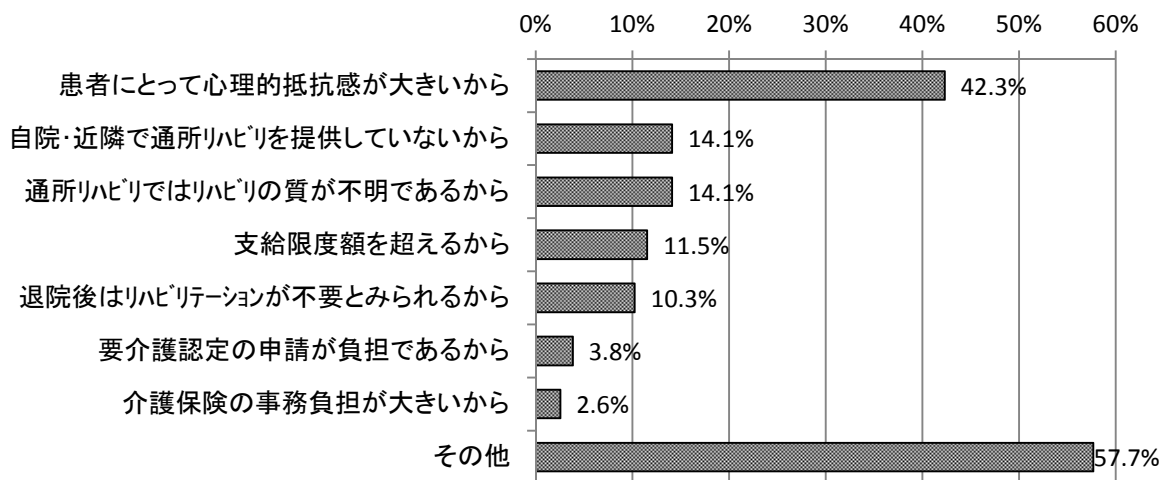
(介護保険に移行することが困難と見込まれる患者がいる場合)

b 介護保険に移行できない理由

【病院】

「病院」において介護保険に移行できない理由をみると、「患者にとって心理的抵抗感が大きいから」が 42.3%で最も多く、次いで「自院・近隣で通所リハビリを提供していないから」、「通所リハビリではリハビリの質が不明であるから」（いずれも 14.1%）であった。

図表 55 介護保険に移行できない理由（複数回答）【病院】（n=78）

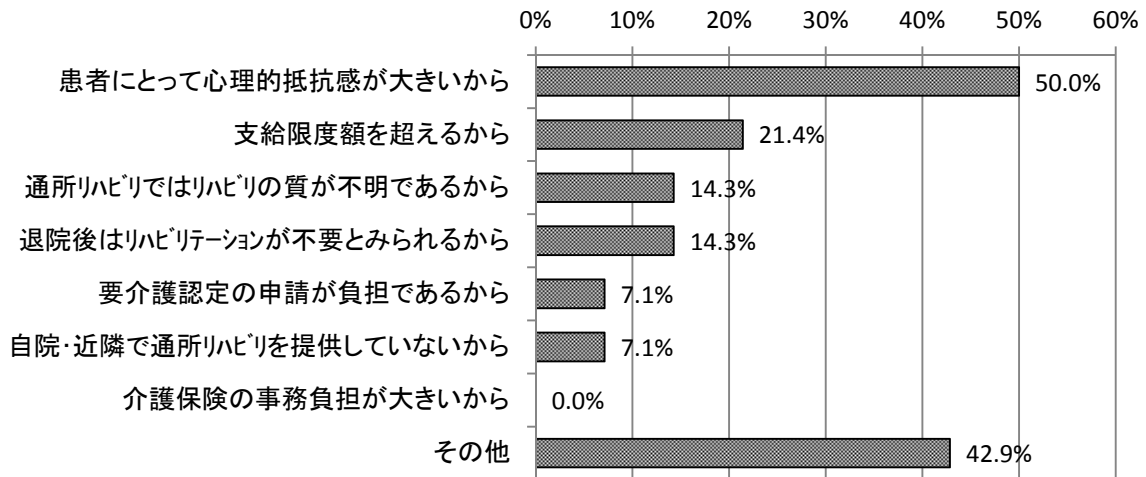


(注)「その他」の内容として、「医療依存度が高いため／医療処置が必要だから」（同旨含め 17 件）、「家族の受入れが難しいから」（同旨含め 2 件）等が挙げられた。

【診療所】

「診療所」において介護保険に移行できない理由をみると、「患者にとって心理的抵抗感が大きいから」が 50.0%で最も多く、次いで「支給限度額を超えるから」(21.4%)、「通所リハビリではリハビリの質が不明であるから」、「退院後はリハビリテーションが不要とみられるから」(いずれも 14.3%)であった。

図表 56 介護保険に移行できない理由（複数回答）【診療所】(n=14)



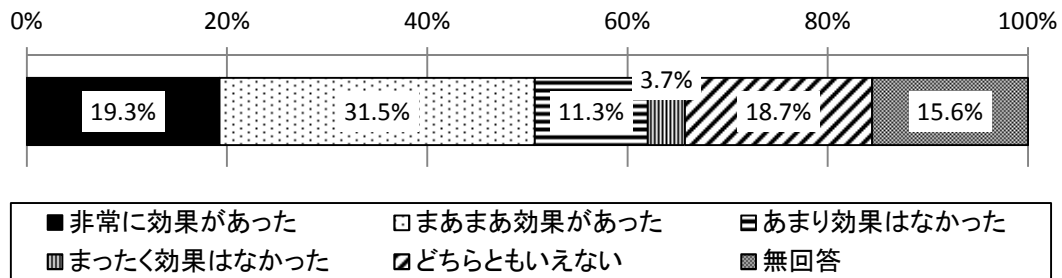
(注)「その他」の内容として、「身体状況が不安定である」、「医療行為が頻回に必要なため」、「家族・本人の希望」等が挙げられた。

8) 初期リハビリテーション加算の効果

【病院】

「病院」での初期リハビリテーション加算の効果についてみると、「まあまあ効果があった」が31.5%で最も多く、次いで「非常に効果があった」(19.3%)、「どちらともいえない」(18.7%)であった。「非常に効果があった」と「まあまあ効果があった」を合わせると50.8%となった。

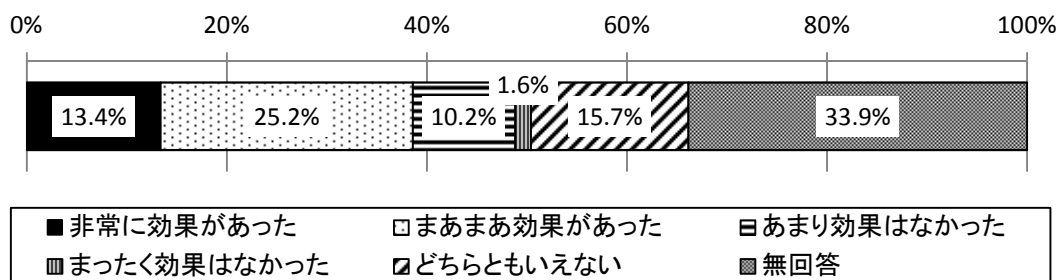
図表 57 初期リハビリテーション加算の効果【病院】(n=540)



【診療所】

「診療所」での初期リハビリテーション加算の効果についてみると、「まあまあ効果があった」が25.2%で最も多く、次いで「どちらともいえない」(15.7%)、「非常に効果があった」(13.4%)であった。「非常に効果があった」と「まあまあ効果があった」を合わせると38.6%となった。

図表 58 初期リハビリテーション加算の効果【診療所】(n=127)



9) 早期のリハビリテーションを進めるための課題

早期のリハビリテーションを進めるための課題を尋ねたところ、病状が安定しない中でのリスク管理の問題が多く挙げられた。また、医師の理解不足、他職種との連携の必要性、リハビリ等のスタッフの不足が指摘された。急性期病院では、早期のリハビリを提供したいと考えているにもかかわらず在院日数の関係で患者が転院してしまうこと、一方で、家族への説明が遅れることなども課題とされた。診療報酬上の課題についての指摘もあった(診療所からの回答については、文末に診療所と表記)。

【早期リハビリテーションを進めるための課題（自由記述式）】

○病状の安定、リスク管理

- ・発症直後で病状が安定しておらず、状態を把握しきれないことがある。
- ・リハビリスタッフのリスク管理能力を高めること。
- ・状態不安定の中、医学的管理とリハビリテーションスキルの難しさ。
- ・個々のリスク管理能力を高めることが大切になる(診療所)。
- ・十分なリハビリが行えるまでに状態が安定していないこともあるため早期リハビリが行えないこともある(診療所)。

○医師の理解、他職種との連携

- ・医師の理解。
- ・医師や看護師など他職種との連携。
- ・医師との連携が大事(診療所)。
- ・他職種との連携が大切(診療所)。
- ・医師とリハビリスタッフとのリハビリ知識の共有。
- ・医学部におけるリハビリテーションに対する教育。

○スタッフの配置

- ・専任のリハビリテーション科の医師がいないこと。
- ・リハビリテーション専門医の常勤医師確保が困難である(診療所)。
- ・早期リハビリに介入するリハビリスタッフの人員配置の調整。
- ・作業療法士、言語聴覚士の絶対数の不足。

○患者・家族への説明と理解

- ・独居の高齢者が多く、認知症を発症している人が多いため、家族への説明が遅れることがある。
- ・いかに患者に理解してもらえるか(診療所)。
- ・家族の協力が課題(診療所)。

○報酬上の課題

- ・リスク管理上の負担が大きいため、加算料のアップが必要だと思う。
- ・早期リハにも休日・充実加算を創設すべきだと思う。

／等

③ 外来患者のリハビリテーション（各年7月1か月間）

※特に断りがない限り、平成25年7月1か月間の数値を表す。

1) 外来患者数

【病院】

「病院」の外来患者数をみると、平均4,780.0人（標準偏差7,208.6、中央値2,325.0）であった。

図表 59 外来患者数【病院】

（単位：人）

	件数	平均値	標準偏差	中央値
外来患者数	512	4,780.0	7,208.6	2,325.0

【診療所】

「診療所」の外来患者数をみると、平均2,095.3人（標準偏差1,906.6、中央値1,538.0）であった。

図表 60 外来患者数【診療所】

（単位：人）

	件数	平均値	標準偏差	中央値
外来患者数	373	2,095.3	1,906.6	1,538.0

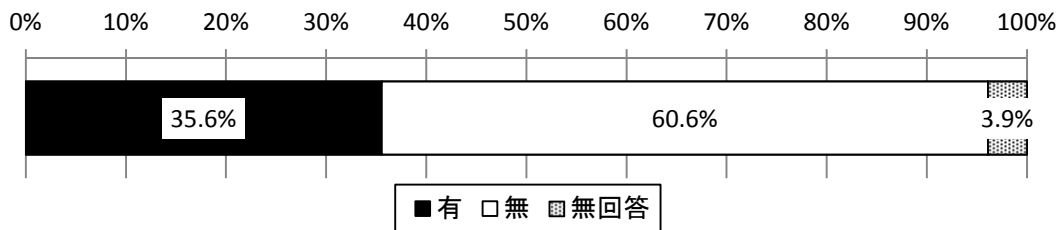
2) 外来リハビリテーション診療料について

a 外来リハビリテーション診療料の届出の有無

【病院】

「病院」の外来リハビリテーション診療料の届出の有無をみると、「有」が35.6%、「無」が60.6%であり、「無」のほうが多かった。

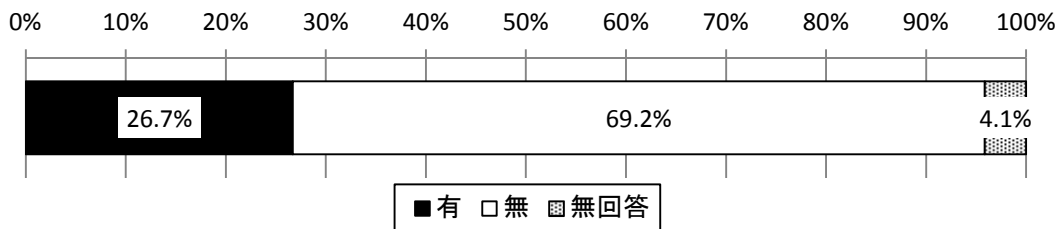
図表 61 外来リハビリテーション診療料の届出の有無【病院】(n=540)



【診療所】

「診療所」の外来リハビリテーション診療料の届出の有無をみると、「有」が26.7%、「無」が69.2%であり、「無」のほうが多かった。

図表 62 外来リハビリテーション診療料の届出の有無【診療所】(n=412)

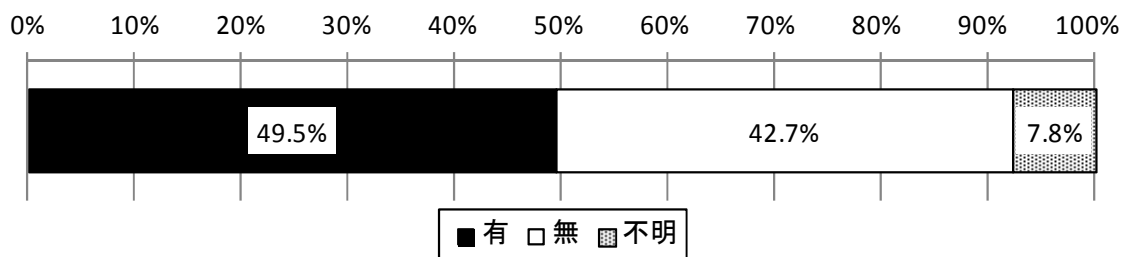


b 外来リハビリテーション診療料の算定人数・算定回数

【病院】

「病院」の外来リハビリテーション診療料の算定の有無をみると、「有」が49.5%、「無」が42.7%であった。

図表 63 外来リハビリテーション診療料の算定の有無（届出有の場合）【病院】（n=192）



上記で「有」と回答した施設のうち、「外来リハビリテーション診療料1」の算定人数が平均29.2人（標準偏差46.2、中央値11.5）、「外来リハビリテーション診療料2」の算定人数が平均39.1人（標準偏差43.4、中央値27.0）であった。

図表 64 外来リハビリテーション診療料の算定人数【病院】

（単位：人）

	件数	平均値	標準偏差	中央値
外来リハビリテーション診療料1	58	29.2	46.2	11.5
外来リハビリテーション診療料2	89	39.1	43.4	27.0
合計	95	54.4	61.7	39.0

（注）1件以上の算定があった場合を対象に集計した。以下同様。

上記で「有」と回答した施設のうち、「外来リハビリテーション診療料1」の算定回数は平均101.1回（標準偏差166.8、中央値35.0）、「外来リハビリテーション診療料2」の算定回数は平均68.9回（標準偏差88.0、中央値44.0）であった。

図表 65 外来リハビリテーション診療料の算定回数【病院】

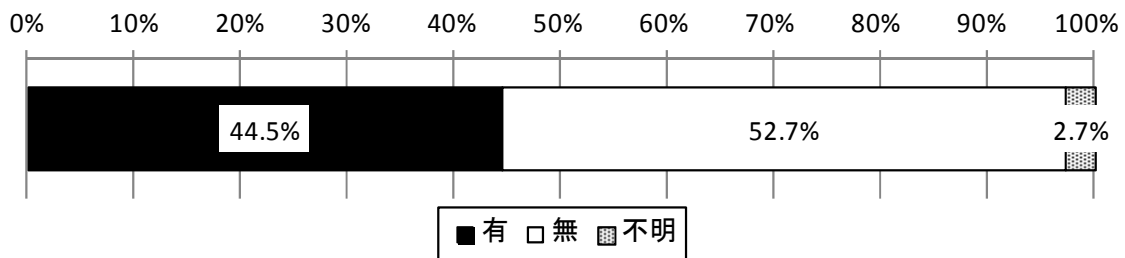
（単位：回）

	件数	平均値	標準偏差	中央値
外来リハビリテーション診療料1	60	101.1	166.8	35.0
外来リハビリテーション診療料2	90	68.9	88.0	44.0
合計	96	127.8	174.8	67.5

【診療所】

「診療所」の外來リハビリテーション診療料の算定の有無をみると、「有」が 44.5%、「無」が 52.7%であった。

図表 66 外來リハビリテーション診療料の算定の有無（届出有の場合）【診療所】（n=110）



上記で「有」と回答した施設のうち、「外來リハビリテーション診療料 1」の算定人数が平均 36.8 人（標準偏差 56.5、中央値 15.0）、「外來リハビリテーション診療料 2」の算定人数が平均 98.8 人（標準偏差 154.1、中央値 31.0）であった。

図表 67 外來リハビリテーション診療料の算定人数【診療所】

（単位：人）

	件数	平均値	標準偏差	中央値
外來リハビリテーション診療料 1	23	36.8	56.5	15.0
外來リハビリテーション診療料 2	35	98.8	154.1	31.0
合計	46	93.5	147.5	35.5

上記で「有」と回答した施設のうち、「外來リハビリテーション診療料 1」の算定回数は平均 124.3 回（標準偏差 236.7、中央値 11.5）、「外來リハビリテーション診療料 2」の算定回数は平均 328.3 回（標準偏差 695.9、中央値 91.0）であった。

図表 68 外來リハビリテーション診療料の算定回数【診療所】

（単位：回）

	件数	平均値	標準偏差	中央値
外來リハビリテーション診療料 1	24	124.3	236.7	11.5
外來リハビリテーション診療料 2	37	328.3	695.9	91.0
合計	49	308.8	630.2	88.0

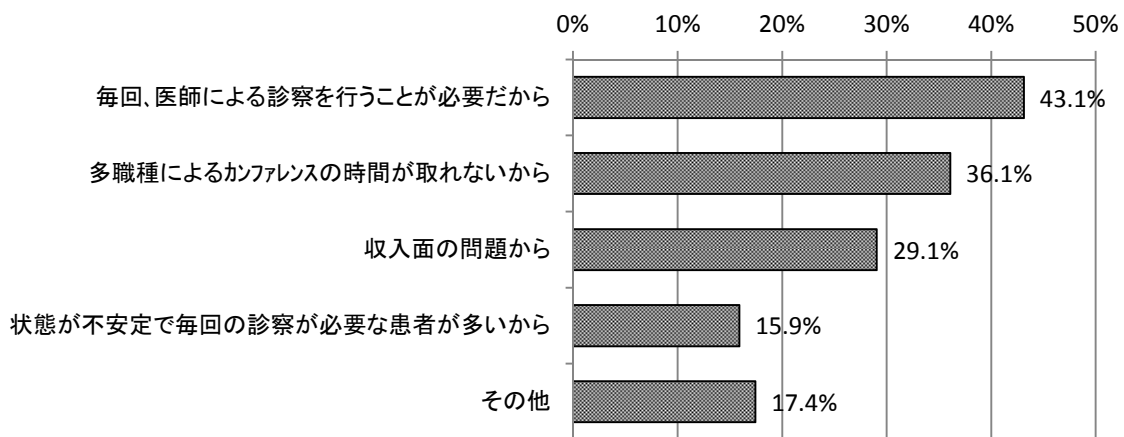
(外来リハビリテーション診療料の届出をしていない場合)

c 外来リハビリテーション診療料の届出をしていない理由

【病院】

外来リハビリテーション診療料の届出をしていない病院について、届出をしていない理由を尋ねたところ、「毎回、医師による診察を行うことが必要だから」が43.1%で最も多く、次いで「多職種によるカンファレンスの時間が取れないから」(36.1%)、「収入面の問題から」(29.1%)であった。

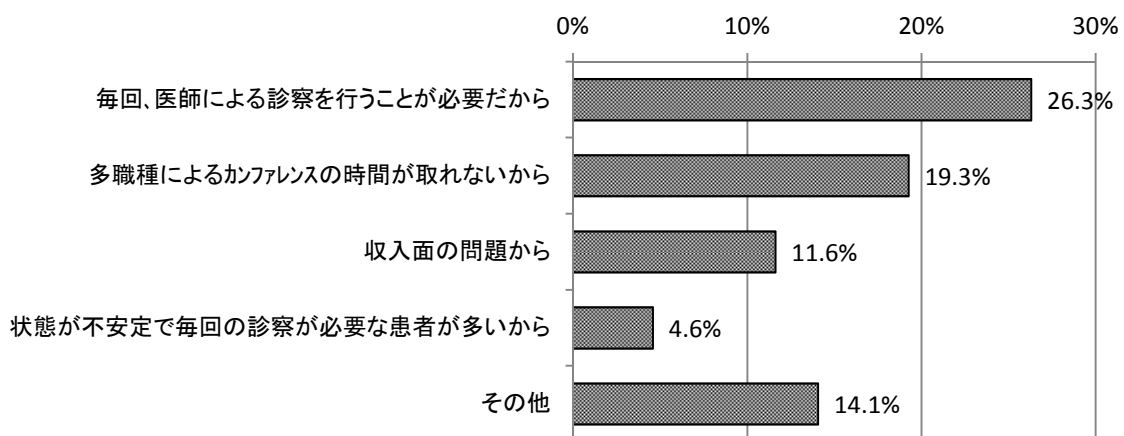
図表 69 外来リハビリテーション診療料の届出をしていない理由（複数回答）【病院】(n=327)



(注)「その他」の内容として、「リハビリ職員を確保できない」、「リハビリテーション科の医師を確保できない」、「外来件数が少ないため」等が挙げられた。

図表 70 外来リハビリテーション診療料の届出をしていない理由（最も多く該当、単数回答）

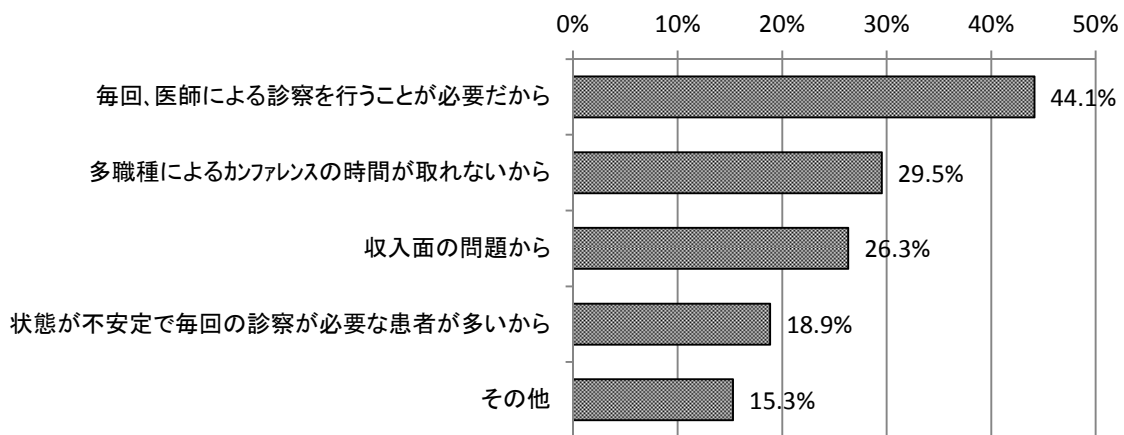
【病院】(n=327)



【診療所】

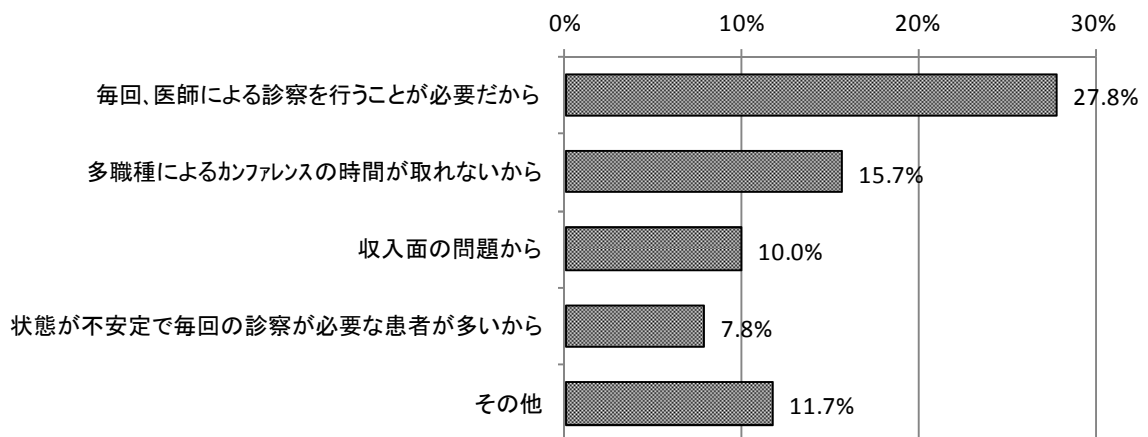
外来リハビリテーション診療料の届出をしていない診療所について、届出をしていない理由を尋ねたところ、「毎回、医師による診察を行うことが必要だから」が44.1%で最も多く、次いで「多職種によるカンファレンスの時間が取れないから」（29.5%）、「収入面の問題から」（26.3%）であった。

図表 71 外来リハビリテーション診療料の届出をしていない理由(複数回答)【診療所】(n=281)



(注)「その他」の内容として、「リハビリテーションの頻度が1週間1回程度の患者がほとんどのため」、「他の疾患（内科）で診察が必要なため（投薬・注射等）」等が挙げられた。

図表 72 外来リハビリテーション診療料の届出をしていない理由（最も多く該当、単数回答）
【診療所】(n=281)



3) 心大血管疾患リハビリテーション料

【病院】

「病院」における平成 23 年と平成 25 年の「心大血管疾患リハビリテーション料」の実人数についてみると、それぞれ平均 7.0 人（標準偏差 6.5、中央値 6.0）と平均 12.4 人（標準偏差 14.7、中央値 8.0）であった。

図表 73 心大血管疾患リハビリテーション料（実人数）【病院】

（単位：人）

	平成 23 年				平成 25 年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
心大血管疾患リハビリテーション料	21	7.0	6.5	6.0	30	12.4	14.7	8.0

（注）人数、単位数の集計においては、該当のリハビリテーション料が 1 人以上または 1 単位以上あった施設を集計対象とした。以下同様。

平成 23 年と平成 25 年の単位数についてみると、それぞれ平均 87.5 単位（標準偏差 98.5、中央値 50.0）と平均 128.1 単位（標準偏差 202.0、中央値 62.0）であった。

図表 74 心大血管疾患リハビリテーション料（単位数）【病院】

（単位：単位）

	平成 23 年				平成 25 年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
心大血管疾患リハビリテーション料	23	87.5	98.5	50.0	30	128.1	202.0	62.0

【診療所】

「診療所」における平成 25 年の「心大血管疾患リハビリテーション料」の実人数についてみると、平均 2.0 人であった。

図表 75 心大血管疾患リハビリテーション料（実人数）【診療所】

（単位：人）

	平成 23 年				平成 25 年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
心大血管疾患リハビリテーション料	-	-	-	-	1	2.0	-	2.0

平成 25 年の単位数についてみると、平均 39.0 単位であった。

図表 76 心大血管疾患リハビリテーション料（単位数）【診療所】

（単位：単位）

	平成 23 年				平成 25 年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
心大血管疾患リハビリテーション料	1	6.0	-	6.0	1	39.0	-	39.0

4) 脳血管疾患等リハビリテーション料（全体）

【病院】

「病院」における平成 23 年と平成 25 年の「脳血管疾患等リハビリテーション料」の実人数についてみると、それぞれ平均 31.6 人（標準偏差 48.8、中央値 15.0）と平均 32.0 人（標準偏差 54.4、中央値 14.0）であった。

図表 77 脳血管疾患等リハビリテーション料（全体）（実人数）【病院】

（単位：人）

	平成 23 年				平成 25 年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
脳血管疾患等リハビリテーション料	328	31.6	48.8	15.0	367	32.0	54.4	14.0

平成 23 年と平成 25 年の単位数についてみると、それぞれ平均 263.1 単位（標準偏差 461.4、中央値 120.5）と平均 294.2 単位（標準偏差 666.0、中央値 110.0）であった。

図表 78 脳血管疾患等リハビリテーション料（全体）（単位数）【病院】

（単位：単位）

	平成 23 年				平成 25 年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
脳血管疾患等リハビリテーション料	344	263.1	461.4	120.5	375	294.2	666.0	110.0

【診療所】

「診療所」における平成 23 年と平成 25 年の「脳血管疾患等リハビリテーション料」の実人数についてみると、それぞれ平均 28.5 人（標準偏差 53.0、中央値 10.0）と平均 30.5 人（標準偏差 59.8、中央値 9.0）であった。

図表 79 脳血管疾患等リハビリテーション料（全体）（実人数）【診療所】

（単位：人）

	平成 23 年				平成 25 年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
脳血管疾患等リハビリテーション料	138	28.5	53.0	10.0	165	30.5	59.8	9.0

平成 23 年と平成 25 年の単位数についてみると、それぞれ平均 229.0 単位（標準偏差 450.0、中央値 71.0）と平均 245.6 単位（標準偏差 508.7、中央値 61.0）であった。

図表 80 脳血管疾患等リハビリテーション料（全体）（単位数）【診療所】

（単位：単位）

	平成 23 年				平成 25 年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
脳血管疾患等リハビリテーション料	136	229.0	450.0	71.0	167	245.6	508.7	61.0

5) 脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）

「病院」における平成 23 年と平成 25 年の「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）」の実人数についてみると、それぞれ平均 30.4 人（標準偏差 46.4、中央値 15.0）と平均 29.8 人（標準偏差 52.1、中央値 14.0）であった。このうち標準的算定日数を超えた患者が平均 19.5 人（標準偏差 36.0、中央値 8.0）と平均 21.0 人（標準偏差 45.0、中央値 8.0）であった。標準的算定日数を超えた患者のうち維持期リハの要介護被保険者等は、それぞれ平均 2.8 人（標準偏差 7.1、中央値 0.0）と平均 4.8 人（標準偏差 10.5、中央値 1.0）であった。

【病院】

図表 81 脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）（実人数）【病院】

（単位：人）

	平成 23 年				平成 25 年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
廃用症候群以外の場合	311	30.4	46.4	15.0	351	29.8	52.1	14.0
標準的算定日数を超えた患者	261	19.5	36.0	8.0	311	21.0	45.0	8.0
(うち)維持期リハの患者	248	12.1	30.1	2.0	295	12.3	31.3	3.0
(うち)要介護被保険者等	198	2.8	7.1	0.0	277	4.8	10.5	1.0

平成 23 年と平成 25 年の単位数についてみると、それぞれ平均 249.3 単位（標準偏差 437.8、中央値 113.0）と平均 273.0 単位（標準偏差 608.7、中央値 107.0）であった。このうち標準的算定日数を超えた患者が平均 160.5 単位（標準偏差 369.5、中央値 57.0）と平均 175.4 単位（標準偏差 478.0、中央値 57.0）であった。このうち、維持期リハの要介護被保険者等はそれぞれ平均 17.8 単位（標準偏差 49.2、中央値 0.0）と平均 36.3 単位（標準偏差 77.2、中央値 3.0）であった。

図表 82 脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）（単位数）【病院】

（単位：単位）

	平成 23 年				平成 25 年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
廃用症候群以外の場合	325	249.3	437.8	113.0	358	273.0	608.7	107.0
標準的算定日数を超えた患者	261	160.5	369.5	57.0	309	175.4	478.0	57.0
(うち)維持期リハの患者	246	83.9	245.4	16.5	290	86.1	247.3	14.5
(うち)要介護被保険者等	194	17.8	49.2	0.0	269	36.3	77.2	3.0

【診療所】

「診療所」における平成 23 年と平成 25 年の「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）」の実人数についてみると、それぞれ平均 29.2 人（標準偏差 54.5、中央値 10.5）と平均 30.3 人（標準偏差 60.0、中央値 9.0）であった。このうち標準的算定日数を超えた患者が平均 16.2 人（標準偏差 31.8、中央値 5.0）と平均 17.2 人（標準偏差 36.1、中央値 4.0）であった。標準的算定日数を超えた患者のうち維持期リハの要介護被保険者等は、それぞれ平均 4.2 人（標準偏差 8.3、中央値 1.0）と平均 5.2 人（標準偏差 10.8、中央値 1.0）であった。

図表 83 脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）（実人数）【診療所】

（単位：人）

	平成 23 年				平成 25 年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
廃用症候群以外の場合	126	29.2	54.5	10.5	157	30.3	60.0	9.0
標準的算定日数を超えた患者	114	16.2	31.8	5.0	143	17.2	36.1	4.0
(うち)維持期リハの患者	108	10.1	21.1	3.0	137	9.8	20.1	3.0
(うち)要介護被保険者等	97	4.2	8.3	1.0	133	5.2	10.8	1.0

平成 23 年と平成 25 年の単位数についてみると、それぞれ平均 241.6 単位（標準偏差 463.1、中央値 75.0）と平均 258.1 単位（標準偏差 520.0、中央値 67.0）であった。このうち標準的算定日数を超えた患者が平均 153.7 単位（標準偏差 343.7、中央値 42.0）と平均 153.9 単位（標準偏差 346.6、中央値 41.5）であった。このうち、維持期リハの要介護被保険者等はそれぞれ平均 44.0 単位（標準偏差 109.9、中央値 8.5）と平均 44.7 単位（標準偏差 95.8、中央値 8.0）であった。

図表 84 脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）（単位数）【診療所】

（単位：単位）

	平成 23 年				平成 25 年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
廃用症候群以外の場合	122	241.6	463.1	75.0	153	258.1	520.0	67.0
標準的算定日数を超えた患者	107	153.7	343.7	42.0	136	153.9	346.6	41.5
(うち)維持期リハの患者	99	82.6	172.2	23.0	128	72.1	139.9	26.0
(うち)要介護被保険者等	86	44.0	109.9	8.5	122	44.7	95.8	8.0

6) 脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）

【病院】

「病院」における平成23年と平成25年の「脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群)」の実人数についてみると、それぞれ平均3.9人（標準偏差6.1、中央値2.0）と平均3.3人（標準偏差3.9、中央値2.0）であった。このうち標準的算定日数を超えた患者が平均1.7人（標準偏差5.2、中央値1.0）と平均1.5人（標準偏差2.9、中央値1.0）であった。標準的算定日数を超えた患者のうち維持期リハの要介護被保険者等は、それぞれ平均0.5人（標準偏差1.9、中央値0.0）と平均0.5人（標準偏差1.7、中央値0.0）であった。

図表 85 脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）（実人数）【病院】

（単位：人）

	平成23年				平成25年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
廃用症候群の場合	110	3.9	6.1	2.0	124	3.3	3.9	2.0
標準的算定日数を超えた患者	93	1.7	5.2	1.0	106	1.5	2.9	1.0
(うち)維持期リハの患者	91	1.3	5.2	0.0	105	1.0	2.6	0.0
(うち)要介護被保険者等	86	0.5	1.9	0.0	102	0.5	1.7	0.0

平成23年と平成25年の単位数についてみると、それぞれ平均26.4単位（標準偏差30.8、中央値16.0）と平均51.4単位（標準偏差208.3、中央値14.5）であった。このうち標準的算定日数を超えた患者が平均9.3単位（標準偏差16.1、中央値1.0）と平均12.5単位（標準偏差23.7、中央値3.0）であった。このうち、維持期リハの要介護被保険者等はそれぞれ平均3.0単位（標準偏差9.3、中央値0.0）と平均3.6単位（標準偏差10.4、中央値0.0）であった。

図表 86 脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）（単位数）【病院】

（単位：単位）

	平成23年				平成25年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
廃用症候群の場合	113	26.4	30.8	16.0	128	51.4	208.3	14.5
標準的算定日数を超えた患者	91	9.3	16.1	1.0	100	12.5	23.7	3.0
(うち)維持期リハの患者	89	4.7	10.6	0.0	99	5.6	10.8	0.0
(うち)要介護被保険者等	84	3.0	9.3	0.0	96	3.6	10.4	0.0

【診療所】

「診療所」における平成 23 年と平成 25 年の「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）」の実人数についてみると、それぞれ平均 2.9 人（標準偏差 3.1、中央値 1.0）と平均 3.4 人（標準偏差 3.9、中央値 2.0）であった。このうち標準的算定日数を超えた患者が平均 1.0 人（標準偏差 1.4、中央値 0.5）と平均 1.0 人（標準偏差 1.4、中央値 1.0）であった。標準的算定日数を超えた患者のうち維持期リハの要介護被保険者等は、それぞれ平均 0.5 人（標準偏差 1.1、中央値 0.0）と平均 0.4 人（標準偏差 0.8、中央値 0.0）であった。

図表 87 脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）（実人数）【診療所】

（単位：人）

	平成 23 年				平成 25 年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
廃用症候群の場合	24	2.9	3.1	1.0	30	3.4	3.9	2.0
標準的算定日数を超えた患者	22	1.0	1.4	0.5	24	1.0	1.4	1.0
(うち)維持期リハの患者	21	0.6	1.1	0.0	24	0.7	1.0	0.0
(うち)要介護被保険者等	20	0.5	1.1	0.0	23	0.4	0.8	0.0

平成 23 年と平成 25 年の単位数についてみると、それぞれ平均 25.5 単位（標準偏差 49.1、中央値 11.5）と平均 31.6 単位（標準偏差 41.3、中央値 15.5）であった。このうち標準的算定日数を超えた患者が平均 6.9 単位（標準偏差 8.9、中央値 1.0）と平均 10.8 単位（標準偏差 18.5、中央値 4.0）であった。このうち、維持期リハの要介護被保険者等はそれぞれ平均 3.2 単位（標準偏差 6.4、中央値 0.0）と平均 4.9 単位（標準偏差 8.7、中央値 0.0）であった。

図表 88 脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）（単位数）【診療所】

（単位：単位）

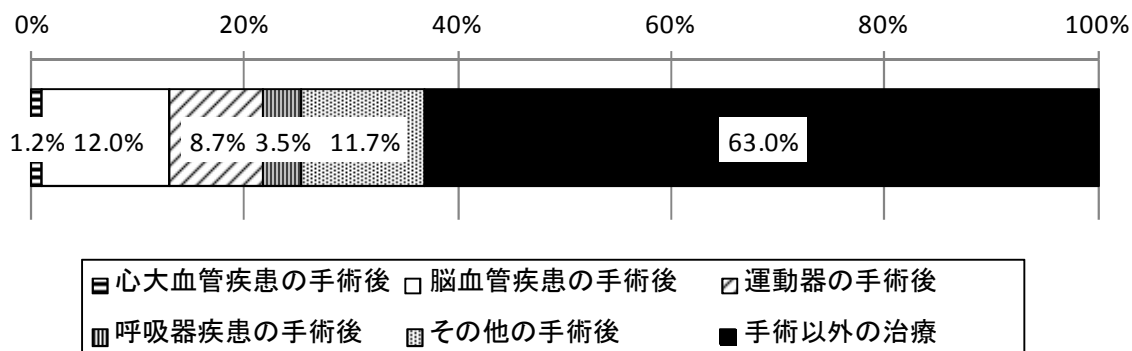
	平成 23 年				平成 25 年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
廃用症候群の場合	24	25.5	49.1	11.5	30	31.6	41.3	15.5
標準的算定日数を超えた患者	22	6.9	8.9	1.0	23	10.8	18.5	4.0
(うち)維持期リハの患者	21	3.5	6.2	0.0	23	6.0	9.4	0.0
(うち)要介護被保険者等	20	3.2	6.4	0.0	22	4.9	8.7	0.0

a 廃用症候群の理由別患者構成比

【病院】

「病院」における廃用症候群の理由別患者構成比をみると、「手術以外の治療」が63.0%で6割以上を占め最も多く、次いで「脳血管疾患の手術後」(12.0%)、「その他の手術後」(11.7%)であった。

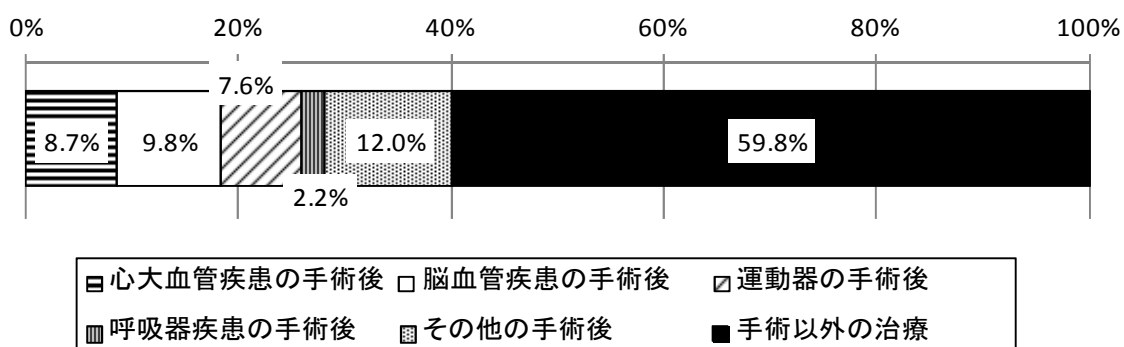
図表 89 廃用症候群の理由別患者構成比【病院】(n=343)



【診療所】

「診療所」における廃用症候群の理由別患者構成比をみると、「手術以外の治療」が59.8%で最も多く、次いで「その他の手術後」(12.0%)、「脳血管疾患の手術後」(9.8%)であった。

図表 90 廃用症候群の理由別患者構成比【診療所】(n=92)



(注) 凡例の詳細は以下の通り。

心大血管疾患の手術後：急性心筋梗塞、大動脈解離等、心大血管疾患に関する手術後の安静によるため

脳血管疾患の手術後：脳梗塞、脳出血等、脳血管疾患に関する手術後の安静によるため

運動器の手術後：上・下肢、脊椎等の運動器に関する手術後の安静によるため

呼吸器疾患の手術後：肺腫瘍、胸部外傷等、呼吸器疾患に関する手術後の安静によるため

その他の手術後：上記以外の手術後の安静によるため

手術以外の治療：肺炎等の手術以外の治療による安静によるため

7) 運動器リハビリテーション料

【病院】

「病院」における平成 23 年と平成 25 年の「運動器リハビリテーション料」の実人数についてみると、それぞれ平均 56.2 人（標準偏差 89.4、中央値 24.0）と平均 58.0 人（標準偏差 85.8、中央値 29.0）であった。このうち標準的算定日数を超えた患者が平均 16.1 人（標準偏差 27.9、中央値 7.0）と平均 17.9 人（標準偏差 28.6、中央値 6.0）であった。標準的算定日数を超えた患者のうち維持期リハの要介護被保険者等は、それぞれ平均 2.7 人（標準偏差 9.0、中央値 0.0）と平均 3.6 人（標準偏差 8.6、中央値 0.0）であった。

図表 91 運動器リハビリテーション料（実人数）【病院】

（単位：人）

	平成 23 年				平成 25 年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
運動器リハビリテーション料	353	56.2	89.4	24.0	390	58.0	85.8	29.0
標準的算定日数を超えた患者	284	16.1	27.9	7.0	335	17.9	28.6	6.0
(うち)維持期リハの患者	271	8.2	19.1	1.0	317	9.6	20.8	2.0
(うち)要介護被保険者等	233	2.7	9.0	0.0	299	3.6	8.6	0.0

平成 23 年と平成 25 年の単位数についてみると、それぞれ平均 366.4 単位（標準偏差 573.6、中央値 181.0）と平均 409.5 単位（標準偏差 624.2、中央値 218.0）であった。このうち標準的算日数を超えた患者が平均 97.0 単位（標準偏差 169.9、中央値 37.0）と平均 107.5 単位（標準偏差 164.9、中央値 44.0）であった。このうち、維持期リハの要介護被保険者等はそれぞれ平均 15.6 単位（標準偏差 44.1、中央値 0.0）と平均 21.3 単位（標準偏差 47.0、中央値 0.0）であった。

図表 92 運動器リハビリテーション料（単位数）【病院】

（単位：単位）

	平成 23 年				平成 25 年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
運動器リハビリテーション料	372	366.4	573.6	181.0	399	409.5	624.2	218.0
標準的算定日数を超えた患者	283	97.0	169.9	37.0	333	107.5	164.9	44.0
(うち)維持期リハの患者	268	47.6	89.6	4.0	312	54.7	96.9	9.0
(うち)要介護被保険者等	229	15.6	44.1	0.0	290	21.3	47.0	0.0

【診療所】

「診療所」における平成 23 年と平成 25 年の「運動器リハビリテーション料」の実人数についてみると、それぞれ平均 138.8 人（標準偏差 160.7、中央値 80.5）と平均 169.3 人（標準偏差 197.9、中央値 96.0）であった。このうち標準的算定日数を超えた患者が平均 39.1 人（標準偏差 67.4、中央値 12.0）と平均 49.1 人（標準偏差 83.1、中央値 16.5）であった。標準的算定日数を超えた患者のうち維持期リハの要介護被保険者等は、それぞれ平均 5.0 人（標準偏差 9.9、中央値 0.0）と平均 6.9 人（標準偏差 15.1、中央値 1.0）であった。

図表 93 運動器リハビリテーション料（実人数）【診療所】

（単位：人）

	平成 23 年				平成 25 年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
運動器リハビリテーション料	222	138.8	160.7	80.5	282	169.3	197.9	96.0
標準的算定日数を超えた患者	185	39.1	67.4	12.0	238	49.1	83.1	16.5
(うち)維持期リハの患者	171	20.2	45.4	3.0	214	24.5	50.4	3.5
(うち)要介護被保険者等	150	5.0	9.9	0.0	202	6.9	15.1	1.0

平成 23 年と平成 25 年の単位数についてみると、それぞれ平均 786.9 単位（標準偏差 935.2、中央値 454.0）と平均 953.6 単位（標準偏差 1,124.6、中央値 519.0）であった。このうち標準的算定日数を超えた患者が平均 205.5 単位（標準偏差 304.3、中央値 77.5）と平均 247.1 単位（標準偏差 347.7、中央値 119.0）であった。このうち、維持期リハの要介護被保険者等はそれぞれ平均 33.3 単位（標準偏差 77.9、中央値 0.0）と平均 44.6 単位（標準偏差 96.2、中央値 2.0）であった。

図表 94 運動器リハビリテーション料（単位数）【診療所】

（単位：単位）

	平成 23 年				平成 25 年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
運動器リハビリテーション料	235	786.9	935.2	454.0	291	953.6	1,124.6	519.0
標準的算定日数を超えた患者	180	205.5	304.3	77.5	234	247.1	347.7	119.0
(うち)維持期リハの患者	162	113.0	227.1	16.0	207	130.0	239.7	21.0
(うち)要介護被保険者等	142	33.3	77.9	0.0	194	44.6	96.2	2.0

8) 呼吸器リハビリテーション料

【病院】

「病院」における平成 23 年と平成 25 年の「呼吸器リハビリテーション料」の実人数についてみると、それぞれ平均 5.0 人（標準偏差 9.5、中央値 1.5）と平均 3.3 人（標準偏差 3.9、中央値 2.0）であった。

図表 95 呼吸器リハビリテーション料（実人数）【病院】

（単位：人）

	平成 23 年				平成 25 年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
呼吸器リハビリテーション料	58	5.0	9.5	1.5	78	3.3	3.9	2.0

平成 23 年と平成 25 年の単位数についてみると、それぞれ平均 26.4 単位（標準偏差 60.7、中央値 9.0）と平均 24.0 単位（標準偏差 58.2、中央値 7.0）であった。

図表 96 呼吸器リハビリテーション料（単位数）【病院】

（単位：単位）

	平成 23 年				平成 25 年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
呼吸器リハビリテーション料	63	26.4	60.7	9.0	82	24.0	58.2	7.0

【診療所】

「診療所」における平成 23 年と平成 25 年の「呼吸器リハビリテーション料」の実人数についてみると、それぞれ平均 12.0 人（標準偏差 12.7、中央値 12.0）と平均 6.8 人（標準偏差 8.1、中央値 3.0）であった。

図表 97 呼吸器リハビリテーション料（実人数）【診療所】

（単位：人）

	平成 23 年				平成 25 年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
呼吸器リハビリテーション料	2	12.0	12.7	12.0	5	6.8	8.1	3.0

平成 23 年と平成 25 年の単位数についてみると、それぞれ平均 40.3 単位（標準偏差 37.1、中央値 22.0）と平均 36.2 単位（標準偏差 25.0、中央値 23.0）であった。

図表 98 呼吸器リハビリテーション料（単位数）【診療所】

（単位：単位）

	平成 23 年				平成 25 年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
呼吸器リハビリテーション料	3	40.3	37.1	22.0	5	36.2	25.0	23.0

9) 維持期リハの要介護被保険者のうち、介護保険に移行することが困難と見込まれる患者について
a 介護保険に移行することが困難と見込まれる患者数

【病院】

病院において、維持期リハの要介護被保険者のうち、介護保険に移行することが困難と見込まれる患者数は、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）の患者数」で平均 8.7 人（標準偏差 29.9、中央値 2.0）、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）の患者数」で平均 2.4 人（標準偏差 2.9、中央値 1.5）、「運動器リハビリテーション料の患者数」で平均 5.5 人（標準偏差 9.3、中央値 3.0）であった。

図表 99 介護保険に移行することが困難と見込まれる患者数【病院】

(単位：人)

	件数	平均値	標準偏差	中央値
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群以外)の患者数	136	8.7	29.9	2.0
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群)の患者数	20	2.4	2.9	1.5
運動器リハビリテーション料の患者数	117	5.5	9.3	3.0

病院ごとの患者数の分布をみると、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）の患者」は「0 人」が 19.5%で最も多く、次いで「1 人」(16.9%)、「2 人」(10.4%)であった。「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）の患者」は「1 人」が 34.8%で最も多く、次いで「2 人」(21.7%)、「4 人」(13.0%)であった。「運動器リハビリテーション料の患者」は「0 人」が 16.1%で最も多く、次いで「1 人」(15.3%)、「3 人」(10.9%)であった。

図表 100 介護保険に移行することが困難と見込まれる患者数の分布【病院】

(単位：施設)

病院ごとの人数	脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群以外)の患者		脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群)の患者		運動器リハビリテーション料の患者	
	病院数	構成比	病院数	構成比	病院数	構成比
0 人	30	19.5%	2	8.7%	22	16.1%
1 人	26	16.9%	8	34.8%	21	15.3%
2 人	16	10.4%	5	21.7%	11	8.0%
3 人	11	7.1%	0	0.0%	15	10.9%
4 人	9	5.8%	3	13.0%	6	4.4%
5 人	5	3.2%	1	4.3%	11	8.0%
6 人	3	1.9%	0	0.0%	4	2.9%
7 人	3	1.9%	0	0.0%	2	1.5%
8 人	4	2.6%	0	0.0%	4	2.9%
9 人	4	2.6%	0	0.0%	3	2.2%
10 人～19 人	14	9.1%	1	4.3%	12	8.8%
20 人以上	11	7.1%	0	0.0%	6	4.4%
無回答	18	11.7%	3	13.0%	20	14.6%
全体	154	100.0%	23	100.0%	137	100.0%

【診療所】

診療所において、維持期リハの要介護被保険者のうち、介護保険に移行することが困難と見込まれる患者数は、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）の患者数」で平均 4.9 人（標準偏差 8.0、中央値 2.0）、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）の患者数」で平均 2.6 人（標準偏差 3.5、中央値 1.0）、「運動器リハビリテーション料の患者数」で平均 8.7 人（標準偏差 16.7、中央値 4.0）であった。

図表 101 介護保険に移行することが困難と見込まれる患者数【診療所】

（単位：人）

	件数	平均値	標準偏差	中央値
脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）の患者数	71	4.9	8.0	2.0
脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）の患者数	8	2.6	3.5	1.0
運動器リハビリテーション料の患者数	96	8.7	16.7	4.0

診療所ごとの患者数の分布をみると、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）の患者」は「0 人」、「1 人」がそれぞれ 21.3%で最も多く、次いで「2 人」（10.7%）であった。「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）の患者」では「1 人」が 50.0%で最も多く、次いで「3 人」（25.0%）、「10～19 人」（12.5%）であった。「運動器リハビリテーションの患者」では「0 人」が 16.1%で最も多く、次いで「10 人～19 人」（10.2%）、「1 人」（9.3%）であった。

図表 102 介護保険に移行することが困難と見込まれる患者数の分布【診療所】

（単位：施設）

診療所ごとの人数	脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）の患者		脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）の患者		運動器リハビリテーション料の患者	
	診療所数	構成比	診療所数	構成比	診療所数	構成比
0 人	16	21.3%	1	12.5%	19	16.1%
1 人	16	21.3%	4	50.0%	11	9.3%
2 人	8	10.7%	0	0.0%	7	5.9%
3 人	4	5.3%	2	25.0%	9	7.6%
4 人	3	4.0%	0	0.0%	9	7.6%
5 人	2	2.7%	0	0.0%	6	5.1%
6 人	2	2.7%	0	0.0%	4	3.4%
7 人	3	4.0%	0	0.0%	4	3.4%
8 人	5	6.7%	0	0.0%	5	4.2%
9 人	2	2.7%	0	0.0%	1	0.8%
10 人～19 人	8	10.7%	1	12.5%	12	10.2%
20 人以上	2	2.7%	0	0.0%	9	7.6%
無回答	4	5.3%	0	0.0%	22	18.6%
全体	75	100.0%	8	100.0%	118	100.0%

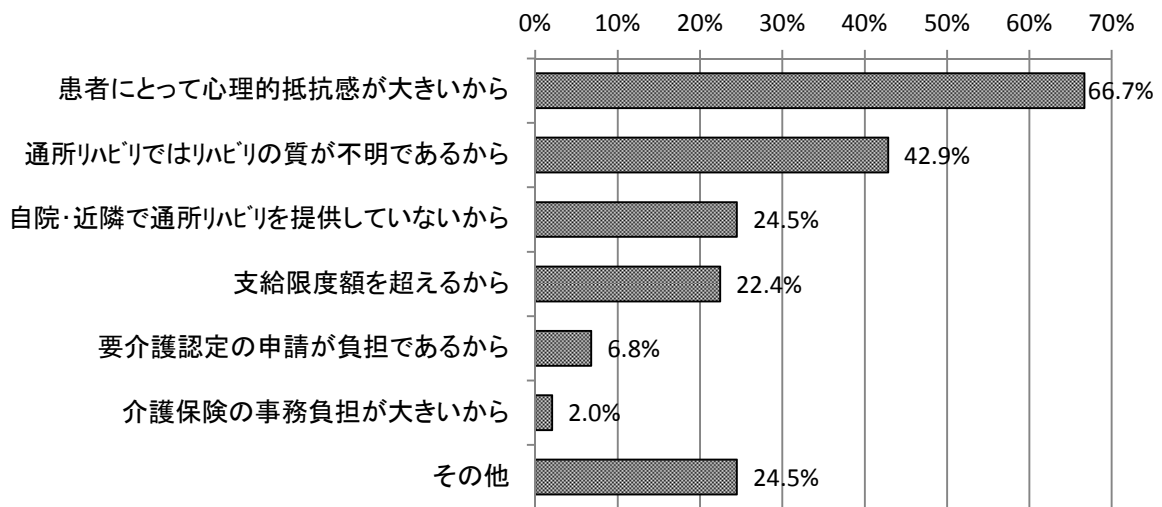
(介護保険に移行することが困難と見込まれる患者がいる場合)

b 介護保険に移行できない理由

【病院】

「病院」において介護保険に移行できない理由をみると、「患者にとって心理的抵抗感が大きいから」が66.7%で最も多く、次いで「通所リハビリではリハビリの質が不明であるから」(42.9%)「自院・近隣で通所リハビリを提供していないから」(24.5%)であった。

図表 103 介護保険に移行できない理由（複数回答）【病院】(n=147)

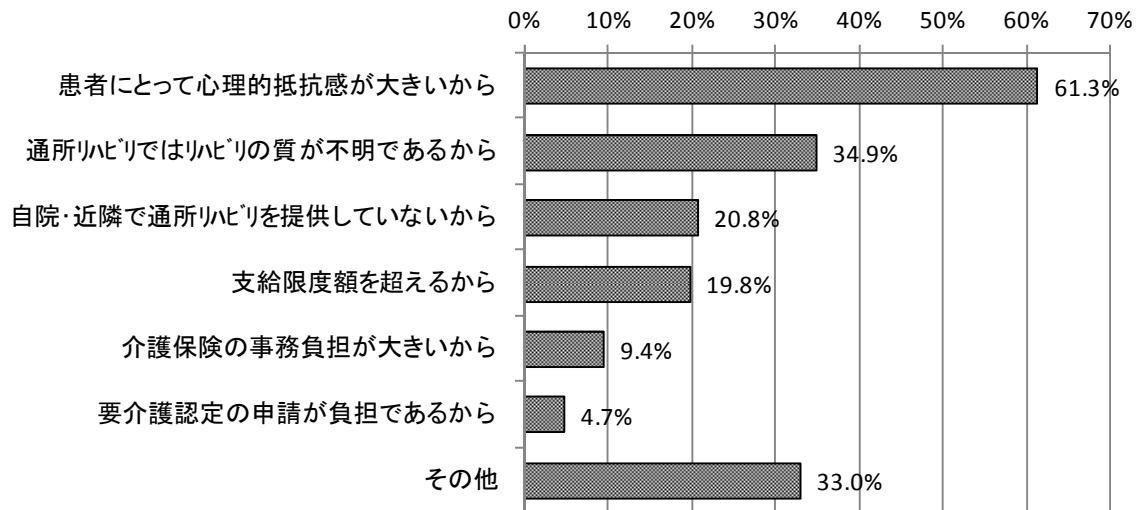


(注)「その他」の内容として、「医療依存度が高いため」、「近隣の通所リハでは個別に適切なリハが提供されない」、「言語リハビリを必要としているため」等が挙げられた。

【診療所】

「診療所」において介護保険に移行できない理由をみると、「患者にとって心理的抵抗感が大きいから」が61.3%で最も多く、次いで「通所リハビリではリハビリの質が不明であるから」(34.9%)「自院・近隣で通所リハビリを提供していないから」(20.8%)であった。

図表 104 介護保険に移行できない理由（複数回答）【診療所】(n=106)



(注)「その他」の内容として、「介護付有料老人ホームや小規模多機能型居宅介護、グループホームの利用があり、介護リハへの移行が不可能」、「通所の時間が長い、送迎がいない、昼食がいない、人と交わるのが嫌い等（利用者の意向）」、「介護保険で言語療法を受けられる施設が少ないため」等が挙げられた。

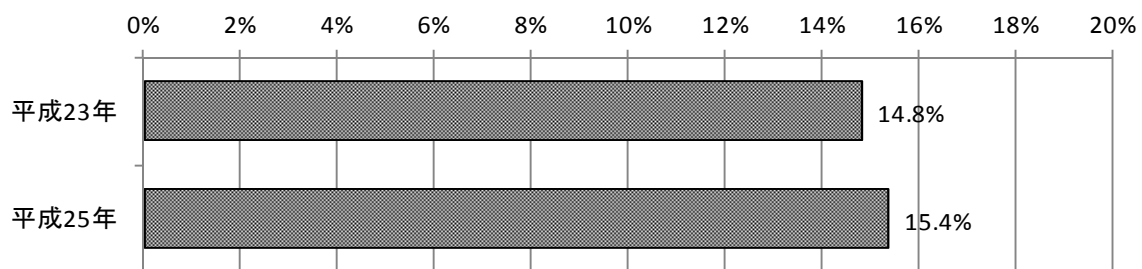
④ 訪問リハビリテーション

1) 在宅患者訪問リハビリテーション指導管理料の算定の有無、算定人数、算定回数

【病院】

「病院」において、在宅患者訪問リハビリテーション指導管理料の算定がある施設の割合をみると、平成23年では14.8%、平成25年では15.4%であった。

図表 105 在宅患者訪問リハビリテーション指導管理料の算定がある施設の割合【病院】(n=540)



(注) 算定人数または算定回数について1人または1単位以上の回答があったもの。

在宅患者訪問リハビリテーション指導管理料の算定人数をみると、平成23年7月では平均11.1人（標準偏差19.2、中央値3.0）、平成25年7月では平均9.4人（標準偏差17.1、中央値3.0）であった。

図表 106 在宅患者訪問リハビリテーション指導管理料の算定人数【病院】

(単位：人)

	件数	平均値	標準偏差	中央値
平成23年7月	78	11.1	19.2	3.0
平成25年7月	83	9.4	17.1	3.0

(注) 算定人数が1人以上あった対象について集計した。

在宅患者訪問リハビリテーション指導管理料の算定回数をみると、平成23年7月では平均50.0回（標準偏差83.2、中央値24.0）、平成25年7月では平均59.3回（標準偏差89.1、中央値21.0）であった。

図表 107 在宅患者訪問リハビリテーション指導管理料の算定回数【病院】

(単位：回)

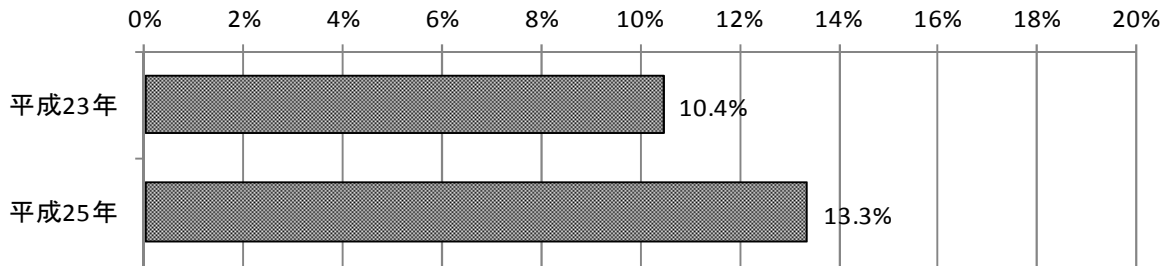
	件数	平均値	標準偏差	中央値
平成23年7月	73	50.0	83.2	24.0
平成25年7月	75	59.3	89.1	21.0

(注) 算定回数が1回以上あった対象について集計した。

【診療所】

「診療所」において、在宅患者訪問リハビリテーション指導管理料の算定がある施設の割合をみると、平成23年では10.4%、平成25年では13.3%であった。

図表 108 在宅患者訪問リハビリテーション指導管理料の算定がある施設の割合【診療所】(n=412)



(注) 算定人数または算定回数について1人または1単位以上の回答があったもの。

在宅患者訪問リハビリテーション指導管理料の算定人数をみると、平成23年7月では平均12.6人（標準偏差47.3、中央値4.0）、平成25年7月では平均9.1人（標準偏差17.1、中央値3.0）であった。

図表 109 在宅患者訪問リハビリテーション指導管理料の算定人数【診療所】

(単位：人)

	件数	平均値	標準偏差	中央値
平成23年7月	41	12.6	47.3	4.0
平成25年7月	55	9.1	17.1	3.0

(注) 算定人数1人以上あった対象について集計した。

在宅患者訪問リハビリテーション指導管理料の算定回数をみると、平成23年7月では平均83.7回（標準偏差168.1、中央値28.0）、平成25年7月では平均64.5回（標準偏差88.6、中央値31.5）であった。

図表 110 在宅患者訪問リハビリテーション指導管理料の算定回数【診療所】

(単位：回)

	件数	平均値	標準偏差	中央値
平成23年7月	41	83.7	168.1	28.0
平成25年7月	52	64.5	88.6	31.5

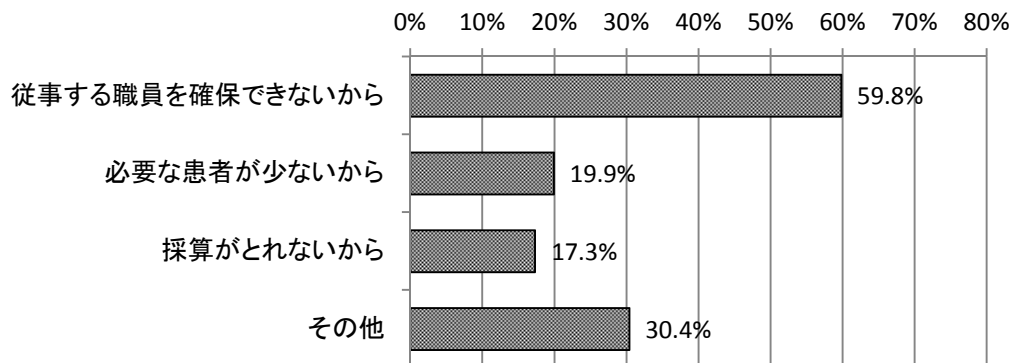
(注) 算定回数が1回以上あった対象について集計した。

2) 訪問リハビリテーションを実施していない理由

【病院】

「病院」において、訪問リハビリテーションを実施していない理由としては、「従事する職員を確保できないから」が 59.8%で最も多く、次いで「必要な患者が少ないから」(19.9%)、「採算がとれないから」(17.3%)であった。

図表 111 訪問リハビリテーションを実施していない理由（複数回答）【病院】(n=306)



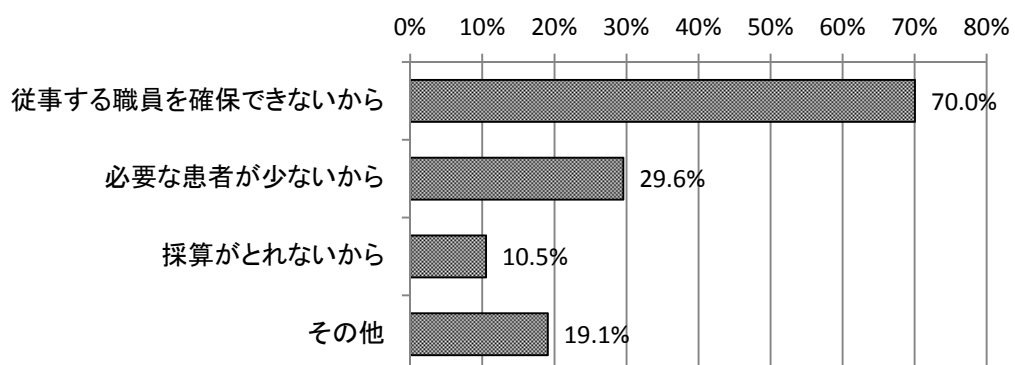
(注)・本設問について、回答があった 306 件における割合を表示した。

- ・「その他」の内容として、「併設の訪問看護ステーションが実施している」、「同法人内に訪問看護事業所を持ち、リハビリテーションが提供されている」、「介護保険での訪問リハビリテーションを実施している」、「急性期病院である」、「機能分化の考え方に沿っている」等が挙げられた。

【診療所】

「診療所」において、訪問リハビリテーションを実施していない理由としては、「従事する職員を確保できないから」が 70.0%で最も多く、次いで「必要な患者が少ないから」(29.6%)、「採算がとれないから」(10.5%)であった。

図表 112 訪問リハビリテーションを実施していない理由（複数回答）【診療所】(n=257)



(注)・本設問について、回答があった 257 件における割合を表示した。

- ・「その他」の内容として、「同法人内の他事業所で実施している」、「介護保険での訪問リハビリテーションを実施している」等が挙げられた。

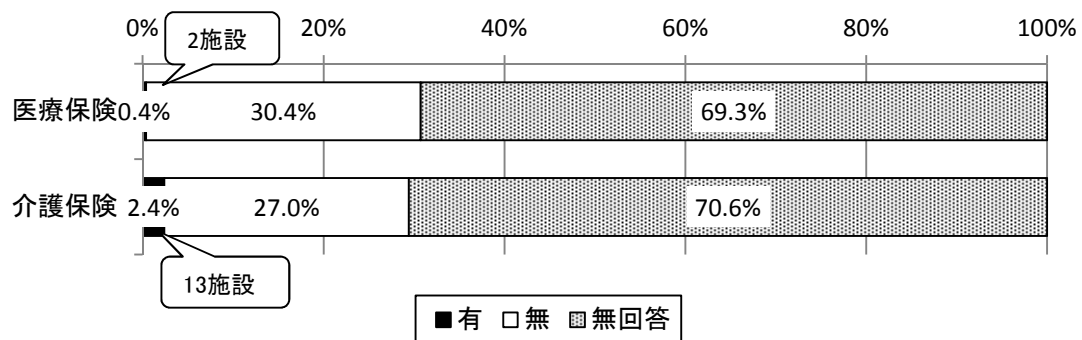
3) 一時的・集中的なりハビリテーション

a 一時的・集中的なりハビリテーションの実施の有無

【病院】

「病院」において、一時的・集中的なりハビリテーションの実施の有無を尋ねたところ、「医療保険」では「有」が0.4%（2施設）、「無」が30.4%であった。「介護保険」では「有」が2.4%（13施設）、「無」が27.0%であった。

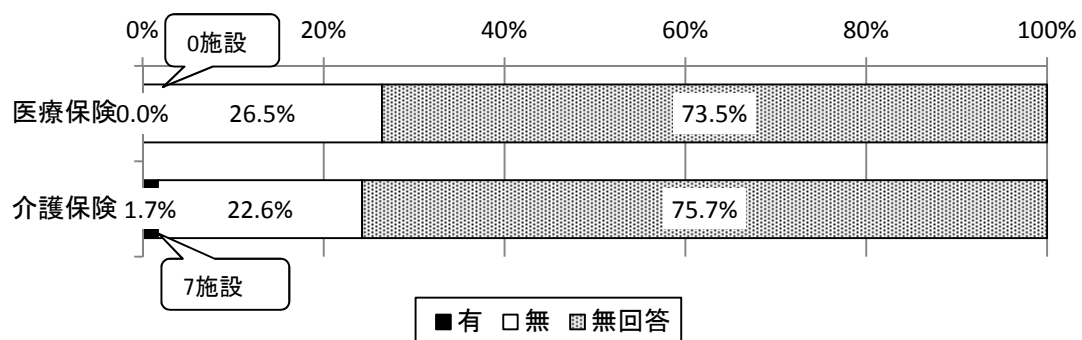
図表 113 一時的・集中的なりハビリテーションの実施の有無【病院】(n=540)



【診療所】

「診療所」において、一時的・集中的なりハビリテーションの実施の有無を尋ねたところ、「医療保険」では「有」が0.0%（0施設）、「無」が26.5%であった。「介護保険」では「有」が1.7%（7施設）、「無」が22.6%であった。

図表 114 一時的・集中的なりハビリテーションの実施の有無【診療所】(n=412)



b 一時的・集中的なリハビリテーションの実施患者数、ADL が戻った人数

【病院】

「病院」における一時的・集中的なリハビリテーションの実施患者数、ADL が戻った人数についてみると、「医療保険」での「集中的な訪問リハ実施患者」の合計値は3人で、このうち3人が「ADL が戻った患者」であった。「介護保険」での「集中的な訪問リハ実施患者」は36人で、このうち77.8%の28人が「ADL が戻った患者」であった。

図表 115 一時的・集中的なリハビリテーション実施患者数、ADL が戻った人数【病院】

(単位：人)

	件数	合計値	全体に対する比率	平均値	標準偏差	中央値
医療保険：集中的な訪問リハ実施患者	2	3		1.5	0.7	1.5
うち、ADL が戻った患者	2	3	100.0%	1.5	0.7	1.5
介護保険：集中的な訪問リハ実施患者	11	36		3.3	4.7	1.0
うち、ADL が戻った患者	11	28	77.8%	2.5	4.8	1.0

(注)「ADL が戻った患者」とは、平成 25 年 4 月～7 月の 4 か月間に、急性増悪等のため一時的に集中的な訪問リハビリテーションを実施した患者のうち、急性増悪等前の ADL に戻った患者を指す (以下、同様)。

【診療所】

「診療所」における一時的・集中的なリハビリテーションの実施患者数、ADL が戻った人数についてみると、「介護保険」での「集中的な訪問リハ実施患者」は12人で、このうち66.7%の8人が「ADL が戻った患者」であった。

図表 116 一時的・集中的なリハビリテーション実施患者数、ADL が戻った人数【診療所】

(単位：人)

	件数	合計値	全体に対する比率	平均値	標準偏差	中央値
介護保険：集中的な訪問リハ実施患者	7	12		1.7	0.8	2.0
うち、ADL が戻った患者	7	8	66.7%	1.1	0.9	1.0

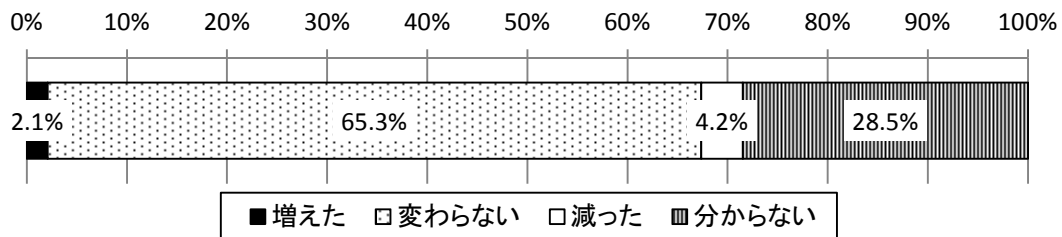
c 2年前に比べ、一時的・集中的なりハビリテーションの実施が増えたか

【病院】

「病院」において、2年前に比べ、一時的・集中的なりハビリテーションの実施が増えたかを尋ねたところ、「増えた」が2.1%、「変わらない」が65.3%、「減った」が4.2%であった。

図表 117 2年前に比べ、一時的・集中的なりハビリテーションの実施が増えたか【病院】

(n=144)



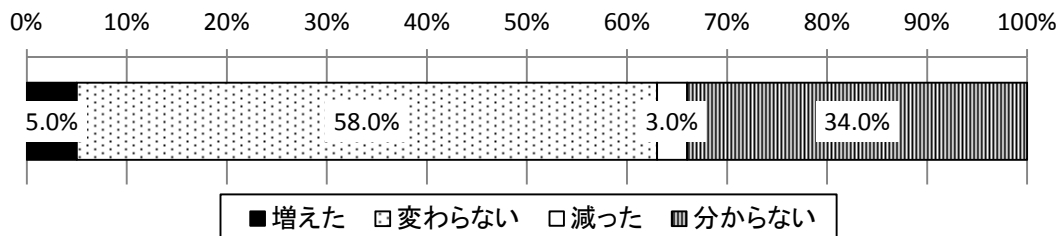
(注) 本設問について、回答があった144件における割合を表示した。

【診療所】

「診療所」において、2年前に比べ、一時的・集中的なりハビリテーションの実施が増えたかを尋ねたところ、「増えた」が5.0%、「変わらない」が58.0%、「減った」が3.0%であった。

図表 118 2年前に比べ、一時的・集中的なりハビリテーションの実施が増えたか【診療所】

(n=100)



(注) 本設問について、回答があった100件における割合を表示した。

⑤ 通所リハビリテーション

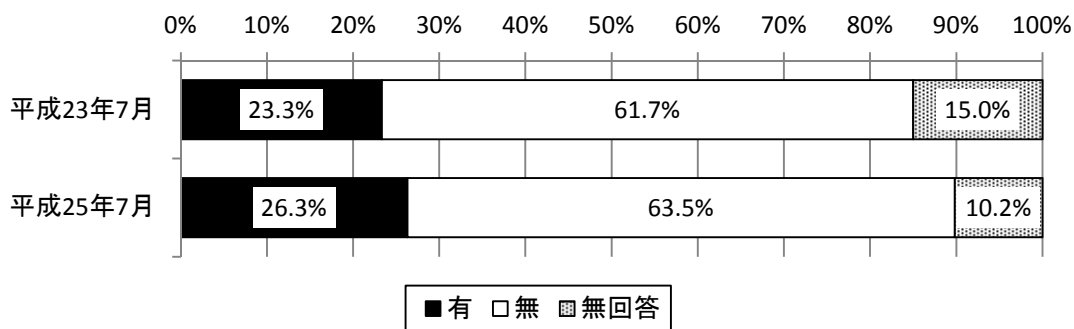
1) 通所リハビリテーションの実施の有無、算定人数、算定回数

a 通所リハビリテーションの実施の有無

【病院】

「病院」における通所リハビリテーションの実施の有無についてみると、平成23年7月では「有」が23.3%、「無」が61.7%であった。平成25年7月では「有」が26.3%、「無」が63.5%であった。

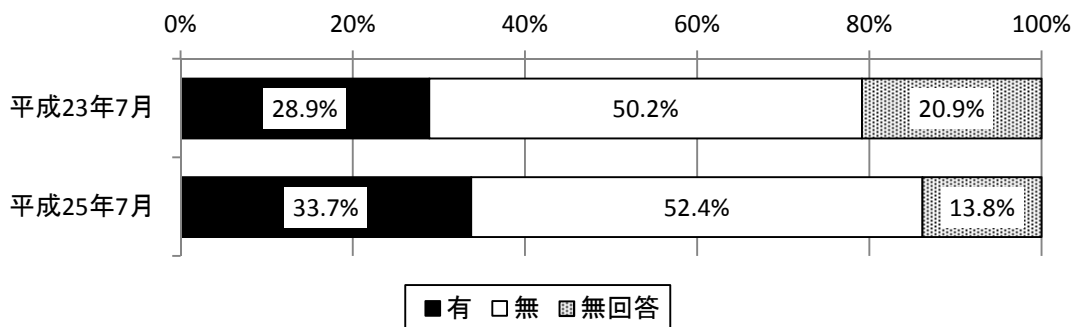
図表 119 通所リハビリテーションの実施の有無【病院】(n=540)



【診療所】

「診療所」における通所リハビリテーションの実施の有無についてみると、平成23年7月では「有」が28.9%、「無」が50.2%であった。平成25年7月では「有」が33.7%、「無」が52.4%であった。

図表 120 通所リハビリテーションの実施の有無【診療所】(n=412)



b 通所リハビリテーションの実施日数・利用者延べ数

【病院】

「病院」における通所リハビリテーションの実施日数をみると、平成 23 年 7 月は平均 23.1 日（標準偏差 4.0、中央値 25.0）、平成 25 年 7 月は平均 24.1 日（標準偏差 4.1、中央値 26.0）であった。利用者延べ数をみると、平成 23 年 7 月は平均 612.9 人（標準偏差 361.1、中央値 566.5）、平成 25 年 7 月は平均 665.7 人（標準偏差 446.2、中央値 602.0）であった。

図表 121 通所リハビリテーションの実施日数・利用者延べ数【病院】

	平成 23 年 7 月				平成 25 年 7 月			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
実施日数(日)	120	23.1	4.0	25.0	136	24.1	4.1	26.0
利用者延べ数(人)	118	612.9	361.1	566.5	131	665.7	446.2	602.0
（再掲）1時間以上2時間未満の利用者延べ数(人)	110	52.4	160.6	0.0	124	79.8	225.2	0.0
（再掲）1時間以上2時間未満の利用者延べ数(人) (0 人を除く)	34	169.5	254.3	47.0	57	173.5	307.9	60.0

【診療所】

「診療所」における通所リハビリテーションの実施日数をみると、平成 23 年 7 月は平均 27.1 日（標準偏差 35.7、中央値 25.0）、平成 25 年 7 月は平均 27.3 日（標準偏差 33.0、中央値 25.0）であった。利用者延べ数をみると、平成 23 年 7 月は平均 532.5 人（標準偏差 566.2、中央値 422.0）、平成 25 年 7 月は平均 525.2 人（標準偏差 464.2、中央値 393.5）であった。

図表 122 通所リハビリテーションの実施日数・利用者延べ数【診療所】

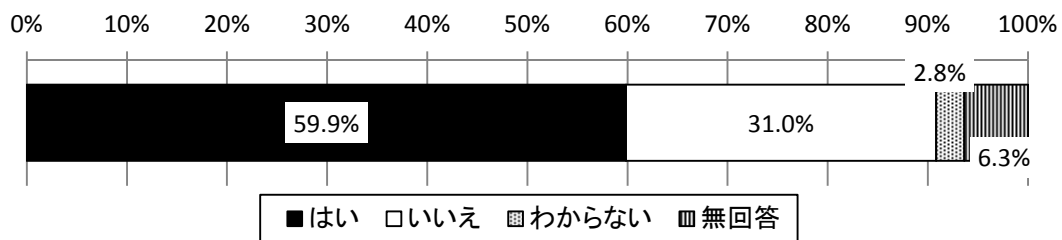
	平成 23 年 7 月				平成 25 年 7 月			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
実施日数(日)	106	27.1	35.7	25.0	129	27.3	33.0	25.0
利用者延べ数(人)	100	532.5	566.2	422.0	124	525.2	464.2	393.5
（再掲）1時間以上2時間未満の利用者延べ数(人)	95	22.3	55.4	0.0	114	37.6	95.4	0.0
（再掲）1時間以上2時間未満の利用者延べ数(人) (0 人を除く)	30	70.6	80.0	43.5	46	93.2	132.6	42.5

2) 通所リハビリテーションの指定はみなしかどうか

【病院】

「病院」に対して、通所リハビリテーションの指定はみなしかどうかを尋ねたところ、「はい」が59.9%、「いいえ」が31.0%であった。

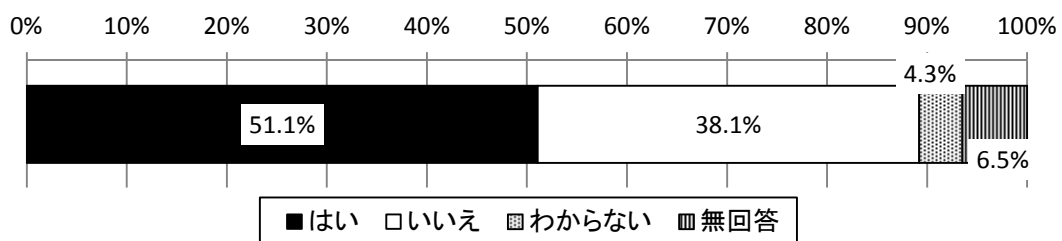
図表 123 通所リハビリテーションの指定はみなしかどうか【病院】(n=142)



【診療所】

「診療所」に対して、通所リハビリテーションの指定はみなしかどうかを尋ねたところ、「はい」が51.1%、「いいえ」が38.1%であった。

図表 124 通所リハビリテーションの指定はみなしかどうか【診療所】(n=139)



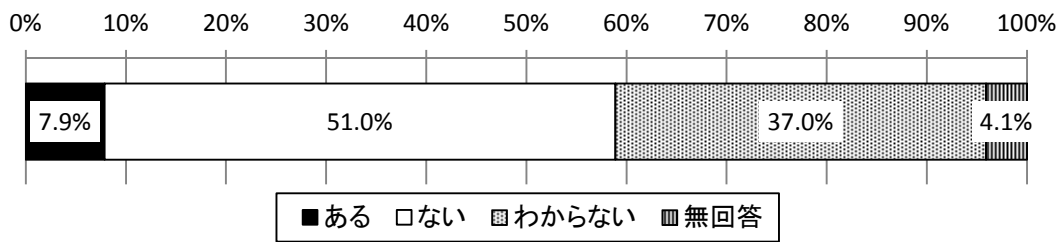
(通所リハビリテーションを実施していない場合)

3) 通所リハビリテーションの開設意向

【病院】

通所リハビリテーションを実施していない「病院」に対して、通所リハビリテーションの開設意向の有無を尋ねたところ、「ある」が7.9%、「ない」が51.0%であった。

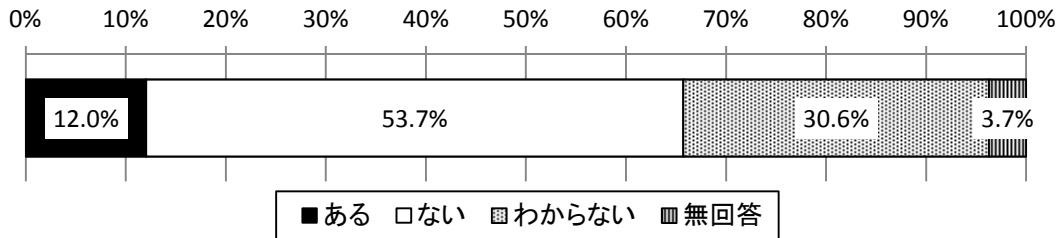
図表 125 通所リハビリテーションの開設意向の有無【病院】(n=343)



【診療所】

通所リハビリテーションを実施していない「診療所」に対して、通所リハビリテーションの開設意向の有無を尋ねたところ、「ある」が12.0%、「ない」が53.7%であった。

図表 126 通所リハビリテーションの開設意向の有無【診療所】(n=216)

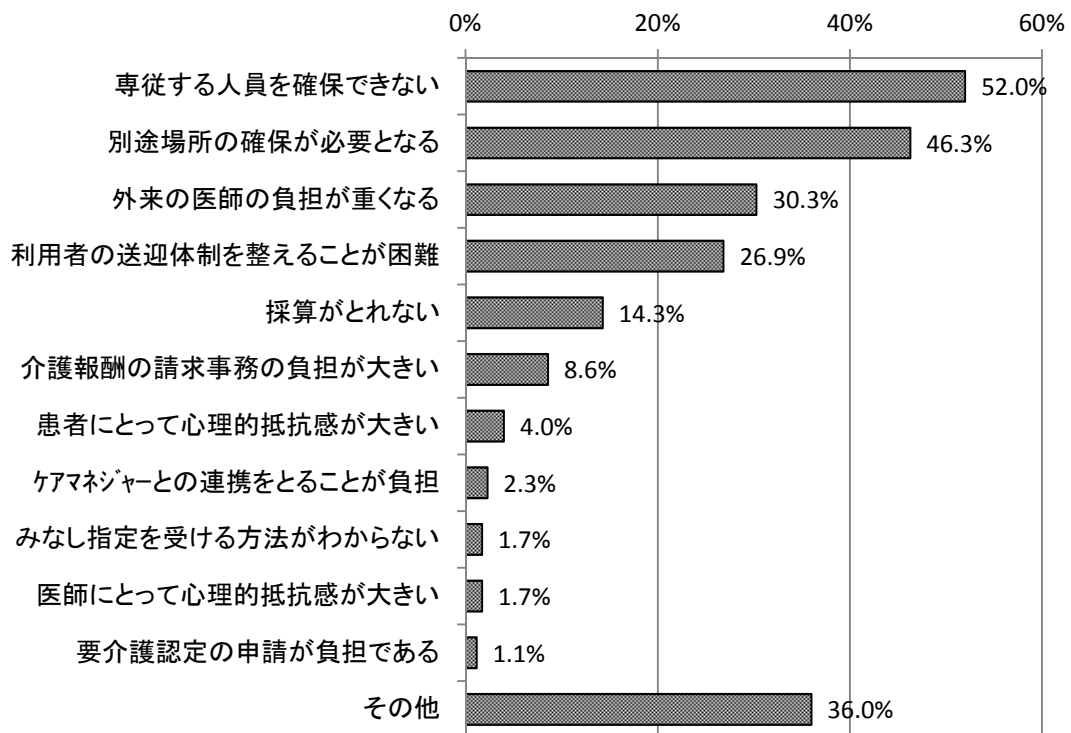


a 通所リハビリテーションの開設意向がない理由

【病院】

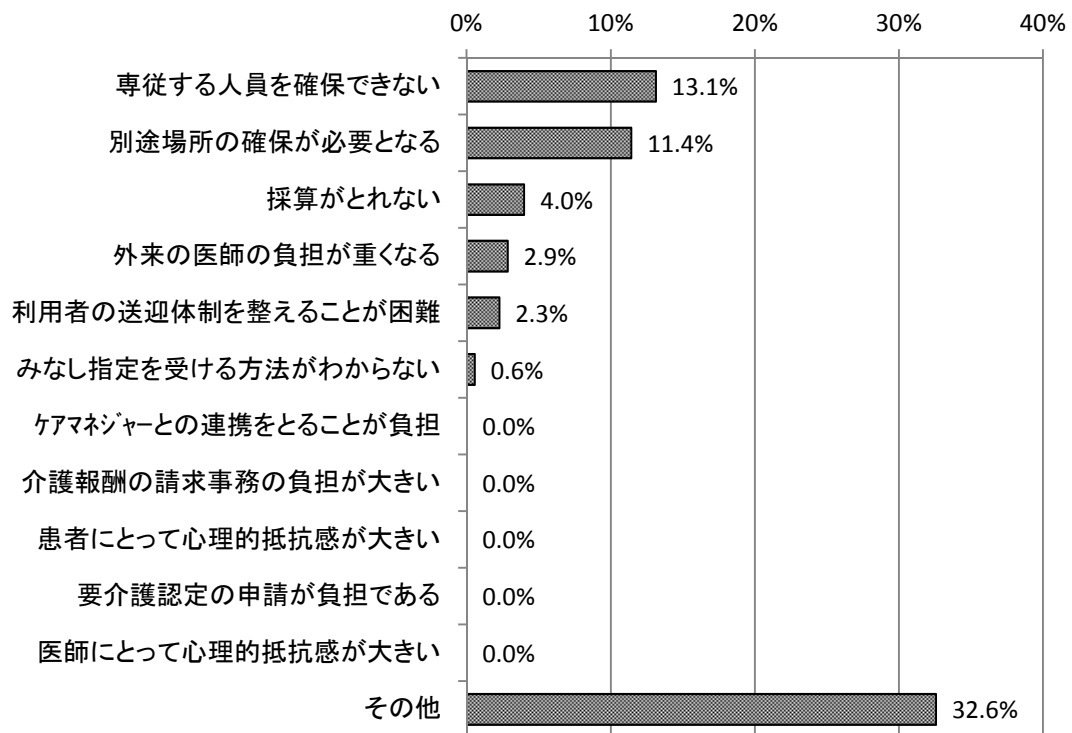
「病院」における通所リハビリテーションの開設意向がない理由としては、「専従する人員を確保できない」が 52.0%で最も多く、次いで「別途場所の確保が必要となる」(46.3%)、「外来の医師の負担が重くなる」(30.3%)であった。

図表 127 通所リハビリテーションの開設意向がない理由（複数回答）【病院】(n=175)



(注)「その他」の内容として、「法人グループ内にあるから」、「近くにあるから」、「当院は急性期病院であるため」、「当院の役割ではない」等が挙げられた。

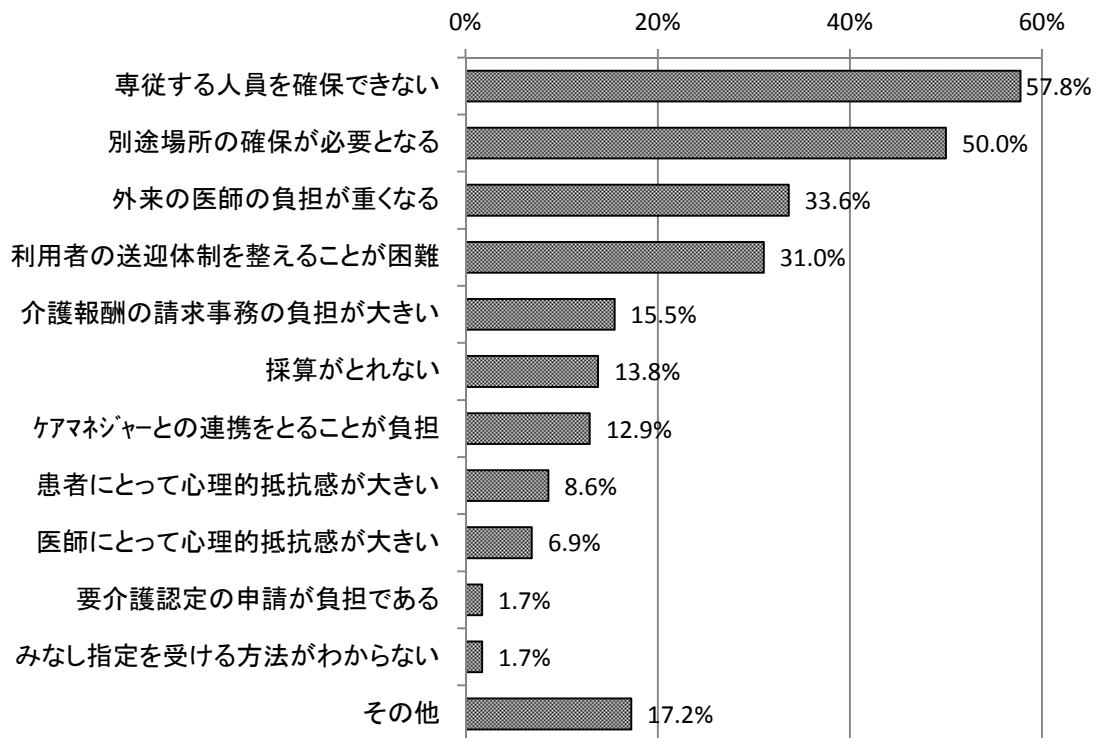
図表 128 通所リハビリテーションの開設意向がない理由（最も該当、単数回答）【病院】(n=175)



【診療所】

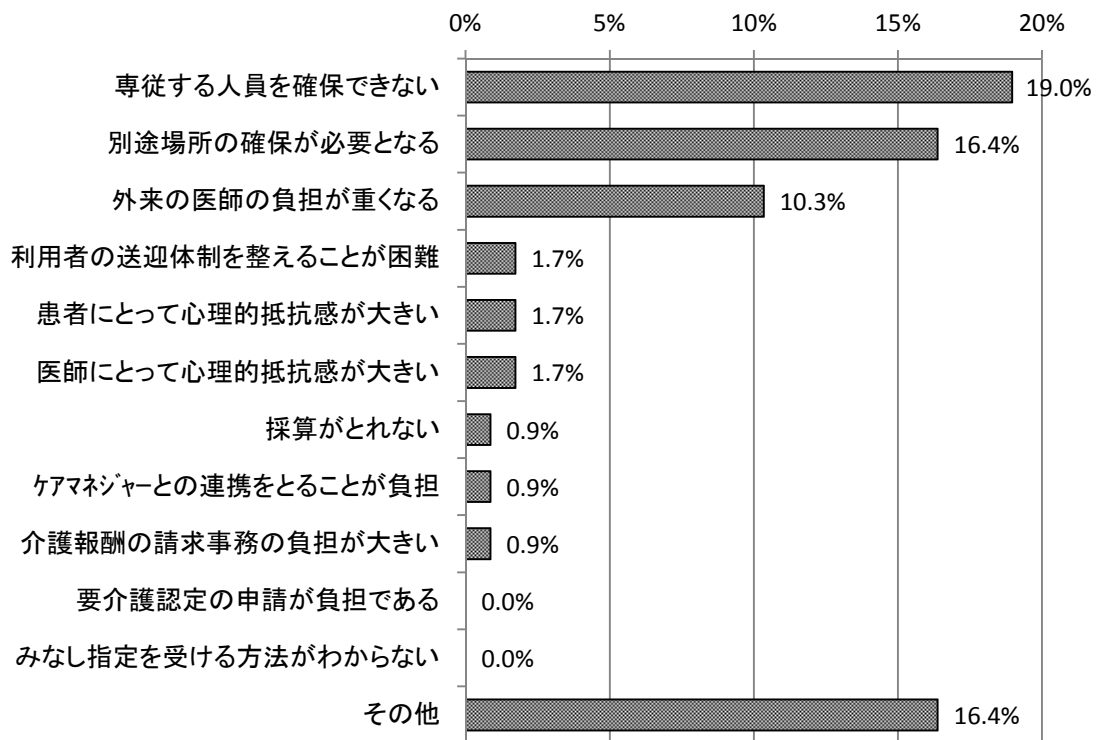
「診療所」における通所リハビリテーションの開設意向がない理由としては、「専従する人員を確保できない」が 57.8%で最も多く、次いで「別途場所の確保が必要となる」(50.0%)、「外来の医師の負担が重くなる」(33.6%)であった。

図表 129 通所リハビリテーションの開設意向がない理由（複数回答）【診療所】(n=116)



(注)「その他」の内容として、「法人グループ内にあるから」、「近くにあるから」、「言語療法のみ実施しているから」等が挙げられた。

図表 130 通所リハビリテーションの開設意向がない理由(最も該当、単数回答)【診療所】(n=116)



⑥ 本調査に関連した自由意見

本調査に関連して、自由に意見を尋ねたところ、以下の回答が得られた。

(病院)

- ・維持期のリハビリを全て介護サービスへ移行するのは現時点で困難な状況だと現場では感じている。
- ・当院の入院患者は超高齢者で、医療ニーズが高い。このため、介護保険への移行が困難なのではなく、退院（自体）が困難な状況である。
- ・制度に適合していなくても、リハビリを必要としたり、入院を必要とする人はいる。
- ・要介護者が医療保険のリハビリを受けられなくなると、リハビリを受ける機会が減り、寝たきりの患者が増えると思う。
- ・介護保険の適用外の「変形性膝関節症」や「脊椎間狭窄症」といった疾患の患者における月 13 単位のリハビリも査定を受けている状況である。これらの疾患は完治することがなく、むしろ年々悪化するもので、介護保険は該当せず、病院での治療も否定されるのはいかがなものか。

(診療所)

- ・医療のリハビリと一緒に通所リハビリもできるようにしてほしい。
- ・無床の診療所で外来リハビリテーションを行っているところでは、単一疾患で退院する高齢者は少ない。複数の症状が合わさって病態を形成しているため、単一の症状改善により、必ずしも動作改善に結びつくものではないと考えている。
- ・1人の患者に対して疾患は1つではない。
- ・医療が担うべきリハビリテーションの範囲の拡大を検討してほしい。
- ・介護保険では、専門的に、腰痛症や肩関節周囲炎、変形性膝関節症のリハビリが提供できないので、介護保険に移行できない。
- ・重度の整形疾患の患者は長期間のリハビリテーションが必要となる。
- ・手術適応の患者でも別の原因で手術ができない場合は、歩行能力などの ADL を維持していくためにリハビリが必要だと思う。

(3) 回復期リハビリテーション病棟調査の概要

【調査対象等】

< 病院調査 >

調査対象：病院調査の対象病院のうち、「回復期リハビリテーション病棟入院料」を算定している病院の回復期リハビリテーション病棟を対象とした。回復期リハビリテーション1、2、3のそれぞれについて、複数病棟を有する場合は、そのうち無作為に1病棟を抽出した。

回答数：202件

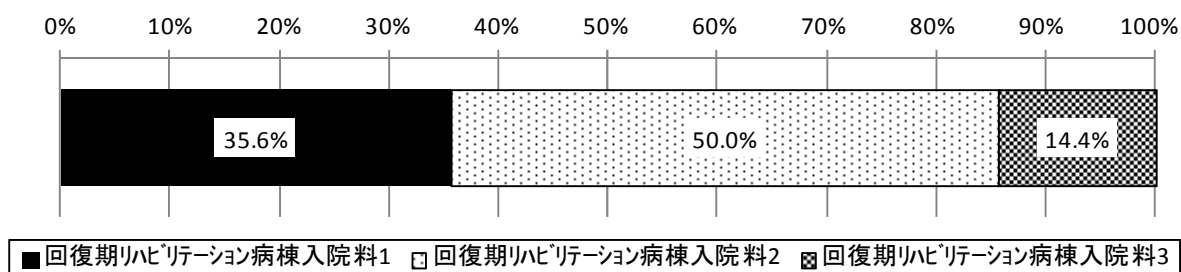
回答者：当該病棟の病棟責任者

① 病棟の概要

1) 算定診療報酬（平成25年7月末時点）

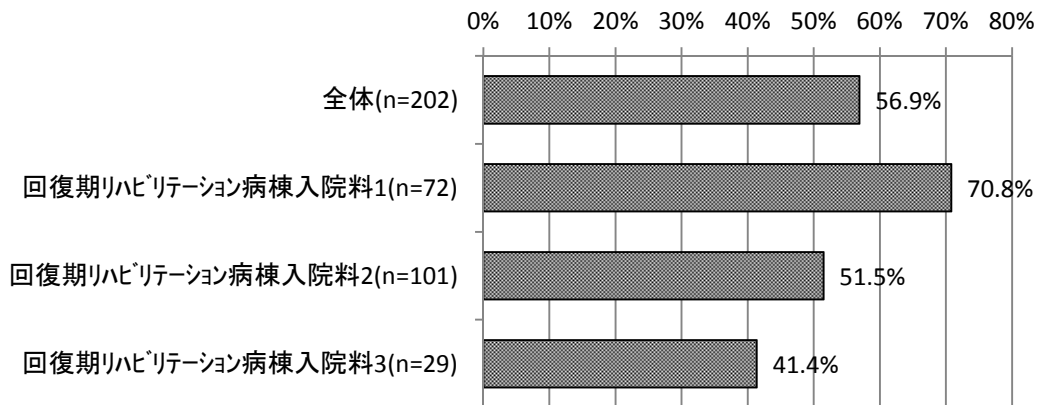
算定診療報酬についてみると、「回復期リハビリテーション病棟入院料2」が50.0%と最も多く、次いで「回復期リハビリテーション病棟入院料1」（35.6%）、「回復期リハビリテーション病棟入院料3」（14.4%）であった。

図表 131 算定診療報酬 (n=202)



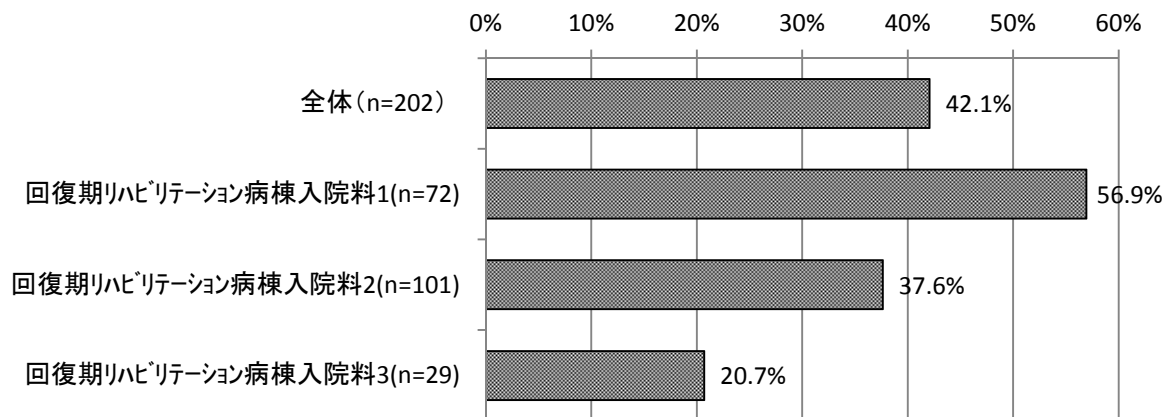
休日リハビリテーション提供体制加算のある施設の割合をみると、「全体」では 56.9%、「回復期リハビリテーション病棟入院料 1」では 70.8%、「回復期リハビリテーション病棟入院料 2」では 51.5%、「回復期リハビリテーション病棟入院料 3」では 41.4%であった。

図表 132 休日リハビリテーション提供体制加算のある施設の割合



リハビリテーション充実加算のある施設の割合をみると、「全体」では 42.1%、「回復期リハビリテーション病棟入院料 1」では 56.9%、「回復期リハビリテーション病棟入院料 2」では 37.6%、「回復期リハビリテーション病棟入院料 3」では 20.7%であった。

図表 133 リハビリテーション充実加算のある施設の割合



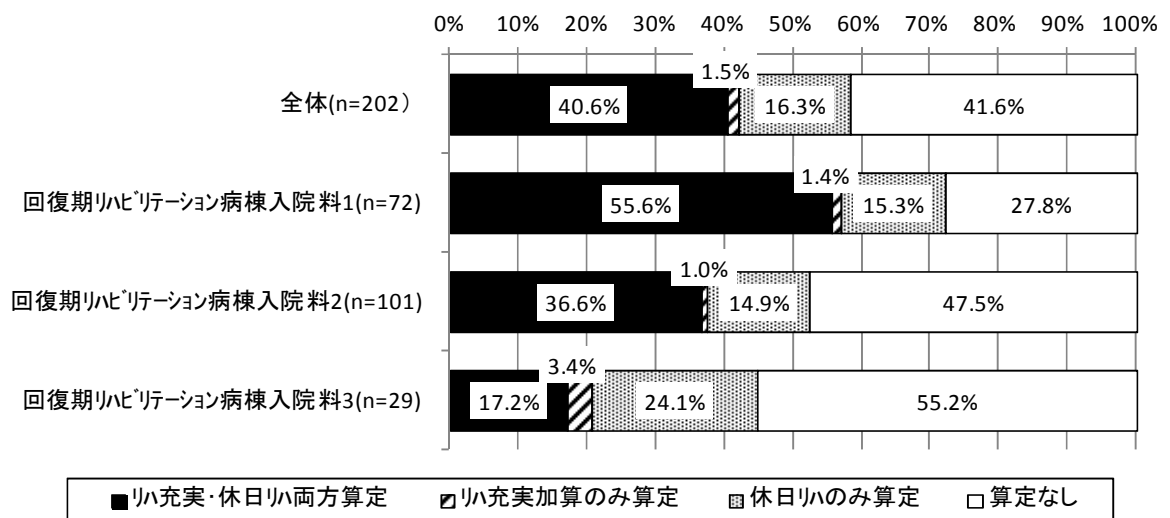
休日リハビリテーション提供体制加算・リハビリテーション充実加算のある施設の割合は、「全体」では「リハ充実・休日リハ両方算定」が40.6%、「リハ充実加算のみ算定」が1.5%、「休日リハのみ算定」が16.3%であった。

「回復期リハビリテーション病棟入院料 1」についてみると、「リハ充実・休日リハ両方算定」が55.6%、「リハ充実加算のみ算定」が1.4%、「休日リハのみ算定」が15.3%であった。

「回復期リハビリテーション病棟入院料 2」についてみると、「リハ充実・休日リハ両方算定」が36.6%、「リハ充実加算のみ算定」が1.0%、「休日リハのみ算定」が14.9%であった。

「回復期リハビリテーション病棟入院料 3」についてみると、「リハ充実・休日リハ両方算定」が17.2%、「リハ充実加算のみ算定」が3.4%、「休日リハのみ算定」が24.1%であった。

図表 134 休日リハビリテーション提供体制加算・リハビリテーション充実加算のある施設の割合



2) 病床数（平成 25 年 7 月末時点）

病床数についてみると、「全体」では平均 44.0 床（標準偏差 10.6、中央値 45.0）であった。「回復期リハビリテーション病棟入院料 1」では平均 48.8 床（標準偏差 7.2、中央値 49.0）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 2」では平均 42.4 床（標準偏差 11.2、中央値 42.0）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 3」では平均 38.6 床（標準偏差 10.8、中央値 41.0）であった。

図表 135 病床数

（単位：床）

	件数	平均値	標準偏差	中央値
全体	187	44.0	10.6	45.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	63	48.8	7.2	49.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	96	42.4	11.2	42.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	28	38.6	10.8	41.0

3) 病床種別（平成 25 年 7 月末）

病床種別についてみると、「全体」では「一般病床」が 43.6%、「療養病床」が 49.5%であった。「回復期リハビリテーション病棟入院料 1」では「一般病床」が 38.9%、「療養病床」が 50.0%、「回復期リハビリテーション病棟入院料 2」では「一般病床」が 40.6%、「療養病床」が 54.5%、「回復期リハビリテーション病棟入院料 3」では「一般病床」が 65.5%、「療養病床」が 31.0%であった。

図表 136 病床種別（複数回答）

（単位：病棟）

	合計	一般病床	療養病床	不明
全体	202 100.0%	88 43.6%	100 49.5%	15 7.4%
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	72 100.0%	28 38.9%	36 50.0%	9 12.5%
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	101 100.0%	41 40.6%	55 54.5%	5 5.0%
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	29 100.0%	19 65.5%	9 31.0%	1 3.4%

4) 入院患者数等（平成 25 年 7 月）

入院患者数についてみると、「全体」では平均 37.3 人（標準偏差 10.7、中央値 38.0）であった。「回復期リハビリテーション病棟入院料 1」では平均 43.1 人（標準偏差 7.6、中央値 43.0）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 2」では平均 35.9 人（標準偏差 10.5、中央値 36.0）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 3」では平均 28.4 人（標準偏差 10.1、中央値 30.0）であった。

図表 137 入院患者数

（単位：人）

	件数	平均値	標準偏差	中央値
全体	178	37.3	10.7	38.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	61	43.1	7.6	43.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	91	35.9	10.5	36.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	26	28.4	10.1	30.0

回復期リハビリテーション病棟入院料の非適応患者数等についてみると、「全体」では平均 0.8 人（標準偏差 1.4、中央値 0.0）であった。「回復期リハビリテーション病棟入院料 1」では平均 1.2 人（標準偏差 1.8、中央値 0.0）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 2」では平均 0.6 人（標準偏差 1.1、中央値 0.0）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 3」では平均 0.8 人（標準偏差 1.3、中央値 0.0）であった。

図表 138 回復期リハビリテーション病棟入院料の非適応患者数等

（単位：人）

	件数	平均値	標準偏差	中央値
全体	164	0.8	1.4	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	58	1.2	1.8	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	82	0.6	1.1	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	24	0.8	1.3	0.0

回復期リハビリテーション病棟入院料の算定上限日数を超えた患者についてみると、「全体」では平均 0.3 人（標準偏差 0.9、中央値 0.0）であった。「回復期リハビリテーション病棟入院料 1」では平均 0.5 人（標準偏差 1.2、中央値 0.0）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 2」では平均 0.1 人（標準偏差 0.5、中央値 0.0）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 3」では平均 0.6 人（標準偏差 1.3、中央値 0.0）であった。

図表 139 回復期リハビリテーション病棟入院料の算定上限日数を超えた患者

(単位：人)

	件数	平均値	標準偏差	中央値
全体	165	0.3	0.9	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	58	0.5	1.2	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	83	0.1	0.5	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	24	0.6	1.3	0.0

回復期リハビリテーション病棟入院料の算定対象外疾患の患者についてみると、「全体」では平均 0.4 人（標準偏差 1.0、中央値 0.0）であった。「回復期リハビリテーション病棟入院料 1」では平均 0.6 人（標準偏差 1.2、中央値 0.0）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 2」では平均 0.4 人（標準偏差 1.0、中央値 0.0）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 3」では平均 0.1 人（標準偏差 0.3、中央値 0.0）であった。

図表 140 回復期リハビリテーション病棟入院料の算定対象外疾患の患者

(単位：人)

	件数	平均値	標準偏差	中央値
全体	165	0.4	1.0	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	58	0.6	1.2	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	83	0.4	1.0	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	24	0.1	0.3	0.0

5) 新入棟患者数等

平成 25 年の新入棟患者数についてみると、「全体」では平均 17.5 人（標準偏差 8.2、中央値 17.0）であった。「回復期リハビリテーション病棟入院料 1」では平均 18.5 人（標準偏差 6.9、中央値 18.0）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 2」では平均 17.2 人（標準偏差 8.5、中央値 16.0）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 3」では平均 16.4 人（標準偏差 9.7、中央値 14.0）であった。

図表 141 新入棟患者数（各年 7 月 1 か月）

（単位：人）

	平成 23 年				平成 25 年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
全体	167	17.5	8.5	16.0	191	17.5	8.2	17.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	64	18.4	8.4	18.0	65	18.5	6.9	18.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	89	16.2	7.9	15.0	98	17.2	8.5	16.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	14	21.2	11.1	20.5	28	16.4	9.7	14.0

6) 退棟患者数等

平成 25 年の退棟患者数についてみると、「全体」では平均 17.3 人（標準偏差 7.6、中央値 16.0）であった。「回復期リハビリテーション病棟入院料 1」では平均 18.6 人（標準偏差 6.3、中央値 18.0）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 2」では平均 16.6 人（標準偏差 8.1、中央値 15.0）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 3」では平均 16.6 人（標準偏差 8.5、中央値 15.0）であった。

図表 142 退棟患者数（各年 7 月 1 か月）

（単位：人）

	平成 23 年				平成 25 年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
全体	167	17.3	9.0	16.0	191	17.3	7.6	16.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	64	18.1	8.7	16.0	65	18.6	6.3	18.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	89	16.2	8.6	15.0	98	16.6	8.1	15.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	14	21.1	12.2	23.0	28	16.6	8.5	15.0

7) 在棟患者延べ数

平成 25 年の在棟患者延べ数についてみると、「全体」では平均 1,187.2 人（標準偏差 371.8、中央値 1,177.0）であった。「回復期リハビリテーション病棟入院料 1」では平均 1,381.9 人（標準偏差 277.6、中央値 1,394.0）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 2」では平均 1,124.5 人（標準偏差 326.0、中央値 1,113.0）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 3」では平均 945.7 人（標準偏差 498.4、中央値 916.0）であった。

図表 143 在棟患者延べ数（各年 7 月 1 か月）

（単位：人）

	平成 23 年				平成 25 年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
全体	163	1,209.8	357.8	1,205.0	190	1,187.2	371.8	1,177.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	62	1,334.5	255.8	1,385.5	65	1,381.9	277.6	1,394.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	88	1,139.3	323.9	1,148.5	98	1,124.5	326.0	1,113.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	13	1,093.0	709.5	1,049.0	27	945.7	498.4	916.0

8) 平均在棟日数

平成 25 年の平均在棟日数についてみると、「全体」では平均 75.4 日（標準偏差 28.2、中央値 72.0）であった。「回復期リハビリテーション病棟入院料 1」では平均 81.2 日（標準偏差 27.1、中央値 73.6）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 2」では平均 73.7 日（標準偏差 24.1、中央値 73.1）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 3」では平均 67.5 日（標準偏差 40.6、中央値 61.1）であった。

図表 144 平均在棟日数（計算値、各年 7 月）

（単位：日）

	平成 23 年				平成 25 年			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
全体	162	81.2	34.0	74.4	189	75.4	28.2	72.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	62	83.8	32.1	79.2	65	81.2	27.1	73.6
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	87	81.2	32.5	73.2	97	73.7	24.1	73.1
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	13	69.0	50.1	51.0	27	67.5	40.6	61.1

平成 25 年 7 月のカテゴリーデータでみると、「全体」では「30 日以上～60 日未満」が 23.3%で、「回復期リハビリテーション病棟入院料 1」では「70 日以上～80 日未満」、「80 日以上～100 日未満」がともに 19.4%で最も多かった。「回復期リハビリテーション病棟入院料 2」では「70 日以上～80 日未満」が 24.8%で最も多かった。「回復期リハビリテーション病棟入院料 3」では「30 日以上～60 日未満」が 34.5%で最も多かった。

図表 145 平均在棟日数（計算値、カテゴリーデータ）（平成 23 年 7 月）

（単位：病棟）

	合計	30 日未満	30 日以上～60 日未満	60 日以上～70 日未満	70 日以上～80 日未満	80 日以上～100 日未満	100 日以上	無回答
全体	202 100.0%	3 1.5%	40 19.8%	27 13.4%	23 11.4%	35 17.3%	34 16.8%	40 19.8%
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	72 100.0%	1 1.4%	13 18.1%	7 9.7%	11 15.3%	14 19.4%	16 22.2%	10 13.9%
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	101 100.0%	1 1.0%	20 19.8%	18 17.8%	12 11.9%	20 19.8%	16 15.8%	14 13.9%
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	29 100.0%	1 3.4%	7 24.1%	2 6.9%	0 0.0%	1 3.4%	2 6.9%	16 55.2%

図表 146 平均在棟日数（計算値、カテゴリーデータ）（平成 25 年 7 月）

（単位：病棟）

	合計	30 日未満	30 日以上～60 日未満	60 日以上～70 日未満	70 日以上～80 日未満	80 日以上～100 日未満	100 日以上	無回答
全体	202 100.0%	6 3.0%	47 23.3%	33 16.3%	42 20.8%	34 16.8%	27 13.4%	13 6.4%
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	72 100.0%	0 0.0%	13 18.1%	11 15.3%	14 19.4%	14 19.4%	13 18.1%	7 9.7%
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	101 100.0%	3 3.0%	24 23.8%	16 15.8%	25 24.8%	16 15.8%	13 12.9%	4 4.0%
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	29 100.0%	3 10.3%	10 34.5%	6 20.7%	3 10.3%	4 13.8%	1 3.4%	2 6.9%

② 職員配置等

1) 医師の配置

「医師」の配置についてみると、「全体」では「専従」が平均 0.5 人（標準偏差 0.8、中央値 0.0）、「専任」（実人数）が平均 2.4 人（標準偏差 2.0、中央値 2.0）であった。「回復期リハビリテーション病棟入院料 1」で「専従」が平均 0.6 人（標準偏差 0.9、中央値 0.0）、「専任」（実人数）が平均 2.7 人（標準偏差 2.0、中央値 2.0）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 2」では「専従」が平均 0.4 人（標準偏差 0.7、中央値 0.0）、「専任」（実人数）が平均 2.3 人（標準偏差 1.9、中央値 2.0）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 3」では「専従」が平均 0.4 人（標準偏差 0.5、中央値 0.0）、「専任」（実人数）が平均 2.1 人（標準偏差 2.3、中央値 1.0）であった。

「リハビリテーション科医師」の配置についてみると、「全体」では「専従」が平均 0.4 人（標準偏差 0.7、中央値 0.0）、「専任」（実人数）が平均 1.1 人（標準偏差 1.6、中央値 1.0）であった。「回復期リハビリテーション病棟入院料 1」で「専従」が平均 0.4 人（標準偏差 0.8、中央値 0.0）、「専任」（実人数）が平均 1.3 人（標準偏差 1.6、中央値 1.0）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 2」では「専従」が平均 0.3 人（標準偏差 0.7、中央値 0.0）、「専任」（実人数）が平均 1.0 人（標準偏差 1.5、中央値 1.0）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 3」では「専従」が平均 0.4 人（標準偏差 0.5、中央値 0.0）、「専任」（実人数）が平均 1.2 人（標準偏差 1.8、中央値 1.0）であった。

「日本リハビリテーション医学会認定臨床医」の配置についてみると、「全体」では「専従」が平均 0.1 人（標準偏差 0.4、中央値 0.0）、「専任」（実人数）が平均 0.3 人（標準偏差 0.6、中央値 0.0）であった。「回復期リハビリテーション病棟入院料 1」で「専従」が平均 0.2 人（標準偏差 0.5、中央値 0.0）、「専任」（実人数）が平均 0.3 人（標準偏差 0.7、中央値 0.0）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 2」では「専従」が平均 0.1 人（標準偏差 0.4、中央値 0.0）、「専任」（実人数）が平均 0.2 人（標準偏差 0.5、中央値 0.0）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 3」では「専従」が平均 0.1 人（標準偏差 0.3、中央値 0.0）、「専任」（実人数）が平均 0.2 人（標準偏差 0.5、中央値 0.0）であった。

「リハビリテーション科専門医」の配置についてみると、「全体」では「専従」が平均 0.2 人（標準偏差 0.5、中央値 0.0）、「専任」（実人数）が平均 0.4 人（標準偏差 1.0、中央値 0.0）であった。「回復期リハビリテーション病棟入院料 1」で「専従」が平均 0.2 人（標準偏差 0.6、中央値 0.0）、「専任」（実人数）が平均 0.5 人（標準偏差 1.4、中央値 0.0）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 2」では「専従」が平均 0.1 人（標準偏差 0.3、中央値 0.0）、「専任」（実人数）が平均 0.3 人（標準偏差 0.6、中央値 0.0）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 3」では「専従」が平均 0.1 人（標準偏差 0.3、中央値 0.0）、「専任」（実人数）が平均 0.3 人（標準偏差 0.7、中央値 0.0）であった。

図表 147 医師の配置

(単位：人)

	【専従】				【専任:実人数】			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
医師								
全体	103	0.5	0.8	0.0	162	2.4	2.0	2.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	42	0.6	0.9	0.0	54	2.7	2.0	2.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	47	0.4	0.7	0.0	83	2.3	1.9	2.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	14	0.4	0.5	0.0	25	2.1	2.3	1.0
リハビリテーション科医師								
全体	111	0.4	0.7	0.0	181	1.1	1.6	1.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	45	0.4	0.8	0.0	61	1.3	1.6	1.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	50	0.3	0.7	0.0	94	1.0	1.5	1.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	16	0.4	0.5	0.0	26	1.2	1.8	1.0
日本リハビリテーション医学会認定臨床医								
全体	111	0.1	0.4	0.0	181	0.3	0.6	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	45	0.2	0.5	0.0	61	0.3	0.7	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	50	0.1	0.4	0.0	94	0.2	0.5	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	16	0.1	0.3	0.0	26	0.2	0.5	0.0
リハビリテーション科専門医								
全体	111	0.2	0.5	0.0	181	0.4	1.0	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	45	0.2	0.6	0.0	61	0.5	1.4	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	50	0.1	0.3	0.0	94	0.3	0.6	0.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	16	0.1	0.3	0.0	26	0.3	0.7	0.0

2) 看護師、理学療法士等の配置

「看護師」の配置についてみると、「全体」では「専従」が平均 13.5 人（標準偏差 5.6、中央値 14.0）、「専任」（常勤換算数）が平均 1.7 人（標準偏差 4.0、中央値 0.0）であった。「回復期リハビリテーション病棟入院料 1」で「専従」が平均 16.7 人（標準偏差 5.3、中央値 16.0）、「専任」（常勤換算数）が平均 1.9 人（標準偏差 4.9、中央値 0.0）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 2」では「専従」が平均 12.1 人（標準偏差 4.9、中央値 12.0）、「専任」（常勤換算数）が平均 1.9 人（標準偏差 3.7、中央値 0.0）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 3」では「専従」が平均 10.8 人（標準偏差 5.1、中央値 10.0）、「専任」（常勤換算数）が平均 0.8 人（標準偏差 2.0、中央値 0.0）であった。

「准看護師」の配置についてみると、「全体」では「専従」が平均 3.4 人（標準偏差 2.5、中央値 3.0）、「専任」（常勤換算数）が平均 0.6 人（標準偏差 1.3、中央値 0.0）であった。「回復期リハビリテーション病棟入院料 1」で「専従」が平均 3.2 人（標準偏差 2.4、中央値 3.0）、「専任」（常勤換算数）が平均 0.4 人（標準偏差 0.8、中央値 0.0）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 2」では「専従」が平均 3.5 人（標準偏差 2.7、中央値 3.0）、「専任」（常勤換算数）が平均 0.8 人（標準偏差 1.6、中央値 0.0）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 3」では「専従」が平均 3.0 人（標準偏差 2.1、中央値 2.6）、「専任」（常勤換算数）が平均 0.4 人（標準偏差 1.4、中央値 0.0）であった。

「看護補助者」の配置についてみると、「全体」では「専従」が平均 9.0 人（標準偏差 3.8、中央値 9.0）、「専任」（常勤換算数）が平均 1.3 人（標準偏差 2.7、中央値 0.0）であった。「回復期リハビリテーション病棟入院料 1」で「専従」が平均 9.6 人（標準偏差 4.5、中央値 9.0）、「専任」（常勤換算数）が平均 1.3 人（標準偏差 3.0、中央値 0.0）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 2」では「専従」が平均 9.0 人（標準偏差 3.3、中央値 8.8）、「専任」（常勤換算数）が平均 1.4 人（標準偏差 2.5、中央値 0.0）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 3」では「専従」が平均 7.2 人（標準偏差 2.5、中央値 7.0）、「専任」（常勤換算数）が平均 1.0 人（標準偏差 2.6、中央値 0.0）であった。

「理学療法士」についてみると、「全体」では「専従」が平均 5.6 人（標準偏差 5.1、中央値 4.0）、「専任」（常勤換算数）が平均 6.1 人（標準偏差 6.4、中央値 5.0）であった。「回復期リハビリテーション病棟入院料 1」で「専従」が平均 7.2 人（標準偏差 5.8、中央値 4.5）、「専任」（常勤換算数）が平均 7.7 人（標準偏差 7.6、中央値 7.0）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 2」では「専従」が平均 5.2 人（標準偏差 4.7、中央値 3.0）、「専任」（常勤換算数）が平均 5.8 人（標準偏差 5.8、中央値 5.0）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 3」では「専従」が平均 3.4 人（標準偏差 2.8、中央値 2.0）、「専任」（常勤換算数）が平均 3.8 人（標準偏差 3.8、中央値 4.0）であった。

「作業療法士」の配置についてみると、「全体」では「専従」が平均 3.5 人（標準偏差 3.5、中央値 2.0）、「専任」（常勤換算数）が平均 3.9 人（標準偏差 4.2、中央値 3.0）であった。「回復期リハビリテーション病棟入院料 1」で「専従」が平均 4.7 人（標準偏差 4.1、中央値 3.0）、「専任」（常勤換算数）が平均 5.0 人（標準偏差 5.3、中央値 3.8）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 2」では「専従」が平均 3.2 人（標準偏差 3.1、中央値 2.0）、「専任」（常勤換算数）が平均 3.6 人（標準偏差 3.5、中央値 3.0）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 3」では「専従」が平均 1.9 人（標

標準偏差 1.8、中央値 1.0)、「専任」(常勤換算数)が平均 2.1 人(標準偏差 2.7、中央値 1.0)であった。

「言語聴覚士」の配置についてみると、「全体」では「専従」が平均 1.2 人(標準偏差 1.7、中央値 1.0)、「専任」(常勤換算数)が平均 2.0 人(標準偏差 2.2、中央値 1.9)であった。「回復期リハビリテーション病棟入院料 1」で「専従」が平均 1.8 人(標準偏差 1.8、中央値 1.0)、「専任」(常勤換算数)が平均 2.3 人(標準偏差 3.1、中央値 1.9)、「回復期リハビリテーション病棟入院料 2」では「専従」が平均 0.8 人(標準偏差 1.6、中央値 0.0)、「専任」(常勤換算数)が平均 2.0 人(標準偏差 1.6、中央値 2.0)、「回復期リハビリテーション病棟入院料 3」では「専従」が平均 0.4 人(標準偏差 1.0、中央値 0.0)、「専任」(常勤換算数)が平均 1.1 人(標準偏差 1.6、中央値 0.0)であった。

「ソーシャルワーカー」の配置についてみると、「全体」では「専従」が平均 0.8 人(標準偏差 0.9、中央値 1.0)、「専任」(常勤換算数)が平均 1.5 人(標準偏差 1.8、中央値 1.0)であった。「回復期リハビリテーション病棟入院料 1」で「専従」が平均 1.0 人(標準偏差 0.9、中央値 1.0)、「専任」(常勤換算数)が平均 1.5 人(標準偏差 2.2、中央値 0.9)、「回復期リハビリテーション病棟入院料 2」では「専従」が平均 0.7 人(標準偏差 0.9、中央値 1.0)、「専任」(常勤換算数)が平均 1.6 人(標準偏差 1.6、中央値 1.0)、「回復期リハビリテーション病棟入院料 3」では「専従」が平均 0.3 人(標準偏差 0.5、中央値 0.0)、「専任」(常勤換算数)が平均 1.0 人(標準偏差 1.0、中央値 0.9)であった。

「社会福祉士の資格保有者」についてみると、「全体」では「専従」が平均 0.7 人(標準偏差 0.9、中央値 1.0)、「専任」(常勤換算数)が平均 1.3 人(標準偏差 1.8、中央値 1.0)であった。「回復期リハビリテーション病棟入院料 1」で「専従」が平均 0.9 人(標準偏差 0.8、中央値 1.0)、「専任」(常勤換算数)が平均 1.4 人(標準偏差 2.2、中央値 0.8)、「回復期リハビリテーション病棟入院料 2」では「専従」が平均 0.6 人(標準偏差 0.9、中央値 0.0)、「専任」(常勤換算数)が平均 1.3 人(標準偏差 1.6、中央値 1.0)、「回復期リハビリテーション病棟入院料 3」では「専従」が平均 0.2 人(標準偏差 0.4、中央値 0.0)、「専任」(常勤換算数)が平均 0.8 人(標準偏差 0.8、中央値 0.8)であった。

図表 148 看護師、准看護師、看護補助者、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、
ソーシャルワーカーの配置

(単位：人)

	【専従】				【専任：常勤換算数】			
	件数	平均値	標準 偏差	中央値	件数	平均値	標準 偏差	中央値
看護師								
全体	179	13.5	5.6	14.0	99	1.7	4.0	0.0
回復期リハビリテーション 病棟入院料 1	62	16.7	5.3	16.0	39	1.9	4.9	0.0
回復期リハビリテーション 病棟入院料 2	91	12.1	4.9	12.0	45	1.9	3.7	0.0
回復期リハビリテーション 病棟入院料 3	26	10.8	5.1	10.0	15	0.8	2.0	0.0
准看護師								
全体	172	3.4	2.5	3.0	88	0.6	1.3	0.0
回復期リハビリテーション 病棟入院料 1	60	3.2	2.4	3.0	37	0.4	0.8	0.0
回復期リハビリテーション 病棟入院料 2	87	3.5	2.7	3.0	39	0.8	1.6	0.0
回復期リハビリテーション 病棟入院料 3	25	3.0	2.1	2.6	12	0.4	1.4	0.0
看護補助者								
全体	178	9.0	3.8	9.0	95	1.3	2.7	0.0
回復期リハビリテーション 病棟入院料 1	62	9.6	4.5	9.0	39	1.3	3.0	0.0
回復期リハビリテーション 病棟入院料 2	90	9.0	3.3	8.8	44	1.4	2.5	0.0
回復期リハビリテーション 病棟入院料 3	26	7.2	2.5	7.0	12	1.0	2.6	0.0
理学療法士								
全体	188	5.6	5.1	4.0	125	6.1	6.4	5.0
回復期リハビリテーション 病棟入院料 1	64	7.2	5.8	4.5	42	7.7	7.6	7.0
回復期リハビリテーション 病棟入院料 2	97	5.2	4.7	3.0	67	5.8	5.8	5.0
回復期リハビリテーション 病棟入院料 3	27	3.4	2.8	2.0	16	3.8	3.8	4.0

(続き)

	【専従】				【専任:常勤換算数】			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
作業療法士								
全体	188	3.5	3.5	2.0	122	3.9	4.2	3.0
回復期リハビリテーション病棟入院料1	64	4.7	4.1	3.0	42	5.0	5.3	3.8
回復期リハビリテーション病棟入院料2	97	3.2	3.1	2.0	65	3.6	3.5	3.0
回復期リハビリテーション病棟入院料3	27	1.9	1.8	1.0	15	2.1	2.7	1.0
言語聴覚士								
全体	151	1.2	1.7	1.0	124	2.0	2.2	1.9
回復期リハビリテーション病棟入院料1	64	1.8	1.8	1.0	43	2.3	3.1	1.9
回復期リハビリテーション病棟入院料2	69	0.8	1.6	0.0	66	2.0	1.6	2.0
回復期リハビリテーション病棟入院料3	18	0.4	1.0	0.0	15	1.1	1.6	0.0
ソーシャルワーカー								
全体	129	0.8	0.9	1.0	133	1.5	1.8	1.0
回復期リハビリテーション病棟入院料1	53	1.0	0.9	1.0	49	1.5	2.2	0.9
回復期リハビリテーション病棟入院料2	59	0.7	0.9	1.0	67	1.6	1.6	1.0
回復期リハビリテーション病棟入院料3	17	0.3	0.5	0.0	17	1.0	1.0	0.9
(再掲) 社会福祉士の資格保有者								
全体	129	0.7	0.9	1.0	133	1.3	1.8	1.0
回復期リハビリテーション病棟入院料1	53	0.9	0.8	1.0	49	1.4	2.2	0.8
回復期リハビリテーション病棟入院料2	59	0.6	0.9	0.0	67	1.3	1.6	1.0
回復期リハビリテーション病棟入院料3	17	0.2	0.4	0.0	17	0.8	0.8	0.8

3) 理学療法士の夜間や早朝の配置

a 夜間・早朝の配置状況

理学療法士の夜間や早朝の配置についてみると、「夜間・早朝の配置なし」がいずれの場合においても最も多かった。

図表 149 理学療法士の夜間・早朝の配置状況

(単位：病棟)

	合計	夜間「常時」 配置あり	夜間・早朝、 「一部時間 帯」に配置あ り	夜間・早朝の 配置なし	無回答
全体	202 100.0%	11 5.4%	32 15.8%	116 57.4%	43 21.3%
回復期リハビリテーション 病棟入院料 1	72 100.0%	7 9.7%	15 20.8%	45 62.5%	5 6.9%
回復期リハビリテーション 病棟入院料 2	101 100.0%	3 3.0%	15 14.9%	57 56.4%	26 25.7%
回復期リハビリテーション 病棟入院料 3	29 100.0%	1 3.4%	2 6.9%	14 48.3%	12 41.4%

(夜間常時配置の場合)

b 夜間常時配置人数

理学療法士を夜間常時配置している場合についてみると、配置人数は「全体」で平均 1.3 人 (標準偏差 1.0、中央値 1.0)、「回復期リハビリテーション病棟入院料 1」で平均 1.4 人 (標準偏差 1.2、中央値 1.0)、「回復期リハビリテーション病棟入院料 2」で平均 1.3 人 (標準偏差 0.6、中央値 1.0)、「回復期リハビリテーション病棟入院料 3」で平均 1.0 人 (中央値 1.0) であった。

図表 150 理学療法士の夜間常時配置人数

(単位：人)

	件数	平均値	標準偏差	中央値
全体	11	1.3	1.0	1.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	7	1.4	1.2	1.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	3	1.3	0.6	1.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	1	1.0	—	1.0

(夜間・早朝に該当者がいる場合)

c 実施業務内容

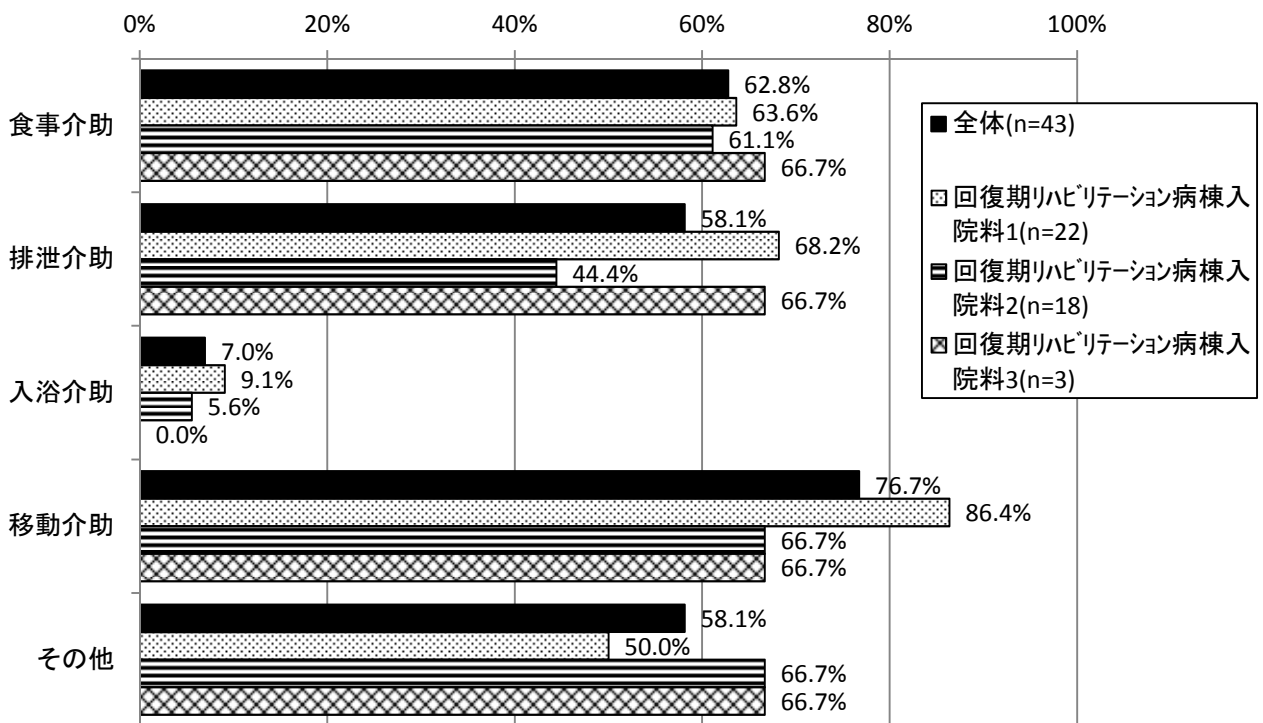
夜間・早朝に該当者がいる場合の実施業務内容についてみると、「全体」では「移動介助」が76.7%、「食事介助」が62.8%、「排泄介助」が58.1%であった。

「回復期リハビリテーション病棟入院料1」では、「移動介助」が86.4%、「排泄介助」が68.2%、「食事介助」が63.6%であった。

「回復期リハビリテーション病棟入院料2」では、「移動介助」が66.7%、「食事介助」が61.1%、「排泄介助」が44.4%であった。

「回復期リハビリテーション病棟入院料3」では、「移動介助」、「食事介助」、「排泄介助」がそれぞれ66.7%であった。

図表 151 実施業務内容（複数回答）



【その他の主な具体的な内容】

- ・更衣・整容
 - ・ADL 訓練
 - ・リハビリテーション
 - ・口腔ケア
 - ・コール対応
- ／等

4) 作業療法士の夜間や早朝の配置

a 夜間・早朝の配置状況

作業療法士の夜間・早朝の配置状況についてみると、「夜間・早朝の配置なし」がいずれの場合においても最も多かった。

図表 152 作業療法士の夜間・早朝の配置状況

(単位：病棟)

	合計	夜間「常時」配置あり	夜間・早朝、「一部時間帯」に配置あり	夜間・早朝の配置なし	無回答
全体	202 100.0%	11 5.4%	37 18.3%	111 55.0%	43 21.3%
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	72 100.0%	7 9.7%	17 23.6%	42 58.3%	6 8.3%
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	101 100.0%	3 3.0%	18 17.8%	55 54.5%	25 24.8%
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	29 100.0%	1 3.4%	2 6.9%	14 48.3%	12 41.4%

(夜間常時配置の場合)

b 夜間常時配置人数

作業療法士を夜間常時配置している場合についてみると、配置人数は「全体」で平均 1.1 人 (標準偏差 0.5、中央値 1.0)、「回復期リハビリテーション病棟入院料 1」で平均 1.2 人 (標準偏差 0.6、中央値 1.0)、「回復期リハビリテーション病棟入院料 2」で平均 1.0 人 (中央値 1.0)、「回復期リハビリテーション病棟入院料 3」で平均 1.0 人 (中央値 1.0) であった。

図表 153 作業療法士の夜間常時配置人数

(単位：人)

	件数	平均値	標準偏差	中央値
全体	11	1.1	0.5	1.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	7	1.2	0.6	1.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	3	1.0	—	1.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	1	1.0	—	1.0

(夜間・早朝に該当者がいる場合)

c 実施業務内容

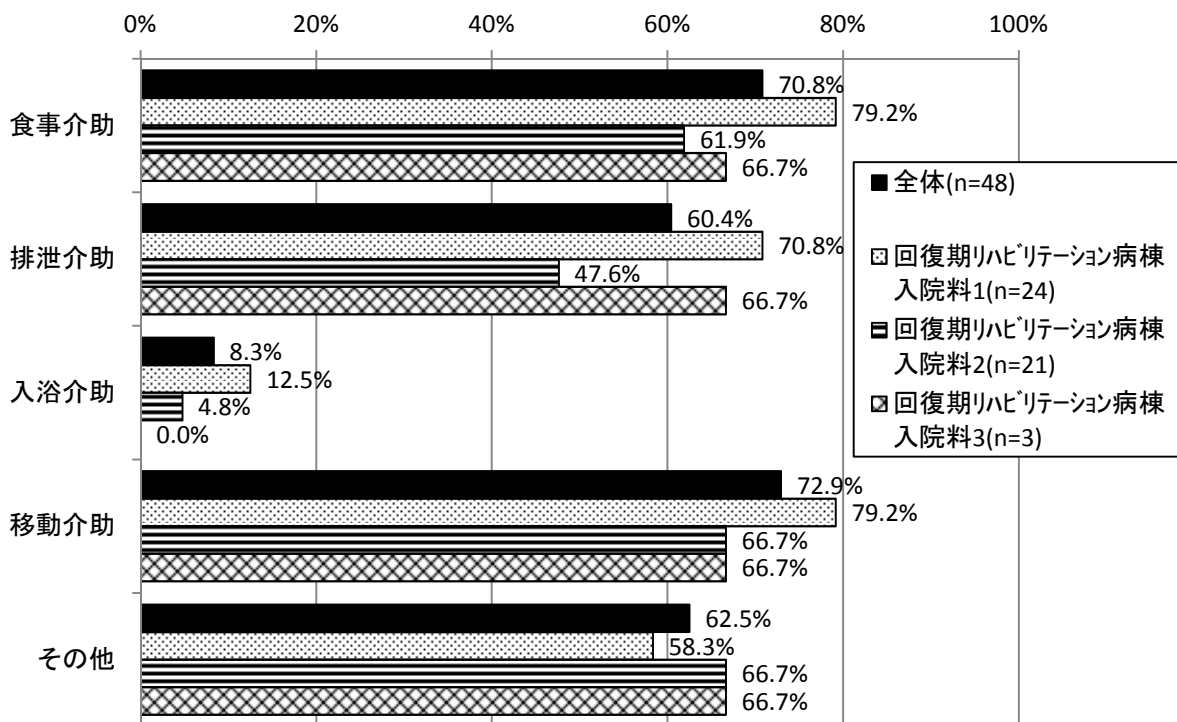
夜間・早朝に該当者がいる場合の実施業務内容についてみると、「全体」では「移動介助」が72.9%、「食事介助」が70.8%、「排泄介助」が60.4%であった。

「回復期リハビリテーション病棟入院料1」では、「食事介助」、「移動介助」がそれぞれ79.2%、「排泄介助」が70.8%であった。

「回復期リハビリテーション病棟入院料2」では、「移動介助」が66.7%、「食事介助」が61.9%、「排泄介助」が47.6%であった。

「回復期リハビリテーション病棟入院料3」では、「移動介助」、「食事介助」、「排泄介助」がそれぞれ66.7%であった。

図表 154 実施業務内容（複数回答）



【その他の主な具体的な内容】

- ・更衣・整容
- ・ADL 訓練
- ・リハビリテーション
- ・口腔ケア
- ・コール対応

／等

5) 理学療法士・作業療法士の夜間や早朝の配置の必要性等

(夜間・早朝に配置していない場合)

a 今後、配置する必要性の有無

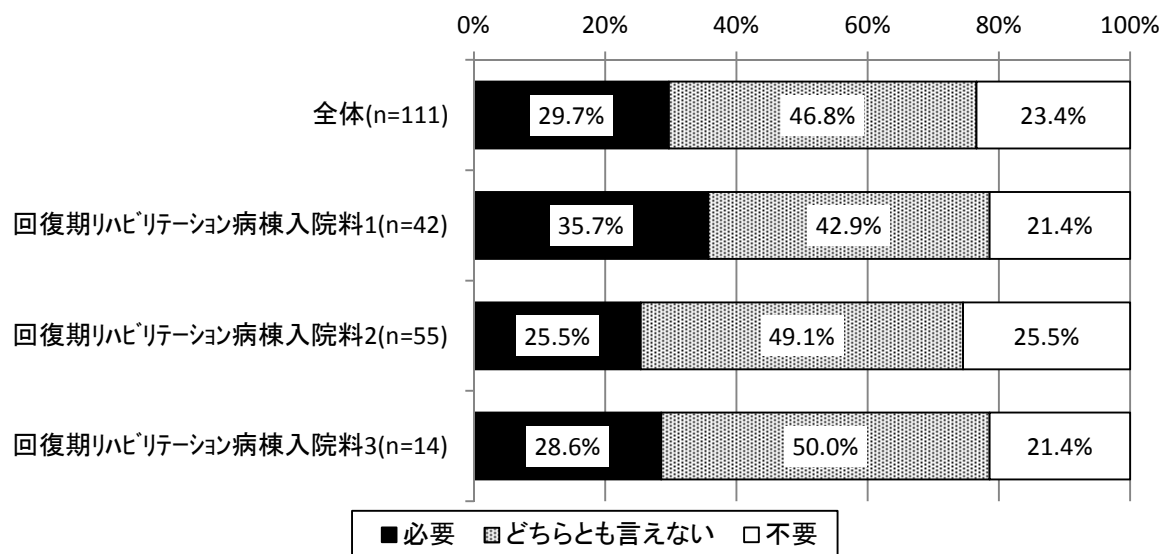
理学療法士・作業療法士を夜間・早朝に配置していない場合について、今後、配置する必要性の有無を尋ねたところ、「全体」では「必要」が29.7%、「どちらとも言えない」が46.8%、「不要」が23.4%であった。

「回復期リハビリテーション病棟入院料1」では、「必要」が35.7%、「どちらとも言えない」が42.9%、「不要」が21.4%であった。

「回復期リハビリテーション病棟入院料2」では、「必要」、「不要」がそれぞれ25.5%、「どちらとも言えない」が49.1%であった。

「回復期リハビリテーション病棟入院料3」では、「必要」が28.6%、「どちらとも言えない」が50.0%、「不要」が21.4%であった。

図表 155 今後、配置する必要性の有無



b 理由

「必要」と回答した病棟に対し、その理由を尋ねたところ、「1日のADLを想定した訓練はしているものの、直接その時間帯での訓練でより効果を上げられるから」、「実生活動作への介入が望ましい」、「排泄・更衣等の日常に即した訓練と評価に必要」等と回答があった。

「不要」と回答した病棟では、「マンパワーとしてケアに使われそう」、「職種の専門性を損なう」、「夜間・早朝に患者の動作状態を評価する必要はあるが、常時である必要はない」等と回答があった。

「どちらとも言えない」と回答した病棟では、「ケアとリハビリの区別が不明瞭」、「チームアプローチにより夜間・早朝ともリハ的な評価を病棟で実施できているため」、「夜間・早朝ケアは介護領域が強く、リハビリの治療・訓練として関わりを持つことが難しい」、「療法士の仕事が明確化されず、ヘルパーと同じ仕事をするのは反対」等と回答があった。

(必要と回答した場合)

c 現在、配置していない理由

必要と回答した場合の現在配置していない理由について尋ねたところ、いずれの場合でも「人員不足」が最も多かった。「全体」、「回復期リハビリテーション病棟入院料1」、「回復期リハビリテーション病棟入院料2」では、次いで「人員はいるが、夜間早朝に働く人員が不足」（それぞれ27.3%、33.3%、28.6%）であった。

図表 156 現在、配置していない理由

(単位：病棟)

	合計	人員不足	人員はいるが、夜間早朝に働く人員が不足	訓練室でのリハビリの人員が足りなくなるから	その他	無回答
全体	33 100.0%	15 45.5%	9 27.3%	3 9.1%	5 15.2%	1 3.0%
回復期リハビリテーション病棟入院料1	15 100.0%	5 33.3%	5 33.3%	1 6.7%	3 20.0%	1 6.7%
回復期リハビリテーション病棟入院料2	14 100.0%	6 42.9%	4 28.6%	2 14.3%	2 14.3%	0 0.0%
回復期リハビリテーション病棟入院料3	4 100.0%	4 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

(注)「その他」の内容として、「単なる介護業務と捉えられる可能性が高く、専門性を発揮できないため」、「セラピストに対する理解が低い」等が挙げられた。

③ 新入棟患者について

1) 新入棟患者数

平成 25 年 7 月 1 か月間の新入棟患者数についてみると、「全体」では平均 17.1 人（標準偏差 7.3、中央値 16.0）であった。「回復期リハビリテーション病棟入院料 1」では平均 18.2 人（標準偏差 6.2、中央値 18.0）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 2」では平均 16.4 人（標準偏差 7.3、中央値 15.5）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 3」では平均 16.8 人（標準偏差 9.3、中央値 15.5）であった。

図表 157 新入棟患者数（平成 25 年 7 月）

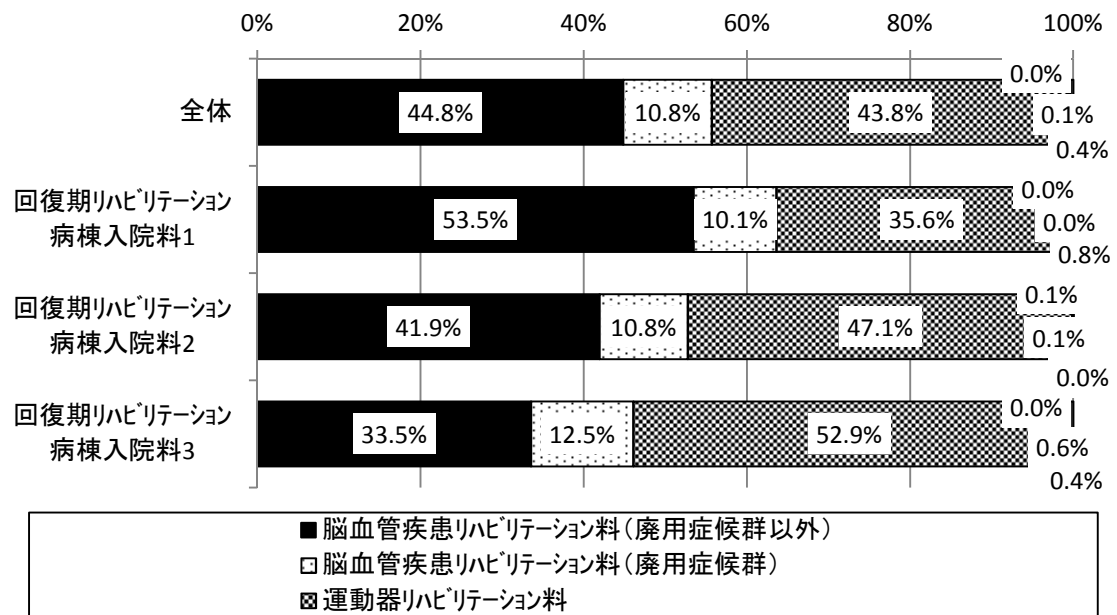
（単位：人）

	件数	合計 (全回答 病棟)	平均値 (1病棟あたり)	標準偏差	中央値
全体	196	3,348	17.1	7.3	16.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	68	1,239	18.2	6.2	18.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	100	1,638	16.4	7.3	15.5
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	28	471	16.8	9.3	15.5

2) 疾患別リハビリテーション料（新入棟患者）

疾患別リハビリテーション料についてみると、「全体」、「回復期リハビリテーション病棟入院料1」では「脳血管疾患リハビリテーション料（廃用症候群以外）」がそれぞれ44.8%、53.5%で最も多かった。「回復期リハビリテーション病棟入院料2」、「回復期リハビリテーション病棟入院料3」では「運動器リハビリテーション料」がそれぞれ47.1%、52.9%で最も多かった。

図表 158 新入棟患者の疾患別リハビリテーション料別 構成比



(注) 回答件数は以下の通り。

全体：196 病棟、3,098 人分

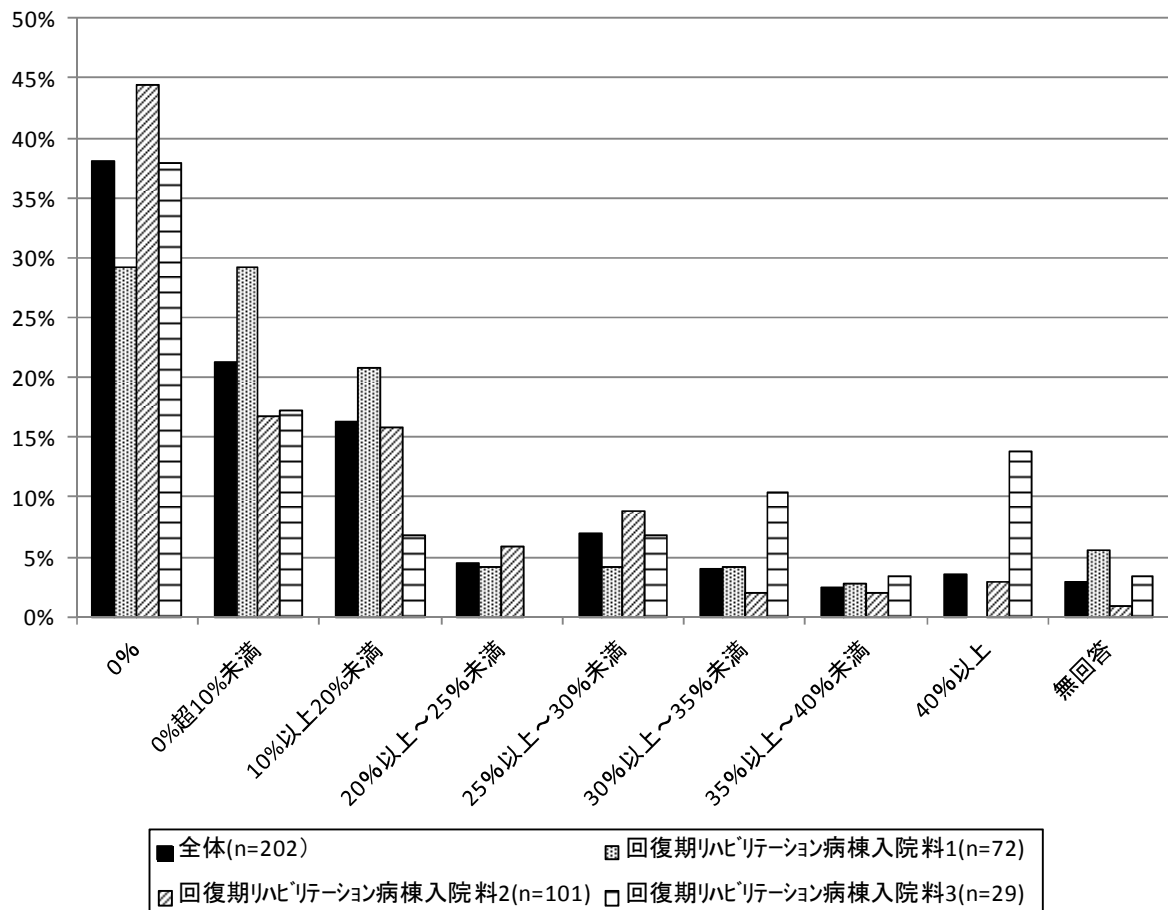
回復期リハビリテーション病棟入院料1：68 病棟、1,124 人分

回復期リハビリテーション病棟入院料2：100 病棟、1,503 人分

回復期リハビリテーション病棟入院料3：28 病棟、471 人分

病棟ごとの新入棟患者に占める脳血管疾患リハビリテーション料（廃用症候群）の比率をみると、ほとんどの場合で「0%」が最も多く、全体では 38.1%であった。「回復期リハビリテーション病棟入院料1」では「0%」、「0%超 10%未満」がいずれも 29.2%であった。

図表 159 病棟ごとの新入棟患者に占める脳血管疾患リハビリテーション料（廃用症候群）の比率



3) 入棟時の日常生活機能評価

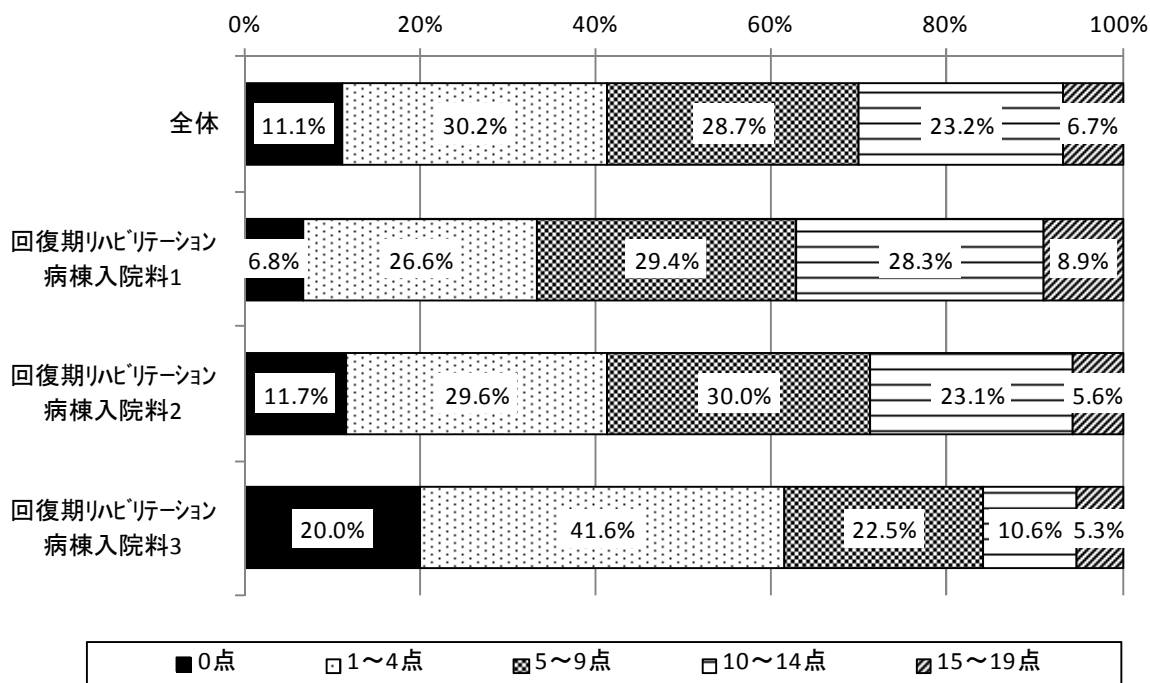
新入棟患者における入棟時の日常生活機能評価別構成比をみると、「全体」では「1～4点」が30.2%で最も多く、次いで「5～9点」(28.7%)、「10～14点」(23.2%)であった。

「回復期リハビリテーション病棟入院料1」では「5～9点」が29.4%で最も多く、次いで「10～14点」(28.3%)、「1～4点」(26.6%)であった。

「回復期リハビリテーション病棟入院料2」では、「5～9点」が30.0%で最も多く、次いで「1～4点」(29.6%)、「10～14点」(23.1%)であった。

「回復期リハビリテーション病棟入院料3」では、「1～4点」が41.6%で最も多く、次いで「5～9点」(22.5%)、「0点」(20.0%)であった。

図表 160 新入棟患者の入棟時の日常生活機能評価別構成比



(注) 回答件数は以下の通り。

全体：196 病棟、3,292 人分

回復期リハビリテーション病棟入院料1：68 病棟、1,190 人分

回復期リハビリテーション病棟入院料2：100 病棟、1,631 人分

回復期リハビリテーション病棟入院料3：28 病棟、471 人分

4) 入棟時の看護必要度 A 項目

a 入棟時の看護必要度 A 項目の合計点数が 1 点以上の新入棟患者数

入棟時の看護必要度 A 項目の合計点数が 1 点以上の新入棟患者数についてみると、「全体」では平均 2.6 人（標準偏差 2.4、中央値 2.0）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 1」では平均 4.0 人（標準偏差 2.0、中央値 4.0）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 2」では平均 2.1 人（標準偏差 2.4、中央値 1.0）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 3」では平均 0.8 人（標準偏差 1.4、中央値 0.0）であった。

図表 161 入棟時の看護必要度 A 項目の合計点数が 1 点以上の新入棟患者数

(単位：人)

	件数	合計 (全回答 病棟)	平均値 (1病棟あ たり)	標準偏差	中央値
全体	120	313	2.6	2.4	2.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	44	177	4.0	2.0	4.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	60	123	2.1	2.4	1.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	16	13	0.8	1.4	0.0

b 入棟時の看護必要度 A 項目の該当人数

入棟時の看護必要度 A 項目の該当人数についてみると、「全体」では「5 回以上の血圧測定」が 168 人で最も多く、次いで「呼吸ケア」(158 人)、「創傷処置」(156 人)であった。

「回復期リハビリテーション病棟入院料 1」では「5 回以上の血圧測定」が 93 人で最も多く、次いで「呼吸ケア」(84 人)、「創傷処置」(80 人)であった。

「回復期リハビリテーション病棟入院料 2」では「創傷処置」(72 人)が最も多く、次いで「5 回以上の血圧測定」(71 人)、「呼吸ケア」(68 人)であった。

「回復期リハビリテーション病棟入院料 3」では「呼吸ケア」が 6 人で最も多く、次いで「創傷処置」、「5 回以上の血圧測定」(それぞれ 4 人)であった。

図表 162 看護必要度 A 項目の該当人数 (入棟時) (回答病棟の全合計)

(単位：人)

	全体	回復期リハビリテーション病棟入院料 1	回復期リハビリテーション病棟入院料 2	回復期リハビリテーション病棟入院料 3
件数	163	66	79	18
全患者数(参考値)	3,348	1,239	1,638	471
創傷処置	156	80	72	4
蘇生術の施行	0	0	0	0
5 回以上の血圧測定	168	93	71	4
時間尿測定	48	23	22	3
呼吸ケア	158	84	68	6
点滴ライン同時 3 本以上	3	2	1	0
心電図モニター	48	36	10	2
輸液ポンプの使用	3	2	1	0
動脈圧測定	0	0	0	0
シリンジポンプの使用	0	0	0	0
中心静脈圧測定	0	0	0	0
人工呼吸器の装着	1	0	1	0
輸液や血液製剤の使用	10	3	7	0
肺動脈圧測定	0	0	0	0
特殊な治療法	11	6	5	0

5) 入棟時のFIM指数

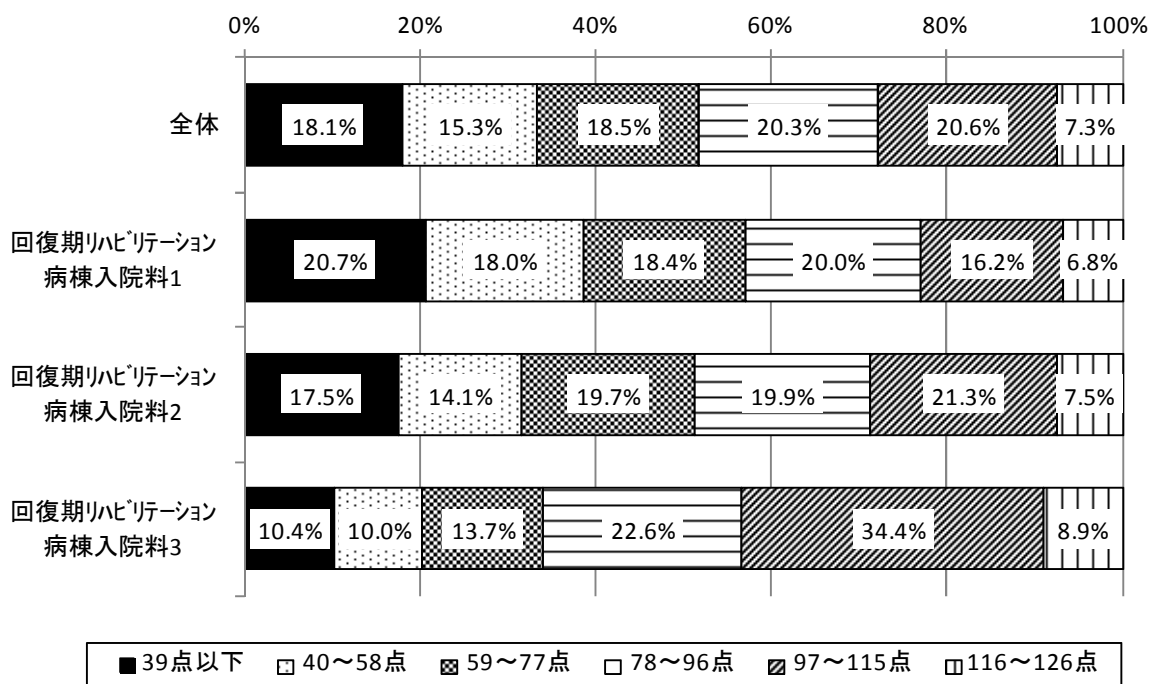
入棟時のFIM指数別構成比をみると、「全体」では「97～115点」が20.6%で最も多く、次いで「78～96点」(20.3%)、「59～77点」(18.5%)であった。

「回復期リハビリテーション病棟入院料1」では「39点以下」が20.7%で最も多く、次いで「78～96点」(20.0%)、「59～77点」(18.4%)であった。

「回復期リハビリテーション病棟入院料2」では「97～115点」が21.3%で最も多く、次いで「78～96点」(19.9%)、「59～77点」(19.7%)であった。

「回復期リハビリテーション病棟入院料3」では「97～115点」が34.4%で最も多く、次いで「78～96点」(22.6%)、「59～77点」(13.7%)であった。

図表 163 新入棟患者の入棟時のFIM指数別構成比



(注) 回答件数は以下の通り。

全体：153 病棟、2,479 人分

回復期リハビリテーション病棟入院料1：61 病棟、1,045 人分

回復期リハビリテーション病棟入院料2：74 病棟、1,164 人分

回復期リハビリテーション病棟入院料3：18 病棟、270 人分

6) 入棟時のバーセル指数

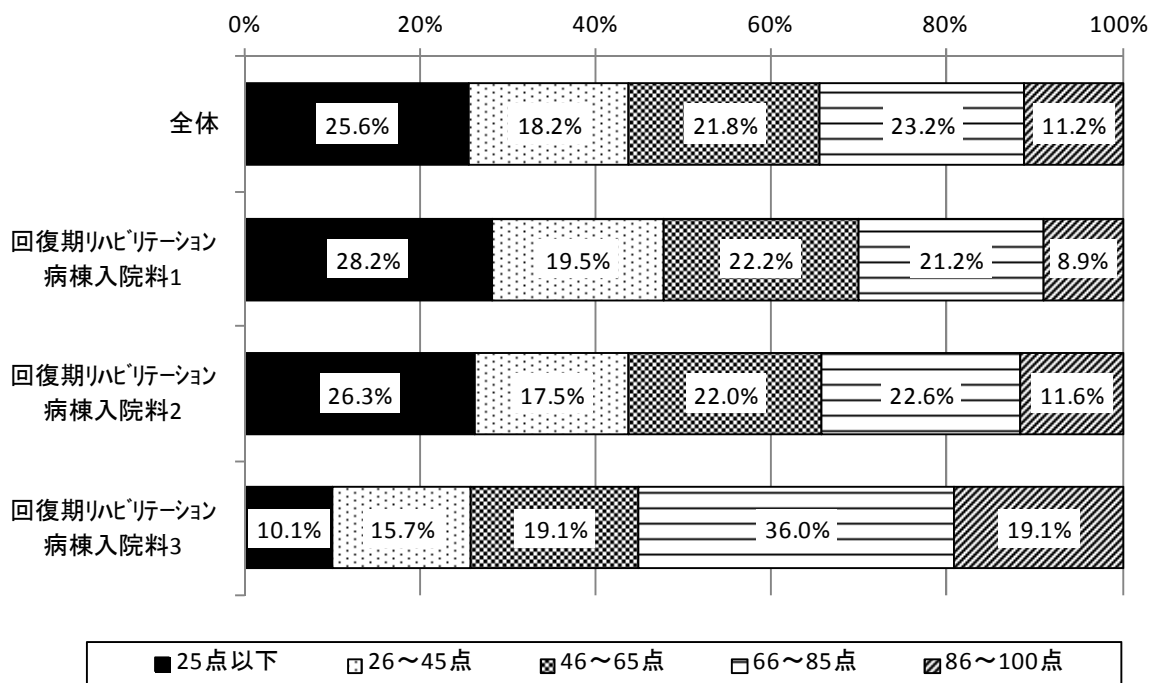
新入棟患者の入棟時のバーセル指数別構成比についてみると、「全体」では「25点以下」が25.6%で最も多く、次いで「66～85点」(23.2%)、「46～65点」(21.8%)であった。

「回復期リハビリテーション病棟入院料1」では「25点以下」が28.2%で最も多く、次いで「46～65点」(22.2%)、「66～85点」(21.2%)であった。

「回復期リハビリテーション病棟入院料2」では「25点以下」が26.3%で最も多く、次いで「66～85点」(22.6%)、「46～65点」(22.0%)であった。

「回復期リハビリテーション病棟入院料3」では「66～85点」が36.0%で最も多く、次いで「46～65点」、「86～100点」(いずれも19.1%)であった。

図表 164 新入棟患者の入棟時のバーセル指数別構成比



(注) 回答件数は以下の通り。

全体：62病棟、995人分

回復期リハビリテーション病棟入院料1：22病棟、415人分

回復期リハビリテーション病棟入院料2：33病棟、491人分

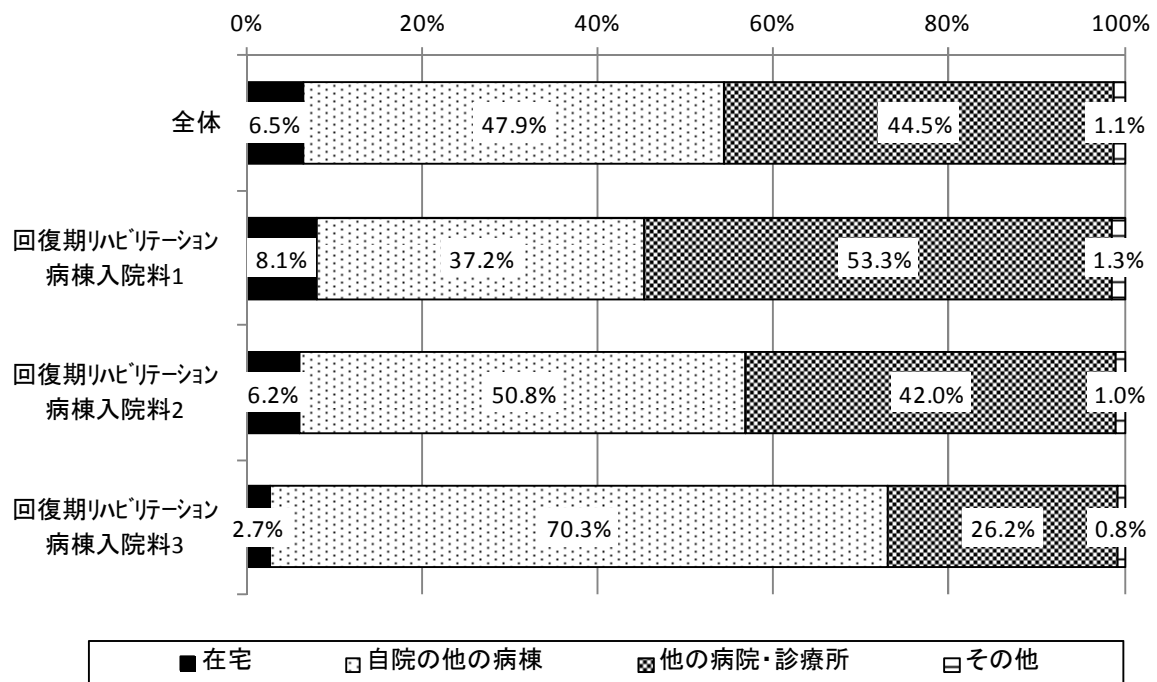
回復期リハビリテーション病棟入院料3：7病棟、89人分

7) 入棟前の居場所

入棟前の居場所についてみると、「全体」、「回復期リハビリテーション病棟入院料 2」、「回復期リハビリテーション病棟入院料 3」では「自院の他の病棟」がそれぞれ 47.9%、50.8%、70.3%で最も多かった。

「回復期リハビリテーション病棟入院料 1」では「他の病院・診療所」が 53.3%で最も多く、半数以上を占めた。

図表 165 新入棟患者の入棟前の居場所別構成比



(注) 回答件数は以下の通り。

全体：196 病棟、3,160 人分

回復期リハビリテーション病棟入院料 1：68 病棟、1,206 人分

回復期リハビリテーション病棟入院料 2：100 病棟、1,584 人分

回復期リハビリテーション病棟入院料 3：28 病棟、370 人分

④ 退棟患者について

1) 退棟患者数

平成 25 年 7 月 1 か月間の退棟患者数についてみると、「全体」では平均 16.9 人（標準偏差 7.2、中央値 16.0）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 1」では平均 18.1 人（標準偏差 6.1、中央値 17.0）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 2」では平均 16.3 人（標準偏差 7.5、中央値 15.0）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 3」では平均 16.2 人（標準偏差 8.2、中央値 15.0）であった。

図表 166 退棟患者数（平成 25 年 7 月）

（単位：人）

	件数	合計 (全回答 病棟)	平均値 (1病棟あ たり)	標準偏差	中央値
全体	191	3,226	16.9	7.2	16.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	65	1,176	18.1	6.1	17.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	98	1,597	16.3	7.5	15.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	28	453	16.2	8.2	15.0

2) 入棟時の日常生活機能評価が 10 点以上の患者数

退棟患者のうち、入棟時の日常生活機能評価が 10 点以上の患者数についてみると、「全体」では平均 4.8 人（標準偏差 3.5、中央値 4.0）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 1」では平均 6.2 人（標準偏差 3.1、中央値 5.0）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 2」では平均 4.5 人（標準偏差 3.6、中央値 4.0）、「回復期リハビリテーション病棟入院料 3」では平均 2.5 人（標準偏差 2.2、中央値 2.0）であった。

図表 167 入棟時の日常生活機能評価が 10 点以上の患者数（退棟患者）

（単位：人）

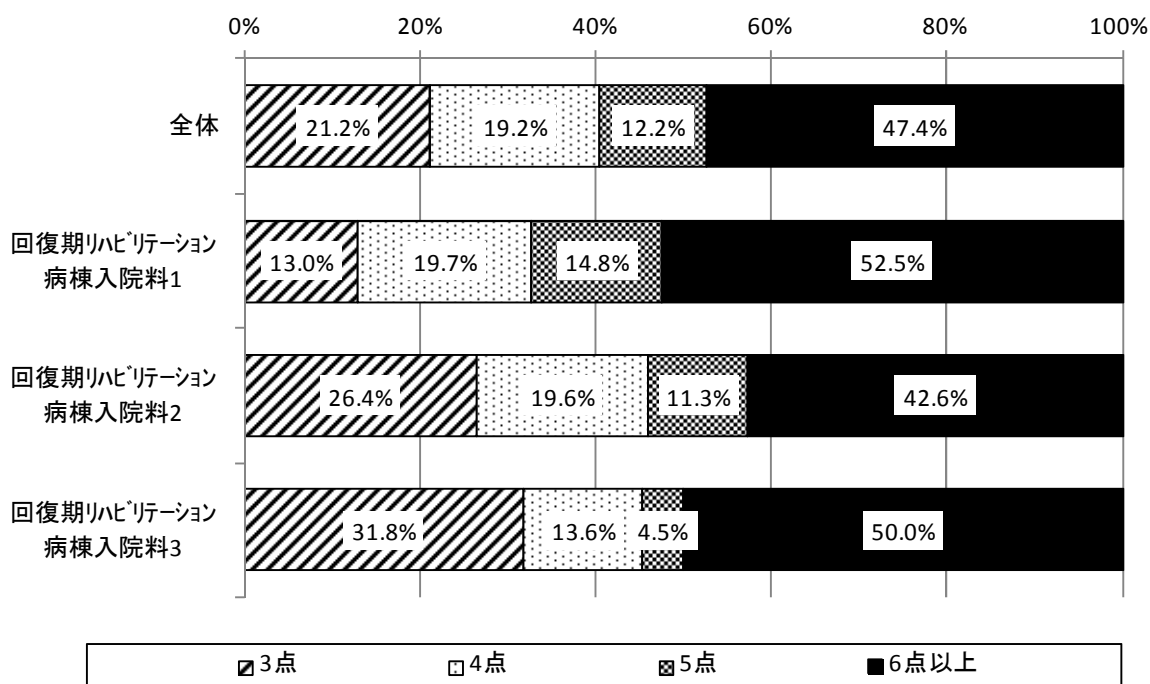
	件数	合計 (全回答 病棟)	平均値 (1病棟あ たり)	標準偏差	中央値
全体	193	928	4.8	3.5	4.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	65	406	6.2	3.1	5.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	100	452	4.5	3.6	4.0
回復期リハビリテーション病棟入院料 3	28	70	2.5	2.2	2.0

3) 日常生活機能評価の改善点数

退棟患者における日常生活機能評価の改善点数についてみると、「全体」、「回復期リハビリテーション病棟入院料1」、「回復期リハビリテーション病棟入院料2」、「回復期リハビリテーション病棟入院料3」で「6点以上」が最も多く、それぞれ47.4%、52.5%、42.6%、50.0%であった。

「全体」、「回復期リハビリテーション病棟入院料2」、「回復期リハビリテーション病棟入院料3」では次いで「3点」が多く、それぞれ21.2%、26.4%、31.8%であった。「回復期リハビリテーション病棟入院料1」では次いで「4点」(19.7%)であった。

図表 168 日常生活機能評価の改善点数（退棟患者）



(注) 回答件数は以下の通り。

全体：143 病棟、532 人分

回復期リハビリテーション病棟入院料1：55 病棟、223 人分

回復期リハビリテーション病棟入院料2：72 病棟、265 人分

回復期リハビリテーション病棟入院料3：16 病棟、44 人分

4) 退棟時のFIM指数

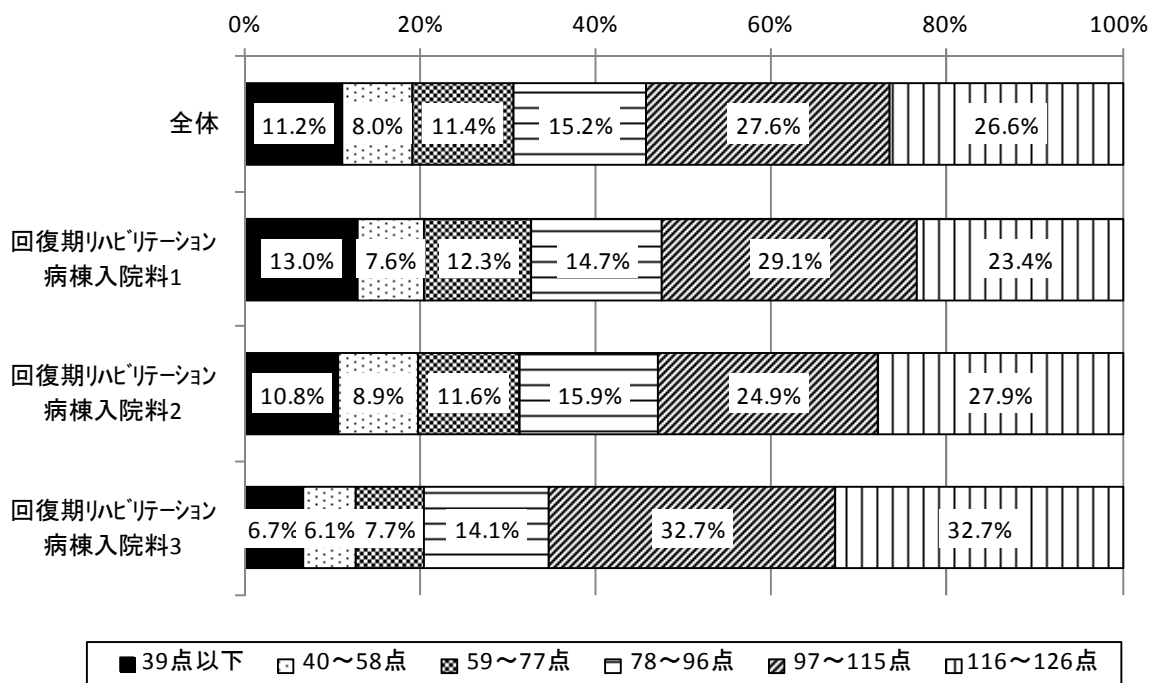
退棟患者における退棟時のFIM指数についてみると、「全体」では「97～115点」が27.6%で最も多く、次いで「116～126点」(26.6%)、「78～96点」(15.2%)であった。

「回復期リハビリテーション病棟入院料1」では「97～115点」が29.1%で最も多く、次いで「116～126点」(23.4%)、「78～96点」(14.7%)であった。

「回復期リハビリテーション病棟入院料2」では「116～126点」が27.9%で最も多く、次いで「97～115点」(24.9%)、「78～96点」(15.9%)であった。

「回復期リハビリテーション病棟入院料3」では「97～115点」、「116～126点」がいずれも32.7%で最も多く、次いで「78～96点」(14.1%)であった。

図表 169 退棟時のFIM指数（退棟患者）



(注) 回答件数は以下の通り。

全体：152 病棟、2,412 人分

回復期リハビリテーション病棟入院料1：59 病棟、1,018 人分

回復期リハビリテーション病棟入院料2：74 病棟、1,097 人分

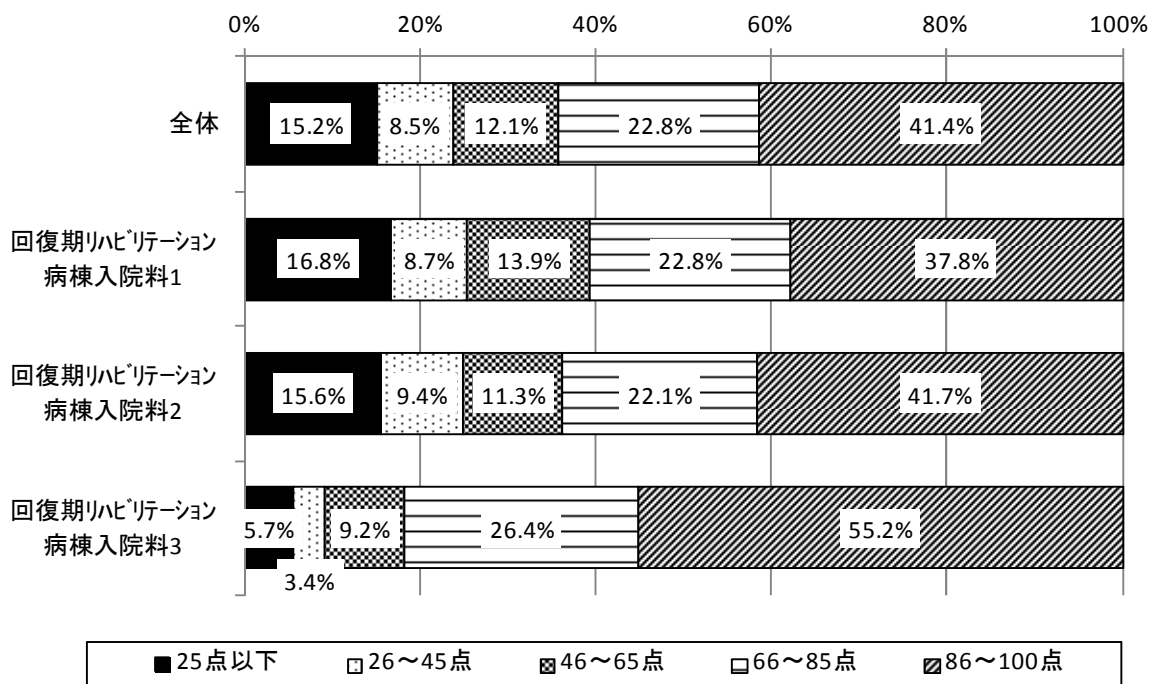
回復期リハビリテーション病棟入院料3：19 病棟、297 人分

5) 退棟時のバーセル指数

退棟時のバーセル指数についてみると、「全体」、「回復期リハビリテーション病棟入院料1」、「回復期リハビリテーション病棟入院料2」、「回復期リハビリテーション病棟入院料3」で「86～100点」が最も多く、それぞれ41.4%、37.8%、41.7%、55.2%であった。

いずれの場合も次いで「66～85点」が最も多く、それぞれ22.8%、22.8%、22.1%、26.4%であった。

図表 170 退棟時のバーセル指数（退棟患者）



(注) 回答件数は以下の通り。

全体：62病棟、948人分

回復期リハビリテーション病棟入院料1：21病棟、381人分

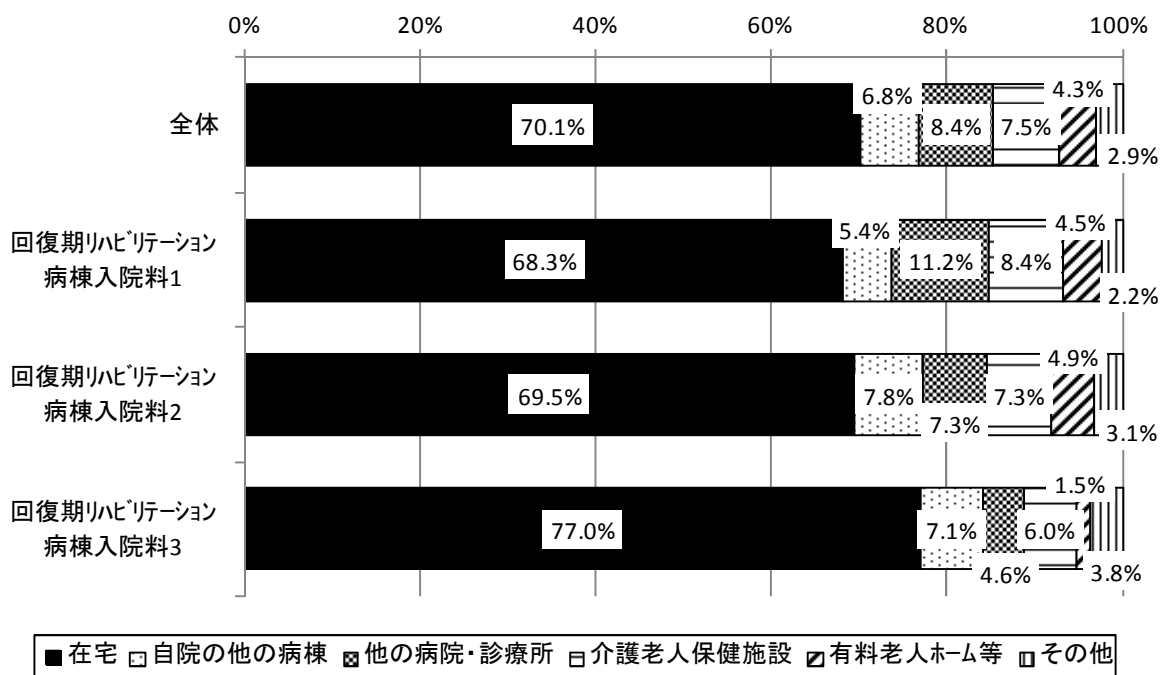
回復期リハビリテーション病棟入院料2：34病棟、480人分

回復期リハビリテーション病棟入院料3：7病棟、87人分

6) 退棟後の居場所

退棟後の居場所についてみると、「全体」、「回復期リハビリテーション病棟入院料1」、「回復期リハビリテーション病棟入院料2」、「回復期リハビリテーション病棟入院料3」で「在宅」がそれぞれ70.1%、68.3%、69.5%、77.0%と最も多く、7割程度を占めた。

図表 171 退棟後の居場所（退棟患者）



(注) 回答件数は以下の通り。

全体：192 病棟、3,194 人分

回復期リハビリテーション病棟入院料1：65 病棟、1,176 人分

回復期リハビリテーション病棟入院料2：99 病棟、1,565 人分

回復期リハビリテーション病棟入院料3：28 病棟、453 人分

(4) 入院患者調査・外来患者調査の概要

【調査対象等】

<入院患者調査>

調査対象：病院調査の対象病院の「一般病床」または「療養病床」（回復期リハビリテーション病棟を除く）に入院中の患者のうち、調査日に「脳血管疾患等リハビリテーション料」または「運動器リハビリテーション料」を算定した患者のうち 10 人（抽出）。

回答数：4,207 件

回答者：対象患者を担当するリハビリ職員や看護職員

<外来患者調査>

調査対象：病院調査・診療所調査の対象病院・診療所の外来患者のうち、調査日に「脳血管疾患等リハビリテーション料」または「運動器リハビリテーション料」を算定した患者のうち 5 人（抽出）。

回答数：3,352 件

回答者：対象患者を担当するリハビリ職員や看護職員

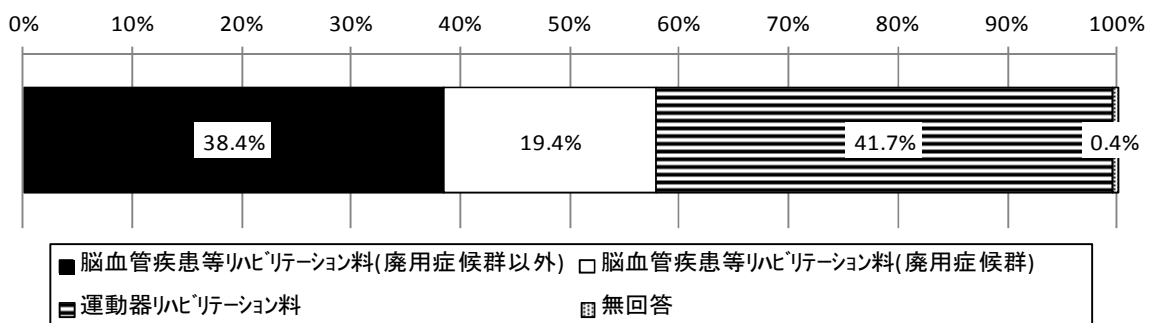
① 患者の基本的事項

1) 疾患別リハビリテーション料の内容

【入院患者】

「入院患者」における疾患別リハビリテーション料の内容についてみると、「運動器リハビリテーション料」が 41.7%で最も多く、次いで「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）」（38.4%）、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）」（19.4%）であった。

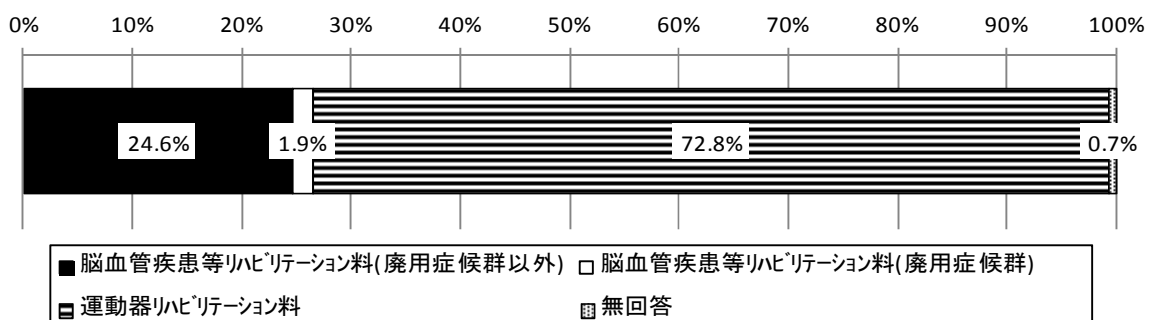
図表 172 疾患別リハビリテーション料の内容【入院患者】(n=4, 207)



【外来患者】

「外来患者」における疾患別リハビリテーション料の内容についてみると、「運動器リハビリテーション料」が 72.8%で最も多く、次いで「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）」（24.6%）、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）」（1.9%）であった。

図表 173 疾患別リハビリテーション料の内容【外来患者】(n=3, 352)



2) 年齢

【入院患者】

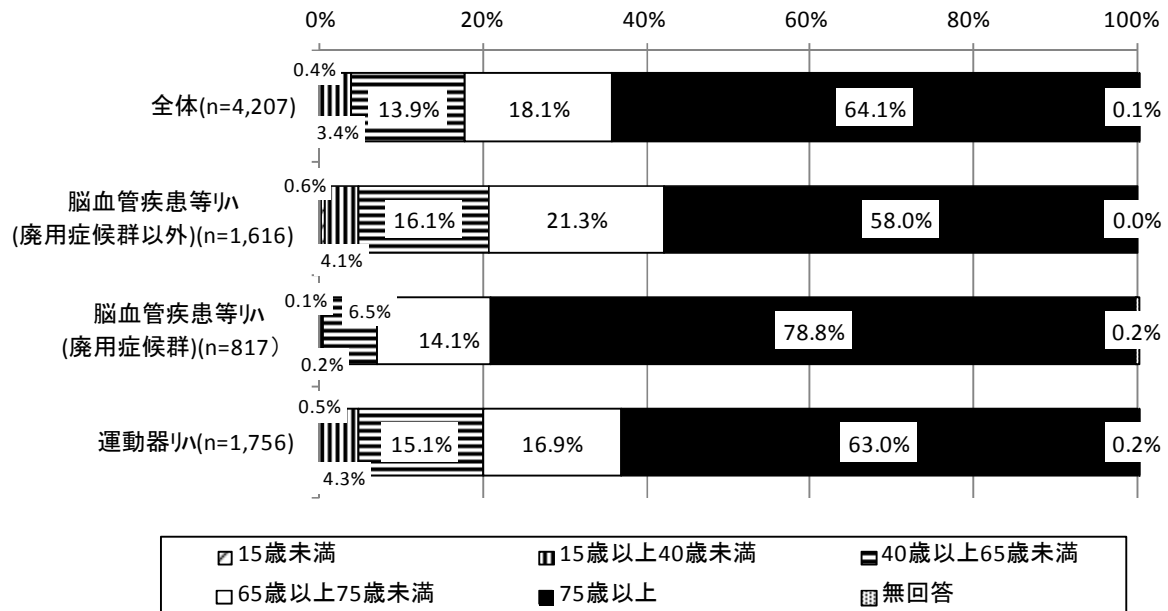
「入院患者」の年齢についてみると、「全体」では平均 75.5 歳（標準偏差 15.2、中央値 79.0）、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）」では平均 73.7 歳（標準偏差 15.9、中央値 77.0）、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）」では平均 80.6 歳（標準偏差 10.3、中央値 82.0）、「運動器リハビリテーション料」では平均 74.8 歳（標準偏差 16.0、中央値 79.0）であり、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）」で最も平均年齢が高かった。

図表 174 年齢【入院患者】

(単位：歳)

	件数	平均値	標準偏差	中央値
全体	4,202	75.5	15.2	79.0
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群以外)	1,616	73.7	15.9	77.0
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群)	815	80.6	10.3	82.0
運動器リハビリテーション料	1,753	74.8	16.0	79.0

図表 175 年齢【入院患者】



【外来患者】

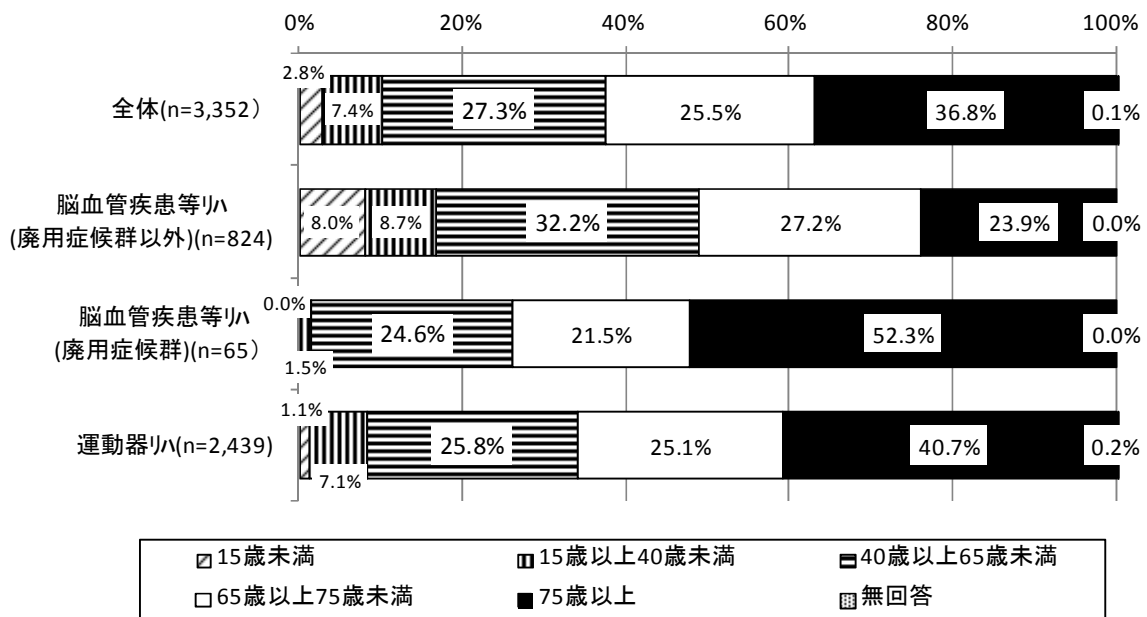
「外来患者」の年齢についてみると、「全体」では平均 65.2 歳（標準偏差 18.6、中央値 70.0）、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）」では平均 59.1 歳（標準偏差 21.7、中央値 65.0）、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）」では平均 74.2 歳（標準偏差 13.8、中央値 76.0）、「運動器リハビリテーション料」では平均 67.1 歳（標準偏差 17.0、中央値 71.0）であり、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）」で最も平均年齢が高かった。

図表 176 年齢【外来患者】

(単位：歳)

	件数	平均値	標準偏差	中央値
全体	3,348	65.2	18.6	70.0
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群以外)	824	59.1	21.7	65.0
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群)	65	74.2	13.8	76.0
運動器リハビリテーション料	2,435	67.1	17.0	71.0

図表 177 年齢【外来患者】

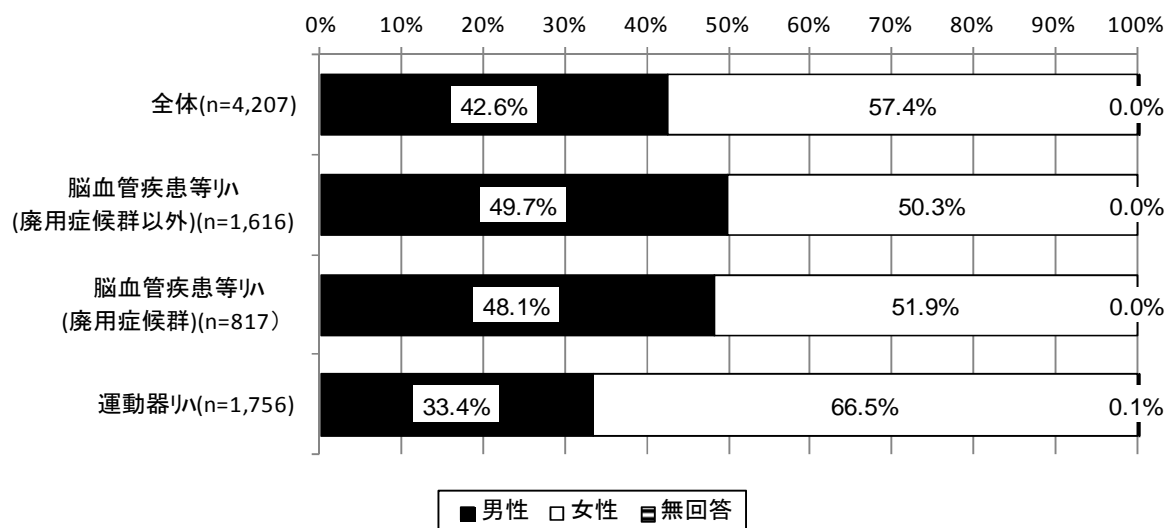


3) 性別

【入院患者】

「入院患者」の性別についてみると、「全体」、「脳血管疾患等リハ（廃用症候群以外）」、「脳血管疾患等リハ（廃用症候群）」、「運動器リハ」について、女性がそれぞれ 57.4%、50.3%、51.9%、66.5%と割合が比較的高かった。

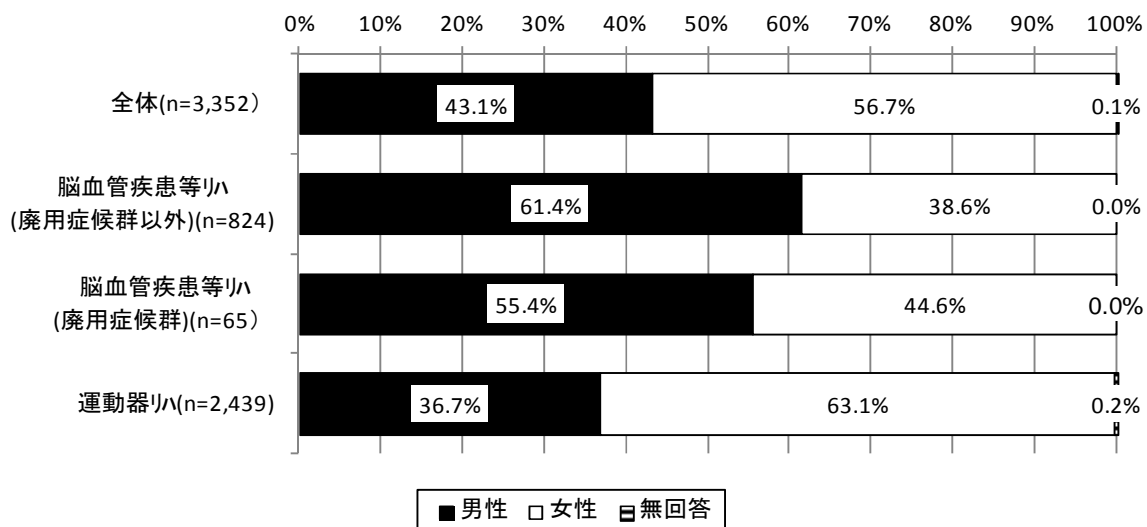
図表 178 性別【入院患者】



【外来患者】

「外来患者」の性別についてみると、「脳血管疾患等リハ（廃用症候群以外）」、「脳血管疾患等リハ（廃用症候群）」では、男性がそれぞれ 61.4%、55.4%と割合が高く、「全体」、「運動器リハ」では、女性がそれぞれ 56.7%、63.1%と割合が高かった。

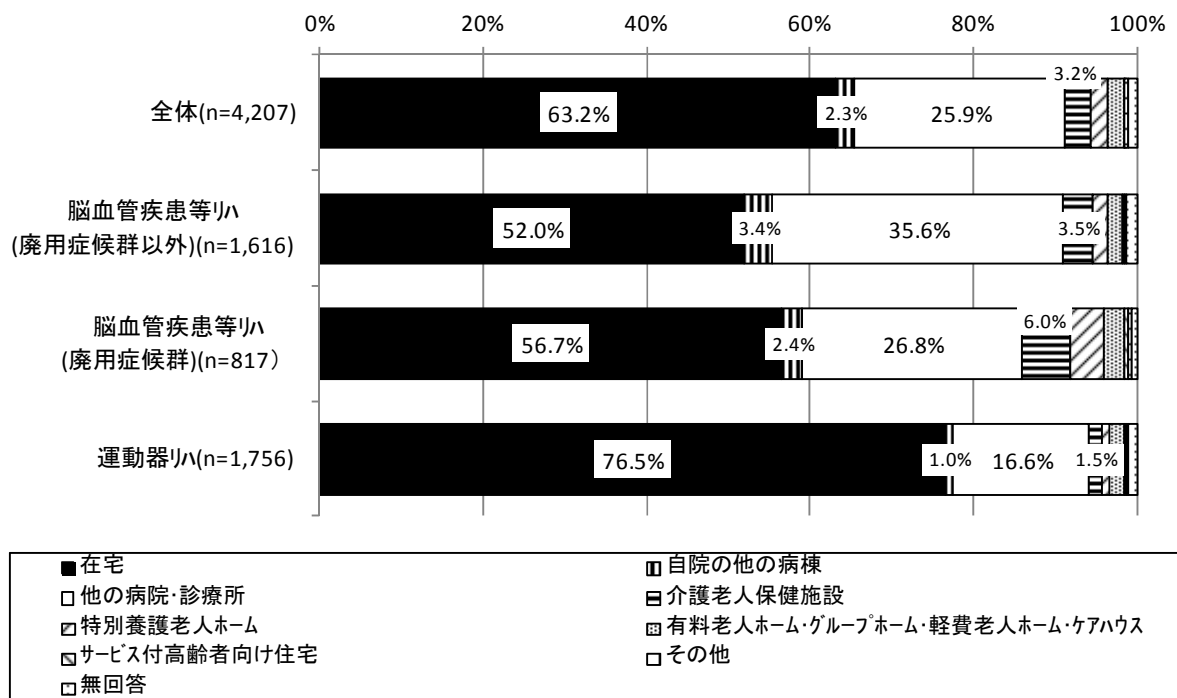
図表 179 性別【外来患者】



4) 入院前の居場所（入院患者のみ）

「入院患者」の入院前の居場所についてみると、「全体」、「脳血管疾患等リハ（廃用症候群以外）」、「脳血管疾患等リハ（廃用症候群）」、「運動器リハ」について、「在宅」がそれぞれ63.2%、52.0%、56.7%、76.5%と最も高かった。いずれも次いで「他の病院・診療所」（それぞれ25.9%、35.6%、26.8%、16.6%）であった。

図表 180 入院前の居場所【入院患者】



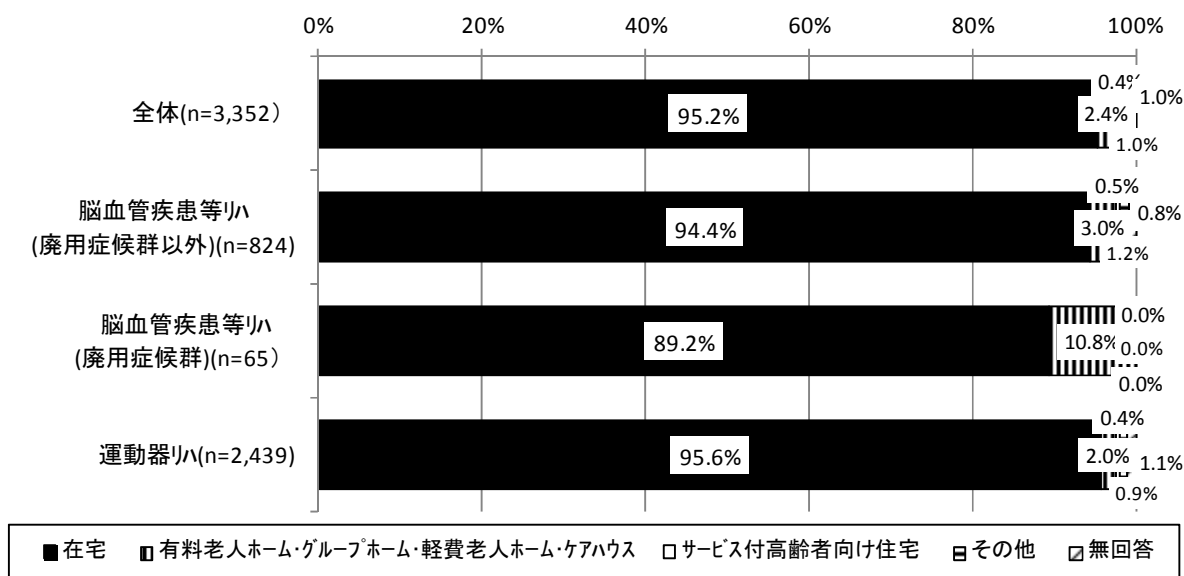
	合計	在宅	自院の他の病棟	他の病院・診療所	介護老人保健施設	特別養護老人ホーム	有料老人ホーム・グループホーム・軽費老人ホーム・ケアハウス	サービス付高齢者向け住宅	その他	無回答
全体	4,207	2,658	95	1,089	134	83	83	7	12	46
	100.0%	63.2%	2.3%	25.9%	3.2%	2.0%	2.0%	0.2%	0.3%	1.1%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群以外)	1,616	841	55	575	57	31	29	3	4	21
	100.0%	52.0%	3.4%	35.6%	3.5%	1.9%	1.8%	0.2%	0.2%	1.3%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群)	817	463	20	219	49	34	20	3	4	5
	100.0%	56.7%	2.4%	26.8%	6.0%	4.2%	2.4%	0.4%	0.5%	0.6%
運動器リハビリテーション料	1,756	1,344	18	292	26	18	33	1	4	20
	100.0%	76.5%	1.0%	16.6%	1.5%	1.0%	1.9%	0.1%	0.2%	1.1%

(注) 「その他」の内容として「小規模多機能型居宅介護事業所」、「養護老人ホーム」、「障害者施設」等が挙げられた。

5) 居住場所（外来患者のみ）

「外来患者」の居住場所についてみると、「全体」、「脳血管疾患等リハ（廃用症候群以外）」、「脳血管疾患等リハ（廃用症候群）」、「運動器リハ」について、「在宅」がそれぞれ 95.2%、94.4%、89.2%、95.6%とほとんどの割合を占めた。

図表 181 居住場所【外来患者】



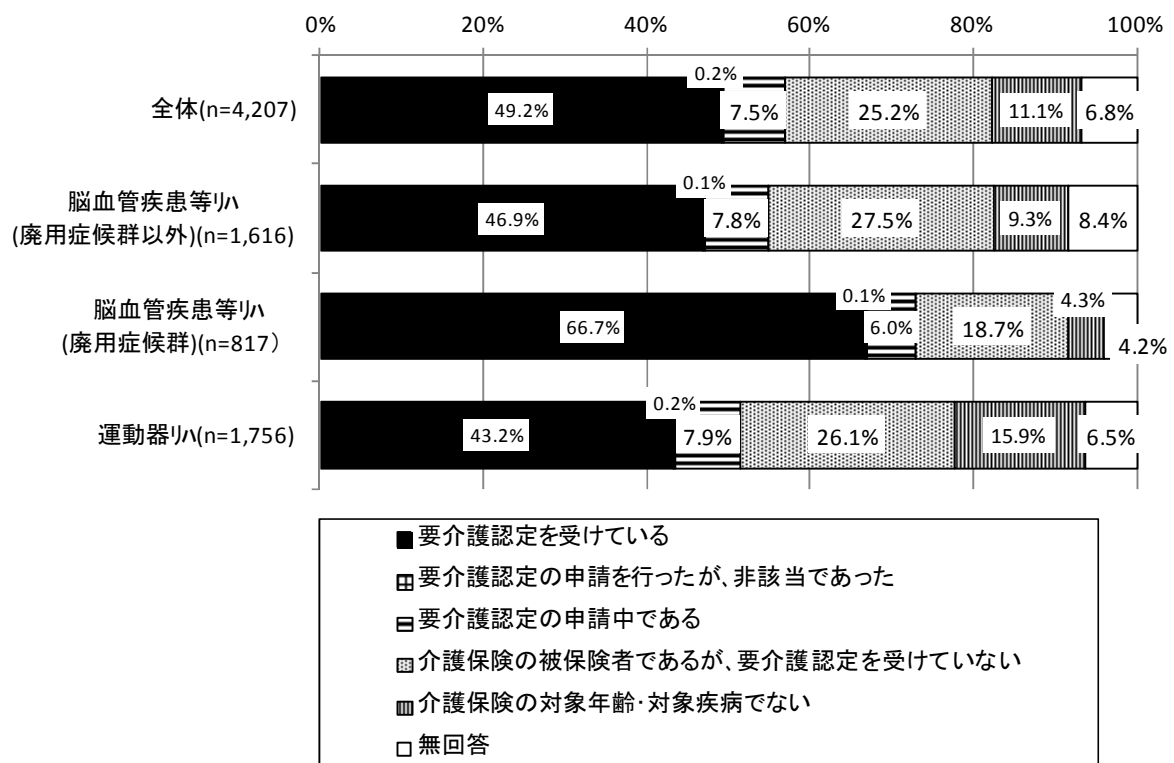
(注)「その他」の内容として「小規模多機能型居宅介護事業所」、「特別養護老人ホーム」等が挙げられた。

6) 要介護度

【入院患者】

「入院患者」の要介護認定の状況についてみると、「全体」、「脳血管疾患等リハ（廃用症候群以外）」、「脳血管疾患等リハ（廃用症候群）」、「運動器リハ」について、「要介護認定を受けている」がそれぞれ49.2%、46.9%、66.7%、43.2%と最も多かった。いずれも次いで「介護保険の被保険者であるが、要介護認定を受けていない」（それぞれ25.2%、27.5%、18.7%、26.1%）であった。

図表 182 要介護認定の状況【入院患者】



【外来患者】

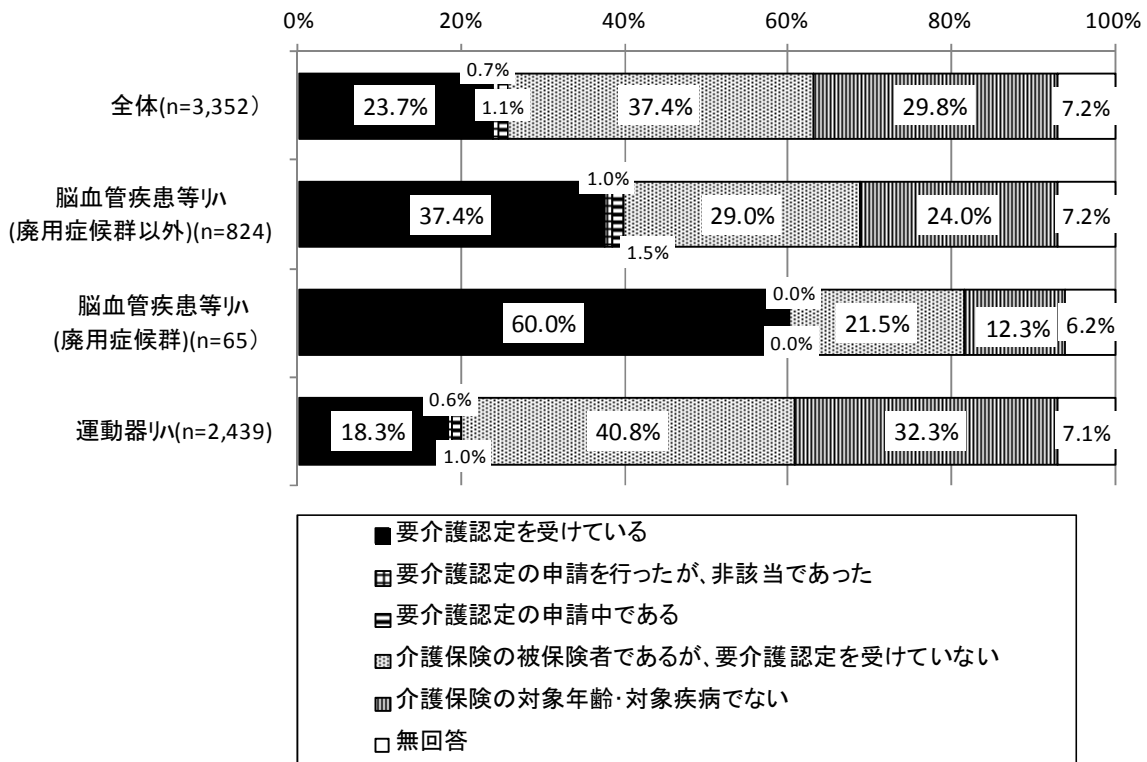
「外来患者」の要介護認定の状況についてみると、「全体」では「介護保険の被保険者であるが、要介護認定を受けていない」が 37.4%で最も多く、次いで「介護保険の対象年齢・対象疾病でない」(29.8%)、「要介護認定を受けている」(23.7%)であった。

「脳血管疾患等リハ(廃用症候群以外)」では「要介護認定を受けている」が 37.4%で最も多く、次いで「介護保険の被保険者であるが、要介護認定を受けていない」(29.0%)、「介護保険の対象年齢・対象疾病でない」(24.0%)であった。

「脳血管疾患等リハ(廃用症候群)」では「要介護認定を受けている」が 60.0%で最も多く、次いで「介護保険の被保険者であるが、要介護認定を受けていない」(21.5%)、「介護保険の対象年齢・対象疾病でない」(12.3%)であった。

「運動器リハ」では「介護保険の被保険者であるが、要介護認定を受けていない」が 40.8%で最も多く、次いで「介護保険の対象年齢・対象疾病でない」(32.3%)、「要介護認定を受けている」(18.3%)であった。

図表 183 要介護認定の状況【外来患者】



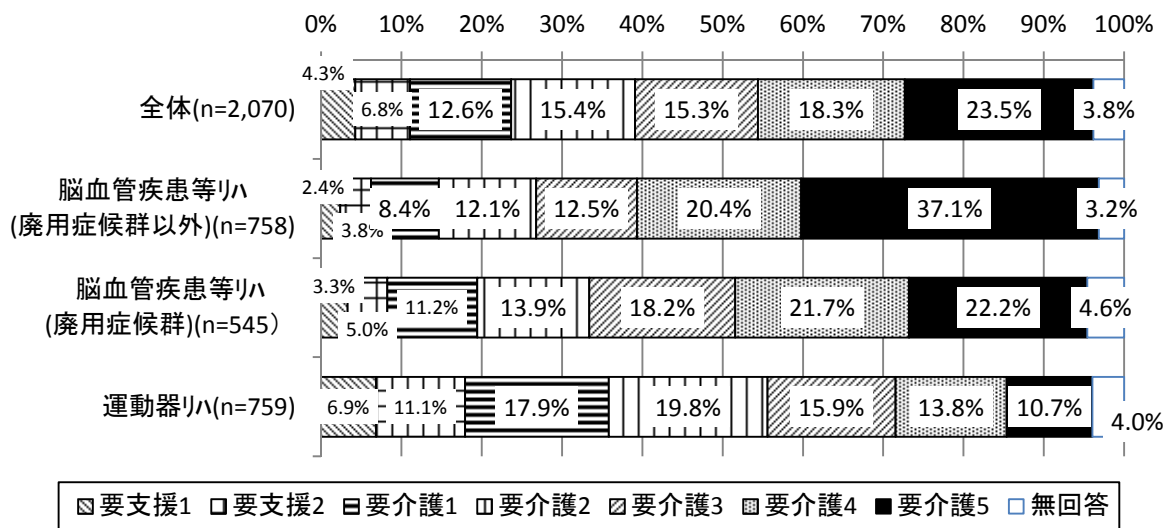
(要介護認定を受けている場合)

a 要介護度

【入院患者】

要介護認定を受けている「入院患者」の要介護度についてみると、「全体」、「脳血管疾患等リハ(廃用症候群)」、「運動器リハ」では、あまり偏りは見られなかった。「全体」、「脳血管疾患等リハ(廃用症候群以外)」、「脳血管疾患等リハ(廃用症候群)」では「要介護5」が最も多く、それぞれ23.5%、37.1%、22.2%であった。「運動器リハ」では「要介護2」が19.8%と最も高かった。

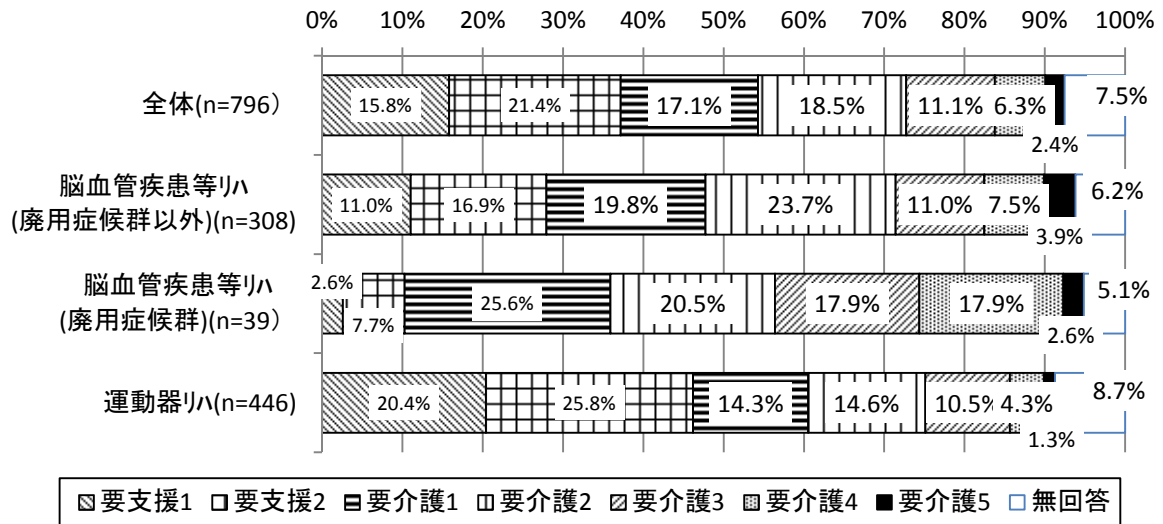
図表 184 要介護度【入院患者】



【外来患者】

要介護認定を受けている「外来患者」の要介護度についてみると、「全体」、「運動器リハ」では「要支援2」が最も高く、それぞれ21.4%、25.8%であった。「脳血管疾患等リハ（廃用症候群以外）」では「要介護2」が23.7%で最も高かった。「脳血管疾患等リハ（廃用症候群）」では「要介護1」が25.6%で最も高かった。

図表 185 要介護度【外来患者】



② 患者の状況とリハビリテーションの実施状況等

1) リハビリテーションを受ける原因となった傷病名

【入院患者】

「入院患者」のリハビリテーションを受ける原因となった傷病名についてみると、「全体」では「骨折」、「脳梗塞」がそれぞれ17.9%、17.8%と高かった。

「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）」では「脳梗塞」（44.1%）が最も高かった。「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）」では「肺炎」（24.7%）が最も高かった。「運動器リハ」では「骨折」（42.0%）が最も高かった。

図表 186 リハビリテーションを受ける原因となった傷病名（上位7つまで）【入院患者】

	合計	骨折	脳梗塞	脳内出血	関節症	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	肺炎	脊椎障害（脊椎症を含む）
全体	4,207 100.0%	752 17.9%	750 17.8%	242 5.8%	260 6.2%	221 5.3%	214 5.1%	199 4.7%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群以外)	1,616 100.0%	2 0.1%	712 44.1%	228 14.1%	0 0.0%	7 0.4%	8 0.5%	31 1.9%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群)	817 100.0%	12 1.5%	27 3.3%	11 1.3%	2 0.2%	32 3.9%	202 24.7%	6 0.7%
運動器リハビリテーション料	1,756 100.0%	737 42.0%	7 0.4%	3 0.2%	257 14.6%	178 10.1%	4 0.2%	160 9.1%

図表 187 リハビリテーションを受ける原因となった傷病名【入院患者】

	腸管感染症	ウイルス肝炎	その他のウイルス疾患	真菌症	感染症及び寄生虫症の続発・後遺症	その他の感染症及び寄生虫症	胃の悪性新生物	結腸の悪性新生物
全体	1 0.0%	1 0.0%	2 0.0%	1 0.0%	1 0.0%	12 0.3%	12 0.3%	7 0.2%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群以外)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.1%	0 0.0%	0 0.0%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群)	1 0.1%	0 0.0%	1 0.1%	1 0.1%	1 0.1%	11 1.3%	11 1.3%	6 0.7%
運動器リハビリテーション料	0 0.0%	1 0.1%	1 0.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.1%	1 0.1%

	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物	肝及び肝内胆管の悪性新生物	気管、気管支及び肺の悪性新生物	乳房の悪性新生物	子宮の悪性新生物	悪性リンパ腫	白血病	その他の悪性新生物
全体	17 0.4%	7 0.2%	6 0.1%	7 0.2%	3 0.1%	11 0.3%	4 0.1%	56 1.3%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群以外)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 0.1%	1 0.1%	3 0.2%	0 0.0%	21 1.3%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群)	17 2.1%	7 0.9%	6 0.7%	4 0.5%	1 0.1%	6 0.7%	4 0.5%	23 2.8%
運動器リハビリテーション料	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.1%	1 0.1%	2 0.1%	0 0.0%	12 0.7%

	良性新生物及びその他の新生物	貧血	その他の血液及び造血管の疾患並びに免疫機構の障害	糖尿病	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	血管性及び詳細不明の認知症	気分[感情]障害(躁うつ病を含む)	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害
全体	4 0.1%	2 0.0%	8 0.2%	17 0.4%	19 0.5%	5 0.1%	3 0.1%	1 0.0%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群以外)	1 0.1%	0 0.0%	1 0.1%	3 0.2%	1 0.1%	1 0.1%	0 0.0%	0 0.0%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群)	1 0.1%	2 0.2%	4 0.5%	10 1.2%	16 2.0%	3 0.4%	3 0.4%	1 0.1%
運動器リハビリテーション料	2 0.1%	0 0.0%	3 0.2%	4 0.2%	2 0.1%	1 0.1%	0 0.0%	0 0.0%

	その他の精神及び行動の障害	パーキンソン病	アルツハイマー病	てんかん	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	自律神経系の障害	その他の神経系の疾患	メニエール病
全体	2 0.0%	133 3.2%	4 0.1%	10 0.2%	49 1.2%	3 0.1%	152 3.6%	1 0.0%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群以外)	1 0.1%	117 7.2%	1 0.1%	6 0.4%	44 2.7%	2 0.1%	134 8.3%	0 0.0%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群)	1 0.1%	11 1.3%	2 0.2%	4 0.5%	0 0.0%	1 0.1%	13 1.6%	1 0.1%
運動器リハビリテーション料	0 0.0%	4 0.2%	1 0.1%	0 0.0%	5 0.3%	0 0.0%	3 0.2%	0 0.0%

	高血圧性疾患	虚血性心疾患	その他の心疾患	くも膜下出血	脳内出血	脳梗塞	脳動脈硬化(症)	その他の脳血管疾患
全体	4 0.1%	27 0.6%	42 1.0%	74 1.8%	242 5.8%	750 17.8%	2 0.0%	104 2.5%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群以外)	0 0.0%	1 0.1%	0 0.0%	72 4.5%	228 14.1%	712 44.1%	1 0.1%	87 5.4%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群)	4 0.5%	25 3.1%	39 4.8%	2 0.2%	11 1.3%	27 3.3%	0 0.0%	17 2.1%
運動器リハビリテーション料	0 0.0%	1 0.1%	3 0.2%	0 0.0%	3 0.2%	7 0.4%	1 0.1%	0 0.0%

	動脈硬化(症)	低血圧(症)	その他の循環器系の疾患	肺炎	急性気管支炎及び急性細気管支炎	急性又は慢性と明示されない気管支炎	慢性閉塞性肺疾患	喘息
全体	1 0.0%	1 0.0%	32 0.8%	214 5.1%	5 0.1%	2 0.0%	6 0.1%	2 0.0%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群以外)	0 0.0%	0 0.0%	8 0.5%	8 0.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群)	0 0.0%	1 0.1%	22 2.7%	202 24.7%	5 0.6%	2 0.2%	6 0.7%	2 0.2%
運動器リハビリテーション料	1 0.1%	0 0.0%	2 0.1%	4 0.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

	その他の呼吸器系の疾患	胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	胃炎及び十二指腸炎	アルコール性肝疾患	肝硬変(アルコール性のものを除く)	その他の肝疾患	胆石症及び胆のう炎	隣疾患
全体	17 0.4%	11 0.3%	3 0.1%	1 0.0%	8 0.2%	6 0.1%	16 0.4%	2 0.0%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群以外)	1 0.1%	1 0.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群)	16 2.0%	10 1.2%	3 0.4%	1 0.1%	6 0.7%	5 0.6%	15 1.8%	2 0.2%
運動器リハビリテーション料	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 0.1%	1 0.1%	1 0.1%	0 0.0%

	その他の消化器系の疾患	皮膚及び皮下組織の感染症	皮膚炎及び湿疹	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	炎症性多発性関節障害	関節症	脊椎障害(脊椎症を含む)	椎間板障害
全体	37 0.9%	7 0.2%	2 0.0%	12 0.3%	51 1.2%	260 6.2%	199 4.7%	30 0.7%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群以外)	1 0.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.1%	0 0.0%	31 1.9%	4 0.2%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群)	33 4.0%	6 0.7%	2 0.2%	9 1.1%	3 0.4%	2 0.2%	6 0.7%	1 0.1%
運動器リハビリテーション料	3 0.2%	1 0.1%	0 0.0%	3 0.2%	47 2.7%	257 14.6%	160 9.1%	25 1.4%

	腰痛症及び坐骨神経痛	その他の脊柱障害	肩の傷害<損傷>	骨の密度及び構造の障害	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	糸球体疾患及び腎尿細管間質性疾患	腎不全	尿路結石症
全体	25 0.6%	50 1.2%	45 1.1%	81 1.9%	221 5.3%	2 0.0%	25 0.6%	2 0.0%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群以外)	1 0.1%	7 0.4%	0 0.0%	0 0.0%	7 0.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群)	3 0.4%	4 0.5%	4 0.5%	0 0.0%	32 3.9%	2 0.2%	20 2.4%	2 0.2%
運動器リハビリテーション料	21 1.2%	39 2.2%	41 2.3%	81 4.6%	178 10.1%	0 0.0%	5 0.3%	0 0.0%

	その他の腎尿路系の疾患	前立腺肥大(症)	その他の男性生殖器の疾患	心臓の先天奇形	その他の先天奇形、変形及び染色体異常	症状、徴候及び異常所見等で他に分類されないもの	骨折	頭蓋内損傷及び内臓の損傷
全体	21 0.5%	1 0.0%	1 0.0%	1 0.0%	3 0.1%	28 0.7%	752 17.9%	49 1.2%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群以外)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 0.1%	1 0.1%	2 0.1%	45 2.8%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群)	19 2.3%	1 0.1%	1 0.1%	1 0.1%	0 0.0%	22 2.7%	12 1.5%	3 0.4%
運動器リハビリテーション料	2 0.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.1%	5 0.3%	737 42.0%	1 0.1%

	熱傷及び腐食	中毒	その他の損傷及びその他の外因の影響	無回答
全体	7 0.2%	2 0.0%	63 1.5%	97 2.3%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群以外)	0 0.0%	2 0.1%	15 0.9%	38 2.4%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群)	3 0.4%	0 0.0%	8 1.0%	22 2.7%
運動器リハビリテーション料	4 0.2%	0 0.0%	39 2.2%	35 2.0%

【外来患者】

「外来患者」のリハビリテーションを受ける原因となった傷病名についてみると、「全体」では「関節症」が16.9%と高かった。

「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）」、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）」では「脳梗塞」がそれぞれ35.4%、33.8%と最も高かった。「運動器リハビリテーション料」では「関節症」（23.0%）が最も高かった。

図表 188 リハビリテーションを受ける原因となった傷病名（上位7位まで）【外来患者】

	合計	関節症	骨折	脊椎障害(脊椎症を含む)	脳梗塞	肩の傷害<損傷>	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	脳内出血
全体	3,352 100.0%	567 16.9%	448 13.4%	360 10.7%	318 9.5%	252 7.5%	234 7.0%	143 4.3%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群以外)	824 100.0%	1 0.1%	5 0.6%	17 2.1%	292 35.4%	1 0.1%	10 1.2%	136 16.5%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群)	65 100.0%	0 0.0%	1 1.5%	2 3.1%	22 33.8%	1 1.5%	1 1.5%	4 6.2%
運動器リハビリテーション料	2,439 100.0%	561 23.0%	438 18.0%	338 13.9%	4 0.2%	246 10.1%	222 9.1%	3 0.1%

図表 189 リハビリテーションを受ける原因となった傷病名【外来患者】

	その他の感染症及び寄生虫症	胃の悪性新生物	乳房の悪性新生物	子宮の悪性新生物	その他の悪性新生物	良性新生物及びその他の新生物	その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	甲状腺障害
全体	1 0.0%	1 0.0%	1 0.0%	1 0.0%	8 0.2%	4 0.1%	1 0.0%	2 0.1%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群以外)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 0.7%	4 0.5%	1 0.1%	2 0.2%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群)	1 1.5%	1 1.5%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
運動器リハビリテーション料	0 0.0%	0 0.0%	1 0.0%	1 0.0%	1 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

	知的障害<精神遅滞>	その他の精神及び行動の障害	パーキンソン病	てんかん	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	自律神経系の障害	その他の神経系の疾患	その他の内耳疾患
全体	7 0.2%	12 0.4%	77 2.3%	1 0.0%	46 1.4%	1 0.0%	110 3.3%	1 0.0%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群以外)	7 0.8%	12 1.5%	71 8.6%	1 0.1%	41 5.0%	0 0.0%	93 11.3%	0 0.0%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群)	0 0.0%	0 0.0%	3 4.6%	0 0.0%	1 1.5%	0 0.0%	3 4.6%	1 1.5%
運動器リハビリテーション料	0 0.0%	0 0.0%	3 0.1%	0 0.0%	4 0.2%	1 0.0%	14 0.6%	0 0.0%

	高血圧性疾患	その他の心疾患	くも膜下出血	脳内出血	脳梗塞	その他の脳血管疾患	動脈硬化(症)	その他の循環器系の疾患
全体	1 0.0%	1 0.0%	25 0.7%	143 4.3%	318 9.5%	30 0.9%	4 0.1%	5 0.1%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群以外)	0 0.0%	0 0.0%	23 2.8%	136 16.5%	292 35.4%	27 3.3%	0 0.0%	4 0.5%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群)	1 1.5%	1 1.5%	0 0.0%	4 6.2%	22 33.8%	3 4.6%	0 0.0%	0 0.0%
運動器リハビリテーション料	0 0.0%	0 0.0%	2 0.1%	3 0.1%	4 0.2%	0 0.0%	4 0.2%	1 0.0%

	肺炎	急性気管支炎及び急性細気管支炎	慢性閉塞性肺疾患	その他の呼吸器系の疾患	胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	その他の肝疾患	その他の消化器系の疾患	その他の皮膚及び皮下組織の疾患
全体	4 0.1%	1 0.0%	2 0.1%	1 0.0%	1 0.0%	1 0.0%	1 0.0%	2 0.1%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群以外)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群)	4 6.2%	1 1.5%	1 1.5%	0 0.0%	1 1.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
運動器リハビリテーション料	0 0.0%	0 0.0%	1 0.0%	1 0.0%	0 0.0%	1 0.0%	1 0.0%	2 0.1%

	炎症性 多発性 関節障 害	関節症	脊椎障 害(脊椎 症を含 む)	椎間板 障害	頸腕症 候群	腰痛症 及び坐 骨神経 痛	その他 の脊柱 障害	肩の傷 害<損傷 >
全体	65 1.9%	567 16.9%	360 10.7%	87 2.6%	24 0.7%	112 3.3%	86 2.6%	252 7.5%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群以外)	0 0.0%	1 0.1%	17 2.1%	1 0.1%	1 0.1%	1 0.1%	4 0.5%	1 0.1%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群)	2 3.1%	0 0.0%	2 3.1%	3 4.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.5%
運動器リハビリテーション料	62 2.5%	561 23.0%	338 13.9%	81 3.3%	23 0.9%	110 4.5%	82 3.4%	246 10.1%

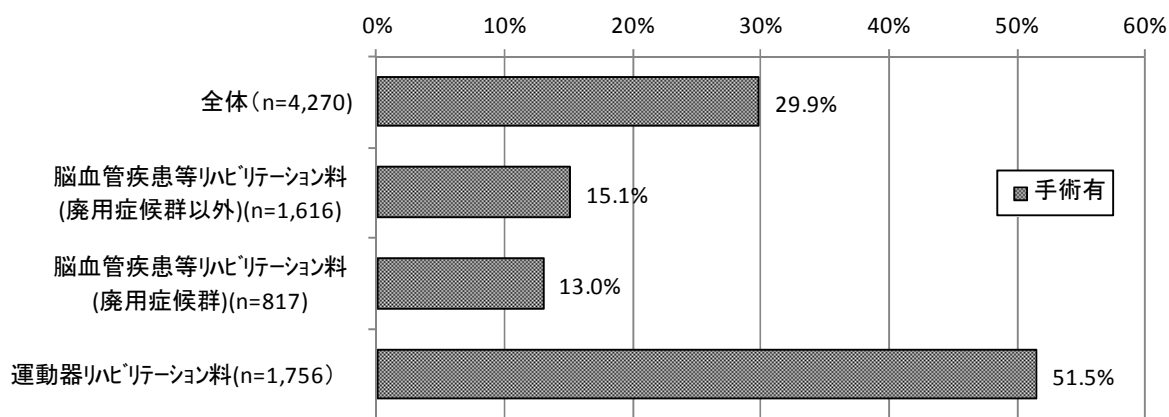
	骨の密 度及び 構造の 障害	その他 の筋骨 格系及 び結合 組織の 疾患	糸球体 疾患及 び腎尿 細管間 質性疾 患	腎不全	乳房及 びその 他の女 性生殖 器の疾 患	妊娠及 び胎児 発育に 関連す る障害	その他 の先天 奇形、変 形及び 染色体 異常
全体	78 2.3%	234 7.0%	1 0.0%	1 0.0%	1 0.0%	7 0.2%	3 0.1%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群以外)	0 0.0%	10 1.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	7 0.8%	2 0.2%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群)	0 0.0%	1 1.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
運動器リハビリテーション料	78 3.2%	222 9.1%	1 0.0%	1 0.0%	1 0.0%	0 0.0%	1 0.0%

2) 手術の有無

【入院患者】

「入院患者」における手術の有無についてみると、「全体」では「手術有」が 29.9%であった。「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）」、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）」では、「手術有」がそれぞれ 15.1%、13.0%であった。「運動器リハビリテーション料」では 51.5%と「手術有」が半数近くを占めた。

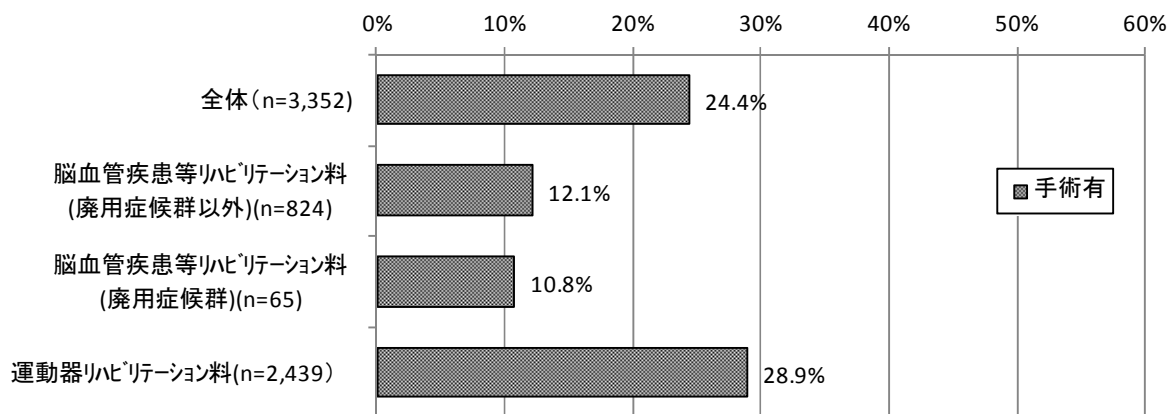
図表 190 手術有【入院患者】



【外来患者】

「外来患者」における手術の有無についてみると、「全体」、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）」、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）」、「運動器リハビリテーション料」では「手術有」がそれぞれ 24.4%、12.1%、10.8%、28.9%であった。

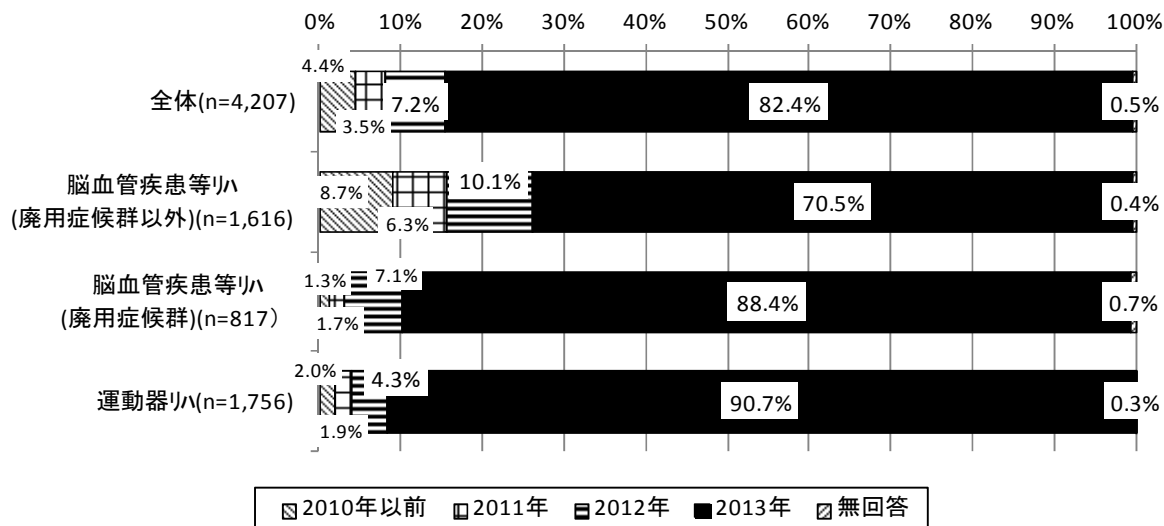
図表 191 手術有【外来患者】



3) 入院日（入院患者のみ）

「入院患者」における入院日についてみると、「全体」、「脳血管疾患等リハ（廃用症候群以外）」、「脳血管疾患等リハ（廃用症候群）」、「運動器リハ」では「2013年」がそれぞれ82.4%、70.5%、88.4%、90.7%であり、全ての場合で7割以上を占めた。一方で、「脳血管疾患等リハ（廃用症候群以外）」では2012年以前が25.1%であった。

図表 192 入院日【入院患者】

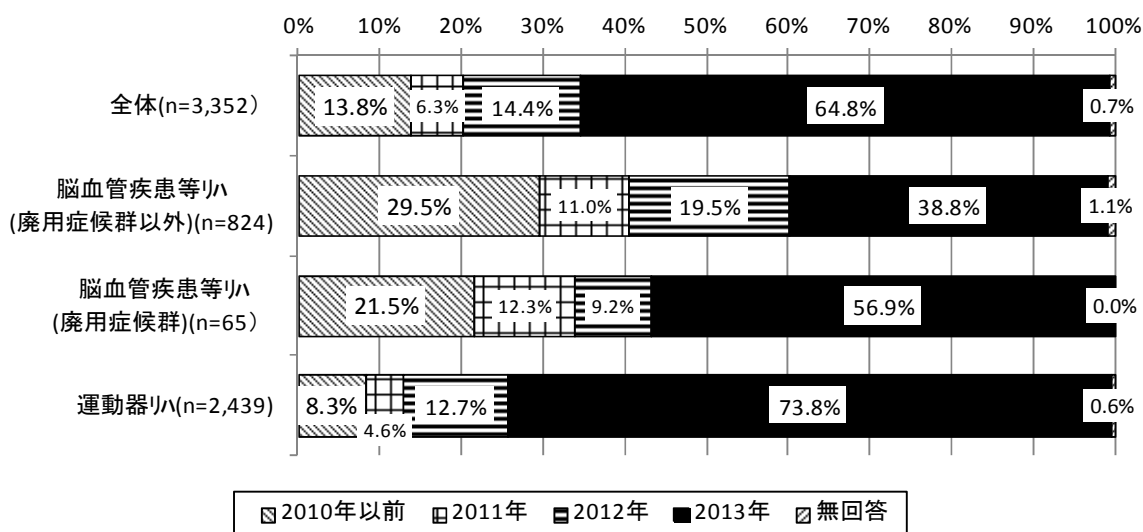


4) 通院等の状況（外来患者のみ）

a 外来でのリハビリ開始日（外来患者のみ）

「外来患者」における外来でのリハビリ開始日についてみると、「全体」、「脳血管疾患等リハ（廃用症候群）」、「運動器リハ」では「2013年」がそれぞれ64.8%、56.9%、73.8%と比較的最近が多かった。「脳血管疾患等リハ（廃用症候群以外）」では「2013年」が38.8%で最も多いものの、「2010年以前」も29.5%と3割近くを占めた。

図表 193 外来でのリハビリ開始日【外来患者】



b 通院回数とリハビリテーション実施回数（平成 25 年 7 月分）

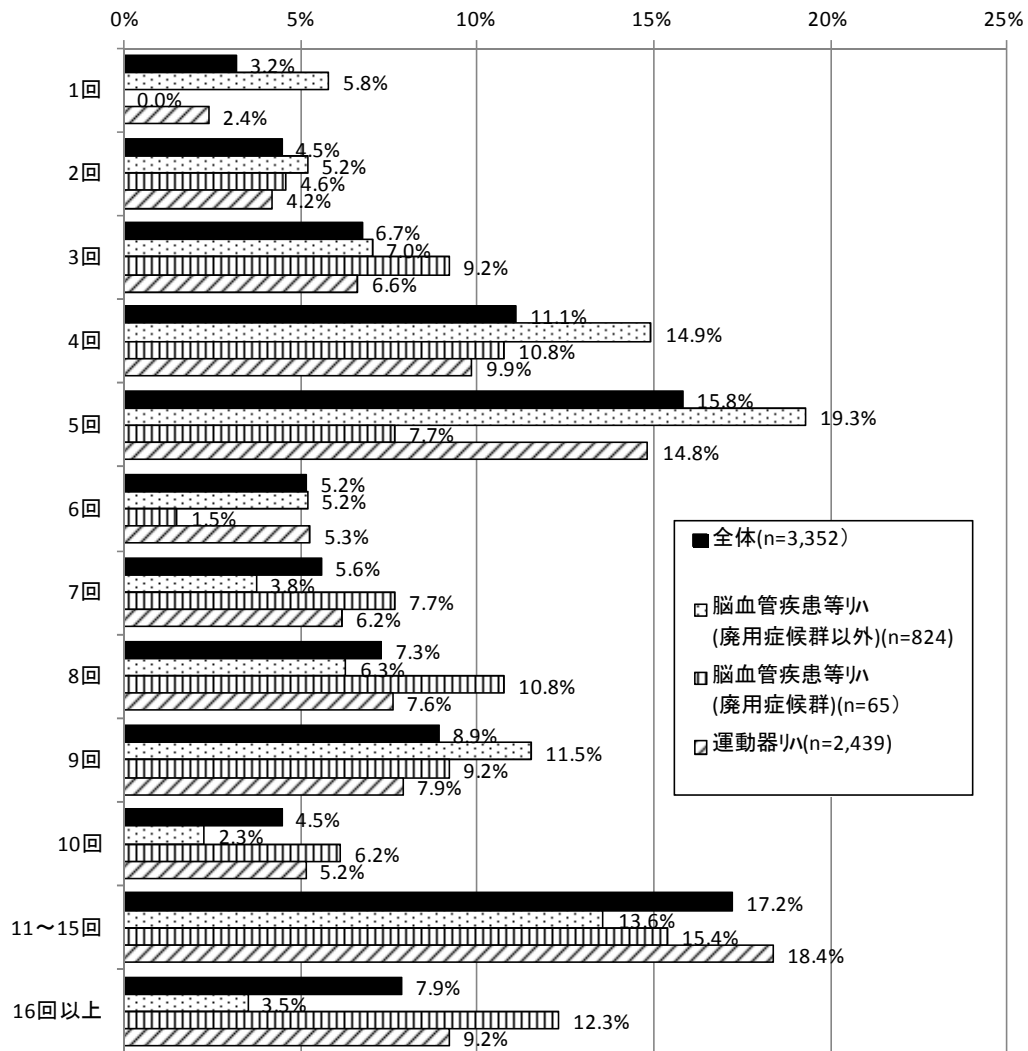
平成 25 年 7 月分の外来患者の通院回数をみると、「全体」では平均 8.1 回（標準偏差 5.1、中央値 7.0）、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）」では平均 6.8 回（標準偏差 4.4、中央値 5.0）、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）」では平均 9.0 回（標準偏差 5.7、中央値 8.0）、「運動器リハビリテーション料」では平均 8.4 回（標準偏差 5.3、中央値 7.0）であった。

図表 194 通院回数【外来患者】

（単位：回）

	件数	平均値	標準偏差	中央値
全体	3,282	8.1	5.1	7.0
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群以外)	812	6.8	4.4	5.0
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群)	62	9.0	5.7	8.0
運動器リハビリテーション料	2,385	8.4	5.3	7.0

図表 195 通院回数【外来患者】



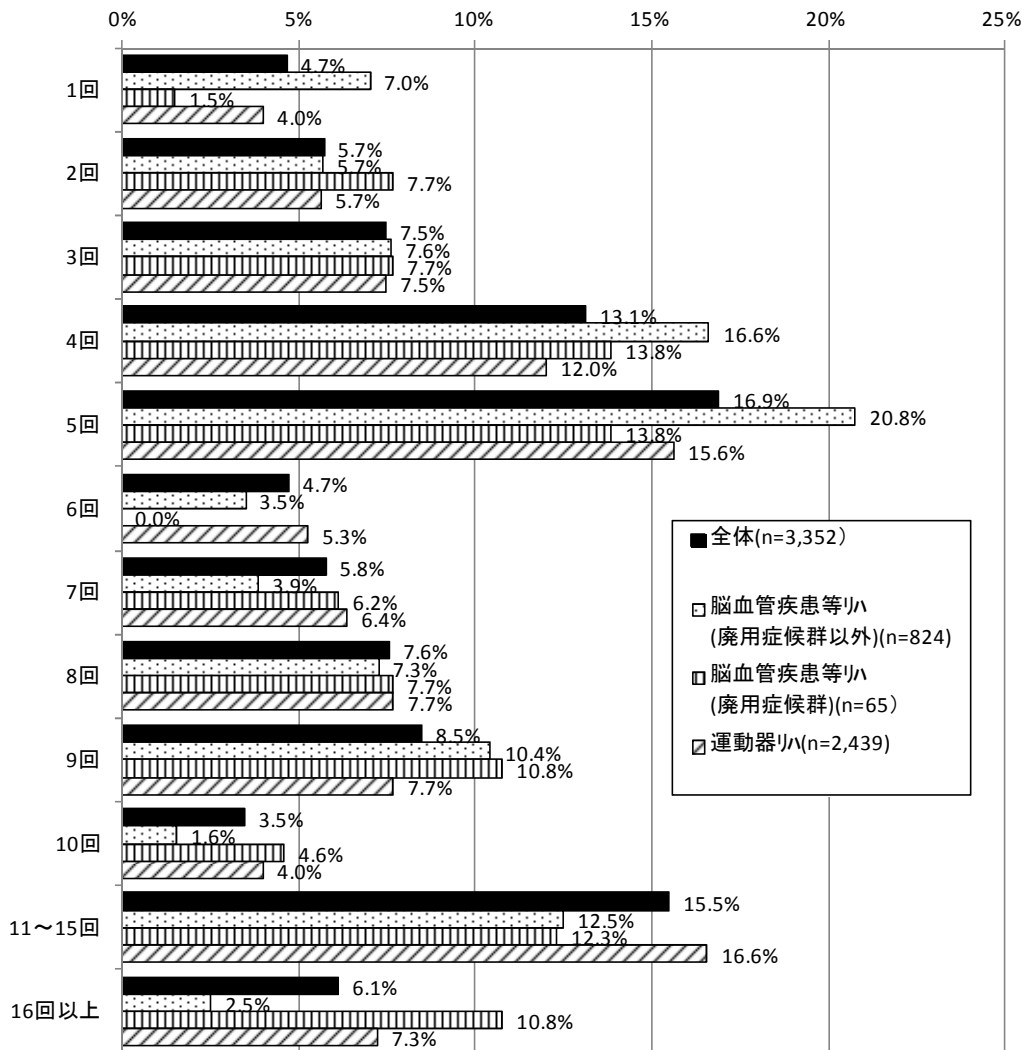
外来患者のリハビリテーション実施回数をみると、「全体」では平均7.4回（標準偏差4.9、中央値6.0）、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）」では平均6.4回（標準偏差4.1、中央値5.0）、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）」では平均8.1回（標準偏差5.6、中央値7.0）、「運動器リハビリテーション料」では平均7.7回（標準偏差5.0、中央値6.0）であった。

図表 196 リハビリテーション実施回数【外来患者】

(単位：回)

	件数	平均値	標準偏差	中央値
全体	3,340	7.4	4.9	6.0
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群以外)	820	6.4	4.1	5.0
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群)	63	8.1	5.6	7.0
運動器リハビリテーション料	2,433	7.7	5.0	6.0

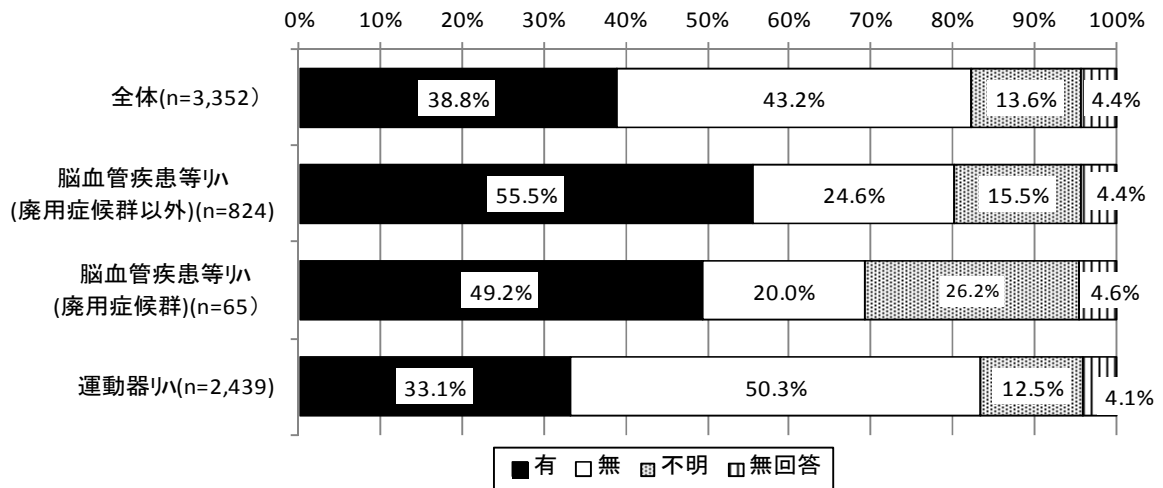
図表 197 リハビリテーション実施回数【外来患者】



c 通院前の入院医療の有無

「外来患者」における通院前の入院医療の有無についてみると、「有」が「全体」では 38.8%、「脳血管疾患等リハ(廃用症候群以外)」では 55.5%、「脳血管疾患等リハ(廃用症候群)」では 49.2%、「運動器リハ」では 33.1%であった。

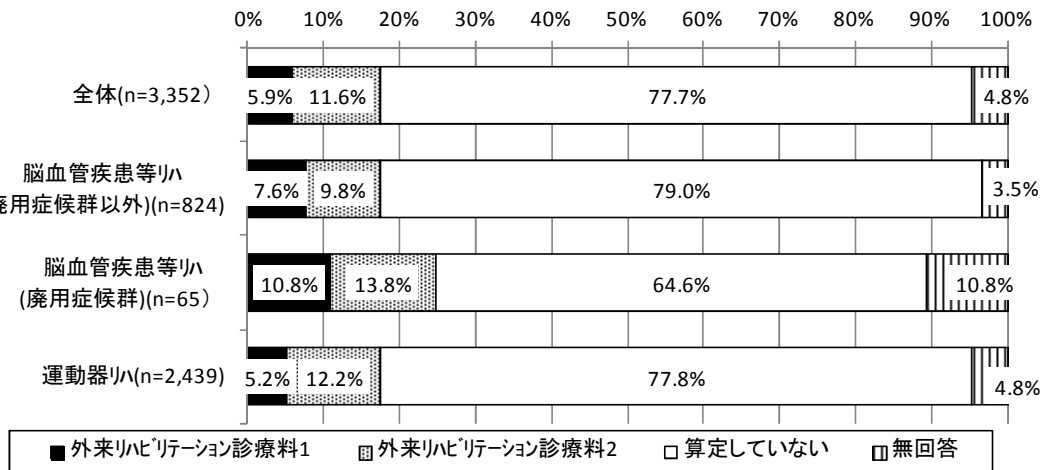
図表 198 通院前の入院医療の有無【外来患者】



5) 外来リハビリテーション診療料の算定状況

外来リハビリテーション診療料の算定状況を見ると、「全体」、「脳血管疾患等リハ（廃用症候群以外）」、「脳血管疾患等リハ（廃用症候群）」、「運動器リハ」で「算定していない」がそれぞれ77.7%、79.0%、64.6%、77.8%であった。

図表 199 外来リハビリテーション診療料の算定状況【外来患者】

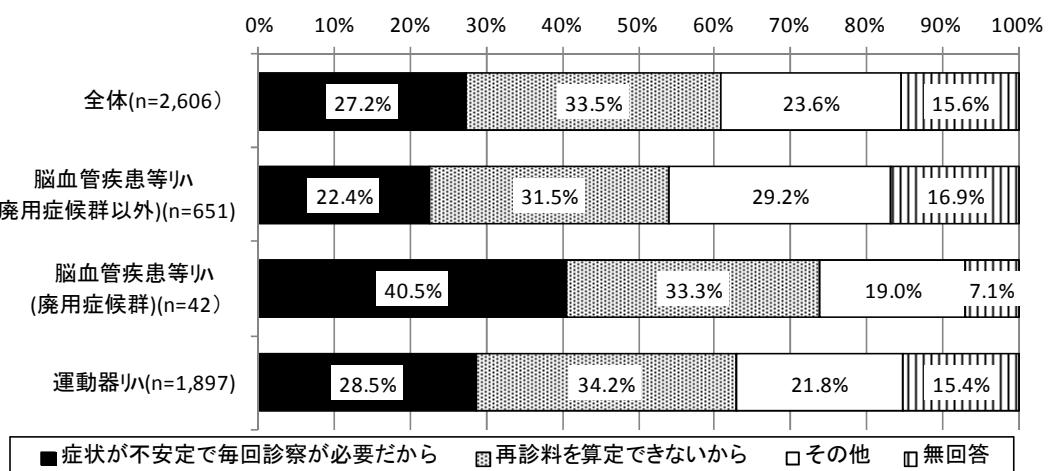


(算定していない場合)

a 算定していない理由

「外来患者」における外来リハビリテーション料を算定していない理由についてみると、「全体」、「脳血管疾患等リハ（廃用症候群以外）」、「運動器リハ」では「再診料を算定できないから」がそれぞれ33.5%、31.5%、34.2%で最も多く、次いで「症状が不安定で毎回診察が必要だから」がそれぞれ27.2%、22.4%、28.5%となった。「脳血管疾患等リハ（廃用症候群）」では「症状が不安定で毎回診察が必要だから」が40.5%で「再診料を算定できないから」(33.3%)よりも割合が高かった。

図表 200 算定していない理由【外来患者】



(注) 「その他」の内容として「医師による診察が毎回必要だから」、「多職種でのカンファレンスが困難」、「収入の面から」、「リハビリ回数が少ないため」、「届出をしていない」等が挙げられた。

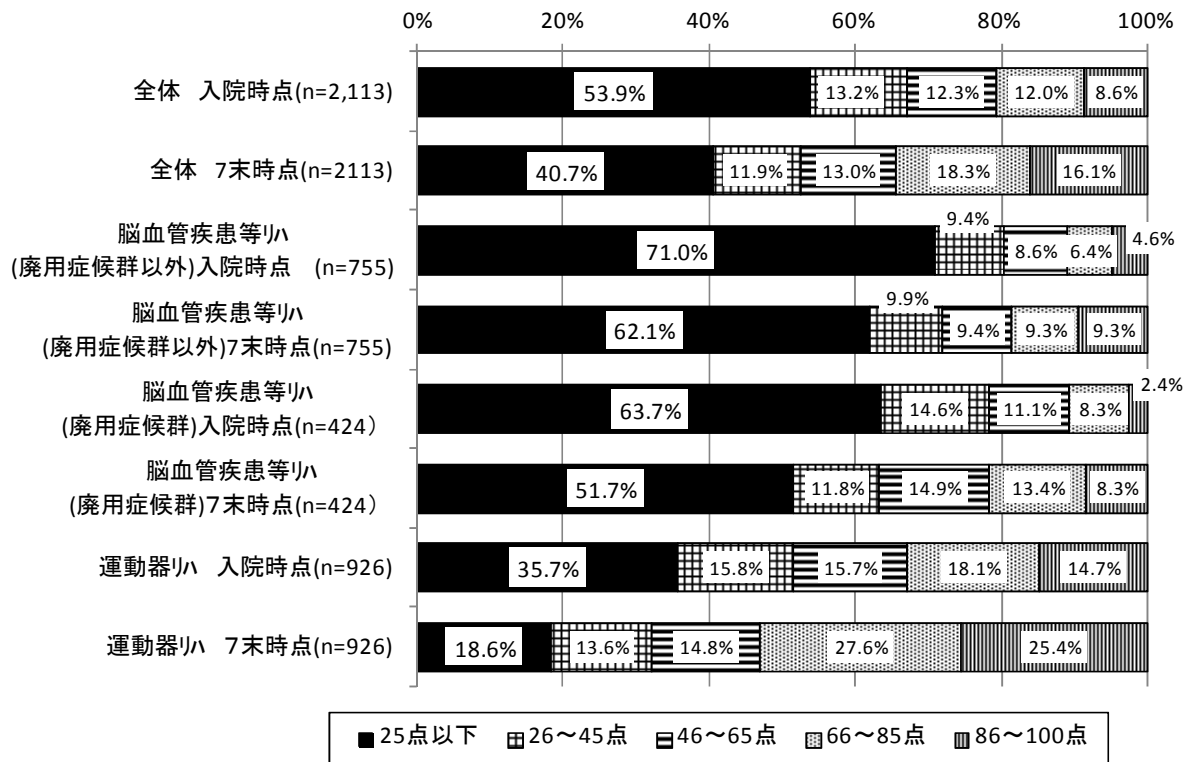
6) バーセル指数

【入院患者】

「入院患者」のバーセル指数について、「全体」、「脳血管疾患等リハ（廃用症候群以外）」、「脳血管疾患等リハ（廃用症候群）」のいずれの場合も、入院時点、7月末時点ともに「25点以下」が最も多かった。「運動器リハ」では入院時点では「25点以下」が35.7%で最も多かったが、7月末時点では「66～85点」が27.6%で最も多かった。

平均値で比べてみると、いずれも入院時点に比べて、平成25年7月末時点のほうが点数が高くなっている。

図表 201 バーセル指数【入院患者】



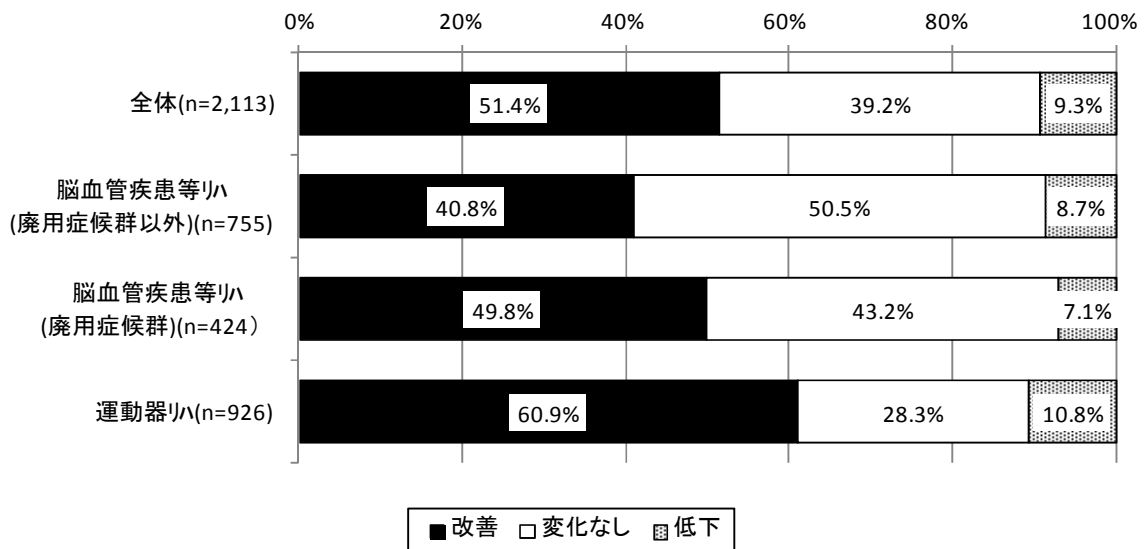
図表 202 バーセル指数【入院患者】

(単位：点)

	入院時点				平成25年7月末時点			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
全体	2,113	32.9	32.8	20.0	2,113	44.2	36.0	45.0
脳血管疾患等リハビリテーション料 (廃用症候群以外)	755	20.3	28.6	5.0	755	28.1	33.4	10.0
脳血管疾患等リハビリテーション料 (廃用症候群)	424	24.3	27.5	10.0	424	34.5	32.8	25.0
運動器リハビリテーション料	926	46.8	32.8	45.0	926	61.6	31.3	70.0

「入院患者」における入院時と比べた平成 25 年 7 月末時点のバーセル指数の変化をみると、「改善」の割合は「全体」では 51.4%、「脳血管疾患等リハ（廃用症候群以外）」では 40.8%、「脳血管疾患等リハ（廃用症候群）」では 49.8%、「運動器リハ」では 60.9%となった。他と比較して「改善」の割合は「運動器リハ」で比較的高く、「脳血管疾患等リハ（廃用症候群以外）」で比較的低かった。

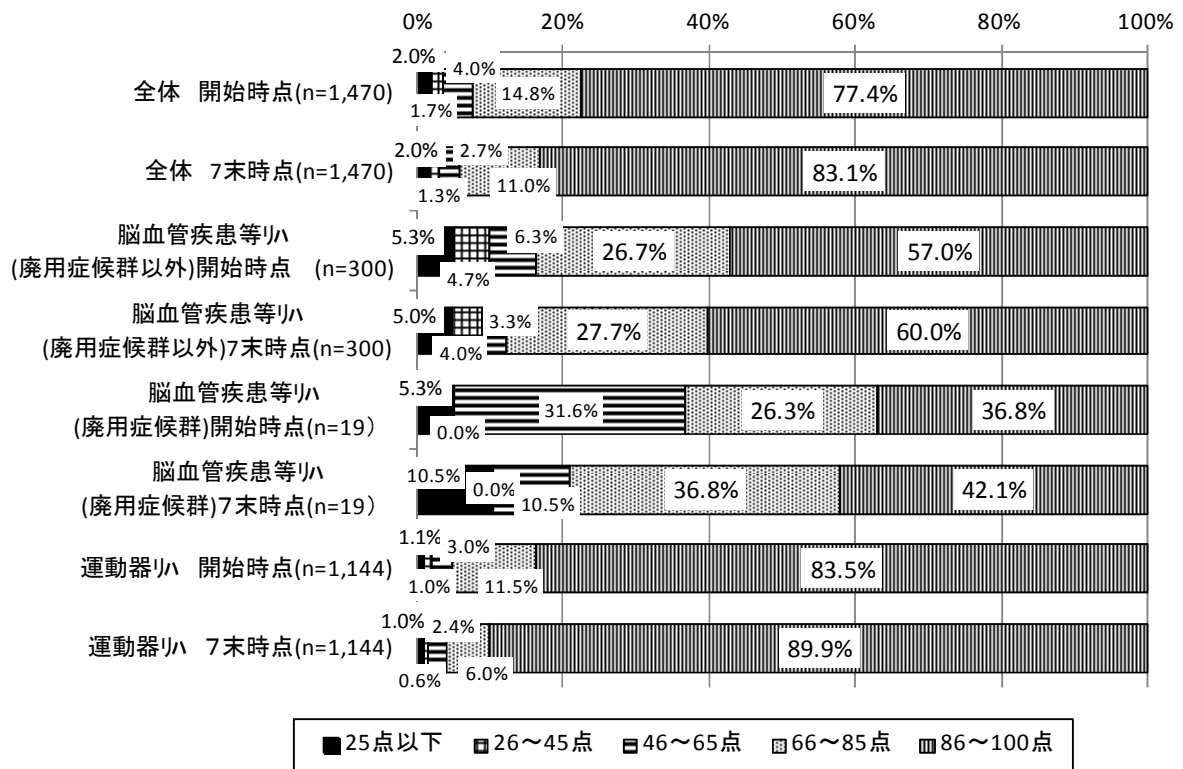
図表 203 バーセル指数の変化（入院時と比べた平成 25 年 7 月末時点）【入院患者】



【外来患者】

「外来患者」のバーセル指数についてみると、「全体」、「脳血管疾患等リハ（廃用症候群以外）」、「脳血管疾患等リハ（廃用症候群）」、「運動器リハ」のいずれの場合もリハ開始時点、7月末時点ともに「86～100点」が最も多かった。「脳血管疾患等リハ（廃用症候群以外）」、「脳血管疾患等リハ（廃用症候群）」では「66～85点」が比較的多く、「入院時点」で26.7%、26.3%、「7月末時点」で27.7%、36.8%であった。

図表 204 バーセル指数【外来患者】



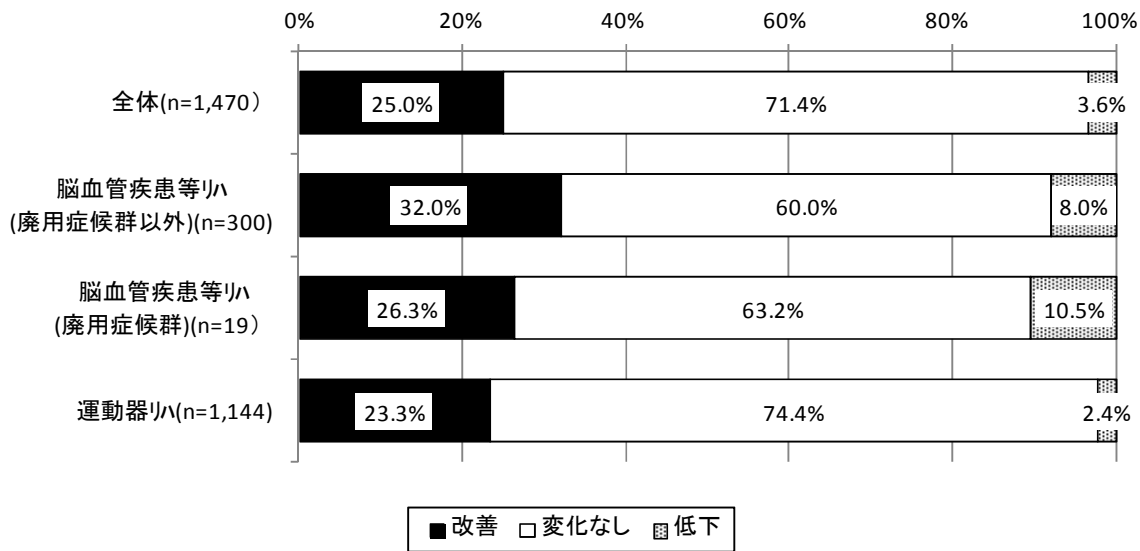
図表 205 バーセル指数【外来患者】

(単位：点)

	外来でのリハビリ開始時点				平成 25 年 7 月末日時点			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,470	90.6	17.3	100.0	1,470	92.6	16.3	100.0
脳血管疾患等リハビリテーション料 (廃用症候群以外)	300	82.0	24.5	90.0	300	84.3	23.3	90.0
脳血管疾患等リハビリテーション料 (廃用症候群)	19	76.6	21.4	80.0	19	76.1	27.0	80.0
運動器リハビリテーション料	1,144	93.1	13.8	100.0	1,144	95.1	12.7	100.0

「外来患者」におけるリハビリ開始時と比べた平成25年7月末時点のバーセル指数の変化をみると、「改善」の割合は「全体」では25.0%、「脳血管疾患等リハ（廃用症候群以外）」では32.0%、「脳血管疾患等リハ（廃用症候群）」では26.3%、「運動器リハ」では23.3%であった。いずれの場合も「変化なし」が71.4%、60.0%、63.2%、74.4%を占めており、「改善」を大きく上回った。

図表 206 バーセル指数の変化（リハビリ開始時と比べた平成25年7月末時点）【外来患者】

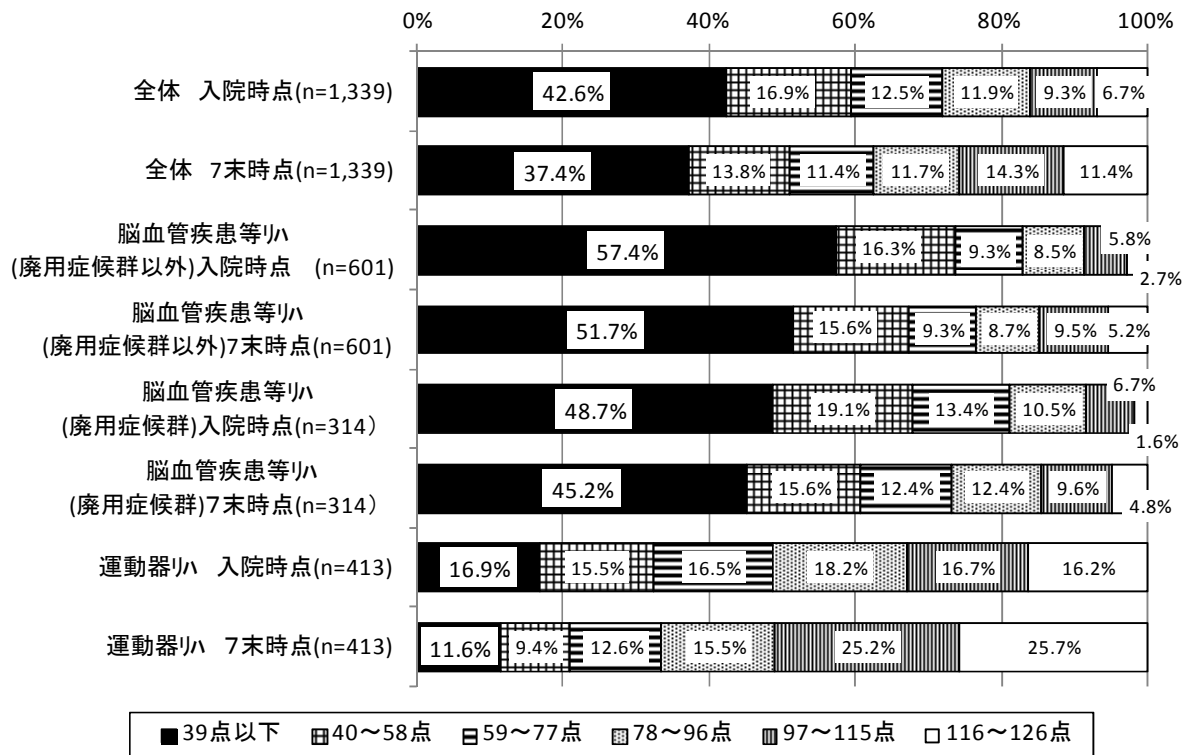


7) FIM 指数

【入院患者】

「入院患者」の FIM 指数についてみると、「全体」、「脳血管疾患等リハ（廃用症候群以外）」、「脳血管疾患等リハ（廃用症候群）」では「39 点以下」が最も多かった。「運動器リハ」ではいずれの時点も分散していた。

図表 207 FIM 指数【入院患者】



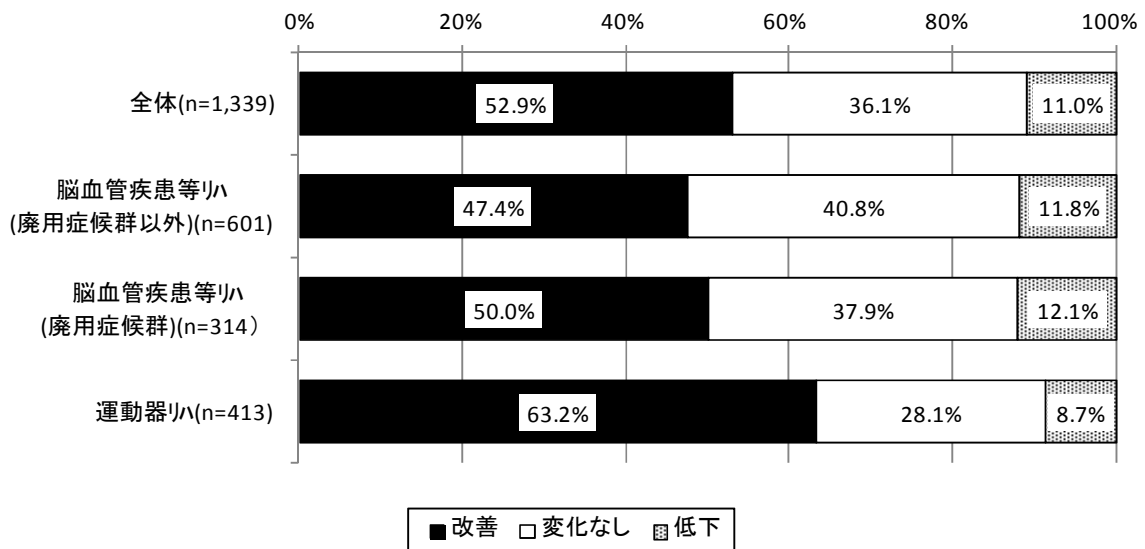
図表 208 FIM 指数（入院時点）【入院患者】

(単位：点)

	入院時点				平成 25 年 7 月末日時点			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,339	55.2	34.3	48.0	1,339	62.7	37.5	57.0
脳血管疾患等リハビリテーション料 (廃用症候群以外)	601	43.5	30.7	32.0	601	49.4	34.1	38.0
脳血管疾患等リハビリテーション料 (廃用症候群)	314	48.3	29.0	40.5	314	54.1	32.9	46.0
運動器リハビリテーション料	413	77.1	32.8	80.0	413	88.4	32.6	98.0

「入院患者」における入院時と比べた平成 25 年 7 月末時点の FIM 指数の変化をみると、「改善」の割合は「全体」では 52.9%、「脳血管疾患等リハ（廃用症候群以外）」では 47.4%、「脳血管疾患等リハ（廃用症候群）」では 50.0%、「運動器リハ」では 63.2%であった。いずれの場合も「改善」が半数近くを占めた。「運動器リハ」では「改善」が 63.2%と他と比べても高かった。

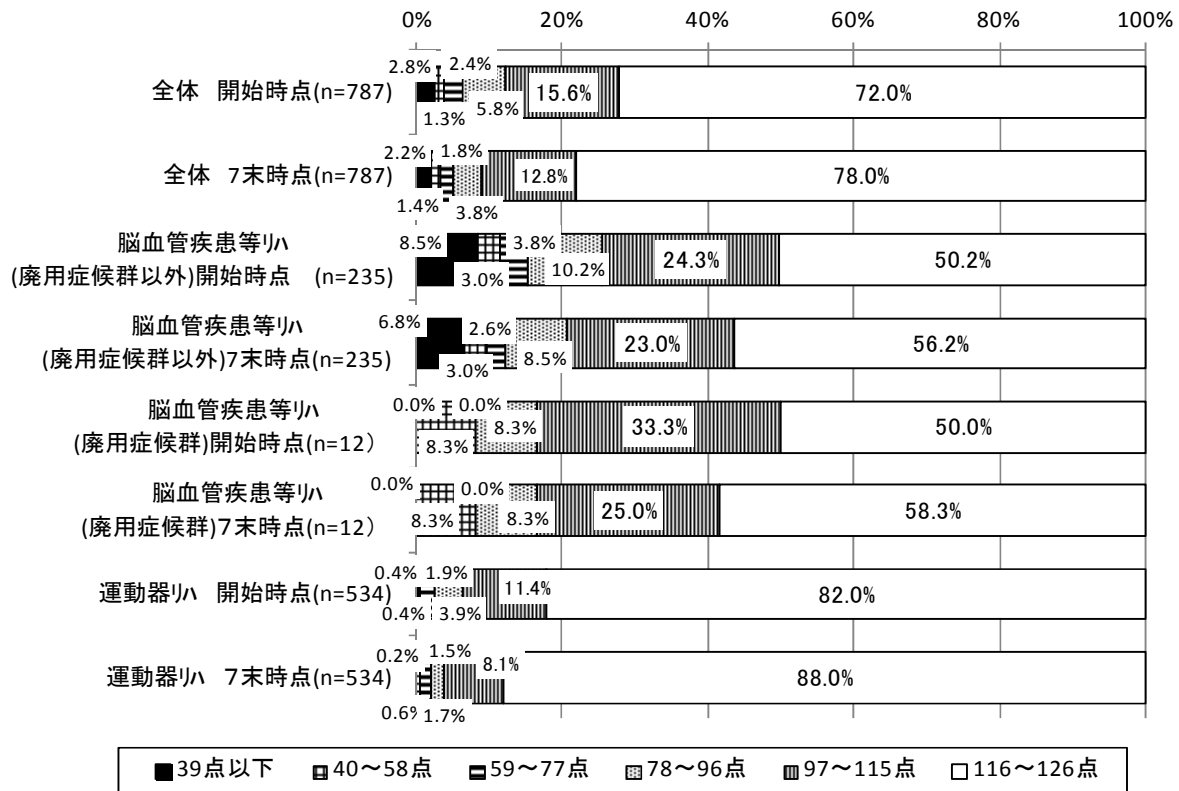
図表 209 FIM 指数の変化（入院時と比べた平成 25 年 7 月末時点）【入院患者】



【外来患者】

「外来患者」の FIM 指数についてみると、「全体」、「脳血管疾患等リハ（廃用症候群以外）」、「脳血管疾患等リハ（廃用症候群）」、「運動器リハ」で「116～126 点以下」が最も多かった。「脳血管疾患等リハ（廃用症候群以外）」、「脳血管疾患等リハ（廃用症候群）」では「97～115 点」の割合が比較的高く、それぞれ「入院時点」で 24.3%、33.3%、「7 月末時点」で 23.0%、25.0%であった。

図表 210 FIM 指数【外来患者】



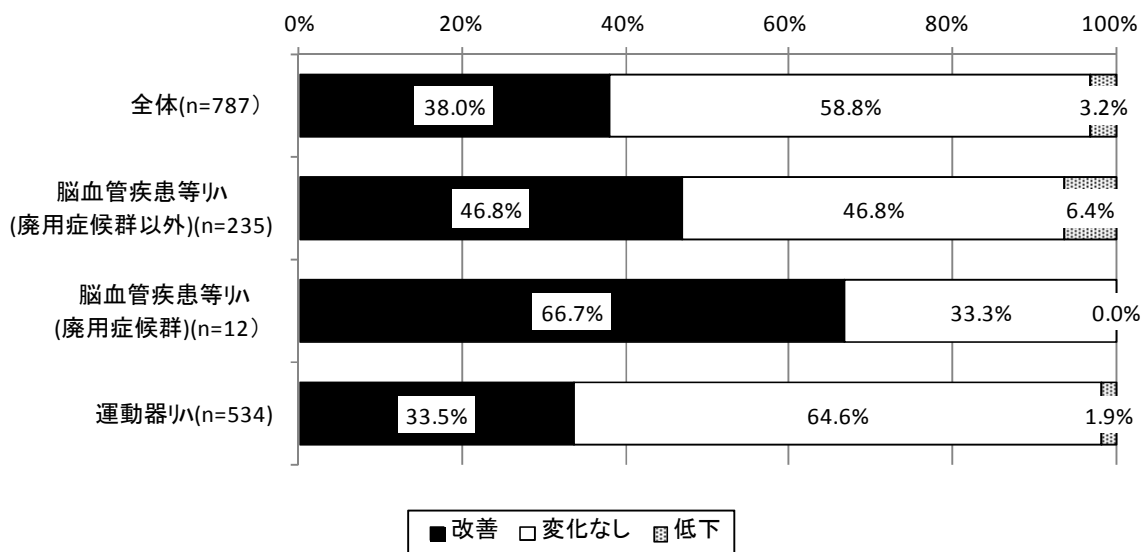
図表 211 FIM 指数【外来患者】

(単位：点)

	外来でのリハビリ開始時点				平成 25 年 7 月末日時点			
	件数	平均値	標準偏差	中央値	件数	平均値	標準偏差	中央値
全体	787	114.0	21.4	123.0	787	116.5	19.8	124.0
脳血管疾患等リハビリテーション料 (廃用症候群以外)	235	102.4	30.2	116.0	235	105.8	28.5	117.0
脳血管疾患等リハビリテーション料 (廃用症候群)	12	107.1	21.2	112.0	12	110.7	20.5	120.5
運動器リハビリテーション料	534	119.3	13.2	124.0	534	121.3	11.6	126.0

「外来患者」におけるリハビリ開始時と比べた平成 25 年 7 月末時点の FIM 指数の変化をみると、「改善」の割合は「全体」では 38.0%、「脳血管疾患等リハ（廃用症候群以外）」では 46.8%、「脳血管疾患等リハ（廃用症候群）」では 66.7%、「運動器リハ」では 33.5%であった。「全体」、「運動器リハ」では「変化なし」が多く、それぞれ 58.8%、64.6%であった。「脳血管疾患等リハ（廃用症候群以外）」では「改善」と「変化なし」がそれぞれ 46.8%で同数であった。「脳血管疾患等リハ（廃用症候群）」では「改善」が多く、66.7%であった。

図表 212 FIM 指数の変化（リハビリ開始時と比べた平成 25 年 7 月末時点）【外来患者】

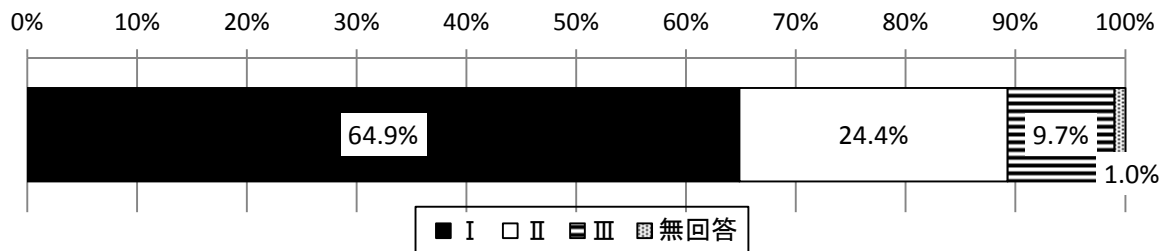


8) 疾患別リハビリテーション料の内容

【入院患者】

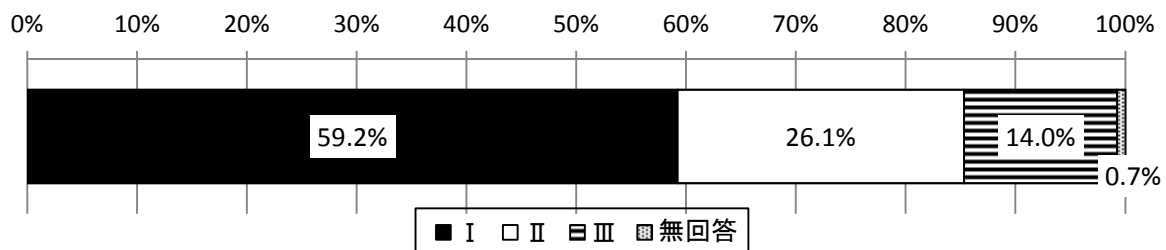
「入院患者」の疾患別リハビリテーションの内容についてみると、「脳血管疾患リハビリテーション料（廃用症候群以外）」では「Ⅰ」が64.9%と最も多く、次いで「Ⅱ」が24.4%であった。

図表 213 疾患別リハビリテーションの内容：脳血管疾患リハビリテーション料
（廃用症候群以外）【入院患者】（n=1,616）



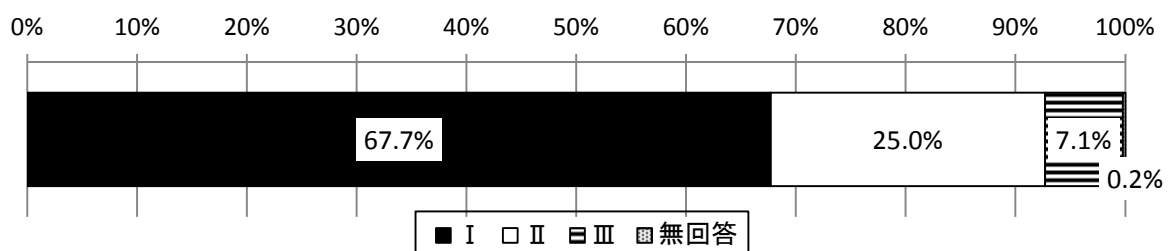
「入院患者」の疾患別リハビリテーションの内容についてみると、「脳血管疾患リハビリテーション料（廃用症候群）」では「Ⅰ」が59.2%と最も多く、次いで「Ⅱ」が26.1%であった。

図表 214 疾患別リハビリテーションの内容：脳血管疾患リハビリテーション料
（廃用症候群）【入院患者】（n=817）



「入院患者」の疾患別リハビリテーションの内容についてみると、「運動器リハビリテーション料」では「Ⅰ」が67.7%と最も多く、次いで「Ⅱ」が25.0%であった。

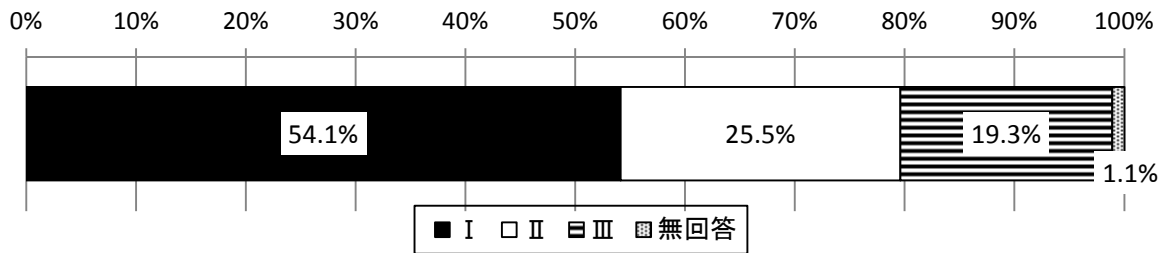
図表 215 疾患別リハビリテーションの内容：運動器リハビリテーション料【入院患者】（n=1,756）



【外来患者】

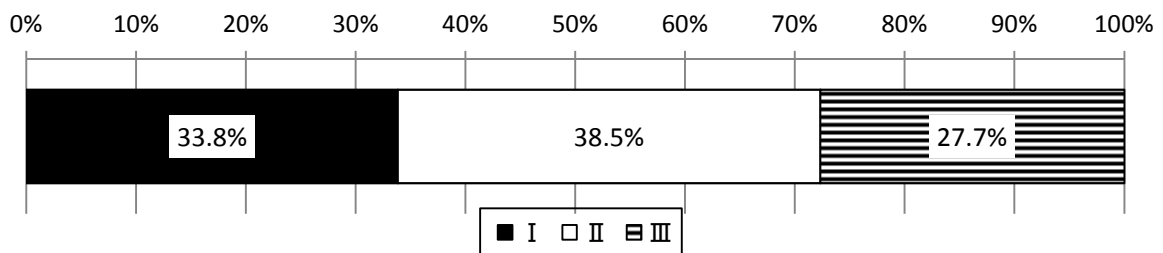
「外来患者」の疾患別リハビリテーションの内容についてみると、「脳血管疾患リハビリテーション料（廃用症候群以外）」では「Ⅰ」が54.1%と最も多く、次いで「Ⅱ」が25.5%であった。

図表 216 疾患別リハビリテーションの内容：脳血管疾患リハビリテーション料
（廃用症候群以外）【外来患者】（n=824）



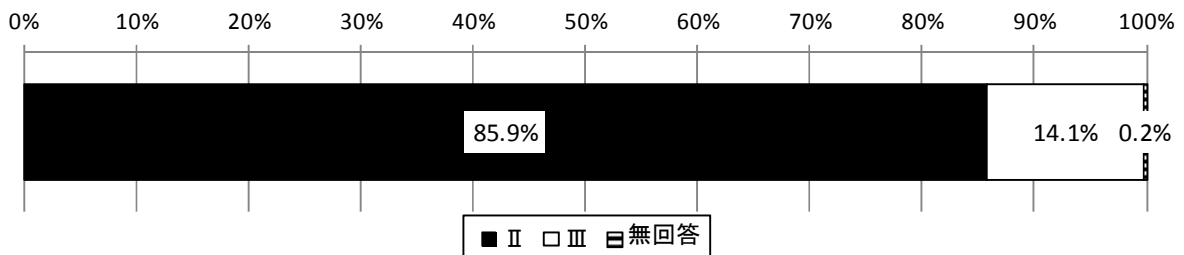
「外来患者」の疾患別リハビリテーションの内容についてみると、「脳血管疾患リハビリテーション料（廃用症候群）」では「Ⅰ」、「Ⅱ」、「Ⅲ」がほぼ同程度であった。

図表 217 疾患別リハビリテーションの内容：脳血管疾患リハビリテーション料
（廃用症候群）【外来患者】（n=65）



「外来患者」の疾患別リハビリテーションの内容についてみると、「運動器リハビリテーション料」では「Ⅱ」が85.9%を占めた。

図表 218 疾患別リハビリテーションの内容：運動器リハビリテーション料【外来患者】（n=2, 439）



9) 疾患別リハビリテーション料の提供単位数

【入院患者】

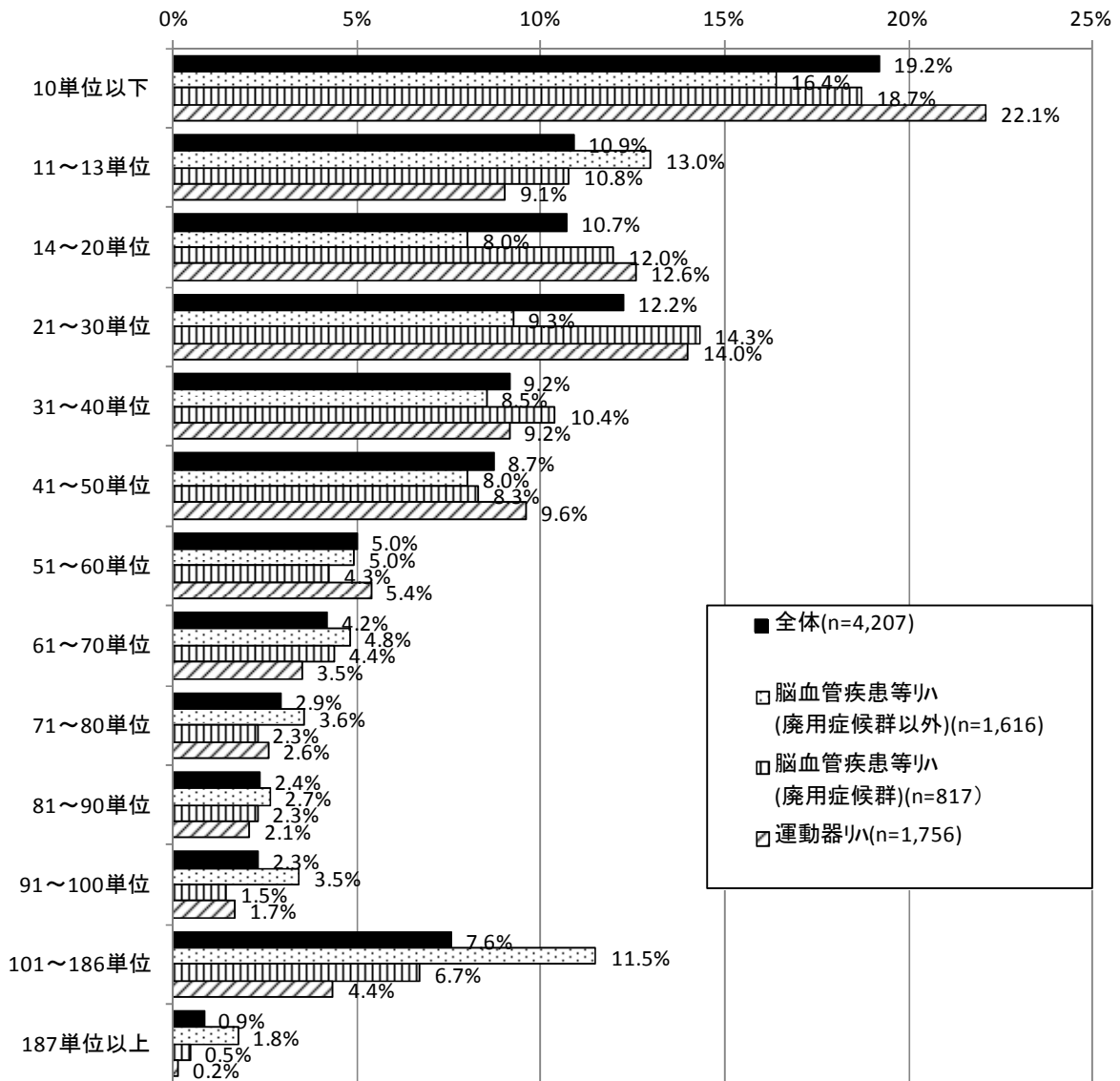
「入院患者」の疾患別リハビリテーション料の提供単位数をみると、「全体」では平均 39.7 単位（標準偏差 39.9、中央値 25.0）、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）」では平均 47.9 単位（標準偏差 47.0、中央値 32.0）、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）」では平均 36.8 単位（標準偏差 36.9、中央値 24.0）、「運動器リハビリテーション料」では平均 33.4 単位（標準偏差 32.2、中央値 23.0）であった。

図表 219 疾患別リハビリテーション料の提供単位数【入院患者】

(単位：単位)

	件数	平均値	標準偏差	中央値
全体	4,047	39.7	39.9	25.0
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群以外)	1,553	47.9	47.0	32.0
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群)	789	36.8	36.9	24.0
運動器リハビリテーション料	1,694	33.4	32.2	23.0

図表 220 疾患別リハビリテーション料の提供単位数【入院患者】



【外来患者】

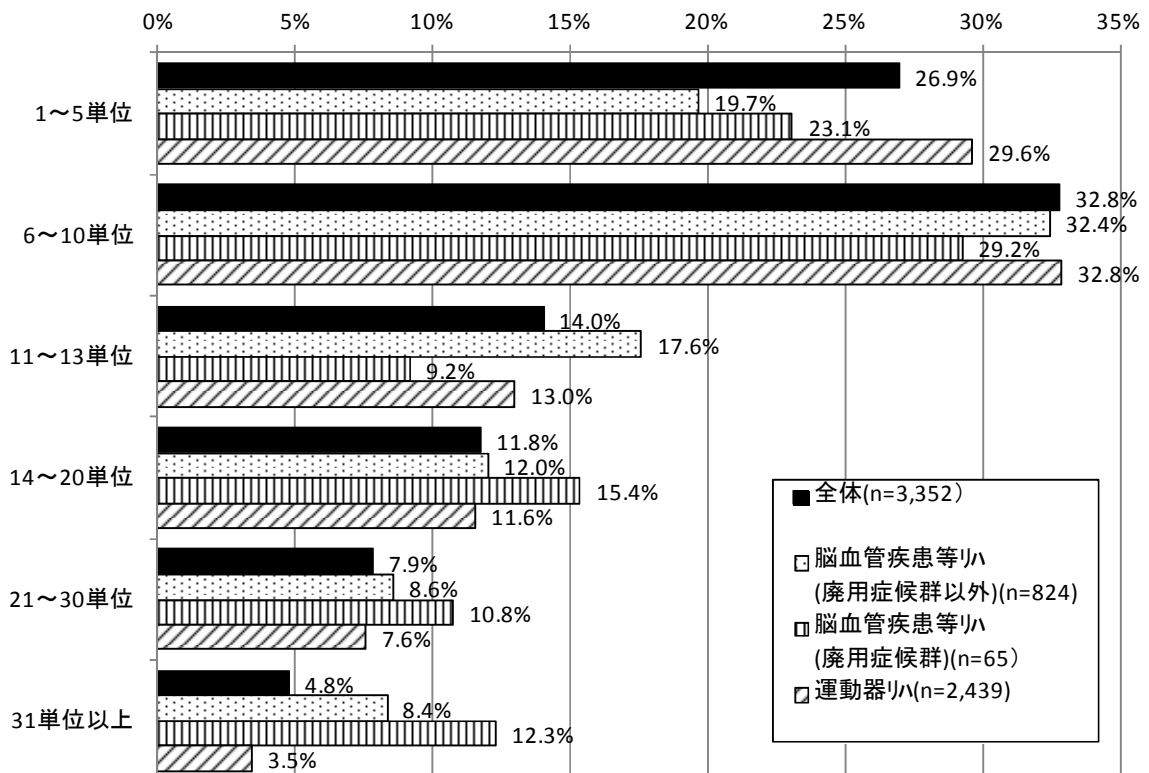
「外来患者」の疾患別リハビリテーション料の提供単位数をみると、「全体」では平均 11.7 単位（標準偏差 10.4、中央値 9.0）、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）」では平均 13.8 単位（標準偏差 12.5、中央値 10.0）、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）」では平均 18.5 単位（標準偏差 21.7、中央値 10.0）、「運動器リハビリテーション料」では平均 10.8 単位（標準偏差 8.9、中央値 8.0）であった。

図表 221 疾患別リハビリテーション料の提供単位数【外来患者】

(単位：単位)

	件数	平均値	標準偏差	中央値
全体	3,291	11.7	10.4	9.0
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群以外)	813	13.8	12.5	10.0
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群)	65	18.5	21.7	10.0
運動器リハビリテーション料	2,393	10.8	8.9	8.0

図表 222 疾患別リハビリテーション料の提供単位数【外来患者】

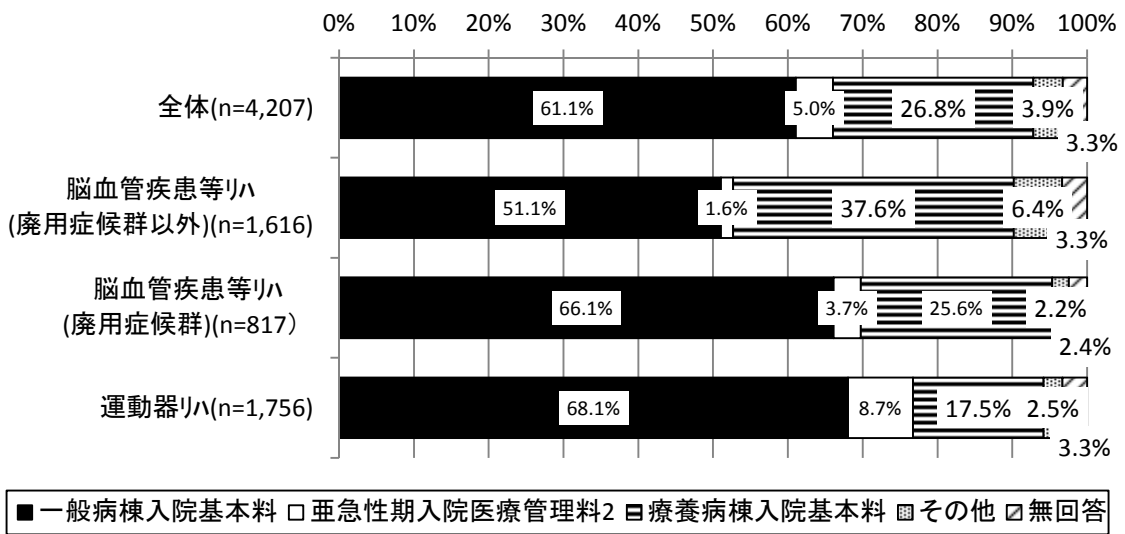


10) 算定入院基本料（平成 25 年 7 月末時点）（入院患者のみ）

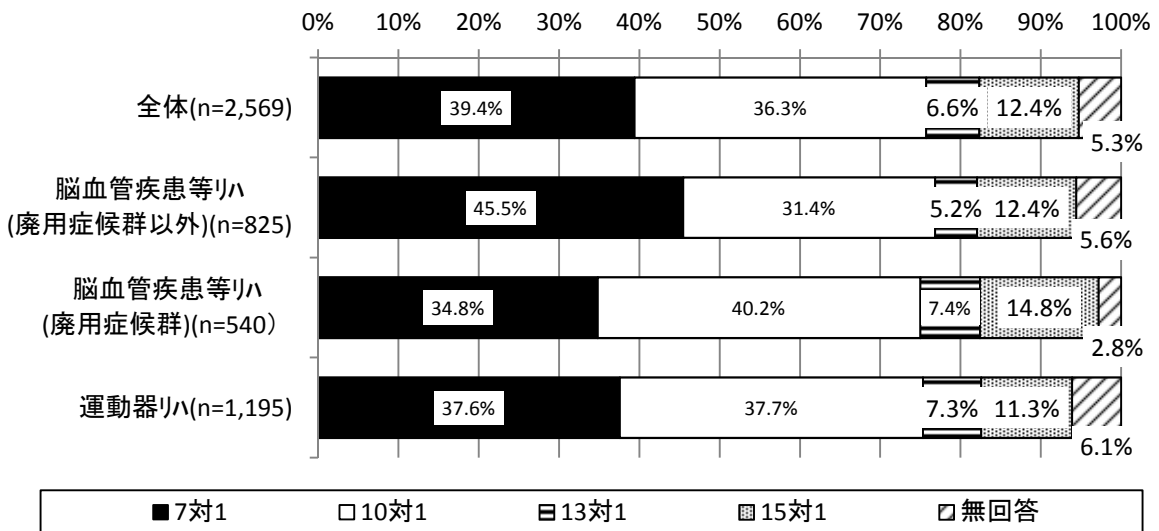
【入院患者】

「入院患者」の算定入院基本料についてみると、「全体」、「脳血管疾患等リハ（廃用症候群以外）」、「脳血管疾患等リハ（廃用症候群）」、「運動器リハ」のいずれの場合も「一般病棟入院基本料」が最も多く、それぞれ 61.1%、51.1%、66.1%、68.1%であった。いずれも次いで「療養病棟入院基本料」が多く、それぞれ 26.8%、37.6%、25.6%、17.5%であった。

図表 223 算定入院基本料【入院患者】



図表 224 一般病棟入院基本料【入院患者】



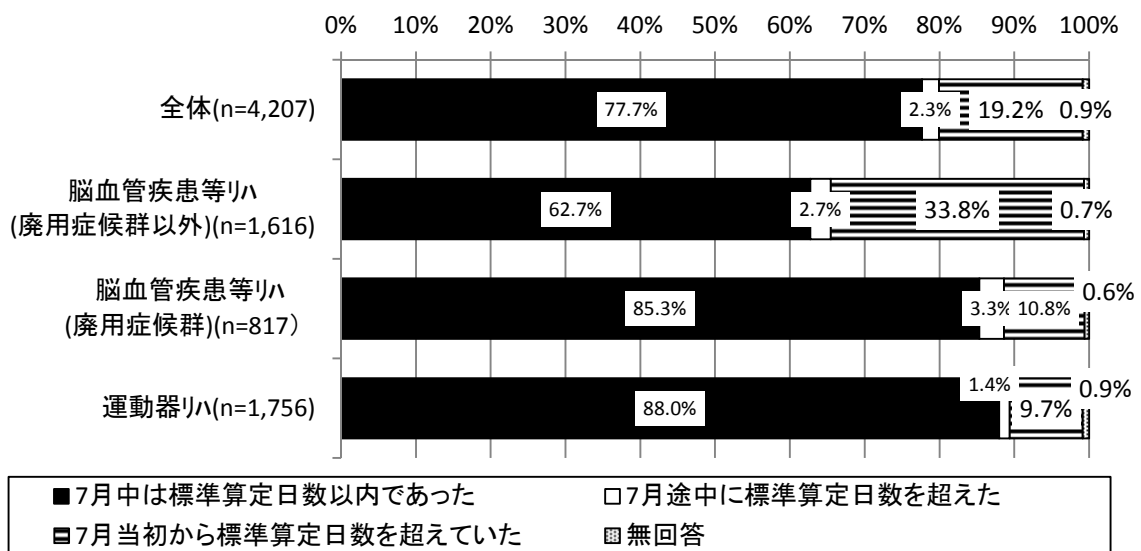
11) リハビリテーションの標準算定日数との関係

【入院患者】

「入院患者」のリハビリテーションの標準算定日数との関係をみると、いずれの場合も「7月中は標準算定日数以内であった」が最も多く、それぞれ77.7%、62.7%、85.3%、88.0%であった。

「脳血管疾患等リハ（廃用症候群以外）」では「7月当初から標準算定日数を超えていた」が比較的多く、33.8%であった。

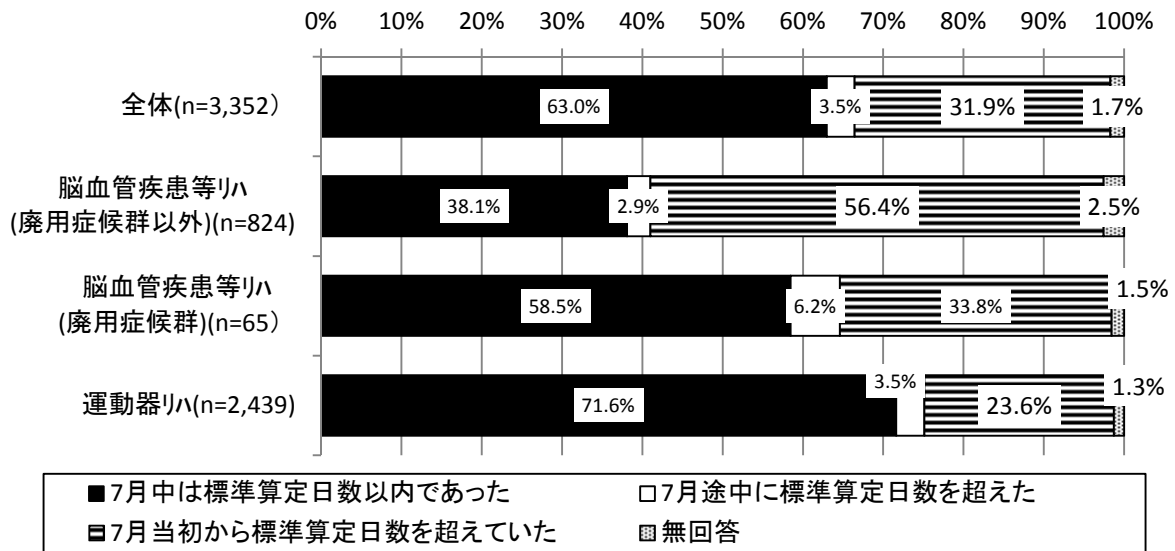
図表 225 リハビリテーションの標準算定日数との関係【入院患者】



【外来患者】

「外来患者」のリハビリテーションの標準算定日数との関係を見ると、「全体」、「脳血管疾患等リハ（廃用症候群）」、「運動器リハ」では「7月中は標準算定日数以内であった」が最も多く、それぞれ 63.0%、58.5%、71.6%であった。「脳血管疾患等リハ（廃用症候群以外）」では「7月当初から標準算定日数を超えていた」が最も多く、56.4%であった。

図表 226 リハビリテーションの標準算定日数との関係【外来患者】



③ 維持期リハビリテーションについて

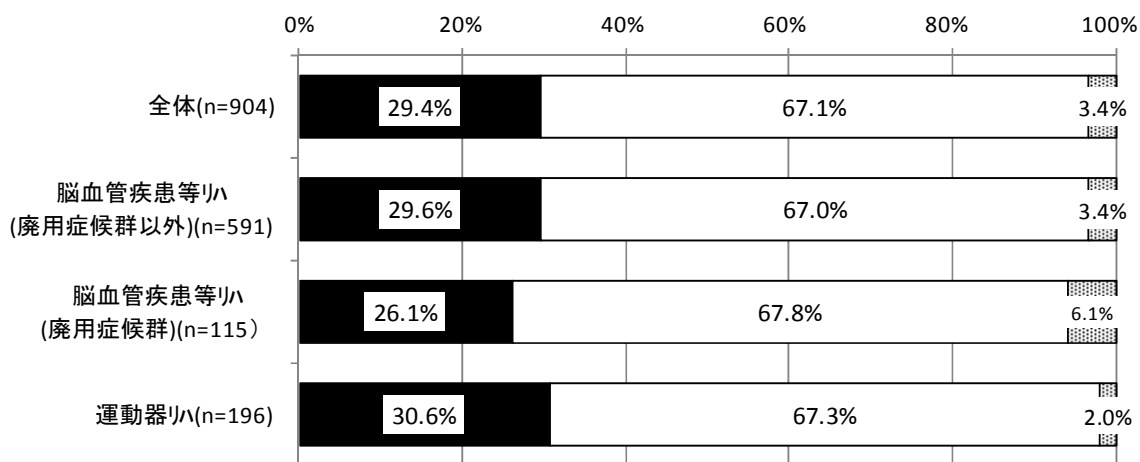
(当該患者がリハビリテーション料の標準算定日数を超えて算定している場合)

1) 患者の状態

【入院患者】

「入院患者」のうち、リハビリテーション料の標準算定日数を超えて算定している患者の状態についてみると、「全体」、「脳血管疾患等リハ（廃用症候群以外）」、「脳血管疾患等リハ（廃用症候群）」、「運動器リハ」のいずれの場合も「入院治療の継続により状態の維持が期待できる」が最も多く、それぞれ 67.1%、67.0%、67.8%、67.3%であった。

図表 227 患者の状態【入院患者】

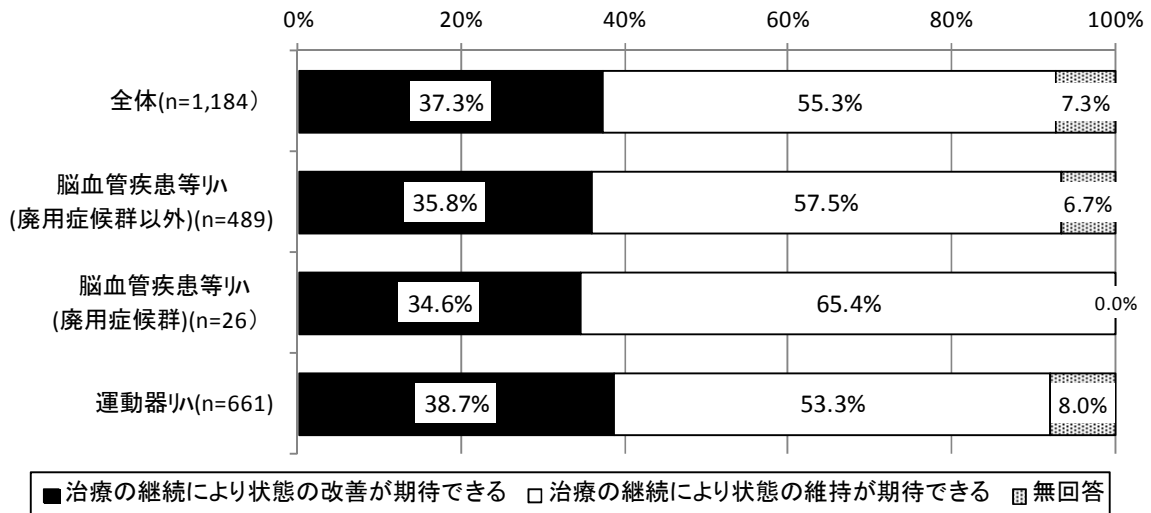


■ 入院治療の継続により状態の改善が期待できる □ 入院治療の継続により状態の維持が期待できる ▨ 無回答

【外来患者】

「外来患者」のうち、リハビリテーション料の標準算定日数を超えて算定している患者の状態についてみると、「全体」、「脳血管疾患等リハ（廃用症候群以外）」、「脳血管疾患等リハ（廃用症候群）」、「運動器リハ」のいずれの場合も「治療の継続により状態の維持が期待できる」が最も多く、それぞれ55.3%、57.5%、65.4%、53.3%であった。

図表 228 患者の状態【外来患者】

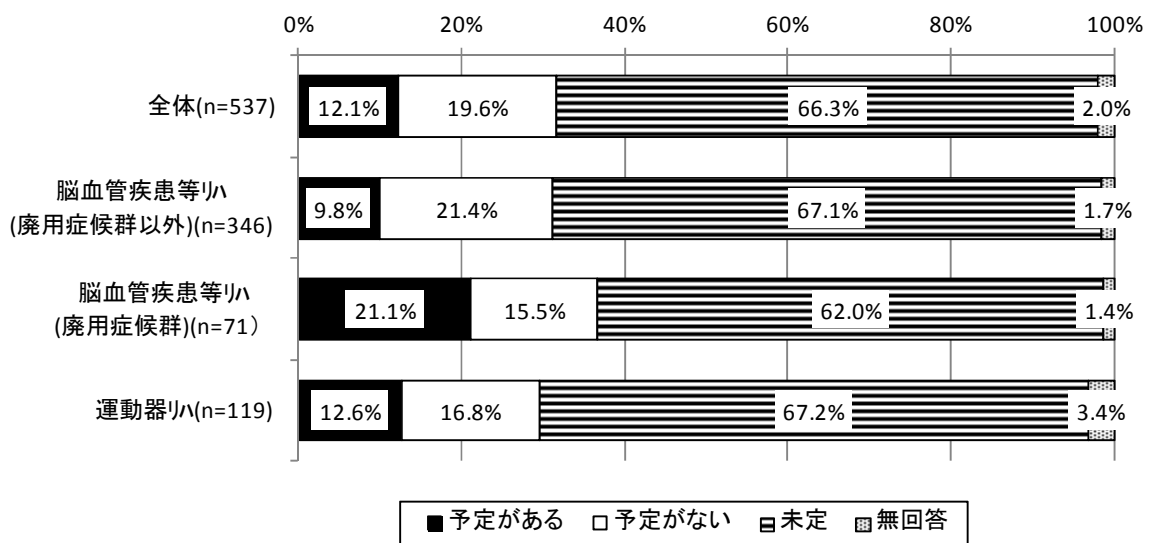


2) 退院後、介護保険でのリハビリテーションの利用予定の有無
 (維持期リハビリテーションの場合) (患者が要介護被保険者の場合)

【入院患者】

「入院患者」における退院後の介護保険でのリハビリテーション利用予定の有無についてみると、「脳血管疾患等リハ(廃用症候群)」では「予定がある」が21.1%で、他と比較して相対的に高かった。

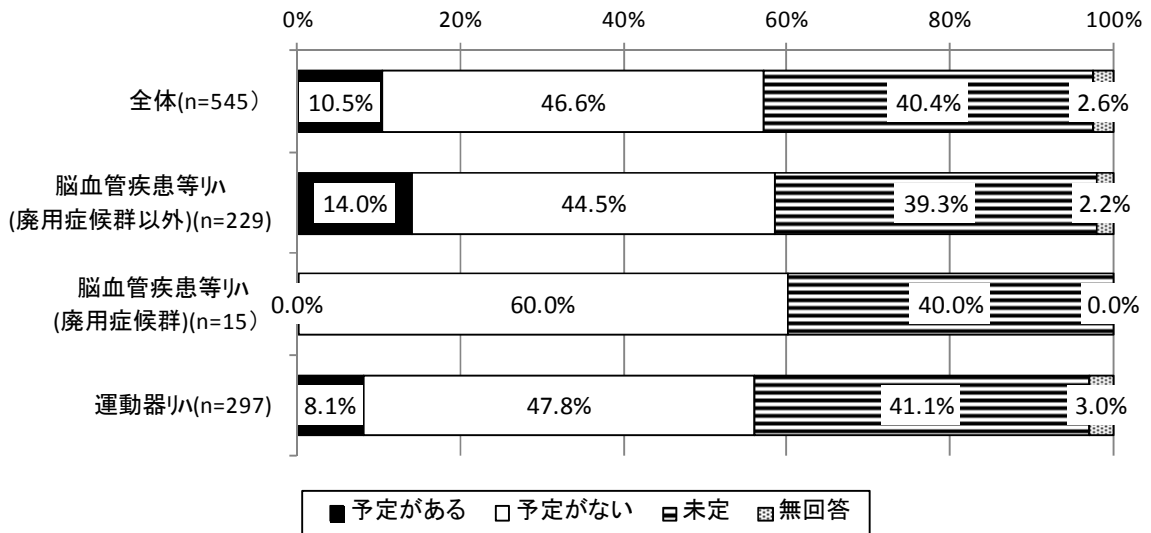
図表 229 退院後、介護保険でのリハビリテーションの利用予定の有無【入院患者】



【外来患者】

「外来患者」における今後の介護保険でのリハビリテーション利用予定の有無についてみると、「全体」、「脳血管疾患等リハ（廃用症候群以外）」、「脳血管疾患等リハ（廃用症候群）」、「運動器リハ」のいずれの場合も「予定がない」が最も多く、それぞれ46.6%、44.5%、60.0%、47.8%であった。

図表 230 今後、介護保険でのリハビリテーションの利用予定の有無【外来患者】



3) 利用しない理由

(予定がない場合)

【入院患者】

「入院患者」において介護保険でのリハビリテーション利用予定がない場合にその理由を尋ねたところ、「その他」が多かった。

図表 231 利用しない理由（複数回答）【入院患者】

	合計	患者にとって、要介護認定の申請が負担であるから	自院・近隣で通所リハビリを提供していないから	通所リハビリではリハビリの質が不明であるから	医療から介護へ移行することに対する心理的抵抗感が大きいから	介護保険によるリハビリテーションを利用すると支給限度額を超えるから	介護保険の事務負担が大きいから	退院後はリハビリテーションは不要とみられるから	その他	無回答
全体	105 100.0%	4 3.8%	0 0.0%	2 1.9%	9 8.6%	5 4.8%	1 1.0%	6 5.7%	83 79.0%	5 4.8%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群以外)	74 100.0%	4 5.4%	0 0.0%	1 1.4%	5 6.8%	2 2.7%	1 1.4%	2 2.7%	61 82.4%	4 5.4%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群)	11 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 27.3%	0 0.0%	1 9.1%	9 81.8%	0 0.0%
運動器リハビリテーション料	20 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 5.0%	4 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 15.0%	13 65.0%	1 5.0%

図表 232 利用しない理由（最も該当するもの、単数回答）【入院患者】

	合計	患者にとって、要介護認定の申請が負担であるから	自院・近隣で通所リハビリを提供していないから	通所リハビリではリハビリの質が不明であるから	医療から介護へ移行することに対する心理的抵抗感が大きいから	介護保険によるリハビリテーションを利用すると支給限度額を超えるから	介護保険の事務負担が大きいから	退院後はリハビリテーションは不要とみられるから	その他	無回答
全体	105 100.0%	2 1.9%	0 0.0%	1 1.0%	6 5.7%	4 3.8%	0 0.0%	4 3.8%	79 75.2%	9 8.6%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群以外)	74 100.0%	2 2.7%	0 0.0%	0 0.0%	2 2.7%	1 1.4%	0 0.0%	2 2.7%	59 79.7%	8 10.8%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群)	11 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 27.3%	0 0.0%	1 9.1%	7 63.6%	0 0.0%
運動器リハビリテーション料	20 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 5.0%	4 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 5.0%	13 65.0%	1 5.0%

【その他の主な具体的な内容】

- ・退院の目処が立たない。
- ・医学的管理が必要であるから。
- ・進行性難病のため。

／等

【外来患者】

「外来患者」において介護保険でのリハビリテーション利用予定がない場合にその理由を尋ねたところ、「全体」、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）」、「運動器リハビリテーション料」では「医療から介護へ移行することに対する心理的抵抗感が大きいから」が最も多く、それぞれ 55.1%、61.8%、52.1%であった。「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）」では「介護保険によるリハビリテーションを利用すると支給限度額を超えるから」（55.6%）が最も多かった。

図表 233 利用しない理由（複数回答）【外来患者】

	合計	患者にとって、要介護認定の申請が負担であるから	自院・近隣で通所リハビリを提供していないから	通所リハビリではリハビリの質が不明であるから	医療から介護へ移行することに対する心理的抵抗感が大きいから	介護保険によるリハビリテーションを利用すると支給限度額を超えるから	介護保険の事務負担が大きいから	その他	無回答
全体	254 100.0%	18 7.1%	35 13.8%	70 27.6%	140 55.1%	32 12.6%	10 3.9%	67 26.4%	1 0.4%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群以外)	102 100.0%	5 4.9%	11 10.8%	31 30.4%	63 61.8%	6 5.9%	1 1.0%	24 23.5%	0 0.0%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群)	9 100.0%	0 0.0%	1 11.1%	1 11.1%	2 22.2%	5 55.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
運動器リハビリテーション料	142 100.0%	13 9.2%	23 16.2%	38 26.8%	74 52.1%	21 14.8%	9 6.3%	43 30.3%	1 0.7%

(注)「その他」の内容として、「患者が有料老人ホームに入居しており、(介護保険の)リハビリを行うことができないため」、「医療的対応の必要があるから」、「本人の拒否」等が挙げられた。

図表 234 利用しない理由（最も該当するもの、単数回答）【外来患者】

	合計	患者にとって、要介護認定の申請が負担であるから	自院・近隣で通所リハビリを提供していないから	通所リハビリではリハビリの質が不明であるから	医療から介護へ移行することに対する心理的抵抗感が大きいから	介護保険によるリハビリテーションを利用すると支給限度額を超えるから	介護保険の事務負担が大きいから	その他	無回答
全体	254 100.0%	7 2.8%	13 5.1%	22 8.7%	106 41.7%	18 7.1%	0 0.0%	61 24.0%	27 10.6%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群以外)	102 100.0%	2 2.0%	2 2.0%	9 8.8%	52 51.0%	3 2.9%	0 0.0%	23 22.5%	11 10.8%
脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群)	9 100.0%	0 0.0%	1 11.1%	1 11.1%	2 22.2%	5 55.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
運動器リハビリテーション料	142 100.0%	5 3.5%	10 7.0%	12 8.5%	51 35.9%	10 7.0%	0 0.0%	38 26.8%	16 11.3%

平成24年度診療報酬改定の結果検証に係る調査（平成25年度調査）
**維持期リハビリテーション及び廃用症候群に対する脳血管疾患等
 リハビリテーションなど疾患別リハビリテーションに関する実施状況調査**

施設名	
施設の所在地	
電話番号	()
ご回答者名	()

※ご回答の際は、あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。また、()内には具体的な数値、用語等をお書きください。()内に数値を記入する設問で、該当なしは「0（ゼロ）」を、わからない場合は「-」をお書きください。

※特に断りのない場合は、平成25年7月31日時点の状況についてお書きください。

※本調査では、「維持期リハビリテーション（維持期リハ）」とは、標準的算定日数を超えた患者について、治療を継続することにより状態の改善が期待できると医学的に判断されないが、状態の維持等を目的として行われるリハビリテーションを指しています。

1. 貴院の概要についてお伺いします。

問1 貴院の**開設者**について該当するものを1つお選びください。

- 01 国（厚生労働省,独立行政法人国立病院機構,国立大学法人,独立行政法人労働者健康福祉機構,国立高度専門医療研究センター等）
- 02 公的医療機関（都道府県,市町村,地方独立行政法人,一部事務組合,日赤,済生会,北海道社会事業協会,厚生連,国民健康保険団体連合会）
- 03 社会保険関係団体（全国社会保険協会連合会,厚生年金事業振興団,船員保険会,健康保険組合,共済組合,国民健康保険組合）
- 04 医療法人
- 05 個人
- 06 その他（公益法人,私立学校法人,社会福祉法人,医療生協,会社 等）

問2 貴院の同一法人（法人が異なっても実質的に同一経営の場合も含む）が、同一又は隣接の敷地内で運営している**介護施設・事業所**として該当するものを全てお選びください。

- 01 介護老人福祉施設
- 02 介護老人保健施設
- 03 訪問介護事業所
- 04 訪問入浴介護事業所
- 05 訪問看護事業所（06 以外）
- 06 訪問看護ステーション
- 07 訪問リハビリテーション事業所
- 08 通所介護事業所
- 09 通所リハビリテーション事業所
- 10 短期入所生活介護事業所
- 11 短期入所療養介護事業所
- 12 特定施設入居者生活介護事業所
- 13 居宅介護支援事業所
- 14 小規模多機能型居宅介護事業所
- 15 認知症対応型共同生活介護事業所
- 16 その他（)

問3 貴院において平成25年7月31日時点で従事している職員数をご記入ください。					
		常 勤		非 常 勤 (常勤換算 ^{※1})	
1) 医 師		人	.	人	人
	(再掲) リハビリテーション科の医師	人	.	人	人
	(再掲) 日本リハビリテーション医学会認定臨床医	人	.	人	人
	(再掲) リハビリテーション科専門医	人	.	人	人
2) 看 護 師		人	.	人	人
3) 准 看 護 師		人	.	人	人
4) 看護補助者		人	.	人	人
5) 理学療法士		人	.	人	人
6) 作業療法士		人	.	人	人
7) 言語聴覚士		人	.	人	人
8) ソーシャルワーカー ^{※2}		人	.	人	人
	(再掲) 社会福祉士の資格保有者	人	.	人	人

※1. 非常勤職員の常勤換算の計算方法

貴院の1週間の所定労働時間を基本として、下記のように常勤換算して小数点第1位まで(小数点第2位を切り上げ)ご記入ください。
例：1週間の所定労働時間が40時間の病院で、週4日(各日5時間)勤務の看護師が1人いる場合

$$\text{非常勤看護師数} = \frac{4日 \times 5時間 \times 1人}{40時間} = 0.5人$$

※2. ソーシャルワーカーとは、患者等が地域や家庭において自立した生活を送ることができるよう、患者や家族の抱える心理的・社会的な問題の解決・調整を援助し、社会復帰の促進を図るための業務の従事者のことをいいます。

問4 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士を専従又は専任で配置している病棟(ただし回復期リハ病棟を除く)はありますか(1つだけ○)。ある場合は配置している病棟ごとに、算定入院料、診療科、職種ごとの人数をご記入ください。								
01 ある			02 ない→3ページの間5へ					
	算定入院料 (コードを記入)	診療科 (コードを記入)	理学療法士		作業療法士		言語聴覚士	
			専従 [※]	専任 [※]	専従	専任	専従	専任
病棟①			人	人	人	人	人	人
病棟②			人	人	人	人	人	人
病棟③			人	人	人	人	人	人
病棟④			人	人	人	人	人	人
病棟⑤			人	人	人	人	人	人

※. 専従：原則として当該部署の業務のみに従事している者。
専任：当該部署での業務とその他の部署等での業務を兼務している者。

問5 平成25年7月31日時点の届出の有無、病床数、回復期リハビリテーション病棟数、7月1か月間の在院患者延べ数、7月の平均在院日数をご記入ください。

	届出の有無	病床数		病棟数		7月1か月間の在院患者延べ数※		平均在院日数	
			床		棟	延べ	人	.	日
1) 一般病床(許可病床数)	有・無		床			延べ	人	.	日
【再掲】回復期リハビリテーション病棟入院料1	有・無		床		棟	延べ	人	.	日
【再掲】回復期リハビリテーション病棟入院料2	有・無		床		棟	延べ	人	.	日
【再掲】回復期リハビリテーション病棟入院料3	有・無		床		棟	延べ	人	.	日
【再掲】亜急性期入院医療管理料	有・無		床			延べ	人	.	日
2) 療養病床(医療保険適用)	有・無		床			延べ	人	.	日
【再掲】回復期リハビリテーション病棟入院料1	有・無		床		棟	延べ	人	.	日
【再掲】回復期リハビリテーション病棟入院料2	有・無		床		棟	延べ	人	.	日
【再掲】回復期リハビリテーション病棟入院料3	有・無		床		棟	延べ	人	.	日
3) 療養病床(介護保険適用)	有・無		床			延べ	人	.	日
4) 精神病床	有・無		床						
5) 結核病床	有・無		床						
6) 感染症病床	有・無		床						

※在院患者延べ数は、例えば、該当する1人の入院患者が5日間入院していた場合は5人として計算してください。

※平均在院日数は、該当の病床に入院していた患者について、以下の式に基づき、小数点第2位を切り上げ小数点第1位までご記入ください。

$$\text{平均在院日数} = \frac{\text{7月中の該当する在院患者延数}}{(\text{7月中の該当する新入院患者数} + \text{7月中の該当退院患者数}) \times 0.5}$$

問6 貴院で平成25年7月31日時点に届出を行っているリハビリテーション料について、該当する全てに○をつけてください。

- | | |
|---------------------------|------------------------|
| 01 心大血管疾患リハビリテーション料 (I) | 06 運動器リハビリテーション料 (I) |
| 02 心大血管疾患リハビリテーション料 (II) | 07 運動器リハビリテーション料 (II) |
| 03 脳血管疾患等リハビリテーション料 (I) | 08 運動器リハビリテーション料 (III) |
| 04 脳血管疾患等リハビリテーション料 (II) | 09 呼吸器リハビリテーション料 (I) |
| 05 脳血管疾患等リハビリテーション料 (III) | 10 呼吸器リハビリテーション料 (II) |

2. **入院患者**に対する各種リハビリテーション料に係る項目、加算の算定状況についてお伺いします。

問7	平成23年7月分				平成25年7月分			
	実人数	単位数	実人数	単位数	実人数	単位数	実人数	単位数
1) ①心大血管疾患リハビリテーション料	人	単位	人	単位	人	単位	人	単位
② ①のうち、早期加算（30日以内）算定者	人		人		人		人	
③ ②のうち、初期加算（14日以内）算定者	人		人		人		人	
2) 脳血管疾患等リハビリテーション料	人	単位	人	単位	人	単位	人	単位
④廃用症候群以外の場合	人	単位	人	単位	人	単位	人	単位
⑤ ④のうち、標準的算定日数を 超えた患者	人	単位	人	単位	人	単位	人	単位
⑥ ⑤のうち、維持期リハの患者	人	単位	人	単位	人	単位	人	単位
⑦ ⑥のうち、要介護被保険者等 (B)	人	単位	人	単位	人	単位	人	単位
⑧ ④のうち、早期加算（30日以内）算定者	人		人		人		人	
⑨ ⑧のうち、初期加算（14日以内）算定者	人		人		人		人	
⑩廃用症候群の場合 (A)	人	単位	人	単位	人	単位	人	単位
⑪ ⑩のうち、標準的算定日数を 超えた患者	人	単位	人	単位	人	単位	人	単位
⑫ ⑩のうち、維持期リハの患者	人	単位	人	単位	人	単位	人	単位
⑬ ⑫のうち、要介護被保険者等 (B)	人	単位	人	単位	人	単位	人	単位
⑭ ⑩のうち、早期加算（30日以内）算定者	人		人		人		人	
⑮ ⑭のうち、初期加算（14日以内）算定者	人		人		人		人	
3) ⑯運動器リハビリテーション料	人	単位	人	単位	人	単位	人	単位
⑰ ⑯のうち、標準的算定日数を 超えた患者	人	単位	人	単位	人	単位	人	単位
⑱ ⑰のうち、維持期リハの患者	人	単位	人	単位	人	単位	人	単位
⑲ ⑱のうち、要介護被保険者等 (B)	人	単位	人	単位	人	単位	人	単位
⑳ ⑯のうち、早期加算（30日以内）算定者	人		人		人		人	
㉑ ㉑のうち、初期加算（14日以内）算定者	人		人		人		人	
4) ㉒呼吸器リハビリテーション料	人	単位	人	単位	人	単位	人	単位
㉓ ㉒のうち、早期加算（30日以内）算定者	人		人		人		人	
㉔ ㉓のうち、初期加算（14日以内）算定者	人		人		人		人	

問8 上記の問7 2) 脳血管疾患等リハビリテーションの「⑩廃用症候群の場合」に記入した患者（平成25年7月分、問7で(A)と表示)について、理由ごとに該当する人数をお書きください。		
1) 急性心筋梗塞、大動脈解離等、心大血管疾患に関する手術後の安静によるため		人
2) 脳梗塞、脳出血等、脳血管疾患に関する手術後の安静によるため		人
3) 上・下肢、脊椎等の運動器に関する手術後の安静によるため		人
4) 肺腫瘍、胸部外傷等、呼吸器疾患に関する手術後の安静によるため		人
5) 上記以外の手術後の安静によるため		人
6) 肺炎等の手術以外の治療による安静によるため		人

問9 上記の問7 ⑦・⑬・⑰の「要介護被保険者等」に記入した患者（平成25年7月分、問7で(B)と表示)について、以下の内容に該当する人数をお書きください。		
1) 問7の⑦(脳血管疾患等リハビリテーション料<廃用症候群以外>で維持期リハを受けている要介護被保険者等)のうち、現時点で退院の見込みがあるが、介護保険でのリハビリテーションに移行することが困難と見込まれる患者数		人
2) 問7の⑬(脳血管疾患等リハビリテーション料<廃用症候群の場合>で維持期リハを受けている要介護被保険者等)のうち、現時点で退院の見込みがあるが、介護保険でのリハビリテーションに移行することが困難と見込まれる患者数		人
3) 問7の⑰(運動器リハビリテーション料で維持期リハを受けている要介護被保険者等)のうち、現時点で退院の見込みがあるが、介護保険でのリハビリテーションに移行することが困難と見込まれる患者数		人

問9-1 上記の問9で維持期リハを受けている要介護被保険者等で介護保険のリハビリテーションに移行することができない患者がいる場合、その理由は何ですか。該当する番号全てに○をつけてください。	
01 患者にとって、要介護認定の申請が負担であるから	
02 自院・近隣で通所リハビリを提供していないから	
03 通所リハビリではリハビリの質が不明であるから	
04 患者にとって、医療から介護へ移行することに対する心理的抵抗感が大きいから	
05 介護保険によるリハビリテーションを利用すると支給限度額を超えるから	
06 介護保険の事務負担が大きいから	
07 退院後はリハビリテーションが不要とみられるから	
08 その他 ()	

問10 初期リハビリテーション加算の導入により、より早い時期からリハビリテーションが開始されるようになった、または早期にリハビリテーションを開始される患者が増えたなど、主観的な評価で結構ですので、初期リハビリテーション加算の効果として該当するものを1つお選びください。		
01 非常に効果があった	02 まあまあ効果があった	03 あまり効果はなかった
04 まったく効果はなかった	05 どちらともいえない	

問11 早期のリハビリテーションを進めるための課題としてどのようなことがありますか。具体的にお書きください。

3. 貴院の外来患者の概況等についてお伺いします。

問 12 平成25年7月の1か月間の外来患者数をご記入ください。		人
----------------------------------	--	---

問 13 平成25年7月31日時点の外来リハビリテーション診療料の届出の有無、1か月間の算定人数・回数をご記入ください。

	届出の有無	算定人数 (実人数)	算定回数
① 外来リハビリテーション診療料 1	有・無	人	回
② 外来リハビリテーション診療料 2	有・無	人	回

≪問 13-1 は平成 25 年 7 月 31 日時点で、外来リハビリテーション診療料の届出をしていない場合にご回答ください≫

問 13-1 外来リハビリテーション診療料の届出を行っていない理由として該当するもの全てを選び○をつけてください。また、最も多く該当するもの1つに◎をつけてください。

- 01 状態が安定していても毎回、医師による診察を行うことが必要だから
- 02 状態が不安定で毎回の診察が必要な患者が多いから
- 03 収入面の問題から
- 04 多職種によるカンファレンスの時間が取れないから
- 05 その他 ()

問 14 平成23年7月分、平成25年7月分について、外来患者の疾患別リハビリテーション料、標準的算定日数を超えた患者等の実人数および単位数をご記入ください。
なお、下記の上記の表中の (A) は後の問 15 で、(B) は問 16 でその詳細をお伺いします。

	平成23年7月分		平成25年7月分	
	実人数	単位数	実人数	単位数
1) ①心大血管疾患リハビリテーション料	人	単位	人	単位
2) 脳血管疾患等リハビリテーション料	人	単位	人	単位
②廃用症候群以外の場合	人	単位	人	単位
③ ②のうち、標準的算定日数を超えた患者	人	単位	人	単位
④ ③のうち、維持期リハの患者	人	単位	人	単位
⑤ ④のうち、要介護被保険者等 (B)	人	単位	人	単位
⑥廃用症候群の場合 (A)	人	単位	人	単位
⑦ ⑥のうち、標準的算定日数を超えた患者	人	単位	人	単位
⑧ ⑦のうち、維持期リハの患者	人	単位	人	単位
⑨ ⑧のうち、要介護被保険者等 (B)	人	単位	人	単位
3) ⑩運動器リハビリテーション料	人	単位	人	単位
⑪ ⑩のうち、標準的算定日数を超えた患者	人	単位	人	単位
⑫ ⑪のうち、維持期リハの患者	人	単位	人	単位
⑬ ⑫のうち、要介護被保険者等 (B)	人	単位	人	単位
4) ⑭呼吸器リハビリテーション料	人	単位	人	単位

問 15 上記の間 14 2) 脳血管疾患等リハビリテーションの「⑥廃用症候群の場合」に記入した患者（平成25年7月分、問14で（A）と表示）について、理由ごとに該当する人数をお書きください。		
1) 急性心筋梗塞、大動脈解離等、心大血管疾患に関する手術後の安静によるため		人
2) 脳梗塞、脳出血等、脳血管疾患に関する手術後の安静によるため		人
3) 上・下肢、脊椎等の運動器に関する手術後の安静によるため		人
4) 肺腫瘍、胸部外傷等、呼吸器疾患に関する手術後の安静によるため		人
5) 上記以外の手術後の安静によるため		人
6) 肺炎等の手術以外の治療による安静によるため		人

問 16 上記の間 14 ⑤・⑨・⑬の「要介護被保険者等」に記入した患者（平成25年7月分、問14で（B）と表示）について、以下の内容に該当する人数をお書きください。		
1) 問14の⑤（脳血管疾患等リハビリテーション料＜廃用症候群以外＞で維持期リハを受けている要介護被保険者等）のうち、介護保険でのリハビリテーションに移行することが困難と見込まれる患者数		人
2) 問14の⑨（脳血管疾患等リハビリテーション料＜廃用症候群の場合＞で維持期リハを受けている要介護被保険者等）のうち、介護保険でのリハビリテーションに移行することが困難と見込まれる患者数		人
3) 問14の⑬（運動器リハビリテーション料で維持期リハを受けている要介護被保険者等）のうち、介護保険でのリハビリテーションに移行することが困難と見込まれる患者数に記入した患者数		人

問 16-1 上記の間 16 で維持期リハを受けている要介護被保険者等がある場合、介護保険のリハビリテーションに移行することができない患者がいる場合、その理由は何ですか。該当する番号全てに○をつけてください。	
01 患者にとって、要介護認定の申請が負担であるから	
02 自院・近隣で通所リハビリを提供していないから	
03 通所リハビリではリハビリの質が不明であるから	
04 患者にとって、医療から介護へ移行することに対する心理的抵抗感が大きいから	
05 介護保険によるリハビリテーションを利用すると支給限度額を超えるから	
06 介護保険の事務負担が大きいから	
07 その他（	）

5. 貴院における通所リハビリテーションの実施状況についてお伺いします。

問 19 平成23年7月及び平成25年7月31日時点の通所リハビリテーションの実施の有無、実施日数、利用者延べ数*をご記入ください。	平成23年7月		平成25年7月	
	01 有	02 無	01 有	02 無
1) 通所リハビリテーションの実施の有無				
2) 通所リハビリテーションの実施日数		日		日
3) 通所リハビリテーション費を算定した利用者延べ数	延べ	人	延べ	人
【再掲】 1時間以上 2時間未満	延べ	人	延べ	人
4) 通所リハビリテーションの指定はみなし指定ですか(平成25年7月)	01 はい	02 いいえ	03 わからない	

※利用者延べ数は、例えば1人の利用者が7月中に5回利用した場合は5人として計算してください。

≪問 20 は平成25年7月31日時点で、通所リハビリテーションを実施していない場合にご回答ください≫

問 20 今後、通所リハビリテーションを開設する意向はありますか。		
01 ある	02 ない	03 わからない

→ 問 20-1 通所リハビリテーションを開設する意向がない理由として該当するもの全てに○を付けてください。もっとも当てはまるもの1つには◎を付けてください。

- 01 通所リハビリに専従する人員を確保できない
- 02 外来の医師の負担が重くなる
- 03 通所リハビリのために別途場所の確保が必要となる
- 04 通所リハビリの報酬では採算がとれない
- 05 利用者の送迎体制を整えることが困難介護報酬の事務負担が大きいから
- 06 ケアマネジャーとの連携をとることが負担
- 07 介護報酬の請求事務の負担が大きい
- 08 患者にとって、医療から介護へ移行することに対する心理的抵抗感が大きい
- 09 患者にとって要介護認定の申請が負担である
- 10 みなし指定を受ける方法がわからない
- 11 医師にとって、通所リハビリを実施することに対する心理的抵抗感が大きい
- 12 その他 ()

6. 最後に、本調査に関連した事項でご意見等がございましたら、ご自由にご記入ください。

設問は以上です。ご協力まことにありがとうございました。

問3 貴院において平成25年7月31日時点で従事している職員数をご記入ください。			
	常 勤		非 常 勤 (常勤換算 ^{※1})
		人	人
1) 医 師		人	人
(再掲) リハビリテーション科の医師		人	人
(再掲) 日本リハビリテーション医学会認定臨床医		人	人
(再掲) リハビリテーション科専門医		人	人
2) 看 護 師		人	人
3) 准 看 護 師		人	人
4) 看護補助者		人	人
5) 理学療法士		人	人
6) 作業療法士		人	人
7) 言語聴覚士		人	人
8) ソーシャルワーカー ^{※2}		人	人
(再掲) 社会福祉士の資格保有者		人	人

※1. 非常勤職員の常勤換算の計算方法

貴院の1週間の所定労働時間を基本として、下記のように常勤換算して小数点第1位まで(小数点第2位を切り上げ)ご記入ください。
例：1週間の所定労働時間が40時間の病院で、週4日(各日5時間)勤務の看護師が1人いる場合

$$\text{非常勤看護師数} = \frac{4日 \times 5時間 \times 1人}{40時間} = 0.5人$$

※2. ソーシャルワーカーとは、患者等が地域や家庭において自立した生活を送ることができるよう、患者や家族の抱える心理的・社会的な問題の解決・調整を援助し、社会復帰の促進を図るための業務の従事者のことをいいます。

問4 貴院は病床を有していますか。	
01 有	02 無

問4-1 (病床がある場合のみご回答ください) 平成25年7月31日時点の許可病床数、7月1か月間の在院患者延べ数をご記入ください。			
	許 可 病 床 数		7月1か月間の 在院患者延べ数
		床	人
1) 一般病床		延べ	人
2) 療養病床(医療保険適用)		延べ	人
3) 療養病床(介護保険適用)		延べ	人

※在院患者延べ数は、例えば、該当する1人の入院患者が5日間入院していた場合は5人として計算してください。

問5 貴院で平成25年7月31日時点で届出を行っているリハビリテーション料について、該当する全てに○をつけてください。	
01 心大血管疾患リハビリテーション料 (I)	06 運動器リハビリテーション料 (I)
02 心大血管疾患リハビリテーション料 (II)	07 運動器リハビリテーション料 (II)
03 脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)	08 運動器リハビリテーション料 (III)
04 脳血管疾患等リハビリテーション料 (II)	09 呼吸器リハビリテーション料 (I)
05 脳血管疾患等リハビリテーション料 (III)	10 呼吸器リハビリテーション料 (II)

2. (病床を有している場合のみご回答ください) 「入院患者」に対する各種リハビリテーション料に係る項目、加算の算定状況についてお伺いします。

問6	平成23年7月分				平成25年7月分			
	実人数	単位数	実人数	単位数	実人数	単位数	実人数	単位数
1) ①心大血管疾患リハビリテーション料	人	単位			人	単位		
② ①のうち、早期加算 (30日以内) 算定者	人				人			
③ ②のうち、初期加算 (14日以内) 算定者	人				人			
2) 脳血管疾患等リハビリテーション料	人	単位			人	単位		
④ 廃用症候群以外の場合	人	単位			人	単位		
⑤ ④のうち、標準的算定日数を 超えた患者	人	単位			人	単位		
⑥ ⑤のうち、維持期リハの患者	人	単位			人	単位		
⑦ ⑥のうち、要介護被保険者等 (B)	人	単位			人	単位		
⑧ ④のうち、早期加算 (30日以内) 算定者	人				人			
⑨ ⑧のうち、初期加算 (14日以内) 算定者	人				人			
⑩ 廃用症候群の場合 (A)	人	単位			人	単位		
⑪ ⑩のうち、標準的算定日数を 超えた患者	人	単位			人	単位		
⑫ ⑩のうち、維持期リハの患者	人	単位			人	単位		
⑬ ⑫のうち、要介護被保険者等 (B)	人	単位			人	単位		
⑭ ⑩のうち、早期加算 (30日以内) 算定者	人				人			
⑮ ⑭のうち、初期加算 (14日以内) 算定者	人				人			
3) ⑯運動器リハビリテーション料	人	単位			人	単位		
⑰ ⑯のうち、標準的算定日数を 超えた患者	人	単位			人	単位		
⑱ ⑰のうち、維持期リハの患者	人	単位			人	単位		
⑲ ⑱のうち、要介護被保険者等 (B)	人	単位			人	単位		
⑳ ⑯のうち、早期加算 (30日以内) 算定者	人				人			
㉑ ㉑のうち、初期加算 (14日以内) 算定者	人				人			
4) ㉒呼吸器リハビリテーション料	人	単位			人	単位		
㉓ ㉒のうち、早期加算 (30日以内) 算定者	人				人			
㉔ ㉓のうち、初期加算 (14日以内) 算定者	人				人			

問7 上記の問6 2) 脳血管疾患等リハビリテーションの「⑩廃用症候群の場合」に記入した患者（平成25年7月分、問6で(A)と表示)について、理由ごとに該当する人数をお書きください。		
1) 急性心筋梗塞、大動脈解離等、心大血管疾患に関する手術後の安静によるため		人
2) 脳梗塞、脳出血等、脳血管疾患に関する手術後の安静によるため		人
3) 上・下肢、脊椎等の運動器に関する手術後の安静によるため		人
4) 肺腫瘍、胸部外傷等、呼吸器疾患に関する手術後の安静によるため		人
5) 上記以外の手術後の安静によるため		人
6) 肺炎等の手術以外の治療による安静によるため		人

問8 上記の問6 ⑦・⑬・⑰の「要介護被保険者等」に記入した患者（平成25年7月分、問6で(B)と表示)について、以下の内容に該当する人数をお書きください。		
1) 問6の⑦(脳血管疾患等リハビリテーション料<廃用症候群以外>で維持期リハを受けている要介護被保険者等)のうち、現時点で退院の見込みがあるが、介護保険でのリハビリテーションに移行することが困難と見込まれる患者数		人
2) 問6の⑬(脳血管疾患等リハビリテーション料<廃用症候群の場合>で維持期リハを受けている要介護被保険者等)のうち、現時点で退院の見込みがあるが、介護保険でのリハビリテーションに移行することが困難と見込まれる患者数		人
3) 問6の⑰(運動器リハビリテーション料で維持期リハを受けている要介護被保険者等)のうち、現時点で退院の見込みがあるが、介護保険でのリハビリテーションに移行することが困難と見込まれる患者数		人

問8-1 上記の問8で維持期リハを受けている要介護被保険者等で介護保険のリハビリテーションに移行することができない患者がいる場合、その理由は何ですか。該当する番号全てに○をつけてください。	
01 患者にとって、要介護認定の申請が負担であるから	
02 自院・近隣で通所リハビリを提供していないから	
03 通所リハビリではリハビリの質が不明であるから	
04 患者にとって、医療から介護へ移行することに対する心理的抵抗感が大きいから	
05 介護保険によるリハビリテーションを利用すると支給限度額を超えるから	
06 介護保険の事務負担が大きいから	
07 退院後はリハビリテーションが不要とみられるから	
08 その他 ()	

問9 初期リハビリテーション加算の導入により、より早い時期からリハビリテーションが開始されるようになった、または早期にリハビリテーションを開始される患者が増えたなど、主観的な評価で結構ですので、初期リハビリテーション加算の効果として該当するものを1つお選びください。		
01 非常に効果があった	02 まあまあ効果があった	03 あまり効果はなかった
04 まったく効果はなかった	05 どちらともいえない	

問10 早期のリハビリテーションを進めるための課題としてどのようなことがありますか。具体的にお書きください。	

3. 貴院の外来患者の概況等についてお伺いします。

問 11 平成25年7月の1か月間の外来患者数をご記入ください。 人

問 12 平成25年7月31日時点の外来リハビリテーション診療料の届出の有無、1か月間の算定人数・回数をご記入ください。

	届出の有無	算定人数 (実人数)	算定回数
① 外来リハビリテーション診療料 1	有・無	<input type="text"/> 人	<input type="text"/> 回
② 外来リハビリテーション診療料 2	有・無	<input type="text"/> 人	<input type="text"/> 回

≪問 12-1 は平成 25 年 7 月 31 日時点で、外来リハビリテーション診療料の届出をしていない場合にご回答ください≫

問 12-1 外来リハビリテーション診療料の届出を行っていない理由として該当するもの全てを選び○をつけてください。また、最も多く該当するもの1つに◎をつけてください。

01 状態が安定していても毎回、医師による診察を行うことが必要だから
 02 状態が不安定で毎回の診察が必要な患者が多いから
 03 収入面の問題から
 04 多職種によるカンファレンスの時間が取れないから
 05 その他 ()

問 13 平成23年7月分、平成25年7月分について、外来患者の疾患別リハビリテーション料、標準的算定日数を超えた患者等の実人数および単位数をご記入ください。
 なお、下記の上記の表中の (A) は後の問 14 で、(B) は問 15 でその詳細をお伺いします。

	平成23年7月分		平成25年7月分	
	実人数	単位数	実人数	単位数
1) ①心大血管疾患リハビリテーション料	<input type="text"/> 人	<input type="text"/> 単位	<input type="text"/> 人	<input type="text"/> 単位
2) 脳血管疾患等リハビリテーション料	<input type="text"/> 人	<input type="text"/> 単位	<input type="text"/> 人	<input type="text"/> 単位
②廃用症候群以外の場合	<input type="text"/> 人	<input type="text"/> 単位	<input type="text"/> 人	<input type="text"/> 単位
③ ②のうち、標準的算定日数を超えた患者	<input type="text"/> 人	<input type="text"/> 単位	<input type="text"/> 人	<input type="text"/> 単位
④ ③のうち、維持期リハの患者	<input type="text"/> 人	<input type="text"/> 単位	<input type="text"/> 人	<input type="text"/> 単位
⑤ ④のうち、要介護被保険者等 (B)	<input type="text"/> 人	<input type="text"/> 単位	<input type="text"/> 人	<input type="text"/> 単位
⑥廃用症候群の場合 (A)	<input type="text"/> 人	<input type="text"/> 単位	<input type="text"/> 人	<input type="text"/> 単位
⑦ ⑥のうち、標準的算定日数を超えた患者	<input type="text"/> 人	<input type="text"/> 単位	<input type="text"/> 人	<input type="text"/> 単位
⑧ ⑦のうち、維持期リハの患者	<input type="text"/> 人	<input type="text"/> 単位	<input type="text"/> 人	<input type="text"/> 単位
⑨ ⑧のうち、要介護被保険者等 (B)	<input type="text"/> 人	<input type="text"/> 単位	<input type="text"/> 人	<input type="text"/> 単位
3) ⑩運動器リハビリテーション料	<input type="text"/> 人	<input type="text"/> 単位	<input type="text"/> 人	<input type="text"/> 単位
⑪ ⑩のうち、標準的算定日数を超えた患者	<input type="text"/> 人	<input type="text"/> 単位	<input type="text"/> 人	<input type="text"/> 単位
⑫ ⑪のうち、維持期リハの患者	<input type="text"/> 人	<input type="text"/> 単位	<input type="text"/> 人	<input type="text"/> 単位
⑬ ⑫のうち、要介護被保険者等 (B)	<input type="text"/> 人	<input type="text"/> 単位	<input type="text"/> 人	<input type="text"/> 単位
4) ⑭呼吸器リハビリテーション料	<input type="text"/> 人	<input type="text"/> 単位	<input type="text"/> 人	<input type="text"/> 単位

問 14 上記の間 13 2) 脳血管疾患等リハビリテーションの「⑥廃用症候群の場合」に記入した患者（平成25年7月分、問13で（A）と表示）について、理由ごとに該当する人数をお書きください。		
1) 急性心筋梗塞、大動脈解離等、心大血管疾患に関する手術後の安静によるため		人
2) 脳梗塞、脳出血等、脳血管疾患に関する手術後の安静によるため		人
3) 上・下肢、脊椎等の運動器に関する手術後の安静によるため		人
4) 肺腫瘍、胸部外傷等、呼吸器疾患に関する手術後の安静によるため		人
5) 上記以外の手術後の安静によるため		人
6) 肺炎等の手術以外の治療による安静によるため		人

問 15 上記の間 13 ⑤・⑨・⑬の「要介護被保険者等」に記入した患者（平成25年7月分、問13で（B）と表示）について、以下の内容に該当する人数をお書きください。		
1) 問13の⑤（脳血管疾患等リハビリテーション料＜廃用症候群以外＞で維持期リハを受けている要介護被保険者等）のうち、介護保険でのリハビリテーションに移行することが困難と見込まれる患者数		人
2) 問13の⑨（脳血管疾患等リハビリテーション料＜廃用症候群の場合＞で維持期リハを受けている要介護被保険者等）のうち、介護保険でのリハビリテーションに移行することが困難と見込まれる患者数		人
3) 問13の⑬（運動器リハビリテーション料で維持期リハを受けている要介護被保険者等）のうち、介護保険でのリハビリテーションに移行することが困難と見込まれる患者数に記入した患者数		人

問 15-1 上記の間 15 で維持期リハを受けている要介護被保険者等がある場合、介護保険のリハビリテーションに移行することができない患者がいる場合、その理由は何ですか。該当する番号全てに○をつけてください。	
01 患者にとって、要介護認定の申請が負担であるから	
02 自院・近隣で通所リハビリを提供していないから	
03 通所リハビリではリハビリの質が不明であるから	
04 患者にとって、医療から介護へ移行することに対する心理的抵抗感が大きいから	
05 介護保険によるリハビリテーションを利用すると支給限度額を超えるから	
06 介護保険の事務負担が大きいから	
07 その他（	）

4. 貴院の訪問リハビリテーションの概況についてお伺いします。

問 16 平成23年7月及び平成25年7月31日時点の在宅患者訪問リハビリテーション指導管理料の届出の有無及び算定人数、算定回数（単位）をご記入ください。

		届出の有無	算定人数（実人数）		算定回数	
				人		単位
在宅患者訪問リハビリテーション指導管理料	平成23年7月	有・無		人		単位
	平成25年7月	有・無		人		単位

《問 16-1、問 16-2 は平成25年7月31日時点で、訪問リハビリテーション診療料の届出をしている場合にご回答ください》

問 16-1 平成25年4月～7月の4か月間に、急性増悪等のため一時的に集中的な訪問リハビリテーションを実施した患者はいましたか。

	医療保険の患者	介護保険の患者
一時的に集中的な訪問リハビリテーションを実施した患者	有→（ ）人 無	有→（ ）人 無
うち、ADLが戻った患者	（ ）人	（ ）人

問 16-2 急性増悪等のため一時的に集中的に訪問リハビリテーションを実施することは2年前（診療報酬改定前）に比べて、増えましたか。

01 増えた 02 変わらない 03 減った 04 分からない

《問 17 は平成25年7月31日時点で、訪問リハビリテーション診療料の届出をしていない場合にご回答ください》

問 17 訪問リハビリテーション診療料の届出をしていない理由は何ですか。（複数回答可）

- 01 訪問リハビリテーションに従事する職員を確保できないから
- 02 訪問によるリハビリテーションが必要な患者が少ないから
- 03 訪問リハビリテーションの報酬では採算がとれないから
- 04 その他（ ）

5. 貴院における通所リハビリテーションの実施状況についてお伺いします。

問 18 平成23年7月及び平成25年7月31日時点の通所リハビリテーションの実施の有無、実施日数、利用者延べ数*をご記入ください。				
	平成23年7月		平成25年7月	
1) 通所リハビリテーションの実施の有無	1 有	2 無	1 有	2 無
2) 通所リハビリテーションの実施日数		日		日
3) 通所リハビリテーション費を算定した利用者延べ数	延べ	人	延べ	人
	【再掲】 1時間以上 2時間未満		延べ	人
4) 通所リハビリテーションの指定はみなし指定ですか(平成25年7月)	01 はい 02 いいえ 03 わからない			

※利用者延べ数は、例えば1人の利用者が7月中に5回利用した場合は5人として計算してください。

《問 19 は平成25年7月31日時点で、通所リハビリテーションを実施していない場合にご回答ください》

問 19 今後、通所リハビリテーションを開設する意向はありますか。		
01 ある	02 ない	03 わからない

→ 問 19-1 通所リハビリテーションを開設する意向がない理由として該当するもの全てに○を付けてください。もっとも当てはまるもの1つには◎を付けてください。

01 通所リハビリに専従する人員を確保できない 02 外来の医師の負担が重くなる 03 通所リハビリのために別途場所の確保が必要となる 04 通所リハビリの報酬では採算がとれない 05 利用者の送迎体制を整えることが困難介護報酬の事務負担が大きいから 06 ケアマネジャーとの連携をとることが負担 07 介護報酬の請求事務の負担が大きい 08 患者にとって、医療から介護へ移行することに対する心理的抵抗感が大きい 09 患者にとって要介護認定の申請が負担である 10 みなし指定を受ける方法がわからない 11 医師にとって、通所リハビリを実施することに対する心理的抵抗感が大きい 12 その他 ()

6. 最後に、本調査に関連した事項でご意見等がございましたら、ご自由にご記入ください。

--

設問は以上です。ご協力まことにありがとうございました。

平成24年度診療報酬改定の結果検証に係る調査（平成25年度調査）

維持期リハビリテーション及び廃用症候群に対する脳血管疾患等 リハビリテーションなど疾患別リハビリテーションに関する実施状況調査

※ご回答の際は、あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。また、() 内には具体的な数値、用語等をお書きください。() 内に数値を記入する設問で、該当なしは「0（ゼロ）」を、わからない場合は「-」をお書きください。

※特に断りのない場合は、平成25年7月31日（水）時点の状況についてお書きください。

1. 貴棟の概要についてお伺いします。

問1 貴棟で算定している診療報酬として該当するもの全てに○をつけてください。

01	回復期リハビリテーション病棟入院料1	⇒	施設基準の取得日	平成__年__月
02	回復期リハビリテーション病棟入院料2	⇒	施設基準の取得日	平成__年__月
03	回復期リハビリテーション病棟入院料3	⇒	施設基準の取得日	平成__年__月
04	休日リハビリテーション提供体制加算			
05	リハビリテーション充実加算			

問2 貴棟（回復期リハビリテーション病棟）の平成25年7月31日時点の届出病床数、同日0時時点の入院患者数（在院患者数）をご記入ください。

	病 床 数		入 院 患 者 数	
1) 一般病床		床		人
2) 療養病床		床		人
3) 合 計 (1) + 2))		床		人
【再掲】回復期リハビリテーション病棟入院料の非適応患者				人
【再々掲】回復期リハビリテーション病棟入院料の算定上限日数を超えた患者				人
【再々掲】回復期リハビリテーション病棟入院料の算定対象外の疾患の患者				人

問3 貴棟の平成23年7月、平成25年7月の1か月間の新入棟患者数、退棟患者数、在棟患者延べ数をご記入ください。

	平成23年7月※1		平成25年7月	
1) 新入棟患者数		人		人
2) 退棟患者数		人		人
3) 在棟患者延べ数※2		人		人

※1 平成23年7月時点で、回復期リハビリテーション病棟の届出をしていなかった場合は、平成23年7月の記入は不要です。
 ※2 在棟患者延べ数は、例えば、該当する1人の入院患者が5日間入院していた場合は5人として計算してください。

2. 貴棟の人員配置についてお伺いします。

問4 貴棟において平成25年7月31日時点で従事している 医師 を専従、専任の別にご記入ください。			
		専 従 [*]	専 任 [*] (実人数)
医 師		人	人
【再掲】	リハビリテーション科の医師	人	人
【再掲】	日本リハビリテーション医学会認定臨床医	人	人
【再掲】	リハビリテーション科専門医	人	人

※**専従**：原則として貴棟の業務のみに従事する者。 **専任**：貴棟での業務とその他の部署等での業務を兼務している者。

問5-1 貴棟において、平成25年7月31日時点で従事している 看護師、准看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、ソーシャルワーカー を、専従、専任の別にご記入ください。なお、専任職員については、常勤換算した上で小数点第1位までご記入ください。			
		専 従	専任 (常勤換算 ^{*1})
1)	看護師	人	人
2)	准看護師	人	人
3)	看護補助者	人	人
4)	理学療法士	人	人
5)	作業療法士	人	人
6)	言語聴覚士	人	人
7)	ソーシャルワーカー ^{*2}	人	人
	【再掲】社会福祉士の資格保有者	人	人

※1. **専任 (他部署の業務を兼務している) 職員の常勤換算の計算方法**：貴院の1週間の所定労働時間を基本として、下記のように常勤換算して小数点第1位まで (小数点第2位を切り上げ) ご記入ください。例：1週間の所定労働時間が40時間の病院で、貴棟に週2日 (各日3時間) 勤務の看護師が1人と、週3日 (各日5時間) 勤務の看護師が2人いる場合

$$\text{専任看護師数} = \frac{(2 \text{日} \times 3 \text{時間} \times 1 \text{人}) + (3 \text{日} \times 5 \text{時間} \times 2 \text{人})}{40 \text{時間}} = 0.9 \text{人}$$

※2. **ソーシャルワーカー**とは、患者等が地域や家庭において自立した生活を送ることができるよう、患者や家族の抱える心理的・社会的な問題の解決・調整を援助し、社会復帰の促進を図るための業務の従事者のことをいいます。

問5-2 貴棟における理学療法士、作業療法士の夜間や早朝の配置状況について、ご記入ください					
	夜間常時配置		夜間・早朝 (一部時間帯) に配置	⇒夜間・早朝に該当者がいる場合、具体的な時間帯 (24時間制でご記入ください)	⇒夜間・早朝に該当者がいる場合、実施している業務内容 (該当する番号全てに○を付けてください)
		人			
1) 理学療法士		人	01 有 02 無	() 時～() 時 () 時～() 時	01 食事介助 02 排泄介助 03 入浴介助 04 移動介助 05 その他 ()
2) 作業療法士		人	01 有 02 無	() 時～() 時 () 時～() 時	01 食事介助 02 排泄介助 03 入浴介助 04 移動介助 05 その他 ()

※「夜間常時配置」には、看護職員の夜勤と同様に夜勤を行っている職員数をご記入ください。

※「夜間・早朝」は、看護職員の日勤時間終了時間から、看護職員の日勤開始時間 (概ね、17時から翌朝8時位) までを指します。

問 5-3 (理学療法士、作業療法士を夜間・早朝に配置していない病棟にお伺いします。) 今後、理学療法士、作業療法士を夜間・早朝に**配置する必要がある**と思いますか。その理由もお答えください。

01 必要	02 どちらとも言えない	03 不要
理由		

問 5-4 (問 5-3 で「01 必要」と回答した場合) なぜ、今配置していないのですか。

01 人員不足	02 人員はいるが、夜間早朝に働く人員が不足
03 訓練室でのリハビリの人員が足りなくなるから	
04 その他 (具体的に: _____)	

3. 貴棟における回復期リハビリテーション病棟の適応患者で、新入棟患者および退棟患者の状況についてお伺いします。

問 6 平成 25 年 7 月 1 か月間における新入棟患者 (かつ回復期リハビリテーション病棟入院料の適応患者) について、ご記入ください。					
(1) 平成 25 年 7 月における新入棟患者 (回復期リハビリテーション病棟入院料の適応患者)				<input type="text"/>	人
(2) 7 月中に算定した疾患別リハビリテーション料について、それぞれ該当する人数をご記入ください。なお、①～⑥の人数の合計が(1)の新入棟患者数と同じになるようにしてください。					
① 脳血管疾患リハビリテーション料 (廃用症候群以外)	<input type="text"/>	人	④ 心大血管リハビリテーション料	<input type="text"/>	人
② 脳血管疾患リハビリテーション料 (廃用症候群)	<input type="text"/>	人	⑤ 呼吸器リハビリテーション料	<input type="text"/>	人
③ 運動器リハビリテーション料	<input type="text"/>	人	⑥ ①～⑤は該当しない	<input type="text"/>	人
(3) (1)の新入棟患者の入棟時の日常生活機能評価について、それぞれ該当する人数をご記入ください。なお、①～⑤の人数の合計が(1)の新入棟患者数と同じになるようにしてください。					
① 0 点	<input type="text"/>	人	④ 10～14 点	<input type="text"/>	人
② 1～4 点	<input type="text"/>	人	⑤ 15～19 点	<input type="text"/>	人
③ 5～9 点	<input type="text"/>	人			
(4) (1)の新入棟患者の入棟時の看護必要度 A 項目の合計点数が 1 点以上の患者数および、項目ごとに該当する人数をご記入ください。					
看護必要度 A 項目の合計点数が 1 点以上の患者数				<input type="text"/>	人
① 創傷処置	<input type="text"/>	人	⑨ 動脈圧測定 (動脈ライン)	<input type="text"/>	人
② 蘇生術の施行	<input type="text"/>	人	⑩ シリジポンプの使用	<input type="text"/>	人
③ 5 回以上の血圧測定	<input type="text"/>	人	⑪ 中心静脈圧測定 (中心静脈ライン)	<input type="text"/>	人
④ 時間尿測定	<input type="text"/>	人	⑫ 人工呼吸器の装着	<input type="text"/>	人
⑤ 呼吸ケア	<input type="text"/>	人	⑬ 輸液や血液製剤の使用	<input type="text"/>	人
⑥ 点滴ライン同時 3 本以上	<input type="text"/>	人	⑭ 肺動脈圧測定 (スワンガンツカテーテル)	<input type="text"/>	人
⑦ 心電図モニター	<input type="text"/>	人	⑮ 特殊な治療法 (CHDF, IABP, 補助人工心臓、ICP 測定)	<input type="text"/>	人
⑧ 輸液ポンプの使用	<input type="text"/>	人			
(5) (1)の新入棟患者の入棟時の FIM 指数について、それぞれ該当する人数をご記入ください。(把握している患者についてのみで結構です。)					
① 39 点以下	<input type="text"/>	人	④ 78～96 点	<input type="text"/>	人
② 40～58 点	<input type="text"/>	人	⑤ 97～115 点	<input type="text"/>	人
③ 59～77 点	<input type="text"/>	人	⑥ 116～126 点	<input type="text"/>	人

(6) (1)の新入棟患者の入棟時のバーセル指数 について、それぞれ該当する人数をご記入ください。 (把握している患者についてのみで結構です。)				
① 25点以下		人	④ 66～85点	人
② 26～45点		人	⑤ 86～100点	人
③ 46～65点		人		
(7) (1)の新入棟患者の入棟前の居場所 について、それぞれ該当する人数をご記入ください。 なお、①～⑧の人数の合計が(1)の新入棟患者数と同じになるようにしてください。				
① 在宅		人	⑤ 特別養護老人ホーム	人
② 自院の他の病棟		人	⑥ 有料老人ホーム・グループホーム・ 軽費老人ホーム・ケアハウス	人
③ 他の病院・診療所		人	⑦ サービス付高齢者向け住宅	人
④ 介護老人保健施設		人	⑧ その他	人

問7 平成25年7月1か月間における退棟患者(かつ回復期リハビリテーション病棟入院料の適応患者) について、ご記入ください。				
(1) 平成25年7月における退棟患者				人
(2) (1)の退棟患者のうち、入棟時の日常生活機能評価が10点以上の患者				人
(3) (2)の患者について、退棟時の日常生活機能評価の改善点数別に、それぞれ該当する人数をご記入ください。				
① 3点		人	③ 5点	人
② 4点		人	④ 6点以上	人
(4) (1)の退棟患者の退棟時のFIM指数 について、それぞれ該当する人数をご記入ください。 (把握している患者についてのみで結構です。)				
① 39点以下		人	④ 78～96点	人
② 40～58点		人	⑤ 97～115点	人
③ 59～77点		人	⑥ 116～126点	人
(5) (1)の退棟患者の退棟時のバーセル指数 について、それぞれ該当する人数をご記入ください。 (把握している患者についてのみで結構です。)				
① 25点以下		人	④ 66～85点	人
② 26～45点		人	⑤ 86～100点	人
③ 46～65点		人		
(6) (1)の退棟患者の退棟後の居場所 について、それぞれ該当する人数をご記入ください。 なお、①～⑧の人数の合計が(1)の退棟患者数と同じになるようにしてください。				
① 在宅		人	⑤ 特別養護老人ホーム	人
② 自院の他の病棟		人	⑥ 有料老人ホーム・グループホーム・ 軽費老人ホーム・ケアハウス	人
③ 他の病院・診療所		人	⑦ サービス付高齢者向け住宅	人
④ 介護老人保健施設		人	⑧ その他	人

設問は以上です。ご協力まことにありがとうございました。

平成24年度診療報酬改定結果検証に係る調査（平成25年度調査）
入院医療における維持期リハビリテーションの実態調査

●平成25年7月31日（水）に、一般病棟または療養病棟（ただし、回復期リハビリテーション病棟を除く）において「脳血管疾患等リハビリテーション料」または「運動器リハビリテーション料」を算定した患者（最大10人）を対象とします。該当患者1人につき本調査票1部をご記入ください。

I 患者の基本的事項

Q1 年齢	(7月31日現在) _____ 歳	Q2 性別	01 男性	02 女性
Q3 入院前の居住場所	01 在宅	02 自院の他の病棟	03 他の病院・診療所	04 介護老人保健施設
	05 特別養護老人ホーム	06 有料老人ホーム・グループホーム・軽費老人ホーム・ケアハウス		
	07 サービス付高齢者向け住宅	08 その他 ()		
Q4 要介護度	01 要介護認定を受けている ↳ 要介護度 << 要支援1・要支援2・要介護1・要介護2・要介護3・要介護4・要介護5 >> 02 要介護認定の申請を行ったが、非該当であった 03 要介護認定の申請中である 04 介護保険の被保険者であるが、要介護認定を受けていない 05 介護保険の対象年齢・対象疾病でない			

II 患者の状況とリハビリテーションの実施状況等

Q5 リハビリテーションを受ける原因となった傷病名（調査要綱記載のコードでご記入ください）		
Q6 手術名（手術がある場合）		
Q7 当該傷病での算定起算日	平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日	
Q8 入院日	平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日	
	入院時点	平成25年7月31日時点
Q9-1 バーセル指数（把握されていればご記入下さい）		
Q9-2 FIM指数（把握されていればご記入下さい） ※126点満点でご記入ください		
Q10 疾患別リハビリテーション料の内容	01 脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外） ➡ (I II III) 02 脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群） ➡ (I II III) 03 運動器リハビリテーション料 ➡ (I II III)	
Q11 上記の提供単位数（平成25年7月分）	_____ 単位	
Q12 7月31日に算定した入院基本料・特定入院料	01 一般病棟入院基本料 (a7対1 b 10対1 c 13対1 d15対1) 02 亜急性期入院医療管理料2 03 療養病棟入院基本料 04 その他（具体的に： _____)	
Q13 リハビリテーションの標準算定日数との関係	01 7月中は標準算定日数以内であった 02 7月途中に標準算定日数を越えた 03 7月当初から標準算定日数を越えていた	

Ⅲ 維持期リハビリテーションについて、当該患者がリハビリテーション料の標準算定日数を超えて算定している場合にのみご回答ください。

Q14 患者の状態	01 入院治療を継続することにより状態の <u>改善</u> が期待できると医学的に判断される
	02 入院治療を継続することにより状態の <u>維持</u> が期待できると医学的に判断される

↓
《Q15は、上記Q14で「02」を回答した場合のみご回答ください》

Q15 患者が要介護被保険者の場合、退院後、介護保険でリハビリテーションを利用する予定がありますか。
01 予定がある 02 予定がない 03 未定

Q15-1 介護保険によるリハビリテーションを利用しない理由として該当するもの全てを選び、○を付けてください。もっとも該当するもの1つに◎を付けてください。
01 患者にとって、要介護認定の申請が負担であるから
02 自院・近隣で通所リハビリを提供していないから
03 通所リハビリではリハビリの質が不明であるから
04 患者にとって、医療から介護へ移行することに対する心理的抵抗感が大きいから
05 介護保険によるリハビリテーションを利用すると支給限度額を超えるから
06 介護保険の事務負担が大きいから
07 退院後はリハビリテーションは不要とみられるから
08 その他 ()

設問は以上です。ご協力まことにありがとうございました。

平成24年度診療報酬改定結果検証に係る調査（平成25年度調査）
外来リハビリテーションの実態調査

●平成25年7月31日（水）に、外来において「脳血管疾患等リハビリテーション料」または「運動器リハビリテーション料」を算定した患者（最大5人）を対象とします。該当患者1人につき本調査票1部をご記入ください。

I 患者の基本的事項

Q1 年齢	(7月31日現在) _____ 歳	Q2 性別	01 男性	02 女性
Q3 居住場所	01 在宅 02 有料老人ホーム・グループホーム・軽費老人ホーム・ケアハウス 03 サービス付高齢者向け住宅 04 その他 ()			
Q4 要介護度	01 要介護認定を受けている ↳ 要介護度 << 要支援1・要支援2・要介護1・要介護2・要介護3・要介護4・要介護5 >> 02 要介護認定の申請を行ったが、非該当であった 03 要介護認定の申請中である 04 介護保険の被保険者であるが、要介護認定を受けていない 05 介護保険の対象年齢・対象疾病でない			

II 患者の状況等

Q5 リハビリテーションを受ける原因となった傷病名（調査要綱記載のコードでご記入ください）			
Q6 手術名（手術がある場合）			
Q7 当該傷病での算定起算日	平成_____年_____月_____日		
Q8 外来でのリハビリ開始日	平成_____年_____月_____日		
	外来でのリハビリ開始時点	平成25年7月31日時点	
Q9-1 バースル指数（把握されていればご記入下さい）			
Q9-2 FIM指数（把握されていればご記入下さい） ※126点満点でご記入ください			
Q10 7月中の通院回数	() 回		
うちリハビリテーション実施回数	() 回		
Q11 通院前の入院医療の有無	01 有（→退院日：平成_____年_____月_____日）	02 無	03 不明

III 治療の状況

Q12 外来リハビリテーション診療料の算定状況	01 外来リハビリテーション診療料1 02 外来リハビリテーション診療料2 03 算定していない →算定していない理由： (a 症状が不安定で毎回診察が必要だから b 再診料を算定できないから c その他 ())
Q13 疾患別リハビリテーション料の内容	01 脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）→（ I II III） 02 脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）→（ I II III） 03 運動器リハビリテーション料→（ I II III）
Q14 上記の提供単位数（平成25年7月分）	_____ 単位
Q15 リハビリテーションの標準算定日数との関係	01 7月中は標準算定日数以内であった 02 7月途中に標準算定日数を超えた 03 7月当初から標準算定日数を超えていた

IV 介護保険の利用状況

当該患者がリハビリテーション料の標準算定日数を超えている場合にのみご回答ください。

Q16 患者の状態	01 治療を継続することにより状態の改善が期待できると医学的に判断される
	02 治療を継続することにより状態の維持が期待できると医学的に判断される

↓
「Q17は、上記Q16で「02」を回答した場合のみご回答ください」

Q17 患者が要介護被保険者の場合、今後、介護保険でリハビリテーションを利用する予定がありますか。		
01 予定がある	02 予定がない	03 未定

↓

Q17-1 介護保険によるリハビリテーションを利用しない理由として該当するもの全てを選び、○を付けてください。もっとも該当するもの1つに◎を付けてください。	
01 患者にとって、要介護認定の申請が負担であるから	
02 自院・近隣で通所リハビリを提供していないから	
03 通所リハビリではリハビリの質が不明であるから	
04 患者にとって、医療から介護へ移行することに対する心理的抵抗感が大きいから	
05 介護保険によるリハビリテーションを利用すると支給限度額を超えるから	
06 介護保険の事務負担が大きいから	
07 その他 ()	

設問は以上です。ご協力まことにありがとうございました